講義要綱

平成 30 年度

経営学部

経営学科

2016・2015 年度入学生用

＜３年生・４年生用＞

東京富士大学

TOKYO FUJI UNIVERSITY

SYLLABUS 2018

講　義　要　綱

SYLLABUS

平成30年度

経営学部経営学科

＜３年生・４年生＞

東京富士大学

― シラバスの利用について ―

このシラバスは、平成30年度の春学期・秋学期に経営学部経営学科（３年生・４年生）で開講する全授業についてその概要を示してあります。学生の皆さんが１年間の学修計画を立てるための手助けとなるはずです。

シラバスには、授業内容とその達成目標、授業で使用するテキストや参考書、さらに成績評価法、履修条件、授業計画などを記してあります。

履修の際には必ず、「学生要覧」と「授業時間割表」とあわせて参照するようにしてください。また、授業期間中は、「授業計画」のどの部分を学習しているのかを常に確認して、復習および予習の参考にしてください。

※シラバス（syllabus）は、ギリシャ語の sittuba すなわち「羊皮紙製の書籍のラベル」または「標題紙」という意味の言葉が語源です。

目　次

履修対象：経営学部経営学科＜３・４年生＞

《教養科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
基礎演習Ⅰ（再履修）	３・４	２	半期	浮谷　秀一	1
基礎演習Ⅱ（再履修）	３・４	２	半期	浮谷　秀一	3
総合英語Ⅰ（再履修）	３～４	２	半期	阿部　牧子 木村　直樹	5 7
総合英語Ⅱ（再履修）	３～４	２	半期	阿部　牧子 木村　直樹	9 11
英会話Ⅰ(留学生対象)	３・４	１	半期	Janet. Johnson	13
英会話Ⅰ（再履修）	３・４	１	半期	阿部　牧子 木村　直樹	15 17
英会話Ⅱ(留学生対象)	３・４	１	半期	Janet. Johnson	19
英会話Ⅱ（再履修）	３・４	１	半期	阿部　牧子 木村　直樹	21 23
キャリアデザイン	３・４	２	半期	志塚　昌紀	25
日本語Ⅰ（留学生科目）	３・４	２	半期	糸川　　優 小林　寛典 塩谷由美子	27 29 31
日本語Ⅱ（留学生科目）	３・４	２	半期	糸川　　優 小林　寛典 塩谷由美子	33 35 37
日本語Ⅲ（留学生科目）	３・４	２	半期	糸川　　優 小林　寛典 塩谷由美子	39 41 43
英語Ⅰ	３・４	１	半期	阿部　牧子	45
英語Ⅱ	３・４	１	半期	阿部　牧子	47
英語Ⅲ	３・４	１	半期	阿部　牧子	49
英語Ⅳ	３・４	１	半期	阿部　牧子	51
TOEIC Ⅰ	３・４	２	半期	宍戸カール	53
TOEIC Ⅱ	３・４	２	半期	宍戸カール	55
フランス語Ⅰ	３・４	１	半期	野口　恵子 三冨　祐子	57 59
フランス語Ⅱ	３・４	１	半期	野口　恵子 三冨　祐子	61 63
中国語Ⅰ	３・４	１	半期	井上　良雄	65
中国語Ⅱ	３・４	１	半期	井上　良雄	67
韓国語Ⅰ	３・４	１	半期	黄　　美貞	69

履修対象：経営学部経営学科＜３・４年生＞

《教養科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
韓国語Ⅱ	３・４	1	半期	黄　美貞	71
日本語Ⅳ（留学生科目）	３・４	2	半期	糸川　優	73
日本語Ⅳ（留学生科目）	３・４	2	半期	小林　寛典 塩谷由美子	75 77
社会学Ⅰ	３・４	2	半期	新嶋　良恵	79～82
社会学Ⅱ	３・４	2	半期	新嶋　良恵	83
法学Ⅰ（憲法含む）	３・４	2	半期	長岐　郁也	85
法学Ⅱ	３・４	2	半期	長岐　郁也	87
心理学	３・４	2	半期	浮谷　秀一 佐藤　惠美 松田美登子	89 91 93
哲学	３・４	2	半期	隅田　浩司	95
現代思想	３・４	2	半期	休講	－
文化人類学	３・４	2	半期	新嶋　良恵	97
文学	３・４	2	半期	網本　尚子	99～110
文章表現法	３・４	2	半期	網本　尚子	111～118
芸術論	３・４	2	半期	休講	－
生命科学	３・４	2	半期	古田　玲子	119
国際関係論	３・４	2	半期	八川　敏昭	121
異文化コミュニケーション	３・４	2	半期	清水　俊樹 藤本　学	123
経営数学	３・４	2	半期	松本　勇樹	124
マネジメント入門	３・４	2	半期	休講	－
コンピュータリテラシー	３・４	2	半期	萩野　弘道	125
ビジネスコンピューティング	３・４	2	半期	鬼木　一直	127
就職特講Ⅰ	３～４	2	半期	野沢　牧子 宮地　由夏	129 131
就職特講Ⅰ（留学生対象）	３～４	2	半期	塩谷由美子	133
就職特講Ⅱ	３～４	2	半期	休講	－
健康と運動Ⅰ	３・４	1	半期	井上　航人 田島外志美 西村　卓二	135 137 139
健康と運動Ⅱ	３・４	1	半期	井上　航人 田島外志美 西村　卓二	141 143 145
健康と運動Ⅲ	３・４	1	半期	井上　航人 田島外志美	147 149

履修対象：経営学部経営学科＜３・４年生＞

《教養科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
健康と運動Ⅳ	３・４	１	半期	井上　航人 田島外志美	151 153
日本事情（留学生科目）	３・４	２	半期	糸川　　優 小林　寛典	155 157
インターンシップⅠ	３・４	１	認定	高橋　哲也	159
インターンシップⅡ	３・４	１	認定	高橋　哲也	161
インターンシップⅢ	３・４	１	認定	高橋　哲也	163
インターンシップⅣ	３・４	１	認定	高橋　哲也	165
自己開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	３・４	各１	認定		167

履修対象：経営学部経営学科＜３・４年生＞

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
経営学概論	３・４	４	通年	円城寺敬浩 名取　修一 藤森　大祐 山口　善昭	169 171 173 175
経営学概論（留学生対象）	３・４	４	通年	小川　達也	177
経済学概論	３・４	４	通年	清水　良樹 松田　　岳	179 181
会計学概論	３・４	４	通年	石塚　一彌 土井　　充 光澤　美芽	183 185 187
マーケティング概論Ⅰ	３・４	２	半期	花尾由香里 日野　隆生 広瀬　盛一	189 191 193
マーケティング概論Ⅱ	３・４	２	半期	花尾由香里 日野　隆生 広瀬　盛一	195 197 199
企業論Ⅰ	３・４	２	半期	円城寺敬浩 渡辺　泰宏	201 203
企業論Ⅱ	３・４	２	半期	円城寺敬浩 渡辺　泰宏	205 207
経営管理論	３・４	２	半期	名取　修一	209
経営組織論Ⅰ	３・４	２	半期	山口　善昭 渡辺　泰宏	211 213
経営組織論Ⅱ	３・４	２	半期	山口　善昭 渡辺　泰宏	215 217
経営戦略論Ⅰ	３・４	２	半期	小川　達也	219
経営戦略論Ⅱ	３・４	２	半期	小川　達也	221
近代経済学	３・４	２	半期	清水　良樹	223
経営史	３・４	２	半期	清水　太陽	225
会社法	３・４	２	半期	櫻井　　隆	227
中小企業論	３・４	２	半期	井原　久光 名取　修一	229 231
中小企業経営論	３・４	２	半期	井原　久光	233
経営情報学	３・４	２	半期	鬼木　一直	235
人的資源管理論Ⅰ	３・４	２	半期	高橋　哲也	237
人的資源管理論Ⅱ	３・４	２	半期	高橋　哲也	239
マーケティングプランニングⅠ	３・４	２	半期	山川　　悟	241

履修対象：経営学部経営学科＜３・４年生＞

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
マーケティングプランニングⅡ	３・４	２	半期	山川　悟	243
広告論Ⅰ	３・４	２	半期	中尾　孝年	245
				広瀬　盛一	247
広告論Ⅱ	３・４	２	半期	広瀬　盛一	249
ブランドマーケティング論	３・４	２	半期	山川　悟	251
入門簿記Ⅰ	３・４	２	半期	北井不二男	253
				土井　充	255
				福山　倫基	257
				光澤　美芽	259
				村上　翔一	261
入門簿記Ⅱ	３・４	２	半期	北井不二男	263
				土井　充	265
				福山　倫基	267
				光澤　美芽	269
				村上　翔一	271
財務会計Ⅰ	３・４	２	半期	小森　秀人	273
				光澤　美芽	275
財務会計Ⅱ	３・４	２	半期	小森　秀人	277
				光澤　美芽	279
管理会計Ⅰ	３・４	２	半期	福山　倫基	281
管理会計Ⅱ	３・４	２	半期	福山　倫基	283
専門演習Ⅰ	３・４	４	通年	石塚　一彌	285
				小川　達也	287
				鬼木　一直	289
				隅田　浩司	291
				土井　充	293
				日野　隆生	295
				広瀬　盛一	297
				藤森　大祐	299
				松田　岳	301
				山川　悟	303
				渡辺　泰宏	305
専門演習Ⅱ	３～４	４	通年	石塚　一彌	307
				小川　達也	309
				鬼木　一直	311
				隅田　浩司	313
				土井　充	315

履修対象：経営学部経営学科＜３・４年生＞

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
専門演習Ⅱ	３～４	４	通年	日野　隆生	317
				広瀬　盛一	319
				藤森　大祐	321
				松田　　岳	323
				山川　　悟	325
				渡辺　泰宏	327
専門演習Ⅲ	４	４	通年	石塚　一彌	329
				小川　達也	331
				鬼木　一直	333
				土井　　充	335
				名取　修一	337
				広瀬　盛一	339
				藤森　大祐	341
				松田　　岳	343
				山川　　悟	345
				渡辺　泰宏	347
専門特別演習Ⅰ	３～４	４	通年	休講	
専門特別演習Ⅱ	４	４	通年	休講	―
卒業論文	４	２	通年		349
環境経営学	３・４	２	半期	藤森　大祐	351
経営倫理	３・４	２	半期	山口　善昭	353
コンピュータ概論	３・４	２	半期	萩野　弘道	355
情報システム	３・４	２	半期	萩野　弘道	357
情報処理Ⅰ	３・４	２	半期	鬼木　一直	359
情報処理Ⅱ	３・４	２	半期	鬼木　一直	361
ベンチャービジネス	３・４	２	半期	青山　和正	363
新事業創造論	３・４	２	半期	青山　和正	365
銀行論	３・４	２	半期	清水　良樹	367
証券論	３・４	２	半期	清水　良樹	369
生活金融論	３・４	２	半期	清水　良樹	371
流通論Ⅰ	３・４	２	半期	深澤　琢也	373
流通論Ⅱ	３・４	２	半期	深澤　琢也	375
商品論	３・４	２	半期	田口　冬樹	377
経済法	３・４	２	半期	隅田　浩司	379
労働法	３・４	２	半期	黒岩　容子	381
消費者法	３・４	２	半期	隅田　浩司	383
財政学	３・４	２	半期	休講	―

履修対象：経営学部経営学科＜３・４年生＞

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
経済政策	３・４	2	半期	清水　良樹	385
消費者行動論Ⅰ	３・４	2	半期	中嶋　励子 花尾由香里	387 389
消費者行動論Ⅱ	３・４	2	半期	中嶋　励子 花尾由香里	391 393
販売管理論Ⅰ	３・４	2	半期	深澤　琢也	395
販売管理論Ⅱ	３・４	2	半期	深澤　琢也	397
コンテンツビジネス論Ⅰ	３・４	2	半期	山川　　悟	399
コンテンツビジネス論Ⅱ	３・４	2	半期	山川　　悟	401
経営心理学	３・４	2	半期	佐藤　惠美	403
イベント学	３・４	2	半期	奥　　正孝	405
サービス産業論	３・４	2	半期	日野　隆生	407
経理実務入門Ⅰ	３・４	2	半期	休講	－
経理実務入門Ⅱ	３・４	2	半期	休講	－
商業簿記Ⅰ	３・４	2	半期	村上　翔一	409
商業簿記Ⅱ	３・４	2	半期	村上　翔一	411
工業簿記Ⅰ	３・４	2	半期	福山　倫基	413
工業簿記Ⅱ	３・４	2	半期	福山　倫基	415
経営分析	３・４	2	半期	佐藤　正隆	417
監査論	３・４	2	半期	休講	－
財務諸表論	３・４	2	半期	光澤　美芽	419
租税概論Ⅰ	３・４	2	半期	三関　公雄	421
租税概論Ⅱ	３・４	2	半期	三関　公雄	423
税務会計Ⅰ	３・４	2	半期	石塚　一彌	425
税務会計Ⅱ	３・４	2	半期	石塚　一彌	427
法人税	３・４	2	半期	三関　公雄 湯谷　成人	429 431
所得税	３・４	2	半期	三関　公雄 湯谷　成人	433 435
ビジネス英語Ⅰ	３・４	2	半期	宍戸カール	437
ビジネス英語Ⅱ	３・４	2	半期	宍戸カール	439
経営学特講Ⅰ	３・４	2	半期	石渡　正人 山岡淳一郎	441 443
経営学特講Ⅱ	３・４	2	半期	安田　泰敏	445
経営学特講Ⅲ	３・４	2	半期	金　　弘宗 堀口　弘治	447 449
経営学特講Ⅳ	３・４	2	半期	金　　弘宗	451

履修対象：経営学部経営学科＜３・４年生＞

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
経営学特講Ⅳ	３・４	２	半期	林　　倬史	453
簿記技能Ⅰ（日商３級）	３・４	２	集中	福山　倫基	455
簿記技能Ⅱ（日商２級）	３・４	２	集中	光澤　美芽	457
ビジネス実務法務	３・４	２	集中	休講	－
販売技術	３・４	２	集中	日野　隆生	459

科目末尾の表記（Ⅰ・Ⅱ）について

Ⅰ：基本的にⅡの科目と連携しており、Ⅱの科目の基礎になります。
　Ⅰ・Ⅱの科目を履修することが望ましい。

Ⅱ：基本的にⅠの科目と連携しており、Ⅰの科目の履修を前提とする（Ⅰの上級レベル)。
　Ⅰの科目を履修した学生、もしくは同程度の知識を持つ学生が履修することが望ましい。

配当年次について

履修することのできる学年を表します。

１：１年生が履修できる科目です。
２：２年生が履修できる科目です。
３：３年生が履修できる科目です。
４：４年生が履修できる科目です。

１～２：１年生・２年生が履修できる科目です。
１～４：１年生・２年生・３年生・４年生が履修できる科目です。
２～４：２年生・３年生・４年生が履修できる科目です。
３～４：３年生・４年生が履修できる科目です。

(注)「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」、「日本語Ⅲ」、「日本語Ⅳ」、「日本事情」は、留学生科目です。

教　養　科　目

平成30年度

経営学部経営学科

＜３年生・４年生用＞

東京富士大学

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

基礎演習Ⅰ（再履修）	ウキヤ　シユウイチ 浮谷　秀一
Foundational Seminar I	必修科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業は、高校とは異なる大学での学び方、たとえば、授業をどのように受ければいいのか、そして授業の内容を理解するためにはどのようにすればいいのか、そしてレポートや自分の研究成果を発表するプレゼンテーションの方法等について学びます。

とくに、大学では、いろいろな知識を組み合わせ、自分で情報を整理し、それを分析することが求められます。そこで必要となるのが「考える力（思考力）」です。今後、生きていく上で最も大切なこの考える力を身につけること、これがこの授業の目標です。そして、大学の授業では、一人で勉強するだけでなく、同級生や先輩などと一緒に勉強するグループ学習も重要です。しかし、最初は、あまりよく知らない人と一緒に勉強することが苦手だな、と思う人も多いと思います。そこで、演習では、グループで一緒に作業するやりかたについても学習します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
心を整える３つの実務 IQ をどの程度、理解し実践できたか？	「心を整える３つの実務 IQ」とは、「突破力」（物事に前向きに取り組む力）、「自制力」（自分をコントロールする力）そして「忍耐力」（失敗してもあきらめず、努力する力）です。 授業では、演習や課題に前向きに取り組む姿勢や、自分をコントロールして難しい課題に対しても簡単にあきらめない姿勢、そして課題でうまくいかないことがあっても、それを学びとして前進する姿勢を評価します。	30%
個性を伸ばす２つの実務 IQ をどの程度、理解し実践できたか？	個性を伸ばす２つの実務 IQ とは「思考力」と『創造性』です。この２つは課題やレポート、そして授業の発言の中で、適切に考え、安易な結論に飛びついていないかどうか、いろいろな情報を整理し、それを組み合わせて新しい発想を生み出しているかどうかを評価します。	30%
仲間や組織で活かす２つの実務 IQ をどの程度、理解し実践できたか？	仲間や組織で活かす２つの実務 IQ とは、「協働力」と「主張力」です。この２つは、グループ学習での学習姿勢を通じて、グループ学習に前向きに取り組み、周囲に良い影響を与えているか、自分の意見が他の人の意見と違っていてもきちんと自己主張できているかどうかを評価します。	30%
社会常識を身につけることができたか？	授業を受けるに際しての最低限のマナー、社会常識を身につけているか、あるいは授業を通じて、そのような社会常識やマナーを身につけることができたかどうかを評価します。	10%
評価の方法　課題、レポート、授業への参加姿勢を総合的に評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	大学での学びとは？	入学式後のフレッシュマン・オリエンテーションへ参加
2	学び方、考える力を身につける	・成果の出る学び方（学習方法）について学びます
3		・適切な思考法として、論理の基礎を学びます
4		・意見を述べる際の議論の組み立て方について学びます
5		・意見を整理する方法について学びます
6	レポートを書く	・レポート作成の基本である文章執筆について学びます
7		・レポート作成の基本技術、アウトライン作成を学びます
8		・参考文献リストと文献の活用方法について学びます
9		・計画的な執筆について学びます
10		・効率的なレポートの書き方について学びます
11	プレゼンテーションをする	・プレゼンテーションとは何か、について学びます
12		・自分の意見を伝える技術について学びます
13		・プレゼン資料の作成方法について学びます
14		・プレゼンテーションを体験する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：初回の授業で指示する。

◇参考図書：狩野光伸著『論理的な考え方 伝え方：根拠に基づく正しい議論のために』慶應義塾大学出版会、2015年（1,944円）

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回、予習課題が提示されますので確実に予習課題をこなしてください。

【その他の注意事項】

1)入学式直後に行われるフレッシュマン・オリエンテーションから講義がスタートします。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

基礎演習Ⅱ（再履修）	浮谷（ウキヤ）　秀一（シュウイチ）
Foundational Seminar II	必修科目／半期／２単位

【授業概要】

この講義は、自分の将来設計、すなわち「キャリア・デザイン」の基本的な考え方について学びます。講義では、キャリアとは何か、そして、職業を選択すること、組織や企業で働くことの意味を考え、その上で、最終的には自分のキャリアをデザインすることができるようになるよう指導します。この講義を受講することによって、自分のキャリア・デザインを踏まえて、大学で何をどのように学ぶべきかがはっきりと理解できるようになり、大学での学びが深まります。そして、さらには、将来への準備に早期に取りかかることができるので、４年生の時の就職活動にも役立ちます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自己分析、職業興味、価値観、自身の強みなどについて理解する	実際にいくつかの自己分析のワークシートに取り組んでもらう。授業時に行う課題への取り組みの姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
業界分析・企業分析の基礎について理解し、興味のある分野を探索する	興味関心のある業界や企業について調べ、分析をする。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
自己分析と企業分析を基にして自身の自己ピーアールを作成する	それまでに行ってきた課題の内容を踏まえて、自身の自己ピーアールを作成する。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
多様な働き方について理解をする。また自身のキャリアを設計する上で必要な考え方を身につける	キャリア・デザインをしていく上で必要になる考え 方について理解をしているか確認するため、自由 記述型の論述試験を行う 自身のキャリアを真摯に考え記述しているかどうかについて評価をする	25%
評価の方法　授業時の課題75点（受講態度含む）、期末課題25点		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	キャリア・デザイン総論	講義の概要について解説
2	大学生活を充実させる①	大学生活に目標やスケジュール。ＰＤＣＡサイクルを考える
3	大学生活を充実させる②	海外留学・インターンシップについて解説
4	ライフプラン	大学卒業後の進路選択、30歳までのライフプラン
5	働くとは何か	できること、やりたいことを基礎に働くことを考える
6	働く人の権利	労働法の基礎について解説
7	労働と収入	給与とは何か。奨学金と生涯賃金について解説
8	自己分析	価値観と雇用のミスマッチについて
9	資格取得	キャリア形成と資格取得の意義について解説
10	大学生活を充実させる③	ゼミ発表大会に参加しレポートを作成
11	企業分析・業界分析	キャリア・デザインに必要となる企業分析調査
12	就職試験総論	ＳＰＩ試験など就職に関する試験について解説と体験
13	就職試験体験	内定者報告会：４年生による内定報告とレポート作成
14	就職試験体験	ビジネスマナー（服装・ビジネス文書など）について解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しません。

【履修条件等】

◇授業中に行う課題に真剣に取り組むこと。

◇提出課題の期日を守れること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料のキャリアに関するキーワードについて調べること。

◇キャリア・雇用に関する時事問題について指示された内容を新聞・雑誌等で調査する事前課題が出る場合があります。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

総合英語Ⅰ（再履修）	阿部（アベ）　牧子（マキコ）
Integrated English I	必修科目／半期／２単位

【授業概要】

基礎的な文法と、平易で短い会話表現の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。音声を聴いての部分作文、英文和訳などの問題を通じて文法の復習をします。教科書は120個のターゲットセンテンスを通して４技能（話す、聞く、読む、書く）の習得を目指したテキストです。各ユニットにおいては、基本の会話表現を無理なく身につけていけるよう、重要表現を６つに絞っています。語彙力をつけるために、単語や熟語のテストを実施します。通じる英語を目指して、発音を今一度見直してみましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きについて区別できる	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は６割以上。	30%
短い会話表現を確実に習得し、スピーキング能力の素地を養う	授業中の対話練習、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は６割以上。	30%
各ユニットに配されている単語の意味を覚え、書けるようにする	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声ＣＤで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法　本試験50%、語彙テスト20%、授業での発言など30%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業の概要説明、自己紹介他
2	英文における主語の設定	「主語」と「述語」、「語順」を理解する
3	「品詞」ってどんなもの？	代名詞・形容詞・副詞の働きを理解する
4	英文のスタイルは使われる動詞で決まる	基本動詞を含む英文を理解する　Part 1
5	英文のスタイルは使われる動詞で決まる	基本動詞を含む英文を理解する　Part 2
6	述語動詞の形で時制を決める	現在時制の場合の動詞の形と主語の関係を理解する
7	「それは」と訳さない it と「そこ」と訳さない there	形式的な主語 it と There is/are …構文
8	中間試験	試験と解説
9	[動詞-ing]は「今～している」という意味だけじゃない	進行形と現在分詞の用法を理解する
10	述語動詞の形で時制を決める	基本動詞の過去時制
11	〈前置詞＋名詞〉で表現の幅を広げる	〈前置詞＋名詞〉の形容詞的な働きを理解する
12	〈前置詞＋名詞〉で表現の幅を広げる	〈前置詞＋名詞〉の副詞的な働きを理解する
13	総まとめ	演習問題と解説
14	総まとめ	演習問題と解説
15	本試験	試験（60分）と解説

【使用教材】

◇ Grammar on Target

Chiharu Higuchi / Kaoru Fukutomi 著

ナショナルジオグラフィック　ラーニング/ センゲージ　ラーニング株式会社

【履修条件等】

◇総合英語は必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示されたホームワークをやってくること。

【その他の注意事項】

◇教科書を忘れた場合、クラスメートにコピーさせてもらうなどして、必ず準備すること。

◇入学時に配布された iPad を使うことがあるので、持参してください。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

総合英語Ⅰ（再履修）	木村（キムラ）　直樹（ナオキ）
Integrated English I	必修科目／半期／２単位

【授業概要】

この講座では、訪日外国人観光客に英語で対応する際の基本的な表現やビジネス関係の表現を学びながら、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの４技能を総合的に網羅した英語を学習します。近年の訪日外国人客の急増にともない、日本では英語による適切でスムーズなコミュニケーションを図ることが、ますます必要とされています。国内でそうした外国人の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを理解することを目標とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%

評価の方法　上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。
授業への出席は３分の２以上を前提とする。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	初回ガイダンス	授業の概要説明、レベルチェック問題の演習など
2	Unit 1 : Transportation	交通案内
3	副 : Purpose of a Contact	訪問の目的を告げる
4	Unit 2 : Check-in Counter	ホテルでのチェックイン
5	副 : Meeting First Time	初対面をする
6	Unit 3 : Facilities & Services	ホテル内の施設やサービス案内
7	副 : Business Card	名刺を渡す
8	Unit 4 : Giving Directions	街歩きのための道案内
9	副 : Transferring a Call	電話をつなぐ
10	Unit 5 : Recommendations	観光スポットを薦める
11	副 : Phone Troubles	電話のトラブル
12	Unit 6 : Dining in Japan	日本食の紹介①
13	副 : At the Airport Abroad	海外の空港にて
14	前期のまとめ	まとめおよび総復習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ 主教材：上杉恵美・阿部佳・渭東史江・神末武彦・松島康彦・Jacob　Schere 著
Hospitality on the Scene - 現場から学ぶ観光英語の実践レッスン
金星堂　2018年

◇ 副教材：新田亜紀子著 English for Business Communication　南雲堂　2018年

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること。必要となるアプリの詳細は初回授業で告知する。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

総合英語Ⅱ（再履修）	阿部（アベ）　牧子（マキコ）
Integrated English II	必修科目／半期／２単位

【授業概要】

基礎的な文法と、平易で短い会話表現の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。音声を聴いての部分作文、英文和訳などの問題を通じて文法の復習をします。教科書は120個のターゲットセンテンスを通して４技能（話す、聞く、読む、書く）の習得を目指したテキストです。各ユニットにおいては、基本の会話表現を無理なく身につけていけるよう、重要表現を６つに絞っています。語彙力をつけるために、単語や熟語のテストを実施します。通じる英語を目指して、発音を今一度見直してみましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きを理解する	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は６割以上。	30%
短い会話表現を確実に習得し、スピーキング能力の素地を養う	授業中の対話練習、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は６割以上。	30%
各ユニットに配されている単語の意味を覚え、書くことができる	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声ＣＤで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法　本試験50%、語彙テスト20%、授業での発言など30%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	否定文や疑問文はどう表現する？	否定文と疑問文を理解する
2	助動詞が表すニュアンスの違い	助動詞の働きを理解する
3	丁寧な依頼や勧誘には would と could を使う	助動詞 would と could の特別な意味合いを理解する
4	形容詞や副詞を使って比較する	比較表現を理解する
5	接続詞が果たす役割とは？	文と文をつなぐ
6	〈to ＋動詞の原形〉が表す意味	to 不定詞の基本的な３用法を理解する
7	中間試験	試験と解説
8	〈to ＋動詞の原形〉を用いる構文とは？	to 不定詞を用いた応用表現を理解する
9	[動詞-ing]が表す意味とは？	現在分詞と動名詞の違いを理解する
10	過去分詞の働きとは？	過去分詞と受動態
11	過去～現在へと続く時制の感覚をつかむ	現在完了の用法と意味合いを理解する
12	音読	未定。一回目の講義時に指示する
13		
14	総まとめ	演習と解説
15	本試験	試験（60分）と解説

【使用教材】

◇ Grammar on Target

Chiharu Higuchi / Kaoru Fukutomi 著

ナショナルジオグラフィック　ラーニング/ センゲージ　ラーニング株式会社

【履修条件等】

◇総合英語は必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可)。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示されたホームワークをやってくること。

【その他の注意事項】

◇教科書なしで出席した日の平常点は０（ゼロ）点とします。

◇入学時に配布された iPad を使うことがあるので、持参してください。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

総合英語Ⅱ（再履修）	キムラ　ナオキ 木村　直樹
Integrated English II	必修科目／半期／２単位

【授業概要】

この講座では、訪日外国人観光客に英語で対応する際の基本的な表現やビジネス関係の表現を学びながら、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの４技能を総合的に網羅した英語を学習します。近年の訪日外国人客の急増にともない、日本では英語による適切でスムーズなコミュニケーションを図ることが、ますます必要とされています。国内でそうした外国人の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを理解することを目標とします。

この講座は「総合英語Ⅰ（再履修)」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%

評価の方法　上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。
授業への出席は３分の２以上を前提とする。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	初回ガイダンス	授業の概要説明、レベルチェック問題の演習など
2	Unit ７：Dining in Japan	日本食の紹介②
3	副：Making Requests	丁寧に依頼する（メール・電話）
4	Unit ８：Arranging a Tour	国内旅行の手配
5	副：Telephone Messages	伝言を承る・残す
6	Unit ９：Staying at a Ryokan	旅館について
7	副：Making Inquiries	問い合わせをする
8	Unit10：Culture in Japan ①	日本文化体験①
9	副：Making Appointments ①	アポを取る
10	Unit11：Culture in Japan ②	日本文化体験②
11	副：Stating Requests	はっきりと要求を述べる
12	Unit12：Japanese Souvenirs	ショッピング
13	副：Making Apologies	お詫びをする
14	秋学期のまとめ	まとめおよび総復習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ 主教材：上杉恵美・阿部佳・渭東史江・神末武彦・松島康彦・Jacob　Schere 著
Hospitality on the Scene - 現場から学ぶ観光英語の実践レッスン
金星堂、2018年

◇ 副教材：新田亜紀子著 English for Business Communication　南雲堂、2018年

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること。必要となるアプリの詳細は初回授業で告知する。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

英会話Ⅰ（留学生対象）	ジャネツト　ジョンソン **Janet Johnson**
English Conversation I	必修科目／半期／１単位

【授業概要】

この授業では、英会話の基礎を学びます。クラスでは、リズムをつけたスピーキングのウォームアップをしたり、日常生活でのコミュニケーションに大切なさまざまな会話を練習したりします。また、教科書のリスニング問題や歌を使ってリスニング練習をすることにより耳のトレーニングをします。インタビュー形式の活動やロールプレイも行います。さらに、海外の習慣を学ぶこともあります。自分が育った文化における習慣や行事についても英語で説明できるようにしましょう。楽しんで言葉を練習し、単語やフレーズを学び、リスニング力を高めることが、この授業の目的です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
適切な挨拶の表現が使える、自分について話たり相手のことを尋ねることができる、さまざまな職業が分かる、値段や素材を尋ねるなど買い物の場面で必要な会話ができる、複数形や距離を示す表現が使える	筆記試験（教科書やウォームアップに出てくる単語、フレーズ、表現を含む)、リスニング試験（教科書の内容に関連のある会話より出題)。	30%
外国の通貨を使って買い物をする、アメリカの通貨に親しむ、好き嫌いについて自分の意見を言う、招待を受ける・断る、意見を言う、天気について話す	筆記試験（関連のある単語試験を含む)、質問に英語で答える、リスニング試験（教科書の会話例とクラスで学んだ問題より出題)。	30%
授業への積極的な参加	授業への積極的な参加は、語学の習得と上達に大変重要です。すべての口頭および筆記での活動に積極的に参加してください。	25%
課題：宿題、自習、ミニテスト、出席	宿題、予習、自主学習、定期的に行われるミニテスト。出席は必須です。	15%
評価の方法　筆記およびリスニングテスト30%×２、 授業への参加25%、宿題・自主学習15%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	Orientation	Explanation of class content and procedures. Warm ups.
2	Unit 1 Greetings	Personal info. Present tense statements. Pair work.
3	Greetings cont. Self Introductions	Speaking exercises. Giving and asking for information.
4	Unit 2 Occupations	Occupations. Describing types of work. Conversation and grammar exercises.
5	Unit 2 cont.	Jobs. Speaking practice. Self-study exercises.
6	Unit 3 Shopping	Asking prices. Describing items by proximity, color, type. Stating preferences.
7	Money	Learning and identifying USA currency.
8	Review Units 1－3	Review exercises and preparation for first Short test.
9	Short Test	Test on Units 1－3
10	Unit 4 Entertainment	Describing entertainment likes and dislikes.
11	Unit 4 cont.	Invitations:Extending and declining
12	Unit 5 Families	Identifying family relationships.
13	Unit 6 cont.	Talking about families.
14	Review Units 4＆5	Review points, vocabulary and grammar.
15	Final Test	Final test

【使用教材】

◇ Interchange : English for international communication Book 1
Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor
Cambridge University Press

【履修条件等】

◇授業で行う活動に積極的に参加すること（とくに会話練習)。会話練習やその他授業で行う活動についていけるよう、出席は必須です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇授業で扱う内容の予習と復習はしっかり行ってください。また、リスニング力アップのため、教科書付属のＣＤを使って練習をしてください。宿題はきちんと済ませ、単語の暗記もすること。ペアでの会話練習は積極的に参加すること。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

英会話Ⅰ（再履修）	阿部（アベ）　牧子（マキコ）
English Conversation I	必修科目／半期／１単位

【授業概要】

基礎的な文法と語彙の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。英文和訳、和文英訳、部分作文などの問題を通じて文法の復習をします。教科書は15ユニットに渡って、アメリカに留学中の日本人学生の日常生活を描いています。辞書を使って読み進めていきましょう。語彙力をつけるために、単語や熟語のテストを実施します。通じる英語を目指して、発音を今一度見直してみましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きを理解する	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する テストの合格点は６割以上。	30%
200語程度の英文を読んで理解できる。なるべく英語で直接考えるようにする	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は６割以上。	30%
各章に配されている単語と派生語の意味を覚え、書くことができる	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声ＣＤで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法　本試験50%、語彙テスト20%、授業での発言など30%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業の概要説明、自己紹介他
2	品詞と語順	名詞、動詞、形容詞、副詞の文中での役割を理解する
3	be 動詞	First Day of Class
4	一般動詞の現在形	I Love Bread
5	可算名詞/不可算名詞	Pizza Time
6	代名詞	Not Just a Baker
7	一般動詞の過去形	What's Wrong With Hitomi?
8	中間試験	試験と解説
9	進行形	It Won't Hurt
10	時と場所を表す前置詞	I Feel Healthy Already
11	未来形	Small Talk
12	現在完了形	Weight Down，Power Up
13	総まとめ	演習問題と解説
14	総まとめ	演習問題と解説
15	本試験	試験（60分）と解説

【使用教材】

◇ ENGLISH Aid

Robert Hickling / Misato Usukura 著、金星堂

【履修条件等】

◇英会話は必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可)。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示されたホームワークをやってくること。

【その他の注意事項】

◇会話は interaction です。授業に参加することが非常に大切です。原則として10回出席していなければ本試験の受験を許可しません。

◇円滑なグループ学習活動のため、座席を指定することがあります。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

英会話Ⅰ（再履修）	キムラ　ナオキ 木村　直樹
English Conversation I	必修科目／半期／１単位

【授業概要】

この講座では、英語の基本表現を使いこなし、海外旅行や出張先でのさまざまな場面において、自信を持って適切に話せるようになることを目的としています。「英会話」となると身構えてしまうことも多いかとは思いますが、実際には非常に限られた表現を組み合わせるだけでも、自分の意図は十分相手に伝わることが多いです。この授業では、そのような基本フレーズを学習し、そのフレーズの使い方を授業内で練習した後で、さらにビジネスの場面で会話のバリエーションを増やすためのコツを解説します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な英語表現を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
相手の意図を理解し、簡単な英語表現で応答できるようになる	講師と学生の間でロールプレイを行い、その英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
会話の鍵となる単語や語句を聞き取り、書いて表現できるようになる	授業中のリスニング課題で評価します。	25%
英会話に頻繁に用いる定型表現と語彙を学ぶ	期末試験および小テストによって評価します。	25%

評価の方法　上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、そこにそれ以外の平常点（課題や発表、授業での積極性など30%を加え、計100%として評価する。

授業への出席は３分の２以上を前提とする（『学生要覧』参照）。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit 1 : Introduction	初対面のあいさつ
3	(continued)	自分の仕事内容を説明する
4	Unit 2 : Telephone Calls	電話の応答
5	(continued)	電話で伝言を受け付ける
6	Unit 3 : Making an Inquiry	電話での問い合わせ
7	(continued)	商品や金額についての問い合わせに対応する
8	Unit 4 : Making an Appointment	約束の取り付け
9	(continued)	一度入れたアポを変更してもらう
10	Unit 5 : Receiving a Visitor	受付での来客対応
11	(continued)	空港で訪問客を出迎える
12	Unit 6 : Invitations	接待
13	(continued)	初対面の客に対応するスモールトーク例
14	春学期のまとめと復習	復習および達成度テストへの準備
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Kudo, Tae. Successful Office English. Cengage Learning. 2018年

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること（ない場合は携帯で代用可)。詳細は初回の授業で指示します。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

英会話Ⅱ（留学生対象）	ジャネツト　ジョンソン **Janet Johnson**
English Conversation II	必修科目／半期／１単位

【授業概要】

「英会話Ⅱ」では、引き続き英会話の基礎を学んでいきます。クラスでは、リズムをつけたスピーキングのウォームアップをしたり、日常生活でのコミュニケーションに大切なさまざまな会話を練習したりします。また、教科書のリスニング問題や歌を使ってリスニング練習をすることにより耳のトレーニングをします。インタビュー形式の活動やロールプレイも行います。さらに、海外の習慣を学ぶこともあります。自分が育った文化における習慣や行事についても英語で説明できるようにしましょう。楽しんで言葉を練習し、単語やフレーズを学び、リスニング力を高めることが、この授業の目的です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
適切な挨拶の表現が使える、自分について話たり相手のことを尋ねることができる、さまざまな職業が分かる、値段や素材を尋ねるなど買い物の場面で必要な会話ができる、複数形や距離を示す表現が使える	筆記試験（教科書やウォームアップに出てくる単語、フレーズ、表現を含む)、リスニング試験（教科書の内容に関連のある会話より出題)。	30%
外国の通貨を使って買い物をする、アメリカの通貨に親しむ、好き嫌いについて自分の意見を言う、招待を受ける・断る、意見を言う、天気について話す	筆記試験（関連のある単語試験を含む)、質問に英語で答える、リスニング試験（教科書の会話例とクラスで学んだ問題より出題)。	30%
授業への積極的な参加	授業への積極的な参加は、語学の習得と上達に大変重要です。すべての口頭および筆記での活動に積極的に参加してください。	25%
課題：宿題、自習、ミニテスト、出席	宿題、予習、自主学習、定期的に行われるミニテスト。出席は必須です。	15%
評価の方法　筆記およびリスニングテスト30%×２、 授業への参加25%、宿題・自主学習15%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	Summer Report	Greetings and report of summer activities.
2	Review Unit 5	Review of last material covered in English I.
3	Unit 6 Leisure	Asking about locations and places. Listening. Repeating.
4	Unit 6	Survey on leisure activities.
5	Cross-cultural topic	Halloween. Customs, history, essential warning vocabulary
6	Unit 7 Weekend	Practice Past tense. Wh-questions.
7	Unit 7	Additional conversation and grammar practice.
8	Review Units 6 & 7	Review exercises and preparation for test.
9	Short Test	Test on Units 6 & 7
10	Unit 8 Cities-Places	Locations, neighborhoods. There is/ There are practice.
11	Unit 8 cont.	Finding out about new areas.
12	Unit 9 Appearance	Describing appearances. Listening practice.
13	Unit 9 cont.	Present continuous practice. Describing pictures.
14	Review 8 & 9	Review of materials and preparation for Final test.
15	Final Test	Final test

【使用教材】

◇ Interchange : English for international communication Book 1
Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor
Cambridge University Press

【履修条件等】

◇授業で行う活動に積極的に参加すること（とくに会話練習)。会話練習やその他授業で行う活動についていけるよう、出席は必須です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇授業で扱う内容の予習と復習はしっかり行ってください。また、リスニング力アップのため、教科書付属のＣＤを使って練習をしてください。宿題はきちんと済ませ、単語の暗記もすること。ペアでの会話練習は積極的に参加すること。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

英会話Ⅱ（再履修）	阿部（アベ）　牧子（マキコ）
English Conversation II	必修科目／半期／１単位

【授業概要】

基礎的な文法と語彙の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。英文和訳、和文英訳、部分作文などの問題を通じて文法の復習をします。教科書は15ユニットに渡って、アメリカに留学中の日本人学生の日常生活を描いています。辞書を使って読み進めていきましょう。語彙力をつけるために、単語や熟語のテストを実施します。通じる英語を目指して、発音を今一度見直してみましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きを理解する	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する テストの合格点は６割以上。	30%
200語程度の英文を読んで理解できる。なるべく英語で直接考えるようにする	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は６割以上。	30%
各章に配されている単語と派生語の意味を覚え、書くことができる	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声ＣＤで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%

評価の方法　本試験50%、語彙テスト20%、授業での発言など30%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	比較級/最上級	It's Nice … And
2	接続詞	Hitomi Wants a New Look
3	動名詞/不定詞	Shopping for Clothes
4	疑問詞	I'm Meeting a Friend
5	助動詞	Date Night
6	受動態	It's Party Time
7	中間試験	試験と解説
8	関係代名詞	レポートの提出
9	関係代名詞	演習問題
10	仮定法	宝くじが当たったらなあ
11	仮定法	演習問題
12	音読	未定。一回目の講義時に指示する
13		
14	総まとめ	演習と解説
15	本試験	試験（６0分）と解説

【使用教材】

◇ ENGLISH Aid

Robert Hickling / Misato Usukura 著　金星堂

【履修条件等】

◇英会話は必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可)。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示されたホームワークをやってくること。

【その他の注意事項】

◇会話は interaction です。授業に参加することが非常に大切です。原則として10回出席していなければ本試験の受験を許可しません。

◇円滑なグループ学習活動のため、座席を指定することがあります。

◇教科書は年度始め（４月）に購入しておくようにしてください。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

英会話Ⅱ（再履修）	キムラ　ナオキ 木村　直樹
English Conversation II	必修科目／半期／１単位

【授業概要】

この講座では、英語の基本表現を使いこなし、海外旅行や出張先でのさまざまな場面において、自信を持って適切に話せるようになることを目的としています。「英会話」となると身構えてしまうことも多いかとは思いますが、実際には非常に限られた表現を組み合わせるだけでも、自分の意図は十分相手に伝わることが多いです。この授業では、そのような基本フレーズを学習し、そのフレーズの使い方を授業内で練習した後で、さらにビジネスの場面で会話のバリエーションを増やすためのコツを解説します。

この講座は「英会話Ⅰ（再履修)」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な英語表現を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
相手の意図を理解し、簡単な英語表現で応答できるようになる	講師と学生の間でロールプレイを行い、その英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
会話の鍵となる単語や語句を聞き取り、書いて表現できるようになる	授業中のリスニング課題で評価します。	25%
英会話に頻繁に用いる定型表現と語彙を学ぶ	期末試験および小テストによって評価します。	25%

評価の方法　上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、そこにそれ以外の平常点（課題や発表、授業での積極性など30%を加え、計100%として評価する。

授業への出席は３分の２以上を前提とする（『学生要覧』参照)。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit ７ : Presentations １	プレゼン開始時のあいさつ
3	(continued)	商品の概要を説明する
4	Unit ８ : Presentations ２	新製品の紹介
5	(continued)	商品の特徴を際立たせる形容詞を用いる
6	Unit ９ : Presentations ３	プレゼンの締めくくり
7	(continued)	質疑応答での英語表現
8	Unit10 : Online Meetings	ビデオ会議
9	(continued)	相手に自分の意見を伝える
10	Unit11 : Negotiations	価格交渉
11	(continued)	支払い条件を確認する
12	Unit12 : Placing an Order	商品の発注
13	(continued)	発注内容の変更を打診する
14	秋学期のまとめと復習	復習および達成度テストへの準備
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Kudo, Tae. Successful Office English. Cengage Learning. 2018年

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること（ない場合は携帯で代用可)。詳細は初回の授業で指示します。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

キャリアデザイン	シヅカ　マサノリ 志塚　昌紀
Career Design	必修科目／半期／２単位

【授業概要】

この講義では、「キャリア」の基本的な考え方の理解を目的として授業を行っていきます。まず「キャリアとは何か」について考えてきます。さらには、「職業とは何か」「企業とは何か」について考えていきます。最終的には自身のキャリアをデザインすることが可能になることを目標としていきます。講義は配布レジュメに沿って進めていきます。また、映像資料を活用し、視聴覚的に理解を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自己分析、職業興味、価値観、自身の強みなどについて理解する	実際にいくつかの自己分析のワークシートに取り組んでもらう。授業時に行う課題への取り組みの姿勢や結果を参考にしながら評価をする。	25%
業界分析・企業分析の基礎について理解し、興味のある分野を探索する	興味関心のある業界や企業について調べ、分析をする。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする。	25%
自己分析と企業分析を基にして自身の自己ピーアールを作成する	それまでに行ってきた課題の内容を踏まえて、自身の自己ピーアールを作成する。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする。	25%
多様な働き方について理解をする。また自身のキャリアを設計する上で必要な考え方を身につける	キャリアデザインをしていく上で必要になる考え方について理解をしているか確認するため、自由記述型の論述試験を行う。自身のキャリアを真摯に考え記述しているかどうかについて評価をする。	25%

評価の方法　授業時の課題75点（出席点含む）、期末課題25点

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の概要と進路などについて
2	学生生活を充実させる①	自身の価値観と職業興味から選択肢を広げる
3	学生生活を充実させる②	海外留学のメリットと本学の留学制度
4	ライフプランの検討	20代、30代を見据えたキャリアプラン
5	自己分析	雇用のミスマッチを防止
6	就職試験対策①	SPI 試験について
7	就職試験対策②	服装・ビジネスマナー
8	資格取得	資格取得を目指してキャリアプランを深める
9	大学生活と将来のつながり	大学生活と社会人生活の違いを理解する
10	ゼミ大会	
11	人生で必要なお金	お金の視点でキャリアプランを考える。
12	内定者報告会	内定が決まった４年生による報告会
13	働くとは何か	職業とキャリア
14	働く人の権利	労働法初歩
15	まとめ・テスト	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書指定なし。

※レジュメを配付して進めていきます。

【履修条件等】

◇授業中に行う課題に真剣に取り組むこと。

◇提出課題の期日を守れること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料のキャリアに関するキーワードについて調べること。

◇雇用に関する時事問題について新聞・雑誌などで理解をしておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

日本語Ⅰ（留学生科目）	糸川（イトカワ）　優（ユウ）
Japanese Language Ⅰ	必修科目／半期／２単位

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、考えたことを論理的構成で文章にまとめる方法など、レポート作成にも役立つ基礎知識を身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評論分などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
考えたことを論理的に文章にまとめる方法を身につける	課題に対して、さまざまな角度から思考し、データを使って根拠を示しながら考えを論理的にまとめることができるかどうかを評価する。	40%

評価の方法　授業参加度30%、課題40%、本試験30%

学期の３分の１を越えて欠席した場合は、単位を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	基本的な文章作法	文章の基本
4	文体	文体と表現レベル
5	文章	文章構成
6	段落	段落構成
7	意見文	意見文と事実文の区別
8	意見文	意見文の構成と練習
9	説明文	説明文の構成
10	説明文	説明文の練習
11	論理的文章	論理的文章構成
12	論理的文章	データ活用と根拠の提示
13	論理的文章	論理的文章作文
14	まとめ	復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しないが、必要に応じて授業内で資料を配布する。

◇参考図書：浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』
くろしお出版、1997年

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。
課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

日本語Ⅰ（留学生科目）	小林（コバヤシ）　寛典（ヒロノリ）
Japanese Language Ⅰ	必修科目／半期／２単位

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、考えたことを論理的構成で文章にまとめる方法など、レポート作成にも役立つ基礎知識を身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評論分などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
考えたことを論理的に文章にまとめる方法を身につける	課題に対して、さまざまな角度から思考し、データを使って根拠を示しながら考えを論理的にまとめることができるかどうかを評価する。	40%

評価の方法　授業参加度30%、課題40%、本試験30%

学期の３分の１を越えて欠席した場合は、単位を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	基本的な文章作法	文章の基本
4	文体	文体と表現レベル
5	文章	文章構成
6	段落	段落構成
7	意見文	意見文と事実文の区別
8	意見文	意見文の構成と練習
9	説明文	説明文の構成
10	説明文	説明文の練習
11	論理的文章	論理的文章構成
12	論理的文章	データ活用と根拠の提示
13	論理的文章	論理的文章作文
14	まとめ	復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しないが、必要に応じて授業内で資料を配布する。

◇参考書：浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』
くろしお出版、1997年

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。
課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数や既習レベルなどを勘案して変更することがある。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

日本語Ⅰ（留学生科目）	塩谷（シオタニ）　由美子（ユミコ）
Japanese Language Ⅰ	必修科目／半期／２単位

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、考えたことを論理的構成で文章にまとめる方法など、レポート作成にも役立つ基礎知識を身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評論分などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
考えたことを論理的に文章にまとめる方法を身につける	課題に対して、さまざまな角度から思考し、データを使って根拠を示しながら考えを論理的にまとめることができるかどうかを評価する。	40%

評価の方法　授業参加度30%、課題40%、本試験30%

学期の３分の１を越えて欠席した場合は、単位を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	基本的な文章作法	文章の基本
4	文体	文体と表現レベル
5	文章	文章構成
6	段落	段落構成
7	意見文	意見文と事実文の区別
8	意見文	意見文の構成と練習
9	説明文	説明文の構成
10	説明文	説明文の練習
11	論理的文章	論理的文章構成
12	論理的文章	データ活用と根拠の提示
13	論理的文章	論理的文章作文
14	まとめ	復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しないが、必要に応じて授業内で資料を配布する。

◇参考図書：浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』
くろしお出版、1997年

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。
課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数や既習レベルなどを勘案して変更することがある。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

日本語Ⅱ（留学生科目）	糸川（イトカワ）　優（ユウ）
Japanese Language II	必修科目／半期／２単位

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%

評価の方法　授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%

学期の３分の１を越えて欠席した場合は、単位を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	社内メール
4	ビジネス日本語の基礎	会議準備
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び１
6	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び２、お知らせ文書１
7	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書２
8	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
9	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
10	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
11	ビジネス日本語の基礎	営業１
12	ビジネス日本語の基礎	営業２、売上
13	ビジネス日本語の基礎	売上２
14	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』ジャパンタイムズ、2015年

【履修条件等】

◇上記の教科書を購入しておくこと。

◇意欲を持って学習に取り組むこと。

◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。

◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

日本語Ⅱ（留学生科目）	小林（コバヤシ）　寛典（ヒロノリ）
Japanese Language II	必修科目／半期／２単位

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%

評価の方法　授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%

学期の３分の１を越えて欠席した場合は、単位を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	社内メール
4	ビジネス日本語の基礎	会議準備
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び１
6	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び２、お知らせ文書１
7	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書２
8	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
9	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
10	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
11	ビジネス日本語の基礎	営業１
12	ビジネス日本語の基礎	営業２、売上
13	ビジネス日本語の基礎	売上２
14	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』ジャパンタイムズ、2015年

【履修条件等】

◇上記の教科書を購入しておくこと。

◇意欲を持って学習に取り組むこと。

◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇毎課小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。

◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

日本語Ⅱ（留学生科目）	塩谷（シオタニ） 由美子（ユミコ）
Japanese Language II	必修科目／半期／２単位

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%

評価の方法　授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%

学期の３分の１を越えて欠席した場合は、単位を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	社内メール
4	ビジネス日本語の基礎	会議準備
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び１
6	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び２、お知らせ文書１
7	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書２
8	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
9	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
10	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
11	ビジネス日本語の基礎	営業１
12	ビジネス日本語の基礎	営業２、売上
13	ビジネス日本語の基礎	売上２
14	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集－聴く・読む・話す・書く』ジャパンタイムズ

【履修条件等】

◇上記の教科書を購入しておくこと。

◇意欲を持って学習に取り組むこと。

◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇毎課小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。

◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

日本語Ⅲ（留学生科目）	糸川（イトカワ）　優（ユウ）
Japanese Language III	必修科目／半期／２単位

【授業概要】

ビジネス場面における日本語コミュニケーション能力の養成を目的に、ビジネス日本語の基本語彙の習得を重ね、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の練習を重ねて習熟することを目標とする。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現も確認し、ビジネス場面における人間関係や場面背景を理解できるような練習もする。さらに、ＢＪＴビジネス日本語能力テストの受験準備をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%

評価の方法　授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%

学期の３分の１を越えて欠席した場合は、単位を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	ビジネス日本語の基礎	個人情報１
3	ビジネス日本語の基礎	個人情報２
4	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査１
5	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査２、出張１
6	ビジネス日本語の基礎	出張２
7	ビジネス日本語の基礎	販売員増員の提案
8	ビジネス日本語の基礎	インタビュー１
9	ビジネス日本語の基礎	インタビュー２
10	ビジネス日本語の基礎	日程調整
11	ビジネス日本語の基礎	衣料品業界
12	ビジネス日本語の基礎	展示会
13	ビジネス日本語の基礎	業務フローチャート
14	ビジネス日本語の基礎	ＢＪＴビジネス日本語テスト準備
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』ジャパンタイムズ、2015年

【履修条件等】

◇上記の教科書を購入しておくこと。

◇意欲を持って学習に取り組むこと。

◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。

◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

日本語Ⅲ（留学生科目）	小林（コバヤシ）　寛典（ヒロノリ）
Japanese Language III	必修科目／半期／２単位

【授業概要】

ビジネス場面における日本語コミュニケーション能力の養成を目的に、ビジネス日本語の基本語彙の習得を重ね、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の練習を重ねて習熟することを目標とする。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現も確認し、ビジネス場面における人間関係や場面背景を理解できるような練習もする。さらに、BJT ビジネス日本語能力テストの受験準備をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%

評価の方法　授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%

学期の３分の１を越えて欠席した場合は、単位を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	ビジネス日本語の基礎	個人情報１
3	ビジネス日本語の基礎	個人情報２
4	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査１
5	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査２、出張１
6	ビジネス日本語の基礎	出張２
7	ビジネス日本語の基礎	販売員増員の提案
8	ビジネス日本語の基礎	インタビュー１
9	ビジネス日本語の基礎	インタビュー２
10	ビジネス日本語の基礎	日程調整
11	ビジネス日本語の基礎	衣料品業界
12	ビジネス日本語の基礎	展示会
13	ビジネス日本語の基礎	業務フローチャート
14	ビジネス日本語の基礎	BJT ビジネス日本語テスト準備
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』ジャパンタイムズ、2015年

【履修条件等】

◇上記の教科書を購入しておくこと。

◇意欲を持って学習に取り組むこと。

◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。

◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

日本語Ⅲ（留学生科目）	塩谷（シオタニ）　由美子（ユミコ）
Japanese Language III	必修科目／半期／２単位

【授業概要】

ビジネス場面における日本語コミュニケーション能力の養成を目的に、ビジネス日本語の基本語彙の習得を重ね、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の練習を重ねて習熟することを目標とする。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現も確認し、ビジネス場面における人間関係や場面背景を理解できるような練習もする。さらに、ＢＪＴビジネス日本語能力テストの受験準備をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%

評価の方法　授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%

学期の３分の１を越えて欠席した場合は、単位を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	ビジネス日本語の基礎	個人情報１
3	ビジネス日本語の基礎	個人情報２
4	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査１
5	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査２、出張１
6	ビジネス日本語の基礎	出張２
7	ビジネス日本語の基礎	販売員増員の提案
8	ビジネス日本語の基礎	インタビュー１
9	ビジネス日本語の基礎	インタビュー２
10	ビジネス日本語の基礎	日程調整
11	ビジネス日本語の基礎	衣料品業界
12	ビジネス日本語の基礎	展示会
13	ビジネス日本語の基礎	業務フローチャート
14	ビジネス日本語の基礎	ＢＪＴビジネス日本語テスト準備
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』ジャパンタイムズ

【履修条件等】

◇上記の教科書を購入しておくこと。

◇意欲を持って学習に取り組むこと。

◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。

◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

英語Ⅰ	阿部（アベ）　牧子（マキコ）
Presentation Basics I	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

この授業では、300語前後の題材を、なるべく日本語を介さず読み進める練習をします。わからない単語は文脈からの推測を試みます。それでも意味がわからない場合は、必ず辞書で確認することが大切です。辞書機能を授業で活用することもあります。

writing は、文構造、基本的文法事項を理解し、理解を定着させるための練習問題をくり返します。各章の最後では文をつなげて１つのパラグラフを書き上げることができるようになります。また、正確に発音できるように、別教材を使って発音の練習をします。この機会に自信の発音を聴き直し見直しましょう。

英語を「いち」からやり直したいから本科目を取ろうとしている学生は、授業外での勉強にも多くの時間をかける覚悟をしてください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
300語程度の読み物の主旨、大意を把握できる	授業での発言、提出物によって評価。わからない単語は文脈から推測できるか。提出物の場合、辞書で調べて正確に理解しているかどうか。	30%
本文でとり上げられたトピックについて意見交換をする	ペア、グループ、またはクラスでの発言によって評価。発言は英語と日本語が混在していても可。発言内容を評価する。	20%
文の語順、品詞、時間表現などについて理解している	教科書の練習問題、パラグラフライティングによって評価。パラグラフライティングは、A（優）／ B（良）／C（可）で評価。	30%
外国人が聞いても理解できる発音で英文が読める	自分の発音を録音し、聞き取りにくいと思われる音を確認できる。確認できた音の修正をして音読練習を繰り返す。	20%
評価の方法　発表60%、本試験20%、課題他20%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業概要説明、読解力確認テスト
2	WRITING	The Sentence/ Capitalization/ Writing about holidays・音読練習
3	READING	Birthdays around the World・音読練習
4	WRITING	The Paragraph/ Writing about your birthday・音読練習
5	READING	Venice/ A Changing City ・音読練習
6	WRITING	Adjectives/ Writing about a City・音読練習
7	READING	Life Is Good in Iceland・音読練習
8	WRITING	Adjectives/ The Comparative Form of Adjectives/ The Superlative Form of Adjectives/ Writing about one's country・音読練習
9	READING	GO to Sleep!・音読練習
10	WRITING	Using when/ Writing about sleep habits・音読練習
11	READING	Laughing Out Loud・音読練習
12	WRITING	Writing about laughing・音読練習
13	パソコン（WORD）を使って清書	パソコンルームでパラグラフライティングの原稿を清書し、プリントアウトして提出する
14	音読	発音、聞き取りやすさの評価を行います
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Weaving It Together （third edition）

著者：Milanda Broukal　出版社：CENGAGE Learning

【履修条件等】

◇入学時に配布された iPad を授業で使います。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示された教科書部分を読み、大意を把握して授業に臨んでください。

【その他の注意事項】

◇初回の授業で読解力をみるため簡単なテストを行います。

◇円滑なグループ学習・ペア読みのため、座席を指定することがあります。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

英語Ⅱ	阿部（アベ）　牧子（マキコ）
Presentation Basics II	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

この授業では、300語前後の題材を、なるべく日本語を介さず読み進める練習をします。わからない単語は文脈からの推測を試みます。それでも意味がわからない場合は、必ず辞書で確認することが大切です。辞書機能を授業で活用することもあります。

writing は、文構造、基本的文法事項を理解し、理解を定着させるための練習問題をくり返します。各章の最後では文をつなげて１つのパラグラフを書き上げることができるようになります。

また、正確に発音できるように、別教材を使って発音の練習をします。この機会に自信の発音を聴き直し見直しましょう。

本講義は「英語Ｉ」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
300語程度の読み物の主旨、大意を把握できる	授業での発言、提出物、本試験によって評価。わからない単語は文脈から推測できるか。提出物の場合、辞書で調べて正確に理解しているかどうか。	30%
本文でとり上げられたトピックについて意見交換をする	ペア、グループ、またはクラスでの発言によって評価。発言は英語と日本語が混在していても可。発言内容を評価する。	20%
文の語順、品詞、時間表現などについて理解している	教科書の練習問題、パラグラフライティング、本試験によって評価。パラグラフライティングは、Ａ（優）／ Ｂ（良）／Ｃ（可）で評価。	30%
外国人が聞いても理解できる発音で英文が読める	自分の発音を録音し、聞き取りにくいと思われる音を確認できる。確認できた音の修正をして音読練習を繰り返す。	20%
評価の方法　発表60%、本試験20%、課題他20%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業概要説明等 音読練習
2	READING	What to Name the Baby, 音読練習
3	WRITING	Count Nouns and Noncount Nouns/ Writing about a special day
4	READING	Eat, Drink, and Knows the Customs, 音読練習
5	WRITING	Prepositions/ Prepositional Phrases/ Writing about a meal
6	READING	Hold Your Nose and Eat, 音読練習
7	WRITING	Writing Instructions/ Writing about a favorite food
8	READING	The World's Most Popular Drink, 音読練習
9	WRITING	The Pronouns it and them/ Writing about a favorite drink
10	READING	Dinner Fresh from the Freezer, 音読練習
11	WRITING	Comparing Things with as . . . as/ Writing about microwave
12	READING	The Shepherd's Boy, 音読練習
13	WRITING	Paraphrasing/ Writing a fable
14	WRITING	パソコンルームで WORD を使ってライティングの原稿を清書し、プリントアウトして提出する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Weaving It Together （third edition）

著者：Milanda Broukal　出版社：CENGAGE Learning

【履修条件等】

◇入学時に配布された iPad を授業で使います。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示された教科書部分を一読し、大意を把握して授業に臨んでください。

【その他の注意事項】

◇円滑なグループ学習・ペア読みのため、座席を指定することがあります。

◇教科書は年度の始め（４月）に購入しておくようにしてください。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

英語Ⅲ	阿部（アベ）　牧子（マキコ）
Reading and Writing III	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

この授業では、400～500字程度の英文を読んで、内容についての感想や意見を述べることを目標にします。テキストのエクササイズに答えながら読解力を養い、自分の考えを英語にする練習を繰り返します。わかり易く平易な英語で英文を書けるようになることを目指しましょう。そのために辞書を効果的に活用することを学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英文を読むために必要な文法、単語についての知識を習得する。辞書を活用できる	小テスト、提出物によって評価。 授業中の発言によって評価する。	30%
400字程度の英文の内容を、初見でおおよそ把握できる	授業中の応答、発言によって評価する。 中間試験と本試験で評価する。	30%
トピックに関する自分の考えを、英語でわかりやすく表現できる	提出物、本試験によって評価。学習した単語・熟語などを文脈に沿って適切に使い、基本的な英文を作ることができる。	20%
単純な内容であれば、論理的な短い英文が書ける	学期始めと学期終わりに書いた英文を比べ、どの程度作文力が向上したかによって評価する。	10%
評価の方法　本試験50%、小テスト、平常点（提出物を含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業の概要説明など
2	英語は世界共通語	教科書の問題を解きながら内容を理解する
3	英語は世界共通語	英作文・ディスカッション
4	ハンバーガーの生い立ち	教科書の問題を解きながら内容を理解する
5	ハンバーガーの生い立ち	英作文・ディスカッション
6	インターネットの発達	教科書の問題を解きながら内容を理解する
7	インターネットの発達	英作文・ディスカッション
8	中間試験	学習達成度の確認
9	甘い飲み物	教科書の問題を解きながら内容を理解する
10	甘い飲み物	英作文・ディスカッション
11	国内旅行	教科書の問題を解きながら内容を理解する
12	国内旅行	英作文・ディスカッション
13	世界で最も幸せな国	教科書の問題を解きながら内容を理解する
14	世界で最も幸せな国	英作文・ディスカッション
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Life Topics

著者：Takashi Shimaoka, Jonathan Berman　出版社：南雲堂

【履修条件等】

◇英語に対する学習意欲があり、課題（ホームワーク）に取り組むことを優先することができる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇トピックについての知識がテキストだけでは不足な場合、各自が本などで調べることが必要になります。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけてください。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

英語Ⅳ	阿部（アベ）　牧子（マキコ）
Reading and Writing IV	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

この授業では、400～500字程度の英文を読んで、内容についての感想や意見を述べることを目標にします。テキストのエクササイズに答えながら読解力を養い、自分の考えを英語にする練習を繰り返します。わかり易く平易な英語で英文を書けるようになることを目指しましょう。本講義は「英語Ⅲ」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英文を読むために必要な文法、単語についての知識を習得する	小テスト、提出物によって評価。 授業中の発言によって評価する。	30%
400字程度の英文の内容を、初見でおおよそ把握できる	授業中の応答、発言によって評価する。 中間試験と本試験で評価する。	30%
トピックに関する自分の考えを、英語でわかりやすく表現できる	提出物、本試験によって評価。学習した単語・熟語などを文脈に沿って適切に使い、基本的な英文を作ることができる。	20%
単純な内容であれば、論理的な短い英文が書ける	学期始めと学期終わりに書いた英文を比べ、どの程度作文力が向上したかによって評価する。	10%
評価の方法　本試験50%、小テスト、平常点（提出物を含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業概要説明
2	Fast Food and Health	教科書の問題を解きながら内容を理解する
3	Fast Food and Health	英作文・ディスカッション
4	Shopping on the Internet	教科書の問題を解きながら内容を理解する
5	Shopping on the Internet	英作文・ディスカッション
6	未定	教科書の問題を解きながら内容を理解する
7	未定	英作文・ディスカッション
8	中間試験	学習達成度の確認
9	未定	教科書の問題を解きながら内容を理解する
10	未定	英作文・ディスカッション
11	未定	教科書の問題を解きながら内容を理解する
12	未定	英作文・ディスカッション
13	未定	教科書の問題を解きながら内容を理解する
14	未定	英作文・ディスカッション
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Life Topics

著者：Takashi Shimaoka，Jonathan Berman　出版社：南雲堂

【履修条件等】

◇英語に対する学習意欲があり、課題（ホームワーク）に取り組むことを優先することができる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇トピックについての知識がテキストだけでは不足な場合、各自が本などで調べることが必要になります。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけてください。

◇６回目以降のテーマは、受講生の興味関心も踏まえて決定します。

◇教科書は年度の始めに購入しておくようにしてください。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

TOEIC Ⅰ	宍戸（シシド） カール
TOEIC Ⅰ	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

このクラスは、実用的な英語を身につけてコミュニケーション力をアップしたいと考えている学生、いずれは TOEIC テストに挑戦したいと考えている学生を対象に、TOEIC の基礎的な部分のトレーニングを中心に授業を進めていきます。

TOEIC はリスニング45分、リーディング75分の試験です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
TOEIC テストに出題される頻度の高い単語を習得する	おもに単語テストによって評価する。語彙問題のパターンを把握し、頻出語彙をマスターする。	30%
TOEIC テストに必要とされる英文読解力を養う	本試験その他によって評価。文法事項の基本パターンを把握し、読解問題の基本的な設問を理解し、解答できること。	30%
TOEIC テストに必要な 「聴き取り」ができる	本試験その他によって評価。パート１からパート３の各問題の設問の内容を理解し、正解に必要な情報を聞き取ることができること。	30%
模擬試験のスコアアップ	学期始めと学期末の本試験を比較して（難易度考慮)、評価する。	10%
評価の方法　本試験50%、平常点（単語テストを含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	Orientation	授業の進め方、評価基準等の説明
2	Introduction	模擬テストと解説
3	Activity 1	Shopping（grammar，auxiliaries）
4	Activity 2	Shopping（grammar，auxiliaries）
5	Activity 3	Transportation（grammar，progressives）
6	Activity 4	Transportation（grammar，progressives）
7	Activity 5	Travel（grammar，verb）
8	Activity 6	Travel（grammar，verb）
9	Activity 7	Restaurant（grammar，perfect tenses）
10	Activity 8	Restaurant（grammar，perfect tenses）
11	Activity 9	Health（grammar，tense agreement）
12	Activity10	Health（grammar，tense agreement）
13	Activity11	In the Office（grammar，tag & negative questions）
14	Activity12	In the Office（grammar，tag & negative questions）
15	Examination	本試験および解説

【使用教材】

◇ Barron's Toeic Bridge Test

【履修条件等】

◇将来的にはTOEICテストを受験したいと考えている人。

◇英語を聞いて理解できるようになるため、努力を惜しまない人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に自習用のＣＤが添付されているので、指示された部分を聴いてくる。

レッスンごとに単語テストをするので、その勉強。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

TOEIC Ⅱ	宍戸（シシド） カール
TOEIC II	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

このクラスは、実用的な英語を身につけてコミュニケーション力をアップしたいと考えている学生、いずれは TOEIC テストに挑戦したいと考えている学生を対象に、TOEIC の基礎的な部分のトレーニングを中心に授業を進めていきます。

TOEIC はリスニング45分、リーディング75分の試験です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
TOEIC テストに関する基礎的な単語力を身につける	おもに単語テストによって評価する。語彙問題のパターンを把握し、頻出語彙をマスターする。	30%
TOEIC テストに必要とされる英文読解力を養う	本試験その他によって評価。文法事項の基本パターンを把握し、読解問題の基本的な設問を理解し、解答できること。	30%
TOEIC テストに必要な 「聴き取り」ができること	本試験その他によって評価。パート１からパート３の各問題の設問の内容を理解し、正解に必要な情報を聞き取ることができること。	30%
模擬試験のスコアが上がること	学期始めと学期末の本試験を比較して（難易度考慮)、評価する。	10%
評価の方法　本試験50%、平常点（単語テストを含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	Orientation	授業の進め方、評価基準等の説明
2	Lesson 1	Business and Sales（grammar，negations）
3	Lesson 2	Business and Sales（grammar，negations）
4	Lesson 3	Media/News（grammar，infinitives & gerunds）
5	Lesson 4	Media/News（grammar，infinitives & gerunds）
6	Lesson 5	Economy（grammar，participles）
7	Lesson 6	Economy（grammar，participles）
8	Lesson 7	Advertisements（grammar，passive voice）
9	Lesson 8	Advertisements（grammar，passive voice）
10	Lesson 9	Politics（grammar，pronouns & adverbs）
11	Lesson10	Politics（grammar，pronouns & adverbs）
12	Lesson11;	Environment（grammar，subjective mood）
13	Lesson13	Environment（grammar，subjective mood）
14	Examination	本試験
15	Examination	本試験（試験問題の解説）

【使用教材】

◇ Barron's Toeic Bridge Test

【履修条件等】

◇将来的にはTOEICテストを受験したいと考えている人。

◇原則として、「TOEIC Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に自習用のＣＤが添付されているので、指示された部分を聴いてくる。

レッスンごとに単語テストをするので、その勉強。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

フランス語Ⅰ	野口（ノグチ）　恵子（ケイコ）
French Ⅰ	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

フランス語に慣れ親しむ。基礎的な語彙、表現、文法、発音を学んで、口頭および文章による自己紹介や、簡単な会話ができるようになることを目指す。入門期の外国語学習は、耳、口、目、手、そして頭も使う、いわば全身運動である。まずはフランス語を繰り返し聞き、声に出して言ってみよう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的なフランス語を聞いて理解する能力を身につける	数字、単語、表現の聞き取りテストを行う。 ＣＤ等で会話を聞き、大意を理解しているか問う。	30%
自己紹介をはじめ、身近な話題について話す能力を身につける	口頭表現において、基本的な発音、語彙、文法の知識が生かされているかを見る。会話形式の練習、会話テストを実施する。	30%
簡単なフランス語で書かれた文を読んで理解する能力を身につける	挨拶、自己紹介、日常会話を文字化したものを読み、まず、大意が取れているか、その後、さらに細かく理解しているか見る。	20%
書き取り、短文作成から始め、身近な話題について文章で表現する能力を身につける	文字・表記の正確さを問う書き取りテストを行う。習った単語や表現を使って、自分のこと、自分が興味を持っていることに関して短い作文を書く。	20%

評価の方法　定期試験（聞き取り、書き取り、語彙、文法、作文等）50%、平常点（授業への参加度、宿題提出、音読テスト、ディクテーション）50%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	アルファベ、つづりと発音、日本語の中のフランス語
2	「私はマリーです」	つづり字記号、リエゾンとアンシェヌマン、名を名乗る
3	「お元気ですか」	挨拶、「はい」「いいえ」
4	「ありがとう」	お礼・お詫び、数字１～20
5	「コーヒー１つお願いします」	不定冠詞、名詞の性と数
6	「それはポールの本です」	定冠詞、部分冠詞
7	「音楽が好きです」	第1群規則動詞（-er）
8	「ミシェルはテレビを見ません」	否定文
9	「私は学生です」	動詞 être、職業・国籍の言い方
10	「辞書を持っています」	動詞 avoir、数字20～60
11	「黒い上着を着ています」	疑問文、形容詞の位置・語尾変化
12	「今２時半です」	時刻の言い方
13	「パリに行きます」	動詞 aller、前置詞と定冠詞の縮約①、曜日と月の名前
14	「学校に来ます」	動詞 venir、前置詞と定冠詞の縮約②
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇松村博史他著『クロワッサン　基礎からわかるフランス語』朝日出版社、2016年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇授業に積極的に参加すること。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

フランス語Ⅰ	三冨（ミトミ）　祐子（ユウコ）
French Ⅰ	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

全く初めてフランス語を学ぶ者を対象にゼロから始め、初対面を想定しての自己紹介や好みなどを尋ね合うことができることを目指します。教室では、ＶＴＲ（インターネットでアクセス可能）で自然な会話に触れ、文法理解と練習問題等を行った後、ペア・グループで実践的な会話の練習をします。各課終了後、ポイントをまとめたプリントを使用し充分復習します。「フランス語Ⅱ」と合わせて履修することで、仏検５級受験に必要な知識を得ることができるようにします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
フランス語を読み、理解し、正しく発音できるようにする	授業中の音読、発話と学期末の口頭試験で評価。フランス語特有の発音や、綴り字の読み方、イントネーションの付け方等、フランス人に意思が伝わるフランス語であるか否かを評価基準とする。	20%
フランス語を聞き、理解できるようにする	授業中の質問に対する回答と小テスト、学期末の口頭試験で評価。数字（値段・年齢等）の聞き取り、学習した基本的なフランス語を耳で聞いて理解し返答ができるか否かを評価基準とする。	10%
基本的な文法を理解し、語彙を覚える	授業中の設問に対する回答と、学期末の筆記試験で評価。基本的な（仏検５級程度）文法と語彙を理解し暗記できているかを評価基準とする。	50%
フランス語でコミュニケーションをとる	授業中のペア練習への参加の積極性、学期末の口頭試験で評価。状況に即し、自然な流れで会話ができているか否かを評価基準とする。	20%

評価の方法　８割以上の出席と、口頭試験、筆記試験を受けることを前提に、筆記試験60%、口頭試験20%、課題（配布プリント）提出10%、平常点10%で評価します。詳細については初回授業で説明します。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1 2 3	＜フランスについて＞ ＜フランス語の発音＞ Leçon １＜自己紹介１＞ ・挨拶 ・名前、国籍を言う	・アルファベ、綴り字の読み方 ・フランス語10単語を覚える ・主語人称代名詞と動詞 être ・「はじめまして、私の名は～です」 ・「私は／彼（女）は～人です」 ・数１～10
4 5	Leçon ２＜自己紹介２＞ ・職業を言う ・住んでいる所を言う	・規則動詞 habiter 住む ・「私は学生です」「彼は俳優です」 ・「私は～に住んでいます」 ・数11～20
6 7 8	Leçon ３ ＜カフェで＞ ・カフェで注文し、支払いをする ・何語を話すか言う	・飲み物、食べ物の名と冠詞 ・否定形「私は～人ではない」 ・規則動詞 parler「話す」の活用 ・数30～60　・～ユーロ
9 10	Leçon ７＜好みを言う＞ ・好みを尋ねる ・何が好きか尋ねる ・Il y a ～　「～がある」	・動詞 aimer 「音楽・スポーツ・～料理が好きです」 程度を言う「大好きです」 「あまり好きではありません」 ・aimer の後の名詞につく定冠詞 ・「高田馬場には～がある」
11 12	Leçon ４＜兄弟姉妹について＞ ・～を持っているか、尋ねる ・兄弟がいるかを言う ・年齢を言う	・動詞 avoir 「ペンを持っている？」 「兄がひとりいます」 ・avoir の否定形「持っていない」 ・疑問文 Est-ce que ～「～ですか？」 ・「私は～歳です」
13	口頭試験および解説	・授業中練習した自己紹介（名前、国籍、職業、言語）、音楽、スポーツの好みを尋ね合う
14	Leçon １～４，Leçon ７の総復習	復習プリントを使用
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Café Français カフェ・フランセ
著者：Nicolas Gaillard 他　　出版社：朝日出版社
ホームページ http://cafefrancais. cocolog-nifty. com/hp/

【履修条件等】

◇フランスまたはフランス語に興味があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業での学習事項を復習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけること。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

フランス語Ⅱ	野口（ノグチ）　恵子（ケイコ）
French II	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

「フランス語Ｉ」に続き、基礎的な語彙や文法の知識を身につけるとともに、コミュニケーション能力をのばすことを目的とする。聞こえてきたフランス語を繰り返して言う練習、聞いて書き取る練習、テキストを声に出して読む練習を行う。身近な話題、興味のある話題について、口頭および文章で的確に表現できるようにする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的なフランス語を聞いて理解する能力を身につける	語句の聞き取りテストを行う。ＣＤ等で会話を聞き、大意を理解しているか問う。	30%
身近な話題について話す能力を身につける	口頭表現において、基本的な発音、語彙、文法の知識が生かされているかを見る。会話形式の練習、会話テストを実施する。	30%
基本的なフランス語で書かれた文を読んで理解する能力を身につける	テキストの会話文を読み、まず、大意が取れているか、その後、さらに細かく理解しているか見る。	20%
身近な話題について文章で表現する能力を身につける	文字・表記の正確さを問う書き取りテストを行う。習った単語や表現を使って、自分のこと、自分が興味を持っていることに関して短い作文を書く。	20%
評価の方法　定期試験（聞き取り、書き取り、語彙、文法、作文）50% 平常点（授業への参加度、宿題提出、音読・ディクテーション・会話・和訳・仏訳小テスト）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	「働くつもりです」	動詞 aller の復習、近接未来
2	「食べたばかりです」	動詞 venir の復習、近接過去
3	「ペンをお持ちですか」	疑問文の作り方
4	「私の姉は優しいです」	所有形容詞
5	「私は仕事を終えます」	第２群規則動詞（-ir）、動詞 partir
6	「宿題を終わらせなさい」	命令形、数字60～
7	「なぜフランス語を勉強しているのですか」	疑問詞 quand、où、comment、pourquoi、qui、que
8	「全部でいくらですか」	動詞 faire、prendre、買い物をする
9	「何をしましたか」	直説法複合過去①（助動詞 avoir を使う動詞）
10	「映画に行きました」	直説法複合過去②（助動詞 être を使う動詞）
11	「どの季節が好きですか」	疑問形容詞 quel、動詞 préférer、vouloir、pouvoir
12	「５時にホテルに着かなくてはいけません」	動詞 devoir、電話をかける
13	「クレールはフランソワーズより背が高い」	比較級
14	「ジャンヌはクラスで一番活発な子です」	最上級、空港での会話
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇松村博史他著『クロワッサン　基礎からわかるフランス語』朝日出版社、2016年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇授業に積極的に参加すること。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

フランス語Ⅱ	三冨（ミトミ）　祐子（ユウコ）
French II	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

「フランス語Ｉ」を修了、または相当のフランス語の知識のある者を対象とし、「フランス語Ｉ」で学んだことを土台に、フランス人とのコミュニケーションに必要な基本的な会話の場面を広げ、基本的な表現を増やしながら文法事項を学んでいく。授業形態は「フランス語Ｉ」同様、ＶＴＲ教材を使用し、スキットの理解、文法解説、発音練習、会話練習を行う。本講座終了後、フランス人との最も基本的なコミュニケーションがとれること、いくつかの場面での実践的な会話ができることを到達目標とする。生きたフランス語に触れるという目的で、教材以外にＶＴＲまたは映画を使用し既習の表現を聞き取る機会を設ける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
フランス語を読み、理解し、正しく発音できるようにする	授業中の音読、発話と学期末の口頭試験で評価。フランス人に意思が伝わるフランス語であるか否かを評価基準とする。	20%
フランス語を聞き、理解できるようにする	授業中の質問に対する回答と小テスト、学期末の口頭試験で評価。春学期に続き、数字の聞き取り、フランス語での質問に対し返答ができるか否かを評価基準とする。	10%
基本的な文法を理解し、語彙を覚える	授業中の設問に対する回答と、学期末の筆記試験で評価。基本的な（仏検５級程度）文法と語彙を理解し暗記できているかを評価基準とする。	50%
フランス語でコミュニケーションをとる	授業中のペア練習への参加の積極性、学期末の口頭試験で評価。状況に即し、自然な流れで会話ができているか否かを評価基準とする。	20%

評価の方法　８割以上の出席と、口頭試験、筆記試験を受けることを前提に、筆記試験60%、口頭試験20%、課題（配布プリント）提出10%、平常点10%で評価します。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	＜春学期の復習＞ ＜天候の表現＞ Leçon 8　Ⅱ ・天候を言う	・配布プリント使用 ・天候の非人称構文「良い天気です」 「寒く・暑くないです」
2 3	Leçon 9 ・どんなスポーツをするか言う ・朝食について述べる ・否定疑問文に対する「はい」 「いいえ」の答え方	・「スポーツはしますか？」 スポーツの名称と部分冠詞 ・「朝食をとりますか？」「～をとります」 食品の名と部分冠詞 ・中性代名詞 en を使って答える
4 5	Leçon10＜誘う＞ ・相手を昼食に誘う ・承諾する・理由を述べ誘いを断る ・場所へ行く手段を言う	・主語　on「～行こう」 ・場所の名「カフェへ・美術館へ」と前置詞＋冠詞について ・「OK、行こう」「ごめん、授業があるんだ」 ・「何で行こうか？」「歩いて行こう」
6 7 8 9	Leçon11＜一日の過ごし方＞ ・起床から就寝までの一日の主な行動を言う	・時間の表し方 ・「起床する」「就寝する」（代名動詞） 「普段は、～時に起き、～時に家を出、 ～時に帰宅します」
10 11	Leçon13＜レストランで(1)＞ ・食事の流れについて知る ・メニューを読む ・注文する	・主な食品の名と注文の仕方 ・前菜、主菜、デザート、飲み物を注文する ・複合過去(1)助動詞 avoir「選びましたか？」
12	口頭試験および解説	授業中練習した会話（朝食、スポーツについて尋ね合う、誘う）をペアで行う
13	Leçon13＜レストランで(2)＞ ・料理の感想を言う Leçon14 ・過去について語る	・料理の感想を言う（半過去） 「美味しかったです」 ・複合過去（1）助動詞 avoir 「昨日何をしましたか？」
14	Leçon14 ・過去について語る ・総復習	・複合過去(2) 助動詞 être 「昨日～へ行きました」 ・復習プリントを使用して総復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Café Français カフェ・フランセ
著者：Nicolas Gaillard 他　出版社：朝日出版社
ホームページ http://cafefrancais.cocolog-nifty.com/hp/

【履修条件等】

◇「フランス語Ⅰ」を修了または相当のフランス語の知識のある者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業での学習事項を復習すること。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけること。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

中国語Ⅰ	井上（イノウエ）　良雄（ヨシオ）
Chinese I	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

日常会話の練習をします。初心者が対象ですから基礎知識はいりません。あまり文法的なことにはふれないで、授業中はどんどん声を出して体で覚えてもらいます。

中国語の学習を通して、中国文化や中国人の生活習慣に親しみ、国際的な視野を広げてほしいと思います。「聞く」授業ではなく、「参加する」授業です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
中国語の基本構造と発音の概要を理解し、発音の基本練習をする	授業中に指名し、回答から理解度を評価する。発音の巧拙は関係ない。発音練習への参加意欲や、集中度を評価する。	20%
自分の名前の中国語発音を発表し、互いに呼び合えるようにする	中国語の辞書で発音記号・意味・用例を調べ、レポートを提出させ評価する。 クラスメートの名前を中国語で呼び合う積極性を評価する。	20%
学生生活のさまざまな場面での会話を想定して、互いに練習をする	家族、学生生活、誕生日、年齢、住所、スポーツ、趣味などについて、一人ひとり発言させ評価する。 また、対話練習の積極性も評価する。 発音の巧拙は関係ない。	30%
試験として、１分間程度の自己紹介スピーチを皆の前で披露する	スピーチの標準形を示すが、オリジナリティーをプラス評価する。発音練習、矯正指導への取り組み姿勢、スピーチマナー、クラスメートの発表を聞く態度も評価する。	30%

評価の方法　上記のように、平常点およびレポート課題評価70%、試験（中国語による自己紹介）評価30%である。
欠席・遅刻は事情を考慮の上、減点（１回につき最大５%）する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	中国語について	共通語、文字、文の組み立て等
2	発音について(1)	発音の概説（音節、母音、子音、声調、ピンイン）
3	発音について(2)	発音練習（数字、あいさつ、身体、漢詩、自分の名前）
4	あいさつ	あいさつ言葉、人称代名詞、敬称
5	名前(1)	名前の聞き方の注意点、他の常用あいさつ言葉
6	名前(2)	自分の名前のピンイン発表、発音練習
7	家族	“有”の文、数量を尋ねる、人や物を数える単位
8	学生生活	“的”の用法、“是”の文
9	誕生日、年齢	月、日、曜日、西暦の言い方、年齢の聞き方、答え方
10	～に住んでいる	指示代名詞、場所や方向、ｒ化
11	～ができる	“会”の用法、「肯定＋否定」の疑問文
12	自己紹介(1)	趣味、～生まれの～育ち、学校名の言い方
13	自己紹介(2)	質問、個人指導、練習
14	自己紹介(3)	質問、個人指導、練習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇井上良雄著『中国語のチカラ』東京富士大学

【履修条件等】

◇中国語に興味と関心があり、積極的に授業に参加できる学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の次回学ぶ課を読み、発音しにくい単語、理解できないところをチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇座席は指定制です。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

中国語Ⅱ	井上（イノウエ）　良雄（ヨシオ）
Chinese II	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

「中国語Ⅰ」に引き続き、日常会話の練習をします。さまざまな場面を想定して、基本的な単語や簡単な文で受け答えの会話を楽しみましょう。

「中国語Ⅰ」と同様に、聴講型ではなく参加型の授業です。異文化への興味と関心を深め、国際センスを磨いてほしいと思います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
短い自己紹介を、とっさにでも流暢にできるよう練習する	「中国語Ⅰ」の復習として、一人ひとりが皆の前で披露する。話しぶりや表情、パフォーマンスも評価する。	10%
日本のアニメソングの中国語版を題材に、日中の歌詞を比較・分析する	各人が比較・分析の結果や感想を発表する。鑑賞の緻密さ、積極的な参加意欲を評価する。 合唱もするが、歌の巧拙は関係ない。協調性を評価する。	10%
日常生活のさまざまな場面での会話を想定して、互いに練習する	再会、勧誘、時刻、経験、電話、決まり文句等について、対話形式でロールプレイングを行い、その積極性、正確性を評価する。発音の巧拙はさほど重要ではない。	50%
試験として、各人10問の日常会話の口頭試問を行う	これまでに学んだ、30問の設問に対する解答を練習し、一人10問の口頭試問を行う。聴解の正確性、回答の妥当性、反応速度、面接態度等を評価する。	30%

評価の方法　上記のように、平常点評価70%、試験（中国語による口頭試問）評価30%である。

欠席・遅刻は事情を考慮の上、減点（１回につき最大５％）する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	「中国語Ⅰ」の復習	中国語での簡単な自己紹介
2	中国語で歌う	中国語の歌詞を題材に学習
3	再会	“了”の用法、動作の方向
4	～が好き	“得”の用法、“不太好”と“太不好”
5	どうですか？	同意、意向や様子を尋ねる、“上”“下”の特殊な用法
6	時刻・時間	時刻、時間、期間の言い方
7	～から～まで	～したことがある（経験)、出身地と住所地
8	電話をかける(1)	一般的な電話会話
9	電話をかける(2)	電話番号の聞き方、言い方
10	決まり文句(1)	対話での決まり文句
11	決まり文句(2)	ひと言決まり文句、外来語
12	口頭試問(1)	問題の解説、回答例練習
13	口頭試問(2)	問題の解説、回答例練習
14	口頭試問(3)	質問、個人指導
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇井上良雄著『中国語のチカラ』東京富士大学

【履修条件等】

◇中国語に興味と関心があり、積極的に授業に参加できる学生。

◇原則として「中国語Ⅰ」を修得した学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の次回学ぶ課を読み、発音しにくい単語、理解できないところをチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇座席は指定制です。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

韓国語Ⅰ	黄（ファン）　美貞（ミジョン）
Korean Ⅰ	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

韓国語は、日本語と多くの共通性を持った言語であることから、日本人にとって最も親しみやすく、学びやすい外国語であるといわれています。この授業では、韓国語の文字であるハングルや基礎文法、会話文について体系的に学習していきます。

授業のスタイルは、一方的に教えるのではなく、学生同士で韓国語による自己紹介や挨拶文を交わすロールプレイを行ったり、作文・発言を促したりすることで文法を理解し、日常で使う表現を中心に楽しく学んでもらうことを心がけます。韓国語のみならず、授業を通じて、韓国の社会や文化についても理解を深めることを目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
韓国語の特徴を理解し、文字を覚え、発音ができる	ハングル（文字）の「読み」、「書き」ができるか、自分の名前や日本の地名をハングルで表記できるかを評価する。	30%
自己紹介や挨拶文、疑問文、否定文などの簡単な文章が言える	自己紹介・挨拶などを韓国語で話すことができるかを評価する。	30%
基礎文法を身につけ、簡単な作文や読解、聞き取りができる	基礎文法を理解し、日常で良く使う語彙を覚え、応用でき、韓国語で発言し、聞き取りや作文ができるかを評価する。	20%
韓国の社会や文化を理解し、韓国語でコミュニケーションできる	韓国語を通じて韓国の社会や文化について理解し、韓国語でコミュニケーションができるかを評価する。	20%
評価の方法　授業参加度30%、課題10%、筆記試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1 2 3 4	韓国語の特徴 日本語との共通点 ハングルの構成、発音	文の構成、文字について 基本母音・基本子音、 終声子音、複合母音、書き順、 発音、漢字の読み方、文字のまとめ
5 6	自己紹介、挨拶文、 基本文、疑問文	自己紹介や挨拶文、基本文「～は　～です」、 疑問文「～は　～ですか」、主語、述語
7 8 9	否定文、助詞、代名詞、 ～する動詞	否定文、日本語のこそあど言葉、助詞、代名詞、 ～する、します動詞
10 11	一般動詞や形容詞の 語尾変換	～する動詞以外の一般動詞、基本動詞の語尾変換のルール、形容詞、用言の丁寧文、語幹と語尾
12 13	ㅛ体の用法、漢数字	ㅛ体のルールや変化、体言のㅛ体、漢数字
14	時間と時刻表現 春学期のまとめ	時間や時刻に関する表現、固有数字、これまでに習った文法や語彙のまとめ、試験について
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇木内明著『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』国書刊行会、2013年

【履修条件等】

◇韓国語や韓流ジャンル（K-POP、料理、ドラマなど）に興味を持っている学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも習った文法や語彙を使い、作文に取り組むといった姿勢を評価します。

【その他の注意事項】

◇学ぶ心を持つこと。

◇授業のマナーを守ること。

◇遅刻、欠席をしないこと。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

韓国語Ⅱ	黄（ファン）　美貞（ミジョン）
Korean II	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

「韓国語Ⅰ」で学んだ文法や語彙を復習・確認しながらステップ・アップし、日常表現を中心に基礎会話や基本文法・文型・語彙を身につけることができます。「韓国語Ⅰ」の表現を応用し、やや長めの文章や会話文を駆使することができ、韓国語検定試験の５級に合格できるレベルまで進むことができます。

「韓国語Ⅱ」を通してより深く韓国語や韓国文化に触れることができるよう、韓流音楽や食文化の紹介もしていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
各回で学習した内容を理解し、スムーズに「読み」、「書き」、「話す」ことができる	授業中の質疑応答や、授業への参加態度・発言・作文・課題で評価する。	30%
基本文法を身につけ、日常で使う表現を学び、初級レベルの韓国語ができる	授業中の質疑応答や、授業への参加態度・発言・作文・課題で評価する。	30%
語彙の習得や応用力をつけるためにテキストの練習問題を学習できる	テキストのほか、毎回の授業で紹介する語彙や表現を覚え、練習問題を自ら解くことができるかを評価する。	20%
授業を通じて韓国の社会や文化についてより深く理解し、韓国語で積極的にコミュニケーションできる	韓国語を通じて、韓国の社会や文化について理解し、韓国語でコミュニケーションができるかを評価する。	20%

評価の方法　授業参加度30%、課題10%、筆記試験60%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	春学期の復習	「韓国語Ⅰ」の復習、試験の解説
2	敬語表現	尊敬形、敬語の過去形、敬語の特殊な例
3	用言の否定形	動詞や形容詞の否定文、仮定表現
4	まとめと復習	敬語表現、否定形のまとめ、応用編、復習
5	過去形(1)	用言の過去形とそのパターン
6	過去形(2)	過去形の応用パターン、過去形のまとめ
7	勧誘表現	動詞の勧誘形、位置関係の表現
8	現在進行形	用言の現在進行形、丁寧な命令表現、過去形、勧誘表
9	まとめと復習	現、現在進行形のまとめ、復習、韓国語のバースデー の歌紹介
10	可能・不可能形	「～できる、できない」といった可能・不可能を示す 表現やパターン
11	意志表示の表現	願望の意志を示す表現
12	禁止を示す表現	禁止（～しないでください）表現、許諾を尋ねる際の 表現
13	義務を示す表現	「～しなければならない」といった義務を示す表現
14	意志・推量を示す表現 秋学期のまとめ	用言の意志や推量に関する表現 これまでの学習を振り返って、まとめ、試験について
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇木内明著『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』国書刊行会、2013年

【履修条件等】

◇「韓国語Ⅰ」を履修した学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも習った文法や語彙を使い、作文に取り組むといった姿勢を評価します。

【その他の注意事項】

◇授業に対して熱意を持つこと。

◇遅刻、欠席をしないこと。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

日本語Ⅳ（留学生科目）	糸川（イトカワ）　優（ユウ）
Japanese Language IV	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

就職活動を意識して、日本の言語文化を学び、自己表現を訓練する。

他人に与える印象も含め、自分を客観的にみること、さらにそれをどのように表現するかを考える。また、その中で、分析、統合、総括、表現へと、基本的な考え方を学んでいく。

語彙表現が与えるイメージを中心に、人物評価の語彙表現、日本人の考え方・感じ方を学ぶ。また、時間内に簡潔に述べることができるようになることをも目指す。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
相手との関係で表現を考える。効果的な表現方法を学ぶ	書いたものを自分で客観的にチェックし、相手に与える効果を意識できているか、書いたものから評価する。	25%
性格等を表すための語彙・表現を学ぶ	語彙の意味・用法を知り、場に応じて使えるかどうか、小テストを実施予定。また、書いたものから評価する。	15%
分析したことをまとめ、表現する	自分の来し方を振り返り、自分を再評価、相手に伝わる表現となっているか、書いたものから評価する。	25%
就活に使える長所短所の述べ方を学ぶ	作文を暗記するのではなく、自然な話し言葉で、限られた時間の中で、必要十分な表現で口頭発表ができたかどうかを評価する。	25%

評価の方法　授業態度、参加度も評価の対象となる。
授業態度・参加度10%、客観的な表現25%、語彙表現の定着15%、的確な表現25%、口頭表現25%
出席が３分の２に満たない場合には単位は与えられない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	自己紹介	なぜ自己紹介なのか、表現するとは
2	いい自己紹介	自己紹介の目的、就活とは
3	長所短所	短所についての表現
4	自己分析	自分を客観視する
5	語彙１	性格についての表現
6	語彙２	語の価値
7	語彙３	自分を表現できる語彙
8	エピソード	自分の性格を裏付けるエピソード
9	ブレインマップづくり	長所短所とエピソード
10	アウトライン作成	内容の適否を検討、アウトライン作成
11	作文	400字程度の長所短所についての作文
12	フィードバック	書き直し
13	口頭発表の準備	アウトラインに基づいて口頭発表の準備をする
14	口頭発表	時間内での発表を目指す
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇適宜プリントを配布する。

【履修条件等】

◇出席するだけではなく、意欲を持って学習に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇あらかじめ配布されたものについては、予習をすること。

【その他の注意事項】

◇適宜小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。

◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

◇課題は必ず提出し、期限を厳守すること。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

日本語Ⅳ（留学生科目）	コバヤシ　ヒロノリ 小林　寛典
Japanese Language IV	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、「日本語Ⅱ」、「日本語Ⅲ」で身につけたビジネス場面での基礎的な日本語を使って、日本語の運用能力の向上を図るとともに、基礎の定着と発展を図る。模擬的なビジネス場面を想定し、簡易な企画立案、プレゼンテーションの課題に取り組む。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス場面における日本語表現の習得	ビジネス場面における適切な表現を選択できるか否か、またビジネス場面における語彙を理解し使用できるかどうかを評価する。	30%
文書や音声情報の処理能力の向上	文書や音声など、外部からの情報を正確に理解し、対処できること。	40%
ビジネス課題の達成	簡単な企画立案、プレゼンテーションができること。	30%
評価の方法　授業参加度30%、課題30%、本試験40% 学期の３分の１を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	授業の説明	授業と評価の説明、授業計画、発表の日本語導入
2	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展　１－①
3	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展　１－②
4	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展　１－③
5	ビジネス日本語演習	演習１－①
6	ビジネス日本語演習	演習１－②
7	ビジネス日本語演習	演習１－③
8	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展　２－①
9	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展　２－②
10	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展　２－③
11	ビジネス日本語演習	演習２－①
12	ビジネス日本語演習	演習２－②
13	ビジネス日本語演習	演習２－③
14	ビジネス日本語演習	予備日
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇使用せず。必要に応じて資料を配布する。

【履修条件等】

◇欠席せず、意欲を持って学習に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数や既習レベルなどを勘案して変更することがある。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

日本語Ⅳ（留学生科目）	塩谷（シオタニ）　由美子（ユミコ）
Japanese Language IV	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

卒業後の日本での就職、あるいは日本企業に関連した職場での仕事を想定して、ビジネス日本語の表現および日本のビジネスマナーやビジネス習慣を学ぶことを目的にした授業である。視聴覚教材を使用してビジネス場面特有の語彙・表現を学習しながら、ビジネスマナーや習慣についても悪い例・良い例を視覚的に見て具体的に学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
敬語の形式を習得し、場面ごとの適切な待遇表現が使えるようにする	授業中の小テストで評価する。	15%
日本のビジネスマナー・ビジネス習慣を学び、適切なビジネス日本語表現ができるようにする	提出された課題の完成度と本試験によって習熟度を評価する。	課題15% 本試験のうち 70%
日本のビジネスマナー・ビジネス習慣を学び、場面に合わせた適切な行動をとれるようにする	本試験によって習熟度を評価する。	本試験のうち 30%

評価の方法　受講態度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%
学期の３分の１を越えて欠席した場合は、単位を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	授業の説明	授業と評価の説明、授業計画
2	日本の就職活動①	日本の大学生の就職活動の具体的例（前半）
3	日本の就職活動②	日本の大学生の就職活動の具体的例（後半）
4	ビジネスマナーの基本	ビジネス習慣などの基本マナー
5	敬語①	敬語の種類と形
6	敬語②	場面ごとの待遇表現
7	ビジネス文書①	種類、文体、書式の基本
8	ビジネス文書②	いろいろなビジネス文書の形式
9	電話の受け方①	電話応対の基本と表現
10	電話の受け方②	電話取り次ぎ、伝言の方法
11	電話のかけ方	電話をかけるときの基本的表現とマナー
12	訪問のマナー	受付、名刺交換などのマナーと表現
13	応接のマナー	応接の習慣と表現
14	日本のビジネススタイル	ビジネス習慣の違い
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇必要に応じて資料を配付する。

◇参考図書：株式会社日本映像教育社編著（2004）『オフィスで使える！マナーもに身につく！ビジネス日本語　テキスト①内定者編』株式会社日本映像教育社
株式会社日本映像教育社編著（2004）『オフィスで使える！マナーもに身につく！ビジネス日本語　テキスト②新入社員編』
株式会社日本映像教育社

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題として基本会話表現を想定して会話シートを完成してくること。

【その他の注意事項】

◇上記の授業計画は受講人数、大学内行事日程などを勘案して変更することがある。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

社会学Ⅰ BPE-A	新嶋（ニイジマ） 良恵（ヨシエ）
Sociology Ⅰ	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

「社会学Ⅰ BPE-A」または「社会学Ⅰ BPE-B」どちらか１つに登録してください（２つ登録することはできません)。

みなさんは日常生活を送る中でたくさんの不思議や困難に出会うと思います。そうした思いは、多くの場合「私」の在り方を規定しようとする力との出会いから生まれています。この授業ではそうした、「私」の在り方を決めつけてくる「他者」や「常識」など、「当たり前」を押し付けてくる力について考えていきます。同時に、「私」という個人から出発して「社会」について考える研究アプローチについて学び、他者との関わり合いの中で立ち現れる社会について、多層的な視点から捉える素養を養うことを目標とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
平常点	授業での意欲的な取り組みや理解しようとする姿勢を考慮します。	20%
レポート	授業の内容に関する映像を観て、レポートを作成してもらう。提出は学期末。	60%
その他	授業の内容についての小試験を学期中に行う（予定では２回)。	20%
評価の方法　授業内での態度、小試験、最終レポートの複合的な結果を勘案します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	「私」の形成
2	個人と社会	「常識」とは？
3	準拠集団	どこに属するのかという問題
4	相互作用(1)	パフォーマンスする「私」
5	相互作用(2)	役割を期待されること
6	相互作用(3)	他者から学ぶ
7	階級(1)	スクールカーストから考えてみよう
8	階級(2)	ここまでのまとめ
9	境界線(1)	私／他を分断する力とは
10	境界線(2)	人種・民族・エスニシティ
11	境界線(3)	定義づけることの力
12	アイデンティティ	「私」と「社会」の関係
13	マス・コミュニケーション	マス・コミュニケーションの力
14	社会学的方法	社会学の方法論について
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇必要な資料については教員が適宜準備して配布する。

◇藤田弘夫、西原和久(著)『権力から読み解く現代人の社会学入門』有斐閣アルマ
教科書として指定はしませんが、参考にすると理解に役立つでしょう。

【履修条件等】

◇「社会学Ⅰ BPE-A」または「社会学Ⅰ BPE-B」どちらか１つに登録してください（２つ登録することはできません)。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指定されたキーワードについて、教科書を使って調べておくこと。キーワードは毎回の授業で発表する。

【その他の注意事項】

◇授業内での態度、理解しようとする取り組みは、成績に反映するものと考えてください。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

社会学Ⅰ BPE-B	新嶋（ニイジマ） 良恵（ヨシエ）
Sociology Ⅰ	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

「社会学Ⅰ BPE-A」または「社会学Ⅰ BPE-B」どちらか１つに登録してください（２つ登録することはできません)。

国や地域の境界を越え、世界中に情報の網が広がる現代では、人びとはどのようなつながりを持ち、社会を形成しているのだろう。人びとの関係や結びつきを支えているのが、情報の伝達や交換、そして人や物の移動である。そのため、情報化の歴史を知ることは、主として生活についての理解や、人と社会の関係について知ることでもある。この授業では、特に＜メディア＞を中心概念として、解説していく。目標としては、私たちが普段何気なく暮らしている情報化された社会そのものについて再定義し、今後の情報化の展開についても主体的に考えることが出来る素養を身につけることを掲げている

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
平常点	授業での意欲的な取り組みや理解しようとする姿勢を考慮します。	20%
レポート	授業の内容に関する映像を観て、レポートを作成してもらう。提出は学期末。	60%
その他	授業の内容についての小試験を学期中に行う（予定では２回)。	20%
評価の方法　授業内での態度、小試験、最終レポートの複合的な結果を勘案します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	「情報化社会」とは
2	情報と社会	相互依存ネットワークとしての社会
3	マス・メディア以前	メディアは何をもたらしたか
4	新聞の普及	社会と新聞メディア
5	映画・ラジオの登場(1)	受動的大衆　弾丸効果
6	映画・ラジオの登場(2)	プロパガンダ
7	テレビの登場	限定効果モデル
8	ソフトな文化権力としてのテレビ	強力効果モデル
9	メディアと国民意識	マス・メディアと国家
10	劇場社会の登場	劇場としてのメディア
11	民主主義の崩壊(1)	二分化する社会
12	民主主義の崩壊(2)	フェイクニュース
13	Ｗｅｂ社会(1)	メディア利用の問題点
14	Ｗｅｂ社会(2)	可能性
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇必要な資料については教員が適宜準備して配布する。

◇津田正太郎著『メディアは社会を変えるのか―メディア社会論入門』世界思想社
教科書として指定はしませんが、参考にすると理解に役立つでしょう。

【履修条件等】

◇「社会学Ⅰ BPE-A」または「社会学Ⅰ BPE-B」どちらか１つに登録してください（２つ登録することはできません)。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指定されたキーワードについて、教科書を使って調べておくこと。キーワードは毎回の授業で発表する。

【その他の注意事項】

◇授業内での態度、理解しようとする取り組みは、成績に反映するものと考えてください。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

社会学Ⅱ	新嶋（ニイジマ）　良恵（ヨシエ）
Sociology II	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、社会のありようが個人にどのようにかかわっているのかという問いを軸に、社会の自由と拘束性について考察していく。とくに、資本主義社会についての先行する研究について学ぶ。半期の授業を通して、社会学の基礎的な概念に触れ、それらが身近な問題とどう結びついているかについて考えてみよう。こうした試みを通して、現代社会の問題についてさまざまな視点から捉えようとする社会学的思考の育成を目指す。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
平常点	授業での意欲的な取り組みや理解しようとする姿勢を考慮します。	20%
レポート	授業の内容に関する映像を観て、レポートを作成してもらう。提出は学期末。	60%
その他	授業の内容についての小試験を学期中に行う。（予定では２回)。	20%
評価の方法　授業内での態度、小試験、最終レポートの複合的な結果を勘案します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	「社会」が「私」を決定する？
2	個人とシステム	個人的アイデンティティと集団的アイデンティティ
3	共同体(1)	家族
4	共同体(2)	コミュニティ
5	共同体(3)	大衆社会
6	共同体(4)	国家
7	経済(1)	資本主義と疎外 マルクス
8	経済(2)	資本主義と合理化　ヴェーバー
9	経済(3)	経済構造と人
10	グローバル化(1)	合理化と全体主義
11	グローバル化(2)	グローバル資本主義　流動化する社会
12	現代社会の問題(1)	格差社会と自己責任
13	現代社会の問題(2)	ヘイトスピーチ
14	現代社会の問題(3)	テロリズムと西欧社会
15	総括・達成度の確認	総括およびテストを実施する

【使用教材】

◇藤田弘夫、西原和久（著）『権力から読み解く現代人の社会学入門』有斐閣アルマ
教科書として指定はしませんので必ず購入する必要はありません。
社会学にとくに興味のある方は持っているといいかと思います。

◇その他必要な資料については教員が適宜準備して配布する。

【履修条件等】

◇「社会学Ｉ」を受講した上で受けることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指定されたキーワードについて、教科書を使って調べておくこと。キーワードは毎回の授業で発表する。

【その他の注意事項】

◇授業内での態度、理解しようとする取り組みは、成績に反映するものと考えてください。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

法学Ⅰ（憲法含む）	長岐（ナガキ） 郁也（イクヤ）
Law Ⅰ	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

初めて法律学を学ぶ学生諸君に法律学に対する興味や関心を持ってもらい、基本的な法原則・法概念、そして法の適用（解釈）などを習得してもらうことが本講義の目的である。

法律学は、初めて勉強する人にとっては取っ付きにくい学問であり、勉強の最初の段階で違和感や苦手意識を感じてしまう人も多い。

そこで本講義では、いくつかの身近で具体的な事例を出発点として法の基礎知識を学ぶとともに、法の解釈とはどのようなものかを学生諸君と考えていくこととしたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
法律学に対する興味・関心を持つこと	身近な事例を用いることで、まずは自身の感覚や勘を頼りに考えてもらいながら、徐々に法的思考に基づいた見方ができるかを講義中の発言に基づいて評価する。	20%
憲法を中心とした法体系を理解すること	定期試験において法の成立、公布、施行の一連の流れを踏まえて上で、法の役割を問うことで評価する。	20%
法に与えられている役割を理解すること	定期試験においてそれぞれの法律の分野に関する問題を設け、理解の程度を評価する	20%
日常において発生する法律が関わる問題に対して自らの考えを述べることができること	定期試験において、日常のニュースなどで多くの事件を知ることができるが、それらに対して法律の視点からどのように捉えることができるか、また通常の視点とはどのような差異が生じるのかを認識することができているかを評価する。	40%

評価の方法　講義内でのディスカッション等の発言と定期試験の結果をもって総合的に評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	
2	法学	近代社会における法の意義
3	法学	国家による法の規制
4	憲法	憲法の役割と意義、帝国憲法と憲法
5	憲法	基本的人権（平等権、自由権）
6	憲法	基本的人権（社会権、受益権）
7	憲法	統治機構論（内閣、国会、裁判所）
8	憲法	統治機構論（内閣、国会、裁判所）
9	行政法	地方公共団体の法
10	民事法	日常生活の中の法の役割、権利と義務の関係
11	民事法	会社の組織、取引関係における法の役割
12	刑法	罪刑法定主義
13	刑法	刑罰について
14	訴訟法	裁判所の種類と役割及び裁判の手続き
15	まとめ	

【使用教材】

◇教科書は使用せず授業は進める。適宜、資料としてプリントを配布する。

なお、参考文献は以下のとおりです。

碧海純一著『法と社会（中公新書)』中央公論新社、1967年

五十嵐清著『法学入門（第３版)』悠々社、2006年

星野英一著『法学入門』有斐閣、2010年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

法学Ⅱ	長岐（ナガキ）　郁也（イクヤ）
Law II	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

日常生活を営む上では法律を意識する機会は多くないものの、多くの法律が関わるものである。とくにその中心には民法が置かれており、それに付随するさまざまな法律が存在している。本講義では、民法に定められる基本的なルールを学習するとともに、日常生活のトラブルにどのようにあてはめられ、解決が試みられるのかを学習する。時としてそのルールが修正されることもあるので、この点についても適宜触れていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日常生活における法の関わりを理解すること	ディスカッションを通じて民法を中心とした私法が日常生活にどのように関わるのかをイメージすることができること。	20%
法律の制度の趣旨を理解すること	ルールを理解するためには法律に定められる制度の立法趣旨を理解することが必要であるため、これについて試験において評価する。	30%
法律に定められるルールを事実に当てはめることができること	実際の出来事にどのような法律の制度を当てはめることができ、その結果としてどのように処理することが可能であるのかを試験において確認する。	40%
日常において発生する法律が関わる問題に対して自らの考えを述べることができること	定期試験において、日常のニュースなどで多くの事件を知ることができるが、それらに対して法律の視点からどのように捉えることができるか、また通常の視点とはどのような差異が生じるのかを認識することができているかを評価する。	10%

評価の方法　講義内でのディスカッション等の発言と定期試験の結果をもって総合的に評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業内容及び授業方針の説明
2	民法の概要	民法典についての説明
3	契約(1)	売買契約の成立、契約自由の原則
4	契約(2)	契約の分類、契約の有効性
5	契約(3)	公序良俗違反、一般条項、強行規定・任意規定
6	契約(4)	債務不履行、強制履行、解除
7	契約(5)	債務不履行、損害賠償
8	不法行為(1)	過失責任主義・無過失責任主義
9	不法行為(2)	損害賠償、立証責任
10	所有権(1)	物権・債権の峻別、物権法定主義
11	所有権(2)	所有権の取得・制限
12	所有権(3)	対抗問題、非典型担保
13	事例研究(1)	日常生活のトラブルにどのように法がかかわるのか
14	事例研究(2)	日常生活のトラブルにどのように法がかかわるのか
15	まとめ	近代市民法の原則とその修正、民法改正

【使用教材】

◇教科書は使用せず授業は進める。適宜、資料としてプリントを配布する。

◇参考文献等については、講義中に適宜案内する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

心理学	浮谷（ウキヤ）　秀一（シユウイチ）
Psychology	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

科学として発展してきた心理学が、今日まで解明してきた人間の心理と行動の特徴についてわかりやすく解説し、身近な学問として正しく理解してもらうことをねらいとしています。そのねらいの実現のために、人間の心理を理解するために必要な基礎的な領域（発達心理・整理心理・認知心理・適応心理・学習心理）を解説します。主に講義形式で授業を進め、適切な時期に、必要に応じて各種心理検査などを紹介する実習などを組み込んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
発達とその特徴について理解すること	発達に影響する要因を理解することと発達段階の特徴を理解できているか評価する。	45%
生理心理のメカニズムを理解すること	生理心理のメカニズムを理解できているかで評価する。	10%
認知心理の特徴について理解すること	認知心理に関連する人間の特徴を理解できているかで評価する。	20%
適応心理の特徴について理解すること	適応するということがどのようなことかを理解できているかで評価する。	25%
評価の方法　出席は３分の２以上が単位認定の条件。 中間試験40%、最終試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	心理学の成立ち	(1)心理学とは
2	発達心理	(1)発達とは　(2)発達の特質
3	発達心理	(3)発達段階の特徴[1]
4	発達心理	(3)発達段階の特徴[2]
5	発達心理	(3)発達段階の特徴[3]
6	生理心理	(1)神経系のはたらき
7	生理心理	(2)情動とは　(3)ＥＱとは
8	認知心理	(1)感覚器官
9	認知心理	(2)知覚の一般的特徴[1]
10	認知心理	(3)知覚の一般的特徴[2]
11	中間試験	解説を含む
12	適応心理	(1)欲求とは？　(2)欲求五階層説　(3)葛藤
13	適応心理	(4)欲求不満（フラストレーション）
14	適応心理	(5)適応機制
15	終了試験	解説を含む

【使用教材】

◇岡村一成（編）『心理学―行動の科学―』東京教学社

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次週に取り上げることを提示するので、教科書の該当箇所を読むこと。

【その他の注意事項】

◇必ず出席して積極的に学ぶこと。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

心理学	佐藤（サトウ）　恵美（エミ）
Psychology	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、科学としての心理学の基本的な理論と方法論を学びます。人の心理と行動の特徴について正しい知識を得、心理学を学問として正しく理解することが目標です。

「心理学」では、発達心理学・生理心理学・知覚心理学・認知心理学・学習心理学の５領域をおもに学習します。いずれも心理学の基礎的な領域であり、心のメカニズムの理解には欠かせないテーマです。

授業は講義形式を中心とし、適切な時期に、必要に応じて学習内容を深めるための課題などを組み合わせていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
発達心理学	生涯発達心理学の概念と理論について正しく理解し、人が心理的社会的に変化する発達プロセスについて理解する。	20%
生理心理学 (心と脳)	神経系の機能性ならびに脳の構造の概略を把握し、説明することができる。さらに、それらの知識を結びつけて、心身二元論ならびに心身相関について理解している。	15%
知覚心理学	知覚のメカニズムについて理解したうえで、社会的知覚、錯視や立体視、運動視等の原理をある程度説明できる。	20%
認知心理学 （認知と社会適応）	欲求ならびに葛藤、欲求不満の定義・理論について適切に説明でき、適応機制について正しく理解している。また、身近な現象にあてはめて説明できる。	25%
学習心理学 (学習と記憶)	行動主義に基づく学習理論について、実験的手法を踏まえて理解できる。記憶と忘却のメカニズムについて簡単な説明ができる。	20%

評価の方法　本 試 験：50%　*テキスト・資料・辞書等、一切持込不可。
レポート：30%　*章ごとに課題指示。
平 常 点：20%　*出席点・課題提出状況・授業態度を含む。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	心理学とは何か？	科学としての心理学
2	発達	(1)人の発達の特質　(2)社会性の発達
3	発達	(3)心理的社会的発達段階説
4	生理	(1)神経系の機能性　(2)脳の構造
5	生理	(3)心身相関論
6	知覚	(1)知覚のメカニズム・社会的知覚
7	知覚	(2)錯視・知覚の全体性
8	知覚	(3)運動知覚
9	認知	(1)欲求５階層説　(2)葛藤
10	認知	(3)欲求不満（フラストレーション）
11	認知	(4)適応（防衛）機制と社会的不適応状態
12	学習	(1)学習過程のメカニズムと理論
13	学習	(2)学習理論（行動主義）　(3)さまざまな学習理論
14	学習	(4)記憶と忘却のメカニズム
15	総括、達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：岡村一成（編）『心理学―行動の科学―』東京教学社

◇参考書：授業中に指示する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

【その他の注意事項】

◇レポートなどの提出物は必ず提出すること。

◇各章終了時に、講義の中でレポート課題（ＰＣで作成）を指示する。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

心理学	松田（マツダ）　美登子（ミトコ）
Psychology	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

科学として発展してきた心理学の「人間の心理と行動」の法則や原理について詳しく解説し、身近な学問として理解することを目標とします。

「心理学」では、人間の心理を理解する上で必要となる以下のような基礎的な領域を中心に授業を進めます。(1)人間の発達の仕組みと発達的変化、(2)心と脳との関係、(3)人間の視知覚の不思議、(4)欲求と適応行動、(5)学習行動と記憶のメカニズムをテーマに学習します。

授業は、主に講義を形式を中心とします。適時に、課題や心理テストを取り入れて、授業の理解を深めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
人間の発達の仕組みと発達的変化について理解する	レポートおよび試験により評価。人間の誕生から死までの一連の発達プロセスや発達段階のトピックスについて理解し設問に回答できること。	25%
心と脳との関連性を理解する	試験により評価。人間の心と行動に大きく関連する神経系や脳の構造や機能について知り得たことを回答できること。	15%
人間の視知覚の不思議について理解する	課題および試験により評価。知覚の中の視知覚を中心とする。視覚における錯覚（錯視）や人間の経験や環境が影響を及ぼす社会的知覚、運動視等について講義と課題を通じて学習した内容を説明できる。	20%
人間の欲求と適応行動について理解する	レポートおよび試験により評価。欲求と葛藤および欲求不満について正しく理解し、環境との適応について考察し答えることができる。	20%
学習行動と記憶のメカニズムについて理解する	課題および試験により評価。学習理論について学び、神経症や問題行動の理解に繋げる。記憶と忘却について課題を通じて理解し説明できる。	20%

評価の方法　①平常点：10%（リアクションペーパー・課題の提出、出席状況）
②レポートおよび宿題提出：30%
③定期試験60%（教科書・プリント類等、一切持込不可）。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	授業の目的と進め方、成績評価基準等の説明 科学としての心理学とは？
2	発達心理	(1)発達とは？　(2)発達のしくみ
3	発達心理	(3)発達段階の特徴[1]乳児期～思春期
4	発達心理	(3)発達段階の特徴[2]青年期～老年期
5	生理心理	(1)神経系のはたらき　(2)脳の構造
6	生理心理	(3)情動　(4)心身症
7	知覚心理	(1)知覚の成立 モノの見え方の不思議
8	知覚心理	(2)知覚の全体性 知覚におよぼす欲求や価値
9	知覚心理	(3)運動の知覚　動いていないのに動いて見える？
10	認知心理	(1)欲求とは？ (2)欲求５階層説 (3)葛藤と欲求不満
11	認知心理	(4)適応機制　(5)適応と不適応行動
12	学習心理	(1)学習とは？ (2)学習過程のメカニズム[1]
13	学習心理	(3)学習過程のメカニズム[2]　(4)無気力は学習される？
14	学習心理	(5)記憶と忘却
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：岡村一成（編）『心理学―行動の科学―』東京教学社

【履修条件等】

◇心理学に興味を持ち、意欲がある学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指示した重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇課題やレポートは期限内に、必ず仕上げ提出すること。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

哲学	隅田（スミダ）　浩司（コウジ）
Philosophy	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、哲学を学ぶ上で最も大切な「ものの考え方」について、徹底的に学習することを目的としています。哲学とは、じっくり考える習慣がなければその本質を理解することはできません。たとえば、たくさんの哲学者の名前や業績の概要を試験前に暗記するだけで終わってしまう哲学の授業は時間の無駄です。この授業では、皆さんが、本格的な哲学的思考を身につけるための前提となる思考力、とくに論理的な思考力を鍛えることを最優先しています。したがって、講義は、すべてディスカッション形式の対話型の授業となります。対話型という以上は、学生は、授業で常に意見を求められます。座っているだけで単位が取れると思っている人はこの授業には向いていません。しかし、この授業を履修し、しっかり議論に参加するならば、必ず、今までとは違う世界が開けるはずです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
論理の構造をつかむ	文章のつながりから、論理を見いだし、正確に文章の意味を読み取ることができるかどうかを、対話型授業の中で評価します。	20%
論証の基礎を学ぶ	自分の意見を論証することができるか、あるいは、他人の論証を構造的に理解し、その上で、その論証の問題点を指摘できるかについて、対話型授業の中で評価します。	30%
演繹法	演繹法について、その正確な運用、基本パターンを身につけることができているかどうかについて、対話型授業の中で評価します。	30%
文章構成力	論理的に一貫した論文、レポートなどを書くことができるかどうかについて、対話型授業、授業内レポートの中で評価します。	20%
評価の方法　授業中の授業態度や対話型授業への参加姿勢を70%、定期試験の成績評価30%の比率で成績評価を行います。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	導入講義を行います
2	論理とはなにか？	言葉のつなぎ方による論理の基礎を学びます
3	考えることを考える	論理的思考力の基礎を学びます
4	主張の作り方	自分の意見・主張を組み立てるやり方を学びます
5	論証について	論証とは何か、について学びます
6	論証の型１	論証パターンについて学びます
7	論証の型２	論証パターンについて学びます
8	演繹法について	演繹法について学びます
9	否定について	否定の種類を正確に理解する大切さを学びます
10	条件について	逆・裏・待遇を使いこなすことを学びます
11	推論の技術	推論の技術ついて学びます
12	仮説・検証	仮説と検証について学びます
13	論理とレトリック１	レトリック（修辞学）の基礎を学びます
14	論理とレトリック２	レトリック（修辞学）の基礎を学びます
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しません。

◇授業の教材はすべて本学の学習支援システムである CoursePower からダウンロードできます。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義の中で、適宜、予習事項を指示します。

【その他の注意事項】

◇この授業は、日本語で文章の論理を分析することになります。そのため、かなり大量の日本語の文章を読むことになります。履修する際は、この点について、注意してください。

◇対話型の授業となりますので、参加意欲が乏しい場合は履修停止になります。

◇私語は厳禁です。違反者は履修停止となります。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

文化人類学	新嶋（ニイジマ）　良恵（ヨシエ）
Cultural Anthropology	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

本授業では先行する文化人類学の研究成果を通して、世界の諸地域に暮らす人々について学ぶとともに、自文化の多様性に目を向けていく。具体的には、グローバル化の流れの中で、「文化を押しつけずに認めていくこと」や文化が交わり新たな形態へと変化していくことなど、異文化との関わりにおいて文化人類学が提起してきた問題について考察する。そうした取り組みの中で、現代的な課題に向き合う力を育んでいくことを授業の目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
平常点	授業での意欲的な取り組みや理解しようとする姿勢を考慮します。	20%
レポート	授業の内容に関する映像を観て、レポートを作成してもらう。提出は学期末。	60%
その他	授業の内容についての小試験を学期中に行う。（予定では２回）。	20%
評価の方法　授業内での態度、小試験、最終レポートの複合的な結果を勘案します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	文化人類学の意義。異なる視点から見つめてみよう。
2	フィールドワーク	どういう研究手法があるの？
3	文化的他者	生き方を学ぶ
4	文化人類学の試練	自／他という境界と制度
5	抵抗	国という境界と歴史性
6	文化相対主義	進化主義と文化相対主義
7	個別文化	個別文化としての自文化
8	文化とは何か(1)	文化とパーソナリティ
9	文化とは何か(2)	異種混淆。ハイブリッドな文化のあり方
10	関わり合いを考える(1)	隣り合う異文化
11	関わり合いを考える(2)	理解しないまま共存していくこと
12	現代的な課題(1)	個人の足場となる文化とは？
13	現代的な課題(2)	自分の中の多元性を見つける
14	多文化主義	多文化主義は上から目線の政策？
15	総括・達成度の確認	総括およびテストを実施する

【使用教材】

◇必要な資料については教員が適宜準備して配布する。

◇小田亮著『構造人類学のフィールド』世界思想ゼミナール

教科書として指定はしませんので必ず購入する必要はありません。

文化人類学に興味のある方は持っているといいかと思います。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指定されたキーワードについて、教科書を使って調べておくこと。キーワードは毎回の授業で発表する。

【その他の注意事項】

◇授業内での態度、理解しようとする取り組みは、成績に反映するものと考えてください。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

文学（現代文学）	網本（アミモト）　尚子（ナオコ）
Literature	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、日本の現代文学における何人かの重要な作家の作品を取り上げ、そこからどのような作者の思いが読み取れるかについて考える。それぞれの作者の文章の特徴や、表現の傾向を分析したり、作者の生活した土地や、交友関係、生い立ちなどが作風にどのように影響を与えているかについて考えたりしてみたい。また、お互いに、自分の好きな作家の作品を紹介し合い、各自の読書の世界を広げるような試みも行いたい。

この授業をきっかけに、読書の楽しみ方を学び、読書習慣を身につけてもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本文学の歴史	明治時代以降の日本文学の歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
芥川龍之介の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	芥川龍之介の作品の内容や、表現の特徴、芥川の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
太宰治の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	太宰治の作品の内容や、表現の特徴、太宰の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
村上春樹の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	村上春樹の作品の内容や、表現の特徴、村上の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%

評価の方法　３分の２以上出席し、感想文などの課題を提出すること。
試験80%、感想文や発表の内容、受講態度等20%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	日本文学の歴史	明治以降の日本文学の歴史について。
3	さまざまな作家の作品	重要な作家とその作品の内容・特徴について。
4	芥川龍之介の文学	芥川龍之介の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深めるとともに、芥川の生活環境や交友関係が作品に与えた影響について考える。
5	芥川龍之介の文学	
6	芥川龍之介の文学	
7	太宰治の文学	太宰治の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深めるとともに、太宰の生活環境や交友関係が作品に与えた影響について考える。
8	太宰治の文学	
9	太宰治の文学	
10	村上春樹の文学	村上春樹の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深める。また、海外で起こった村上春樹ブームや、村上の政治や社会問題に関する発言などについても考える。
11	村上春樹の文学	
12	村上春樹の文学	
13	私の薦める作家・作品	他の人に薦めたい作家や作品について、お互い紹介し合い、意見を交換する。
14	私の薦める作家・作品	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇読書が好きな人、今は苦手でも読書してみたいと思っている人など、積極的に授業に参加できる学生に履修してもらいたい。

◇日本語で書かれた文学作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前回までに勉強したことは、きちんとノート整理し、理解した上で次の授業に臨むこと。

◇高校時代の教科書や、辞書、事典などで、授業で取り上げる作家や作品の概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇わからない言葉が出てきたら、積極的に辞書を使って調べること。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

文学（源氏物語）	網本（アミモト）　尚子（ナオコ）
Literature	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

『源氏物語』に描かれている女君たちのなかでもとくに印象深い、紫の上、葵の上、六条御息所、藤壺女御、そして光源氏の母である桐壺更衣らを取り上げ、それらの女性がどのように描かれているのかに着目しながら『源氏物語』の本文を読み進めていく。

古語や文語文法の知識を深めるというよりも、私たちと同じ日本人が、1000年前にはどのように生活し、どのような物の考え方をしていたのかを知り、現代日本の根底に横たわる、日本人としての共通認識や常識について理解を深めることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
『源氏物語』の作者や物語執筆の背景などについて理解する	歴史的な人物について答えられるだけでなく、漢字で正しく書けるようにすること。設問に対する回答、試験によって評価。	20%
授業で読むテキスト本文が、現代語訳のどの箇所にあたるかを理解し、正しく読む	テキストの音読を指名された時に、正しく読めるかどうか。	20%
本文に描かれている平安時代の風俗や習慣、考え方などについて理解を深める	授業で説明を受けた語句の意味等を正しく理解できているかどうか。また、漢字で正しく書けるかどうか。設問に対する回答、試験によって評価。	40%
『源氏物語』の登場人物について	本文に登場する人物について、お互いの関係を理解し、正しく系図にまとめられるかどうか。設問に対する回答、小テスト、試験によって評価。	20%
評価の方法　３分の２以上の出席で、受講態度・小テスト等20%、試験80%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	桐壺更衣	「桐壺」の巻を中心に講読し、平安時代の後宮や平安貴族の考え方、当時の結婚観等について解説する。
3	桐壺更衣	
4	桐壺更衣	
5	藤壺女御	藤壺女御に関する記述をピックアップして読み、光源氏の生涯に藤壺が与えた影響について考察する。
6	藤壺女御	
7	葵の上	「葵」の巻を中心に講読する。とくに「車争い」前後の葵と六条の心理を読み取り、この悲劇の原因をさぐる。
8	葵の上	
9	六条御息所	車争いの後に六条御息所の身に起こった現象を考察し、平安時代の人々の思想について理解を深める。 光源氏と六条のその後を、テキストで読み味わう。
10	六条御息所	
11	六条御息所	
12	紫の上	紫の上に関する記述をピックアップして読み、紫の上を造形した作者の紫式部の意図を考察する。平安時代の結婚形態について解説し、女三の宮の悲劇が生じた原因を考察する。
13	紫の上	
14	紫の上と女三の宮	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇秋山虔他編『源氏物語読本』筑摩書房

【履修条件等】

◇日本語のテキストを音読する能力があること。
◇日本の伝統や歴史に興味があること。
◇日本の古い言葉で作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前回までに登場した人物について整理し、理解しておくこと。
◇前回までの授業で説明を受けた古語の意味を理解しておくこと。また習った漢字を読めるようにしておくこと。

【その他の注意事項】

◇テキストを持参しない場合は欠席と見なすので、必ずテキストを購入し、毎時間持参すること。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

文学（歌舞伎）	網本（アミモト）　尚子（ナオコ）
Literature	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

江戸時代から演じられ続けている日本の伝統芸能、歌舞伎を取り上げ、ビデオ教材を用いながら、歌舞伎の成立や歴史、特徴、他の古典芸能との関連、鑑賞のポイントなどについて講義する。受講者全員で古典芸能を鑑賞に出かけることなどはしないが、個人的に鑑賞の機会を持ってくれることを期待する。

これからの国際化の時代、海外に出る機会もますます増えるだろう。諸外国の人々に、日本の伝統について堂々と説明できるようになってほしい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
歌舞伎の歴史について正しい知識を身につける	歌舞伎成立以前の芸能の歴史に始まり、江戸時代から近現代にいたるまでの歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
歌舞伎の特徴について正しい知識を身につける	歌舞伎が演じられる舞台の構造、歌舞伎の登場人物に見られる特徴、衣装、大道具・小道具、セリフなど、現代演劇と違う特徴を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
歌舞伎の演目について自分の意見や感想を述べる	ビデオで鑑賞した歌舞伎の演目について、あらすじや内容、鑑賞のポイントを理解しているかどうか。自分の言葉で感想や意見を述べることができるかどうか。集中してビデオを鑑賞できたかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
歌舞伎が現代とどのようにつながっているかについて考える	歌舞伎が現代まで演じ続けられていることに対して、その理由や、現代社会に与えている影響などについて、自分の言葉で意見を述べることができるかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
評価の方法　３分の２以上出席し、感想文などの課題を提出すること。 試験80%、感想文の内容、ビデオの鑑賞態度等20%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	歌舞伎の歴史	江戸時代から現代に至る歌舞伎の歴史について。
3	歌舞伎の特徴	歌舞伎と他の演劇との違い、歌舞伎らしさとは何か、等という点から、歌舞伎の特徴を学ぶ。
4	歌舞伎の特徴	
5	歌舞伎の登場人物	歌舞伎の登場人物の種類や特徴について。
6	歌舞伎の舞台	歌舞伎の演じられる舞台の構造と特徴について。
7	時代物と荒事	歌舞伎の時代物や荒事に見られる特徴や、代表的な演目の内容、鑑賞のポイントなどについて。
8	時代物と荒事	
9	時代物と荒事	
10	世話物	歌舞伎の世話物に見られる特徴や、代表的な演目の内容、鑑賞のポイントなどについて。
11	世話物	
12	歌舞伎の音楽	歌舞伎で演奏される音楽の特徴について。
13	能・狂言と歌舞伎	能・狂言から作られた歌舞伎演目について。能・狂言の演目と歌舞伎演目との演じ方の違いについて。
14	能・狂言と歌舞伎	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

◇古典芸能や、演劇、ダンス、音楽などに、少しでも興味を持っている学生に履修してもらいたい。

◇日本の古い言葉で演じられる芸能を、字幕なしで鑑賞するので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習の必要はないが、能楽堂や劇場などで実際に能、狂言、歌舞伎を鑑賞した人は、感想文を提出すること。提出された感想文は、成績評価に含める。

【その他の注意事項】

◇ビデオ鑑賞することが多い授業なので、遅刻をすると他の受講生に迷惑をかけることになる。気をつけること。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

文学（古典文学）	網本（アミモト）　尚子（ナオコ）
Literature	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、現代に生きるわれわれにも少なからず影響を与えている代表的な古典文学作品や、古典文学の影響を受けて書かれた近現代の小説を取り上げ、あらすじを知るとともに、その一部については原文で読み味わう。さらに、そこに描かれる昔の風俗や考え方についての講義を通して、日本人としての常識を身につけ、教養を深めることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
和歌の歴史や用語について正しく理解する。和歌の現代語訳	和歌文学の歴史や用語を理解し、和歌を自分の言葉で現代語訳できるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
『今昔物語集』の特徴や説話の内容について正しく理解する	説話のあらすじや語句の意味、漢字の読み、説話のおもしろさのポイントなどについて正しく答えられるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
『平家物語』のあらすじを正しく理解する。『平家物語』をもとにした芸能の特徴について考察する	『平家物語』の主な登場人物や事件について正しく答えられるかどうか。『平家物語』と関連深い芸能である平曲や狂言などの特徴を説明できるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
江戸時代の文学作品のあらすじ、特徴を正しく理解する	江戸時代の文学の特徴や、あらすじ、登場人物について正しく答えられるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%

評価の方法　３分の２以上出席し、レポートを提出すること。
レポート30%、試験50%、感想文などの内容・受講態度20%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	言葉遊び	日本に伝わるさまざまな言葉遊びについて。
3	百人一首の恋歌	百人一首の恋歌を読み味わい、昔の人々と現代人との共通点や相違点について考察する。和歌を題材に作られた漫画や歌など、現代に与える影響について考える。
4	百人一首の恋歌	
5	百人一首の恋歌	
6	今昔物語集	『今昔物語集』の説話を読み、現代人との共通点や相違点について考察する。
7	今昔物語集	
8	今昔と芥川龍之介	『今昔物語集』所収話と、それをモチーフに書かれた芥川龍之介の小説『藪の中』を比較する。
9	今昔と芥川龍之介	
10	平家物語	『平家物語』のあらすじや人物関係を理解する。那須与一などの有名な場面をいくつか読み、さらに平家琵琶や『平家』の一場面を基にした狂言などの芸能を鑑賞する。
11	平家物語	
12	平家物語	
13	曽根崎心中	『曽根崎心中』のあらすじや人物関係を理解する。文楽の「曽根崎心中」をビデオで鑑賞する。
14	曽根崎心中	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

◇高校時代に古典を選択していなかった人も十分受講可能だが、少なくとも文学に興味関心のある人に履修してもらいたい。

◇日本の古い言葉で書かれた文学作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前回までに勉強したことは、きちんとノート整理し、理解した上で次の授業に臨むこと。

◇高校時代の教科書や、辞書、事典などで、授業で取り上げる作品の概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇レポートを一回課すが、何でもインターネットで調べて済ませようとせず、本で調べて勉強するようにしてほしい。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

文学（能・狂言）	網本（アミモト）　尚子（ナオコ）
Literature	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

600年以上前から演じられ続けている日本の伝統芸能、能・狂言を取り上げ、ビデオ教材を用いながら、能・狂言の成立や歴史、他の文学作品への影響、鑑賞のポイントなどについて講義する。受講者全員で古典芸能を鑑賞に出かけることなどはしないが、個人的に鑑賞の機会を持ってくれることを期待する。

これからの国際化の時代、海外に出る機会もますます増えるだろう。諸外国の人々に、日本の伝統について堂々と説明できるようになってほしい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
能・狂言の歴史について正しい知識を身につける	能・狂言以前の芸能の歴史に始まり、形成期、大成期、近現代にいたるまでの歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
能・狂言の特徴について正しい知識を身につける	能・狂言が演じられる能舞台の構造、能・狂言の登場人物に見られる特徴、衣装、大道具・小道具、セリフ、謡、舞など、現代演劇と違う特徴を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
能・狂言の演目について感想や意見を述べる	ビデオで鑑賞した能・狂言の演目について、あらすじや内容、鑑賞のポイントを理解しているかどうか。自分の言葉で感想や意見を述べることができるかどうか。集中してビデオを鑑賞できたかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
能・狂言が現代とどのようにつながっているかについて考える	能・狂言が現代まで演じ続けられていることに対して、その理由や、現代社会に与えている影響などについて、自分の言葉で意見を述べることができるかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%

評価の方法　３分の２以上出席し、感想文などの課題を提出すること。
試験80%、感想文の内容、ビデオの鑑賞態度等20%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	能・狂言の歴史	能・狂言誕生以前の芸能から近現代にいたるまでの能・狂言の歴史と特徴を学ぶ。
3	能・狂言の特徴	
4	狂言の登場人物	狂言の登場人物の種類や特徴について。
5	狂言の笑いの特徴	狂言の笑いの特徴と分類について。
6	狂言面や小道具	狂言面や小道具の種類や使い方について。
7	狂言の分類	狂言の曲柄による分類について。
8	能の登場人物	能の登場人物の種類や特徴について。
9	能の謡と舞	能の謡と舞の特徴と種類について。
10	能面や小道具	能面や小道具の種類や使い方について。
11	能の分類	能の曲柄による分類について。
12	能の楽器	能の楽器の種類と特徴について。
13	能・狂言と歌舞伎	能・狂言から作られた歌舞伎演目について。能・狂言の演目と歌舞伎演目との演じ方の違いについて。
14	能・狂言と歌舞伎	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考図書：網本尚子訳『角川ビギナーズクラシックス　謡曲・狂言』角川文庫
『狂言ハンドブック』三省堂
野村萬斎著・網本尚子監修『What is 狂言？』檜書店
『能って何？』新書館

【履修条件等】

◇古典芸能や、演劇、ダンス、音楽などに、少しでも興味を持っている学生に履修してもらいたい。

◇日本の古い言葉で演じられる芸能を、字幕なしで鑑賞するので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習の必要はないが、能楽堂や劇場などで実際に能、狂言、歌舞伎を鑑賞した人は、感想文を提出すること。提出された感想文は、成績評価に含める。

【その他の注意事項】

◇ビデオ鑑賞することが多い授業なので、遅刻をすると他の受講生に迷惑をかけることになる。気をつけること。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

文章表現法（基礎）	網本（アミモト）　尚子（ナオコ）
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、「読む」、「書く」に関するさまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、読みやすく、正しい文章の書き方を練習したり、新聞に出てくるレベルの漢字を練習したり、敬語の使い方を実践練習したりといった、基礎的な内容の学習を行う。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
練習問題を解くことによって、正しい文章の書き方を学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せること。小テスト・宿題・試験で評価。	25%
日本語についての基礎知識を身につける	授業時間に、漢字や、語の正しい意味、語句の正しい用法などの練習問題に答えること。その答え方・小テスト・試験で評価。	25%
正しい敬語の使い方を覚える	尊敬語・謙譲語の正しい使い方を身につけること。生活のさまざまな場面で、正しい敬語を使いこなせるようになること。小テストと試験で評価。	25%
手紙の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式の手紙が書けること。提出した手紙で評価。	25%
評価の方法　３分の２以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験50%、課題提出や小テストの点数30%、受講態度20%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	正しい文章の書き方	書き言葉と話し言葉の違い、正しい文体の選び方、助詞の使い方、語句の対応のさせ方、明確な修飾語の書き方、正しい読点の打ち方など、文章を書く上での基本事項を、練習問題に取り組むことで学ぶ。
3	正しい文章の書き方	
4	正しい文章の書き方	
5	正しい文章の書き方	
6	日本語の知識	難読漢字、四字熟語、慣用句、ことわざなどの基本的な日本語の知識を、練習問題に取り組むことで学ぶ。
7	日本語の知識	
8	日本語の知識	
9	敬語の使い方	敬語の種類や使い方の基本的な知識を、練習問題に取り組むことで学ぶ。さらに、具体的な日常の場面における敬語の使い方の実践的練習を行う。
10	敬語の使い方	
11	敬語の使い方	
12	敬語の使い方	
13	手紙の書き方	手紙の基本的な形式や、ルールについて学び、礼状や近況報告の手紙などを実際に書く。
14	手紙の書き方	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。

◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の３分の２に満たない者は受験停止とする。

◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

文章表現法（実践）	網本（アミモト）　尚子（ナオコ）
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、主に「書く」ことに重点を置き、さまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、読みやすく、正しい文章の書き方を練習問題を通して身につけ、その知識、技術を踏まえて、描写文、エッセイ、小論文、レポートなどを書いていく。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
読みやすい文章の書き方を身につける	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力しているかどうか。また、小テストや宿題の問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せるかどうか。小テスト、提出課題の内容、試験で評価する。	25%
明確な文章が書けるようになる	何を述べたいのかが、読者に明確に伝わるように文章が書けたかどうか。提出された課題の内容で評価する。	30%
それぞれの文章の特徴を踏まえた、適切な文章が書けるようになる	レポート、小論文、エッセイなどが、それぞれどのような目的で書かれる文章なのかが正しく理解できているかどうか。形式に適った文章が書けたかどうか。提出された課題の内容、試験で評価する。	30%
誤字脱字のない、正確で読みやすい文章が書けるようになる	下書き、推敲の手順を踏まえて課題を書いているかどうか。誤字脱字に気をつけて書けたかどうか。提出された課題の内容で評価する。	15%
評価の方法　３分の２以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験30%、レポート・手紙などの課題の評価50%、受講態度20%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	文章の書き方	練習問題に取り組み、文法的に正しく、読みやすく、明確な文章の書き方について学ぶ。
3	文章の書き方	
4	自己紹介文	読者に強くアピールできるような自己紹介文を書く。
5	メールの書き方	失礼のないメールの書き方を学ぶ。
6	さまざまな文章	エッセイや描写文など、さまざまな文章課題に取り組んで、文章力を磨く。
7	さまざまな文章	
8	小論文	小論文の基本的な構成や、書き方について学び、課題文型小論文とテーマ型小論文を書く。
9	小論文	
10	小論文	
11	レポート	レポートとは何かを正しく認識し、その基本的な形を身につけ、論理的な文章の書き方、用語について知識を深める。 与えられた課題について、自分で資料をさがし、実際にレポートを書く。
12	レポート	
13	レポート	
14	レポート	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇いわゆる留学生向けの日本語の授業ではなく、日本語を十分に習得できている人向けの応用的な内容であるので、とくに留学生は、自分の日本語能力を考慮した上で受講してほしい。日本語の応用力が不足している留学生には、「文章表現法（基礎）」の履修をすすめる。また、提出課題の多い授業なので、日本人学生の場合も、国語力に自信のない人は、よく考えてから受講してほしい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。
指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の３分の２に満たない者は受験停止とする。

◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

文章表現法（総合）	網本（アミモト）　尚子（ナオコ）
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、ひとりひとりが「読む」、「書く」に関するさまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、練習問題を解いて添削指導を受けたり、与えられた課題について実際に自分で調査し、考えをまとめて短いレポートを作成したり、現実の場面に即した敬語の使い方を実践練習したり、といった学習を行う。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
練習問題を解くことによって、正しい文章の書き方を学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せること。	10%
日本語についての基礎知識を身につける	授業時間に、漢字や、語の正しい意味、語句の正しい用法などの練習問題に答えること。その答え方と試験で評価。	10%
レポート・小論文の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式のレポートが書けること。レポートと試験で評価。	30%
正しい敬語の使い方を覚える	尊敬語・謙譲語の正しい使い方を身につけること。生活のさまざまな場面で、正しい敬語を使いこなせるようになること。試験で評価。	30%
手紙の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式の手紙が書けること。提出した手紙と試験で評価。	20%

評価の方法　３分の２以上出席し、宿題をすべて提出すること。
試験50%、レポート・手紙などの課題の評価30%、受講態度20%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	正しい文章の書き方	練習問題に取り組み、文法的に正しく、読みやすく、明確な文章の書き方について学ぶ。
3	正しい文章の書き方	
4	正しい文章の書き方	
5	日本語の基礎知識	難読漢字、四字熟語、慣用句、ことわざなどの練習問題に取り組む。
6	日本語の基礎知識	
7	レポートの書き方	レポートとは何かを正しく認識し、基本的な形を身につけ、論理的な文章の書き方、用語について知識を深める。 与えられた資料に基づいて、実際にレポートを書く。
8	レポートの書き方	
9	レポートの書き方	
10	レポートの書き方	
11	敬語の使い方	敬語の種類や使い方について、練習問題を用いて学び、身につける。
12	敬語の使い方	
13	手紙の書き方	手紙の基本的な形式や、ルールについて学び、礼状や近況報告の手紙などを実際に書く。
14	手紙の書き方	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇いわゆる留学生向けの日本語の授業ではなく、日本語を十分に習得できている人向けの応用的な内容であるので、留学生の受講希望者は、自分の日本語能力を考慮した上で受講してほしい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。

◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の３分の２に満たない者は受験停止とする。

◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

文章表現法（漢検）	網本（アミモト）　尚子（ナオコ）
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。そのためには、日常的に使う漢字に関する知識は絶対に必要なものと考えられる。本講義では、漢字検定２級の問題に取り組むことにより、大学生にとって必要な漢字の知識を身につけ、それを使いこなせるようになることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
準２級、２級に配当された漢字の読みを覚える	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	30%
出題予想漢字を分野別に学び、正しい知識を身につける	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	30%
特殊な読みや当て字など、難読漢字について学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	20%
模擬試験に取り組み、出題形式に慣れる	間違えた問題は何度も繰り返し復習し、知識が定着するよう努力すること。試験で評価。	20%

評価の方法　３分の２以上出席し、宿題をすべて提出すること。
試験70%、小テストの点数、受講態度30%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	漢字の読み	漢字の音読みを中心に練習問題に取り組む。
3	漢字の読み	漢字の訓読みを中心に練習問題に取り組む。
4	漢字の部首	練習問題を解くことで、主な漢字の部首を覚える。
5	熟語の構成	熟語の構成のしかたを理解する。
6	熟語の構成	与えられた漢字を用いて、熟語を作れるようになる。
7	対義語・類義語	対義語、類義語の関係を理解する。
8	四字熟語	四字熟語の組み立てを理解する。
9	四字熟語	練習問題を解くことで、主な四字熟語を覚える。
10	送り仮名	送り仮名のルールを理解する。
11	同音同訓異字	練習問題を解くことで、同音同訓異字を覚える。
12	書き取り	正確に漢字が書けるようになる。
13	書き取り	誤字訂正ができるようになる。
14	模擬試験	本番の形式で模擬問題を解き、自分の弱点を理解する。
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇留学生向けの日本語の授業ではなく、日本人向けの「日本漢字能力検定（漢検)」２級合格を目指す授業なので、留学生にはかなり難しい内容である。自分の日本語能力を考慮した上で受講してほしい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。

◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の３分の２に満たない者は受験停止とする。

◇授業に出席するだけでなく、実際に漢字を覚えることが勉強である。練習問題や宿題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

生命科学	古田（フルタ）　玲子（レイコ）
Life Science	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

ヒトと他の生物との共通点と相違点、がん、若者に蔓延している Sexually Transmitted Infection （ＳＴＩ：性感染症)、人畜共通感染症、有害物質、生物毒、臓器移植、生殖医療および生物の多様性について学び、生命現象を理解し、健康を維持するために必要な知識を養うことを目的としています。最先端の研究成果や最近の話題を取り入れながら判りやすく解説していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
生物学的および医学的な基礎知識を学ぶ	本試験で評価する。人間と他の生物の共通点と相違点、人体の臓器と機能、細胞についての設問に答えられること。	30%
病気の原因、予防について基礎的な知識を学ぶ	本試験で評価する。がん、ＳＴＩ、人畜共通感染症、有害物質、有害生物について理解していること。実現可能な予防策についての知識が習得できていること。	40%
生命科学全般について理解を深め生命倫理、生物多様性についての意義を考える	本試験で評価する。生命科学に関する資料を読み、正確に理解し、意見が述べられるか。生命科学について、基礎的な知識を習得した上で、臓器移植、生殖医療および生物の多様性について、考えることができていること。	10%
生命科学に関する資料を正確に理解した上で、自分の意見を述べることができる	レポートで評価する。生命科学に関する興味のあるテーマについて、レポートにまとめる。正確に理解し、まとめることができていること。	20%
評価の方法　70%以上の出席を前提とし、本試験80%とレポート20%で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業内容の説明およびレポートの作成方法について学ぶ
2	人体の構造と機能	臓器、組織、細胞、遺伝子について学ぶ
3	ヒトと他生物の共通点と相違点	ヒトとイヌ、マウスなどの哺乳類、鳥類、爬虫類、魚類、両生類などの他の生物との共通点と相違点について学ぶ
4	腫瘍についての基礎的知識	腫瘍の発生と遺伝子異常、良性腫瘍と悪性腫瘍（がん）のちがい、原因と予防および検査法について学ぶ
5	早期がんと進行がん	がんの進行度と治療法、予後について学ぶ
6	各臓器のがんⅠ	肺がんについて学ぶ
7	各臓器のがんⅡ	胃がん、大腸がんなどの消化器がんについて学ぶ
8	各臓器のがんⅢ	乳がん、子宮がん（子宮頸がん、子宮体がん）について学ぶ
9	各臓器のがんⅣ	皮膚がんなど、その他のがんについて学ぶ
10	ＳＴＩについてⅠ	エイズについて学ぶ
11	ＳＴＩについてⅡ	ヒトパピローマウイルス（ＨＰＶ）感染症、梅毒、クラミジア感染症など、ＳＴＩの原因、症状、予防および治療について学ぶ
12	ＳＴＩについてⅢ	ＳＴＩについて重要なポイントを確認する
13	有害物質と生物毒	タバコ、麻薬、アスベストなどの有害物質と毒のある生物について学ぶ
14	人畜共通感染症・動物が媒介する感染症	ＢＳＥ、狂犬病、インフルエンザ、デング熱、エキノコックスなどの人畜共通感染症や動物が媒介する感染症について学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考資料と用語集を配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇生命科学に関することで話題になっていることの情報収集。

【その他の注意事項】

◇授業に集中し、疑問点は積極的に質問してください。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

国際関係論	八川（ヤガワ） 敏昭（トシアキ）
International Relations	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

国際関係論は国際社会において生起するさまざまな事象についての分析をおこなう研究領域である。政治、経済、文化などさまざまな分野でグローバル化が進行し、これらの国際問題に対するわが国の基本姿勢が問われる局面が増大している。こうした現状をふまえ、この講義では、日本をとりまくさまざまな国際関係について、その経緯、現状、課題などを明らかにし、国際社会におけるわが国のありかたを考察するために必要な基礎知識を習得することを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
国際関係全般に関心をもち、理解するようになる	設問に対する回答によって評価。 国際関係全般について、授業で教えたことに回答できること。	25%
経済の国際関係に関心をもち、理解するようになる	設問に対する回答によって評価。 経済の国際関係について、授業で教えたことに回答できること。	25%
政治・文化などの国際関係に関心をもち、理解するようになる	設問に対する回答によって評価。 政治・文化などの国際関係について、授業で教えたことに回答できること。	25%
国際関係の課題について考えるようになる	設問に対する回答によって評価。 国際関係の課題について、客観的な視点で回答できること。	25%

評価の方法　全授業時間の３分の２以上の出席を前提とするが、出席状況・受講態度を勘案し、筆記試験にもとづいて「総合的に」評価するので、成績評価における出席状況・受講態度・筆記試験に対する配分を明示しがたいが、とくに、私語や途中退席の有無などの受講態度を重視するので、受講態度が悪い場合には、それを評価基準に100%反映させ、不合格とする。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	国際関係論の予備知識Ⅰ	第二次世界大戦後の国際関係の変化
2	国際関係論の予備知識Ⅱ	現在の国際関係の概要
3	グローバル化の進展	グローバル化の概要と進展状況
4	貿易	貿易をめぐる国際関係
5	投資	投資をめぐる国際関係
6	通貨	通貨をめぐる国際関係
7	人口	世界の人口問題とそのゆくえ
8	食料	食料をめぐる国際関係
9	エネルギー・資源	エネルギー・資源をめぐる国際関係
10	公害・環境	世界の公害・環境問題とそのゆくえ
11	南北問題	世界の経済格差とそのゆくえ
12	軍事	軍事をめぐる国際関係
13	日本の選択	複雑な国際関係における日本のゆくえ
14	まとめ	国際関係をめぐる世界の課題
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：西川潤『新・世界経済入門』岩波新書

【履修条件等】

◇私語をしないこと。教科書を持参すること（このふたつの条件は絶対に守ること）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の該当箇所に目をとおしておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

異文化コミュニケーション	清水（シミズ）　俊樹（トシキ） 藤本（フジモト）　学（マナブ）
Cross-Cultural Communication	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義では、文化・宗教・食習慣・金融ルールなどが異なる市場のなかで、昨今注目されているハラール／イスラム市場を中心とした市場の理解を深め、ビジネスを行う上で重要とされる「事業開発ノウハウ」の習得を目的とします。

年々人口が増加しているムスリム人口は、無視できない存在になっています。国内の市場が衰退するなか、今後はハラール／イスラム市場が魅力的な市場となってきています。

本講義では、世界における最新の（とくにハラール／イスラム）市場環境を包括的に取り上げ、事業開発のエッセンスを学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)ハラール／イスラム市場に関する理解	本講義を通して得られるハラール／イスラム市場に関する多岐に渡る動向を充分に理解ができているか？ 評価方法は、各講義で提出するペーパー、期末試験での評価を前提とする。	35%
2)同市場における事業アイディアの創造・独自性とその倫理的な整理	ハラール／イスラム市場における事業アイディアとその実現性や事業性を充分に整理、説明できているか？ 評価方法は、各講義で提出するペーパー、期末試験での評価を前提とする（履修人数によってはグループワークの結果も反映される）。	35%
3)講義全体の理解と論理的な思考力	本講義を通して得られる情報を論理的に紐付けてアウトプットできるか？ 評価方法は期末の試験を中心に行います。	30%

評価の方法　この授業では、期末試験、各講義での授業への貢献、グループワークによる採点で評価します。単に、調べれば得ることのできる情報を求めるわけではなく､各講義で講師から提供される情報などを自分の頭で考え整理し、得られた各情報を有機的につなげる力が求められます。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	導入講義	本講義の全体構成と目的等の説明
2	事業開発のステップ	事業開発の概論に関する講義
3	世界の市場環境の把握	世界市場の現状及び今後の見通しに関する講義
4	ムスリム市場の把握	ハラール／ムスリム市場の現状と今後の見通しの説明
5	イスラム教の理解	イスラム教の概念的な整理
6	前半の講義の振り返り	ここまでの講義を総括し、学生の理解力を把握
7	事例の紹介(1)	アウトバウンドに関連する先行企業の成功・失敗事例の紹介
8	事例の紹介(2)	インバウンドに関連する先行企業の成功・失敗事例の紹介
9	イスラム金融	イスラム金融の仕組みとイスラムビジネスのリスクの整理
10	事業考察の構成要件	グループワークのために必要なフレームワークの整理
11	グループワーク(1)	ハラール／ムスリム市場参入の事業アイディアの立案
12	グループワーク(2)	事業アイディアの発表、フィードバック
13	事業アイディアの事例	最新の取り組みに関する紹介
14	全体の総括	講義全体を通した総括、質疑応答など
15	期末試験	学習達成度の確認を目的とした期末試験の実施

【使用教材】

◇教科書：とくにありません。毎講義、必要な資料は準備されています。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本講義では、多角的な視点が求められ、講義を通して紹介される参考文献などは時間を見つけて事前に学習してください。また、インターネットなどでもさまざまな事例が紹介されていますので、各講義の中で触れられた内容などに関しては各自で興味を持って調べるなりすることをお勧めします。

【その他の注意事項】

◇本講義では、答えがない分野における考察、検討を重要視します。そのために必要な情報などは講義を通して得られますが、講義で得られた情報を元にしたアイディア、その妥当性などの検討は自分の頭で考えることが求められます。講義で得られた情報を記憶することしか行いたくない学生は、この講義には向かないと考えられます。
一方で、さまざまな文化、宗教、歴史、価値観などに興味を持ち、自らの経験などを踏まえたアイディアを考えることが好きな学生にとっては、ハラール／イスラム市場における最先端の情報が得られると考えられ、履修をお勧めします。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経営数学	松本（マツモト）　勇樹（ユウキ）
Industrial Mathematics	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

人間が生きていくうえではあらゆる局面で意思決定をしなければならない。経験やカンのみに頼って意思決定を行うと誤った意思決定を行う場合が多い。そこで客観的に測定された数値を用いることによって正しい意思決定を行うことができるようになる。本講義ではビジネスで使用する数字や統計の感覚を養うことを持徳的とする。概算や四捨五入などの基本から初めて、割合や変化の仕組みを学ぶ。その後、記述統計学と多変量解析の中から、身近なデータを使用して、統計の考え方について理解する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
数字の感覚を養う	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して正しい計算ができるかを評価する。	30%
データを整理する	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して決められた基準に従って、データを正しく分類することができるかを評価する。	20%
統計計算を行う	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して、正しい計算を行い、その結果からどのようなことが分かるかを評価する。	50%
評価の方法　50%以上の出席を前提として、授業内課題15%、小テスト15%、期末試験70%の合計点で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	本講義のテーマ、目的・概要、講義方針等を確認する 併せて、シラバスに基づく具体的な講義内容を説明する
2	概算と電卓の操作方法	電卓の操作方法を確認するとともに、データを概算で扱う感覚を養う
3	比率	数値を比較するための手法として比率の考え方を習得する
4	変化(1)	指数と倍率について理解する
5	変化(2)	変化率について理解する
6	度数分布	収集したデータを分類し、度数分布表とヒストグラムを作成する
7	代表値	平均とメディアンについて理解する
8	散らばりの代表値(1)	偏差の概念から、標準偏差について理解する
9	小テスト(1)	標準偏差の演習を行い、小テストを実施する
10	標準化・変動係数	平均・標準偏差が異なる２つの分布に属するデータを比較する
11	散布図	２つの変数にどのような関係があるのか散布図を用いて把握する
12	相関係数	２つの変数の関係を１つの数値で表す
13	小テスト(2)	相関係数の復習を行い、小テストを実施する
14	正規分布	代表的な分布である正規分布の性質とその利用法について学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇配布資料を使用する。

【履修条件等】

◇継続して受講しないと理解度は高まらないので、休まず出席すること。

√機能がついている12桁以上の電卓を必ず持参すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配布資料に記載されている問題を必ず解くこと。

【その他の注意事項】

◇繰り返し解説を行うので、数学や計算に対しての過度な恐怖心や思い込みをしないで講義に参加してほしい。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

コンピュータリテラシー	萩野（ハギノ） 弘道（ヒロミチ）
Computer Literacy	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

高度情報化社会に対応し、また、本学においてさまざまな科目を学習していくための基礎としてコンピュータを理解し、操作する基礎的なスキルの習得を目指します。そのために、パソコン（Windows）の基本的な操作とその運用に関して必要な知識を学習した後、ワープロソフト（Microsoft Word）を利用した日本語文書の作成、表計算ソフト（Microsoft Excel）を利用した基本的な表計算処理やグラフの作成、プレゼンテーションソフト（Microsoft PowerPoint）を利用した発表用資料の作成などについて実践的な実習をおこないます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンピュータを活用するために必要な基礎知識を理解していること	実習中の習熟度によって評価。ＯＳの扱い方やファイルやフォルダの管理等が適切におこなえること。 ブラウザや検索エンジンを使って、効率良く適切な情報を呼び出すことができること。	10%
ワープロソフトでビジネス文書やチラシを作成するためのスキルを身につけていること	実技試験によって評価。文字入力は当然のこととして、Microsoft Word の操作や設定作業を自分の思うままに操れること。表や画像を利用して効果的な文書をレイアウトすることができること。	30%
表計算ソフトの基本を理解し、関数を活用したデータ処理やグラフの作成ができること	実技試験によって評価。Microsoft Excel を操作してワークシートの編集をおこない、関数の利用や罫線を用いた作表ができること。データを効果的に表現するグラフを作成できること。	30%
プレゼンテーションソフトを使って効果的なプレゼン資料が作成できること	実習中の習熟度によって評価。プレゼンテーション用の発表資料を Microsoft PowerPoint を操作して、画像やアニメーションを効果的に導入して作成することができること。	10%
評価の方法　３分の２以上の出席を前提として、試験80%、授業参加度20% （授業参加度は授業中におこなう提出課題の評価も含む）。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方、学内ＰＣの利用方法、タイピング実習
2	コンピュータの基本操作	Windows の基礎、インターネットの使い方と活用方法
3	Word の操作実習(1)	文字の入力方法、ファイル操作、ページ設定
4	Word の操作実習(2)	書式設定、編集、文字の装飾
5	Word の操作実習(3)	表（罫線）を活用した文書の作成
6	Word の操作実習(4)	画像等を活用した文書のアレンジ
7	Word の総合実習	ビジネス文書を使った Word の総合練習
8	Excel の操作実習(1)	データ入力、基本的なワークシート編集、関数の基本
9	Excel の操作実習(2)	罫線、グラフの作成
10	Excel の操作実習(3)	関数１（IF、RANK 等）、ソート
11	Excel の操作実習(4)	関数２（VLOOKUP、COUNTIF 等）、フィルタ
12	PowerPoint の操作実習(1)	プレゼンテーションの意味、文字や画像の入力方法
13	PowerPoint の操作実習(2)	図形やアニメーションを利用した視覚効果
14	総合練習	練習問題を使った習熟度の確認
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇『30時間でマスター Windows ７対応 Office2010』実教出版

【履修条件等】

◇コンピュータの初心者を対象としているので、履修条件はとくにない。
ただし、この授業ではキーボード入力を速くするタイピング練習は行わないので、ローマ字入力だけはある程度できることが望ましい。。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の最後に次回の予告をするので、教科書の該当ページに目を通しておいていただきたい。

【その他の注意事項】

◇実習授業であるので、授業に出席しないとコンピュータを操作できないので全出席が基本である。そのため、出席および遅刻に対しては厳格に扱う。遅刻は２回で欠席１回とし、全授業の３分の１（５回）欠席した場合は、本試験を受験停止にする。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

ビジネスコンピューティング	鬼木（オニキ） 一直（カズナオ）
Business Computing	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

企業で業務を遂行するにあたり、Microsoft 社の『Excel』、『Word』、『PowerPoint』は必須アイテムともいえるソフトとなっています。これらのソフトを使いこなすためにパソコン一般知識、アプリケーション操作、情報モラル&セキュリティを学ぶことが必要です。本授業ではタイピングの練習、表計算、グラフ作成などを通じ、日常の企業活動で発生するさまざまなコンピュータ知識、スキルを習得します。また、授業の中で実際に準２級・３級等のＰ検（ＩＣＴプロフィシエンシー検定試験）を行い、資格の取得も可能です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
タイピング速度60文字／分以上を目標とする	毎授業の最初に５分間のタイピングテストを行いその点数および上達度を評価する。 また、授業時間の中でＰ検タイピング本試験を行いその結果を評価する。	20%
Microsoft　Word を活用し、簡単な文書の作成、編集ができること	設問に対する解答と実技試験によって評価。 Microsoft　Word の操作に関する基本的な設問に解答できること。指示に従い簡単な非定型文書の編集をすることができること。	25%
Microsoft　Office を活用し、計算式や表などを含む定型フォーマットの作成ができること	設問に対する解答と実技試験によって評価。 Microsoft　Excel の操作に関する基本的な設問に解答できること。指示に従い簡単な表やグラフを含む文書の編集をすることができること。	25%
コンピュータ用語、ネットワークシステム、情報モラルを理解する	確認問題に対する解答によって評価。 コンピュータに関する知識、通信ネットワーク技術、ウィルス対策を含むセキュリティや法規に関する基本的な設問に解答できること。	30%

評価の方法　毎回行うタイピングテスト10%、授業時間内の演習30%、試験60%。
試験はＰ検タイピング試験・Ｐ検本試験（準２級または３級）の結果を勘案する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	講義内容、本試験の内容等についての説明
2	ワープロ(1)	タイピングの基本を学び、文書の編集などの演習を行う
3	ワープロ(2)	図の挿入や図形の作成、表の作成や編集などの演習を行う
4	表計算(1)	表計算ソフトの操作を学び、関数を利用した計算などの演習を行う
5	表計算(2)	グラフの編集、表データの並べ替えなどの演習を行う
6	表計算(3)	データの集計、シートの編集などの演習を行う
7	コンピュータ知識	コンピュータに関する一般的な技術用語を学ぶ
8	情報通信ネットワーク	情報通信システムに関する一般的な技術用語を学ぶ
9	情報モラルと情報セキュリティ	インターネットのセキュリティ対策、個人情報やプライバシーの保護について学ぶ
10	ＩＣＴを活用した問題解決	フローチャート、データベースの活用法について学び、演習を行う
11	Ｐ検タイピング本試験	本試験のタイピング試験免除対象となるＰ検タイピング試験の合格を目指す
12	実技試験の対策	ＣＢＴ方式（コンピュータ対話式）の実技試験を体験し慣れる
13	模擬試験	実際の検定試験と同じＣＢＴ方式での模擬試験を体験し、解答方法に慣れるとともに、弱点の克服を行う
14	Ｐ検本試験	Ｐ検本試験（準２級または３級）を行う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇材は教室に備え付けのものを使用するので購入は不要。
◇他に、検定試験の受験料が必要（昨年実績4,100円）。

【履修条件等】

◇ Microsoft Windows ／ Word ／ Excel の基本的な操作ができること。
◇「コンピュータリテラシー」を履修済み程度のパソコンスキルを習得していること。
◇授業時間内にＰ検（準２級または３級）を受験すること。
◇基本的にＰ検３級以上を取得しているものは履修できない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇タイピングの練習をしておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業時間内にＰ検タイピング試験、Ｐ検（準２級または３級）の本試験を実施する。
◇Ｐ検（ＩＣＴプロフィシエンシー検定試験）に関しては以下の WEB サイトを参照のこと。http://www.pken.com/　（ＩＣＴプロフィシエンシー検定協会）
◇Ｐ検に合格した場合は本授業単位の２単位に加え、さらに１単位を取得できる。
（ただし、別途手続きが必要）

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

就職特講Ⅰ	野沢（ノザワ）　牧子（マキコ）
Special Seminar for Job Seeking I	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

長期化する厳選採用と働き方の多様化に伴い、大学生の就職環境は厳しい状況にあります。本講義では、履歴書やエントリーシートの書き方、業界・企業・職種研究、筆記試験・面接・グループワーク対策など、就職に直接役立つ知識の習得と演習を進めていきます。業界研究セミナーや内定者報告会等も実施し、臨場感ある準備講座を展開します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本企業における雇用慣行、就職活動の仕組み、基本的なワークルールについて理解する	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
「働くこと」への理解を深め、社会人としてのふるまい、言動、マナーを身につける	出席態度、講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	40%
自己理解・自己分析を深めるとともに、数多くある選択肢の中から、自らの職業適性を知る	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
さまざまな就職試験に対応する力を身につける	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%

評価の方法　職業意識の形成と卒業後の社会人基礎力の向上を目的とすることから、出席評価（取り組み姿勢・参加態度含む）70%、レポートおよび提出物評価30%。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	就職活動の現状の理解	就職活動を始めるにあたって考えるべきこと（雇用環境とデータで見る学卒者就職の現状、正規・非正規雇用の生涯賃金等）
2	職業適性を考える	キャリア形成について
3	自己分析	自分史を作成するなかで、社会人基礎力を基に自己の特性を知る
4	職種の理解	代表的職種と求められる特性について知る
5	学内業界研究セミナー	業界研究
6	履歴書の完成①	就職活動の全体スケジュールと準備事項、自己ＰＲの書き方
7	履歴書の完成②	学生時代に力を入れたこと
8	履歴書の完成③	自己分析の完成
9	業界研究の仕方	業界情報の捉え方、情報の取捨選択について
10	志望動機の作成	想定業界、企業での作成
11	選考の対策①	多様なＥＳへの対応
12	内定者報告会	先輩内定者による報告会
13	選考への対策②	面接対策、マナー
14	選考への対策③	グループディスカッション対策
15	活動計画策定・発表	履歴書・就職の軸・活動計画の策定最終確認

【使用教材】

◇とくになし。講義資料およびワークシートは随時配布する。

【履修条件等】

◇３年生で民間企業への就職を考えている学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇業界研究においては、事前に web、新聞、書籍等を通じた情報収集を要請することがある。

◇事前にワークシートを配布し、次回講義までに記入してくる課題を提示することがある。

【その他の注意事項】

◇本講義においては、知識や経験の蓄積や振り返りを重視するため、１度の欠席が大きなハンデとなることもあるので留意されたい。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

就職特講Ⅰ	宮地（ミヤジ）　由夏（ユカ）
Special Seminar for Job Seeking I	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

長期化する厳選採用と働き方の多様化に伴い、大学生の就職環境は厳しい状況にあります。本講義では、履歴書やエントリーシートの書き方、業界・企業・職種研究、筆記試験・面接・グループワーク対策など、就職に直接役立つ知識の習得と演習を進めていきます。業界研究セミナーや内定者報告会等も実施し、臨場感ある準備講座を展開します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本企業における雇用慣行、就職活動の仕組み、基本的なワークルールについて理解する	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
「働くこと」への理解を深め、社会人としてのふるまい、言動、マナーを身につける	出席態度、講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	40%
自己理解・自己分析を深めるとともに、数多くある選択肢の中から、自らの職業適性を知る	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
さまざまな就職試験に対応する力を身につける	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%

評価の方法　職業意識の形成と卒業後の社会人基礎力の向上を目的とすることから、出席評価（取り組み姿勢・参加態度含む）70%、レポートおよび提出物評価30%。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	就職活動の現状の理解	就職活動を始めるにあたって考えるべきこと（雇用環境とデータで見る学卒者就職の現状、正規・非正規雇用の生涯賃金等）
2	職業適性を考える	キャリア形成について
3	自己分析	自分史を作成するなかで、社会人基礎力を基に自己の特性を知る
4	職種の理解	代表的職種と求められる特性について知る
5	学内業界研究セミナー	業界研究
6	履歴書の完成①	就職活動の全体スケジュールと準備事項、自己ＰＲの書き方
7	履歴書の完成②	学生時代に力を入れたこと
8	履歴書の完成③	自己分析の完成
9	業界研究の仕方	業界情報の捉え方、情報の取捨選択について
10	志望動機の作成	想定業界、企業での作成
11	選考の対策①	多様なＥＳへの対応
12	内定者報告会	先輩内定者による報告会
13	選考への対策②	面接対策、マナー
14	選考への対策③	グループディスカッション対策
15	活動計画策定・発表	履歴書・就職の軸・活動計画の策定最終確認

【使用教材】

◇とくになし。講義資料およびワークシートは随時配布する。

【履修条件等】

◇３年生で民間企業への就職を考えている学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇業界研究においては、事前に web、新聞、書籍等を通じた情報収集を要請することがある。

◇事前にワークシートを配布し、次回講義までに記入してくる課題を提示することがある。

【その他の注意事項】

◇本講義においては、知識や経験の蓄積や振り返りを重視するため、１度の欠席が大きなハンデとなることもあるので留意されたい。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

就職特講Ⅰ（留学生対象）	シオタニ　ユミコ 塩谷　由美子
Special Seminar for Job Seeking I	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

卒業後に日本で就職したり、日本以外にある日本企業で働いたりすることを希望する留学生は年々多くなっています。しかし、皆が希望通りの仕事に就けるとは限りません。また就職してもすぐ転職する人も少なくありません。日本特有の就職事情を知らないこと、在留資格についての知識がないこと、また就職活動の準備開始が遅いことなどが問題になります。この授業では、日本の就職活動のしくみと流れを理解し、就職活動に役立つような準備をします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本の就職事情を学び、活動計画を立てる	日本の就職事情を学んで就職活動のしくみと流れを理解し、それに沿って今何をしなければならないかを考えて最終的に活動計画を立てることができるか、課題などをもとに評価する。	40%
日本の企業、業種、職種を研究する	日本の業種、職種を理解し、企業研究の方法を身につけているかどうかを、課題などをもとに評価する。	30%
具体的な就職活動の準備をする	就職活動のために何をしなければならないかを理解しその方法を身につけているかどうかを、課題などをもとに評価する。	30%
評価の方法　授業への参加姿勢、課題、期末課題を総合的に評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業内容と授業の進め方について
2 3	日本の就職慣習を学ぶ	・日本の就職活動のしくみと流れ ・就職とアルバイトの違い、インターンシップとは
4 5 6 7	企業研究、職業研究をする	・日本の企業が求める人材 ・職種と業種、職業適正 ・企業の選び方、業界研究と企業研究 ・いろいろな資格と日本語能力
8 9 10 11	就職活動の具体的な準備をする	・情報の探し方（求人票、ハローワーク、就活ナビ） ・敬語と面接、ビジネスマナー ・履歴書、エントリーシート、メールの書き方 ・自己ＰＲ、志望動機、「ガクチカ」
12 13 14	就職活動の実際	・先輩の経験談を聞く「内定者報告会」 ・在留資格（ビザ）について ・活動計画確認
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇とくになし。必要に応じて授業で指示します。

【履修条件等】

◇日本での就職を考えている外国人留学生は必ず履修してください。進路が未定でも、日本での就職の可能性がある場合も、履修を強く勧めます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇各学習項目を学ぶに際し、情報収集をしたり、活動計画を立ててまとめたりする課題が課されます。事前学習をしなければ、授業内容を十分に理解できないことがあるので、必ず準備をしてください。

【その他の注意事項】

◇上記の授業計画は、受講人数や大学内行事日程などを勘案して、変更することがあります。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

健康と運動Ⅰ	井上（イノウエ）　航人（コウト）
Health and Sports Ⅰ	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的にとることができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%

評価の方法　70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2 3 4 5 6 7	実技：集団型スポーツ①、② 集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボールやダブルダッチ等を題材に学ぶ （履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）
8 9	講義：①運動と健康の関係について ②生活習慣病について
10 11 12 13 14 15	実技：ネット型スポーツ①、② 小集団のネット型スポーツ種目：バドミントンや卓球等を題材に学ぶ （履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

健康と運動Ⅰ	田島（タジマ）　外志美（トシミ）
Health and Sports Ⅰ	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年若者に増加している性感染症などの疾病の理解と、予防するための知識を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康三原則（運動・栄養・休養）の理解し、健康を維持するための知識を有すること。	20%
現代社会で問題となっている疾病理解と、その予防について理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 若者で問題になっている性感染症（ＳＴＤ）に関する正しい知識と、その予防法についての知識を有すること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月１回の測定（体脂肪・血圧・ＢＭＩ）ができること。	30%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内　容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2 ～ 7	実技：集団型スポーツ①② 集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメット、フットサル等を題材に学ぶ
8 ～ 9	講義①：健康と運動の関係について（健康の三原則と運動） 講義②：疾病から身体を守る（性感染症の現状把握、予防法について）
10 ～ 14	実技：ネット型スポーツ①～③ 小集団のネット型スポーツ種目：卓球、バドミントン等を題材に学ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

健康と運動Ⅰ	西村（ニシムラ）　卓二（タクジ）
Health and Sports Ⅰ	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

実技の卓球では、マシンと多球練習を導入し「正しいフォームつくり」をめざしてさらに、競技力を高めるために、総当たりリーグ戦（試合）を実施し、卓球競技の楽しさ、難しさを体得してもらう。他にバスケット、バドミントン競技も実施する。講義は健康維持や生涯にわたって健康な生活が実現できる知識を教授する（レポート提出)。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
卓球競技における特性の理解度	卓球の各技術を紹介し、練習を通じて成長度をチェックし、とくにラリーが続けられることを評価ポイントとする。	30%
各技術を段階的にマスターしているか	マシン、多球練習等により、より正確に強く打球できるか（スピード・コントロール・コース・スピン）を計る。	30%
ゲーム（試合）	①試合における戦術、技術対応力を評価する。 ②試合における精神的強さ、闘争心の評価。	20%
①他の種目の取り組み ②レポート提出	バスケット、バドミントンなどからの身体能力をチェックする。 健康維持に関する知識の学習。	20%
評価の方法　マナー30%、試合成績30%、レポート提出40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス：授業方針の説明	卓球部選手による各技術の紹介演技
2 3 4 5 6	卓球競技の歴史、特性説明 ラケット、ラバー、グリップ、スタンス、フリーハンドの効用、フォアハンドストローク、スマッシュ、フットワーク（左右・前後）	「回転」、「スピード」、「コース」の特性を理解する。腰のひねり、軸足、肘の角度を注意して何本続けられるか記録をとる。前後・左右の動き、足の運び方の注意点。動く側、動かす側の注意点とコースの打ち分け（ストレート、クロス、ミドル）。スピードと正確さを追求する。
7 8 9	ショート（ブロック） ショートカット（ツッツキ）	肘の屈伸を使う。角度、打球点を注意して、スピードをあげる。手首を使い、ボールの真下をこする。ナナメ回転、下回転、横回転をマスターする。
10 11	サーブ、レシーブ	回転の種類による返球方法、角度調整を工夫する。多種類な回転サーブを学習する（コース、速さ、種類）。
12 13 14	ゲーム（試合）	試合ルールの説明、審判法の説明。シングル３ゲームのリーグ戦を実施。試合の組み立て、戦術の駆け引き、間の取り方を教授する。
15	バドミントン・バスケット	卓球以外の競技種目を実施し、身体能力をチェックする。

【使用教材】

◇西村卓二著『確実に上達する卓球（改訂版）』実業之日本社

◇必要に応じて資料を配付する。

【履修条件等】

◇マナーを守れる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常の体調管理を徹底して故障なく受講すること。

【その他の注意事項】

◇室内履き（シューズ）、運動のできる準備をして出席のこと。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

健康と運動Ⅱ	井上（イノウエ）　航人（コウト）
Health and Sports II	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的にとることができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%

評価の方法　70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2 3 4 5 6 7	実技：集団型スポーツ①、② 集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメットやフットサル等を題材に学ぶ （履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）
8 9	講義：①基礎代謝について ②性感染症について
10 11 12 13 14 15	実技：ネット型スポーツ①、② 小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレーやバドミントン等を題材に学ぶ （履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

健康と運動Ⅱ	田島（タジマ）　外志美（トシミ）
Health and Sports II	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年増加している生活習慣病の理解と、予防するための運動方法を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 基礎代謝を高め、太り難い身体を維持する知識を有すること。	20%
現代社会で問題となっている疾病理解と、その予防について理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病に関する正しい知識と、その予防法についての知識を有すること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月１回の測定（体脂肪・血圧・ＢＭＩ）ができること。	30%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内　容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2 ～ 7	実技：集団型スポーツ①② 集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボール、ダブルダッチ等を題材に学ぶ
8 ～ 9	講義①：健康と運動の関係について（基礎代謝と運動） 講義②：疾病から身体を守る（生活習慣病と運動）
10 ～ 14	実技：ネット型スポーツ①～③ 小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレーボール、インディアカ等を題材に学ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

健康と運動Ⅱ	西村（ニシムラ）　卓二（タクジ）
Health and Sports II	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

実技の卓球では、マシンと多球練習による「正しいフォームつくり」をめざしてさらに、競技力を高めるために、総当たりリーグ戦（試合）を実施し、卓球競技の楽しさ、難しさを体得してもらう。またダブルスのゲームを行い、パートナーとの協調性を高める。

他にバスケット、バドミントン競技も実施し身体能力をチェックする。講義は健康維持や生涯にわたって健康な生活が実現できる知識を教授する（レポート提出)。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
卓球競技の特性を理解すること	卓球競技の各技術を紹介し、授業を通じて成長度をチェックし、特にラリーが続けられるかを評価のポイントとする。	30%
各技術を段階的にマスターしているか	スピード、回転、コースを正確にして相手コートに打球できるかを計る。	30%
ゲーム（試合）	①試合における戦術の理解度、対応力を評価する。 ②対戦相手に対する闘争心の評価。	20%
①他の種目の取り組み ②レポート提出	バスケット、バドミントンなどからの身体能力のチェックする。 健康維持に関する知識の習得。	20%
評価の方法　マナー30%、試合成績30%、レポート提出40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス：授業方針の説明	卓球部選手による各技術の紹介演技
2 3 4 5 6	卓球競技の歴史、特性説明 ラケット、ラバー、グリップ、 スタンス、フリーハンドの効 用、フォアハンドストローク、 スマッシュ、フットワーク（左 右・前後）	「回転」、「スピード」、「コース」の特性を理解する。 腰のひねり、軸足、肘の角度を注意して何本続けら れるか記録をとる。動く側と動かす側の注意点。コ ースを打ち分けられるか、スピードを追求する。
7 8 9	ショート（ブロック） ショートカット（ツッツキ）	肘の屈伸を使い、角度と打球点を注意する。 手首を使い、ボールの真下をこする（切る）。 ナナ目、横、下回転をマスターする。
10 11	サーブ、レシーブ	多種多様な点を工夫する（速さ、コース変化に注意）。 回転の種類による返球方法の注意点。
12 13 14	ゲーム（試合）	試合ルールの説明、審判法の説明。シングル３ゲー ムを実施する。試合の組み立て、戦術、駆け引き、 間の取り方を教授する。
15	バドミントン・バスケット	卓球以外の競技種目を実施し、身体能力をチェック する。

【使用教材】

◇西村卓二著『卓球上達テクニック』実業之日本社

◇必要に応じて資料を配付する。

【履修条件等】

◇マナーを守れる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常の体調管理を徹底して故障なく受講することが望ましい。

【その他の注意事項】

◇室内履き、運動着の準備をして出席のこと。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

健康と運動Ⅲ	井上（イノウエ）　航人（コウト）
Health and Sports III	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的にとることができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%

評価の方法　70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2 3 4 5 6 7	実技：集団型スポーツ①、② 集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボールやダブルダッチ等を題材に学ぶ （履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）
8 9	講義：①運動と健康の関係について ②生活習慣病について
10 11 12 13 14 15	実技：ネット型スポーツ①、② 小集団のネット型スポーツ種目：バドミントンや卓球等を題材に学ぶ （履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

健康と運動Ⅲ	田島（タジマ）　外志美（トシミ）
Health and Sports III	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、スポーツによる傷害（外傷・障害）の現状を理解し、傷害の起こしにくい「からだ作り」、予防するための知識を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が関係する傷害の発生メカニズムと対処法を学び、適切な行動ができる力を身につけること	講義後、提出されたレポートによって評価。 スポーツ傷害（外傷・障害）の理解、外傷が発生した際の対処方法の知識を有すること。	20%
傷害を起こしにくい「からだ作り」について学び、実践可能なトレーニングの知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 加齢とともに低下していく筋力・体力の維持に必要なトレーニングの必要性と、トレーニングに関する正しい知識を有すること	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月１回の測定（体脂肪・血圧・ＢＭＩ）ができること。	30%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内　容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2 ～ 7	実技：集団型スポーツ①② 集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメット、フットサル等を題材に学ぶ
8 ～ 9	講義①：スポーツ傷害の予防法について 講義②：年齢に合わせた体力トレーニングの必要性について
10 ～ 14	実技：ネット型スポーツ①～③ 小集団のネット型スポーツ種目：卓球、バドミントン等を題材に学ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

健康と運動Ⅳ	井上（イノウエ）　航人（コウト）
Health and Sports IV	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的にとることができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%

評価の方法　70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2 3 4 5 6 7	実技：集団型スポーツ①、② 集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメットやフットサル等を題材に学ぶ （履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）
8 9	講義：①基礎代謝について ②性感染症について
10 11 12 13 14 15	実技：ネット型スポーツ①、② 小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレーやバドミントン等を題材に学ぶ （履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

健康と運動Ⅳ	田島（タジマ）　外志美（トシミ）
Health and Sports IV	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年話題になっているロコモティブシンドロームの理解と、予防するための運動方法を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動不足が身体におよぼす影響を学び、その予防方法を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 運動器の障害により移動機能が低下するロコモティブシンドロームとその予防法の正しい知識を有すること。	20%
自己に適した運動の強度や種類についての知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 運動処方のひとつの尺度である「心拍数」を使って、自己に適した運動強度を算出できること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月１回の測定（体脂肪・血圧・ＢＭＩ）ができること。	30%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内　容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2 ～ 7	実技：集団型スポーツ①② 集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボール、フラッグフットボール等を題材に学ぶ
8 ～ 9	講義①：ロコモティブシンドロームについて 講義②：運動と心拍数の関係性について
10 ～ 14	実技：ネット型スポーツ①～③ 小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレーボール、インディアカ等を題材に学ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

日本事情（留学生科目）	糸川（イトカワ）　優（ユウ）
Japanese Studies	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業ではディベートという手段を使って、大学での学習に必要な論理的口頭表現力を習得すると同時に、自ら情報を得て深く考え日本語で表現することを、特にグループ活動を通して完成すること目指す。他の学生と協力しながらディベートを体験し、他の人の意見を理解した上で自分の意見を論理的に筋道立てて述べる練習をする。また他の学生の陳述を論理性に照らし合わせて評価する能力も養う。このようなグループ活動を通して、日本の文化や日本人の考え方を学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業に積極的に参加し効果的にグループ活動を推し進める	授業内で個人作業およびグループ活動に積極的に参加し、授業外での作業も含め、円滑なグループ活動に貢献すること。	40%
日本文化を理解し、論理的発表のために資料検索、論理的構成の組み立てなどができる	準備段階でのグループ活動への参加の様子、ディベート発表の時に利用する資料などにより評価する。ディベートの準備に積極的に参加し、必要な資料を検索・選択し、論理を適切に組み立てることができるか否かにより評価する。	20%
適切かつ効果的口頭発表・プレゼンテーションができる。他の学生の口頭発表について適切な評価ができる	適切かつ効果的口頭発表・プレゼンテーションができる。他の学生の口頭発表について適切な評価ができる。	40%

評価の方法　授業とグループへの貢献度40%、課題20%、表現・発表40%
ただし、単位取得には最低３分の２以上の出席を必要とする。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ディベートについて	ディベートの概要とグループ形成
2	ディベート体験	ディベート体験
3	ディベート体験	ディベート体験、よりよいディベートのための対策
4	ディベートA	グループ準備
5	ディベートA	ディベートA
6	ディベートA	ディベートA
7	ディベートA	振り返り
8	ディベートA	グループ準備
9	ディベートA	ディベートB
10	ディベートB	ディベートB
11	ディベートB	振り返り
12	ディベートB	グループ準備
13	ディベートB	ディベートC
14	ディベートB	ディベートC
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括

【使用教材】

◇教科書は使用しない。必要に応じて資料を授業で配布する。

【履修条件等】

◇授業は学期を通じてグループの協働学習なので、遅刻欠席をしないこと。メンバーと協力し合って意欲的に準備や発表に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ディベートの準備として、必要に応じて、グループ内の相談・資料検索を授業外でもすることがある。

【その他の注意事項】

◇学期中の欠席が５回を越えた場合は、ディベート等に参加しても単位は認めない。

◇上記の授業計画は、グループ編成の都合などから、受講人数などを勘案して変更することがある。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

日本事情（留学生科目）	コバヤシ　ヒロノリ 小林　寛典
Japanese Studies	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、グループディスカッションという手段を使って、自分の考えをまとめて発信する力、他者の考えを聞いて自分の考えと比較する力を身につけること、また、そこから考えを発展させ視野を広げることを目的とする。他の学生と協力しながらグループディスカッションを行い、他の人の意見を理解した上で自分の意見を論理的に筋道立てて述べる練習をする。このようなグループ活動と発表を通して、社会的なトピックについての知識も深めていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業に積極的に参加する	グループ活動に積極的に参加し、円滑なグループ活動に貢献すること。	30%
グループの意見をまとめて発表する	グループで出た意見をまとめ、発表する。	40%
小論文	ディスカッションの結果をクラス全体で共有し、気づきや感想を小論文にまとめる。	30%
評価の方法　授業参加度（グループ貢献度）30%、発表40%、小論文30% 学期の３分の１を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	授業の説明	授業と評価の説明、グループディスカッション導入
2	ディスカッション１	ディスカッション　１－①
3	ディスカッション２	ディスカッション　１－②
4	ディスカッション３	ディスカッション　１－③
5	ディスカッション４	発表１－①
6	ディスカッション５	発表１－②
7	ディスカッション６	発表１－③
8	ディスカッション７	ディスカッション　２－①
9	ディスカッション８	ディスカッション　２－②
10	ディスカッション９	ディスカッション　２－③
11	ディスカッション１０	発表２－①
12	ディスカッション１１	発表２－②
13	ディスカッション１２	発表２－③
14	ディスカッション１３	予備日
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。必要に応じて資料を配布する。

【履修条件等】

◇遅刻欠席をせず、意欲を持って学習に取り組むこと。

◇メンバーと協力しあうこと。

◇相手の意見を尊重する姿勢を持つこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇必要に応じて指示する。

【その他の注意事項】

◇学期中の欠席が５回を越えた場合は、単位は認めない。

◇上記の授業計画は受講人数や既習レベルなどを勘案して変更することがある。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

インターンシップⅠ	高橋（タカハシ）　哲也（テツヤ）
Internship Ⅰ	選択科目／認定／１単位

【授業概要】

インターンシップという「社会経験・就業体験」を通して、自分自身の専攻およびキャリアに関する実務的知識を深め、専門知識の習得、キャリアプランを考えていくことを目指します。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構え、社会人としてのマナーを身につける	適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 （インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように）	25%
インターンシップにおいて実社会の現状を把握し、実務的知識を深め、自己のキャリアプランを構築する	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	50%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かせるか	就業体験の結果を他者に伝える。	25%
評価の方法　就業体験、実習報告書の提出		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2 ～ 14	企業研究・業界研究 エントリーシート作成 インターンシップ希望企業へのエントリー 現場での就業体験 インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇必要に応じて適宜配付する。

【履修条件等】

◇３年生の履修希望者は「就職特講Ⅰ」を履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇社会人としてビジネスマナー。

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇今年度より履修方法が大幅に変更になったので注意。

◇毎月開催予定の「インターンシップ説明会」に参加し、一般的なインターンシップの手続きを身につける。

◇履修許可を行う本学キャリア・学生支援センターへの報告・連絡・相談を行うこと。万が一、連絡が取れなくなった場合は、受講取り消しとなるので注意すること。

◇１ヶ月以上のインターンシップに参加する場合には、報酬が発生することが予想される。報酬のあるインターンシップでの単位認定は不可である。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

インターンシップⅡ	高橋（タカハシ）　哲也（テツヤ）
Internship II	選択科目／認定／１単位

【授業概要】

インターンシップという「社会経験・就業体験」を通して、自分自身の専攻およびキャリアに関する実務的知識を深め、専門知識の習得、キャリアプランを考えていくことを目指します。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構え、社会人としてのマナーを身につける	適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 （インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように）	25%
インターンシップにおいて実社会の現状を把握し、実務的知識を深め、自己のキャリアプランを構築する	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	50%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かせるか	就業体験の結果を他者に伝える。	25%
評価の方法　就業体験、実習報告書の提出		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2 ～ 14	企業研究・業界研究 エントリーシート作成 インターンシップ希望企業へのエントリー 現場での就業体験 インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇必要に応じて適宜配付する。

【履修条件等】

◇３年生の履修希望者は「就職特講Ⅰ」を履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇社会人としてビジネスマナー。

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇今年度より履修方法が大幅に変更になったので注意。

◇毎月開催予定の「インターンシップ説明会」に参加し、一般的なインターンシップの手続きを身につける。

◇履修許可を行う本学キャリア・学生支援センターへの報告・連絡・相談を行うこと。万が一、連絡が取れなくなった場合は、受講取り消しとなるので注意すること。

◇１ヶ月以上のインターンシップに参加する場合には、報酬が発生することが予想される。報酬のあるインターンシップでの単位認定は不可である。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

インターンシップⅢ	高橋（タカハシ）　哲也（テツヤ）
Internship III	選択科目／認定／１単位

【授業概要】

インターンシップという「社会経験・就業体験」を通して、自分自身の専攻およびキャリアに関する実務的知識を深め、専門知識の習得、キャリアプランを考えていくことを目指します。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構え、社会人としてのマナーを身につける	適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 （インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように）	25%
インターンシップにおいて実社会の現状を把握し、実務的知識を深め、自己のキャリアプランを構築する	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	50%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かせるか	就業体験の結果を他者に伝える。	25%
評価の方法　就業体験、実習報告書の提出		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2 ～ 14	企業研究・業界研究 エントリーシート作成 インターンシップ希望企業へのエントリー 現場での就業体験 インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇必要に応じて適宜配付する。

【履修条件等】

◇３年生の履修希望者は「就職特講Ⅰ」、「就職特講Ⅱ」を履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇社会人としてビジネスマナー。

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇今年度より履修方法が大幅に変更になったので注意。

◇毎月開催予定の「インターンシップ説明会」に参加し、一般的なインターンシップの手続きを身につける。

◇履修許可を行う本学キャリア・学生支援センターへの報告・連絡・相談を行うこと。万が一、連絡が取れなくなった場合は、受講取り消しとなるので注意すること。

◇１ヶ月以上のインターンシップに参加する場合には、報酬が発生することが予想される。報酬のあるインターンシップでの単位認定は不可である。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

インターンシップⅣ	高橋（タカハシ）　哲也（テツヤ）
Internship IV	選択科目／認定／１単位

【授業概要】

インターンシップという「社会経験・就業体験」を通して、自分自身の専攻およびキャリアに関する実務的知識を深め、専門知識の習得、キャリアプランを考えていくことを目指します。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構え、社会人としてのマナーを身につける	適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 （インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように）	25%
インターンシップにおいて実社会の現状を把握し、実務的知識を深め、自己のキャリアプランを構築する	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	50%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かせるか	就業体験の結果を他者に伝える。	25%
評価の方法　就業体験、実習報告書の提出		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2 ～ 14	企業研究・業界研究 エントリーシート作成 インターンシップ希望企業へのエントリー 現場での就業体験 インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇必要に応じて適宜配付する。

【履修条件等】

◇３年生の履修希望者は「就職特講Ⅰ」を履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇社会人としてビジネスマナー。

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇今年度より履修方法が大幅に変更になったので注意。

◇毎月開催予定の「インターンシップ説明会」に参加し、一般的なインターンシップの手続きを身につける。

◇履修許可を行う本学キャリア・学生支援センターへの報告・連絡・相談を行うこと。万が一、連絡が取れなくなった場合は、受講取り消しとなるので注意すること。

◇１ヶ月以上のインターンシップに参加する場合には、報酬が発生することが予想される。報酬のあるインターンシップでの単位認定は不可である。

教養科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

自己開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	
Self-improvement I・II・III・IV	選択科目／認定／各１単位

【本科目の目的】

本学学生の自立心養成、キャリア形成を支援するための一環として、この科目を設置する。すなわち、学生が、本学での教育に立脚し、資格取得、ボランティアなど、学外で修得してきた一定の学習成果に対して単位を認定する。

【単位を認定する資格】

在学中に取得した資格。具体的には「技能審査の対象資格・検定表」に記載する資格を対象とする。ただし、取得後３か月以内に単位認定の申請をすることが必要（１月末までに届けたものについては当該年度の「自己開発」科目の単位として、それ以降の申請については、次年度の単位として認定する)。

例：公認会計士、税理士、中小企業診断士、情報システムＩＴパスポート試験、実用英語技能検定、秘書技能検定、簿記検定、販売士、経営学検定試験、TOEIC 等

【ボランティア】

担当教員宛に「参加申請書類」(受入先または仲介先の概要紹介書、活動計画書などを添付）を提出し、担当教員の承認を得たボランティア活動を「単位を認定するボランティア」とする。活動期間は、通算５日40時間以上とする。

承認を得たら、すみやかに「賠償責任保険」(340円。学生支援担当窓口扱)に加入し、活動終了後は、２週間以内に、「単位認定申請書」に受入先または仲介先の発行するボランティア活動修了証あるいは証明書（写しでも可）を添え、担当教員に届け出ることを要する。

◇本科目における「単位認定のプロセス」や「修得可能な単位数」「技能審査の対象資格・検定表」などについては『学生要覧』を参照してください。

専　門　科　目

平成30年度

経営学部経営学科

＜３年生・４年生用＞

東京富士大学

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経営学概論	エンジョウジ　タカヒロ 円城寺　敬浩
Introduction to Management	基礎科目／通年／４単位

【授業概要】

経営学にはさまざまな領域があります。たとえば、管理論、組織論、戦略論、企業論、会計学や心理学などの領域があります。そのなかでも、管理論、組織論、戦略論、そして企業論は経営学の中核的な領域になります。したがって、これらの領域の基礎を学ぶことによって、経営学の基礎固めをすることができると同時に、経営学とはどのような学問なのか、あるいは経営学を学ぶ意義とは何か、を理解できるようになるでしょう。

経営学は他の学問と比べてまだ歴史は浅いですが、人類のさまざまな課題を克服するうえで重要な役割を果たしていく可能性を大いに秘めている学問です。換言すれば、経営学を学ぶことによって、皆さんが将来活躍する場は無限に拡がることでしょう。

本講義は入門科目ですので、経営学をより本格的に学ぶには、上記に挙げた領域の専門科目をさらに履修する必要があります。本講義の使命は、専門科目を学ぶための橋渡し的な役割を果たすことにあります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営学の基礎知識と理論の理解	試験（小テスト等含む）によって、基礎的知識と理論を理解しているかを確認する。	25%
経営学とは何かを理解する	試験（小テスト等含む）によって、基礎的知識と理論を理解しているかを確認する。	25%
経営学を学ぶ意義を理解する	試験（小テスト等含む）によって、基礎的知識と理論を理解しているかを確認する。	25%
経営学の応用可能性を理解する	試験（小テスト等含む）によって、基礎的知識と理論を理解しているかを確認する。	25%
評価の方針　本試験70%と小テスト等（出席点含む）30%で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	春学期ガイダンス	16	秋学期ガイダンス
2	経営学とは何か	17	経営戦略論①
3	管理論①	18	経営戦略論②
4	管理論②	19	経営戦略論③
5	管理論③	20	経営戦略論④
6	管理論④	21	経営戦略論⑤
7	管理論⑤	22	経営戦略論⑥
8	管理論⑥	23	組織論①
9	企業論①	24	組織論②
10	企業論②	25	組織論③
11	企業論③	26	組織論④
12	企業論④	27	組織論⑤
13	企業論⑤	28	組織論⑥
14	企業論⑥	29	まとめ
15	総括・達成度の確認	30	総括・達成度の確認

【使用教材】

◇参考書：藤田誠著『経営学入門』中央経済社、2015年

◇その他は適宜指示。

【履修条件等】

◇授業中の私語やスマホ等の使用は厳禁です。その他、担当教員の指示に従わない者は本試験の受験ができなくなる可能性があるので注意してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇参考書等、講義内容に関する領域を事前に読んでくることをお勧めします。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経営学概論	名取（ナトリ） 修一（シュウイチ）
Introduction to Management	基礎科目／通年／４単位

【授業概要】

経営学は、企業を対象としてその構造と行動原理を学ぶ学問です。企業経営活動は、利潤生産・商品生産過程において、生活の糧を提供し、人々の「豊かさの創造」機会をも生み出しています。そうした存在意義をなす現在の企業は、激しい市場競争を乗り越えなければ存続し続けることはできません。企業が存続していくためには、利潤達成を実現すると同時に、社会的責任の遂行がなされなければなりません。

本講義では、こうした観点に立って企業経営の「構造」的理解と活動体・存続体としての「行動」的側面に視点を当て、企業経営を考えます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企業の基本的な特質を理解する	・経営学の対象としての企業経営活動を理解する ・企業経営は生産活動体であり、財やサービスを生産し、社会的な役割を理解する ・企業はなぜ利潤追求をするのかを理解する ・商品、商品生産過程の意味や内容を理解する ・企業経営に関わる市場を学び、グローバル化でどのように変化したかを理解する	30%
資本調達の仕組みを理解する	・資本の意味を理解する ・グローバル経済下での資本調達の基軸を理解する ・自己資本、他人資本、出資、負債の内容と違いを理解する ・株式会社の特性を理解する	15%
コーポレート・ガバナンスを理解する	・コーポレート・ガバナンスの狭義と広義の視点から違いを理解する ・グローバル・スタンダードを理解する ・ステークホルダーを理解する ・取締役会の意義、役割を把握し、取締役会の改革や課題を理解する	15%
経営管理の変遷過程を学ぶ	・経営管理活動の原点とその変遷過程を理解する ・近現代の特徴である組織柔軟性を理解する ・リーダーシップとは何かを理解する	10%
経営戦略論を学ぶ	・経営戦略論の概念を学び、策定方法を理解する ・グローバル市場の変化を理解する ・戦略的人的資源管理の問題点を考える	15%
グローバル市場下の企業経営を理解する	・日本的経営論の変化を理解する ・企業の多国籍化を理解する ・環境経営と社会的責任の遂行を理解する	15%
評価の方針　70%以上の出席率が必要です。 評価は出席点20%、期末試験80%とします。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	経営学説史を学ぶ①
2	経営学とは何か	17	経営学説史を学ぶ②
3	企業の基本的特質	18	経営戦略論
4	企業形態①	19	経営戦略策定とケーススタディー
5	企業形態②	20	財務管理論①
6	株式会社制度の特質	21	財務管理論②
7	企業集団と現代的な特徴	22	マーケティング論
8	コーポレート・ガバナンス	23	生産管理論
9	多国籍企業論	24	人的資源管理論①
10	企業経営とステークホルダー	25	人的資源管理論②
11	中小企業論	26	日本的経営論とその変化
12	中小企業の現状と課題	27	情報技術革新と企業経営の変化
13	ベンチャー企業論	28	環境経営論
14	非営利組織論	29	ＣＳＲと企業倫理
15	春学期まとめと試験について	30	秋学期まとめと試験について

【使用教材】

◇百田義治編著『経営学を学ぼう』中央経済社

◇参考書：市川彰・名取修一編著『現代経営学要論』同友館

講義の中で適宜紹介します。

◇その他：講義の中で資料を配布します。

【履修条件等】

◇授業を受ける際には、静粛に受講してください。

◇新聞、雑誌等のメディアを通じて時事情報を捉えておいてください。

◇自分自身のノートを作成してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇受講者は各自テキストを準備してください。

◇各回の講義ごとにテキストを読み返して、復習を行ってください。

【その他の注意事項】

◇配布した資料の管理を各自行ってください。

◇各自、自身の出席管理を行ってください。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経営学概論	藤森（フジモリ）　大祐（ダイスケ）
Introduction to Management	基礎科目／通年／４単位

【授業概要】

初めて学ぶ者にとって、「経営学」というものは何かとっつきにくい難しいもののように感じるかもしれない。学問である以上、そこで展開される学術的な議論は難解なものもあることは事実である。しかし、経営学は私たちにとって大変身近なことを学ぶものであり、また実際に役に立つものである。さらに、経営学は経営者のための学問であるだけでなく、広く「働く人」のための学問である。この講義では、経営学というものをなるべくわかりやすく学んでいくとともに、経営学に興味を持つきっかけとなることを第一の目標 に据えて進めていく予定である。この講義が、履修する皆さんにとって、その後の経営学のより専門的な分野の扉を、楽しみに開くきっかけとなれば嬉しい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
会社制度の仕組みを理解し、その問題点や課題を考える基礎を養う	試験およびレポートによって評価する。 ６割以上を合格とする。	20%
経営戦略やマーケティングの代表的な理論を理解し、現実の企業活動を説明する力を養う	試験およびレポートによって評価する。 ６割以上を合格とする。	40%
組織や管理の代表的な理論を理解し、専門科目を学ぶための基礎力を身につける	試験およびレポートによって評価する。 ６割以上を合格とする。	40%
評価の方法　試験50%、レポート30%、平常点20%で評価する。 平常点は講義内で書くコメントや質問、授業態度などで評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	経営戦略①
2	経営組織①	17	経営戦略②
3	経営組織②	18	経営戦略③
4	経営組織③	19	経営戦略④
5	経営組織④	20	マーケティング①
6	経営組織⑤	21	マーケティング②
7	経営組織⑥	22	国際経営
8	モチベーション①	23	生産管理
9	モチベーション②	24	品質管理
10	モチベーション③	25	製品開発
11	リーダーシップ①	26	イノベーション①
12	リーダーシップ②	27	イノベーション②
13	リーダーシップ③	28	イノベーション③
14	春学期の復習	29	秋学期の復習
15	試験および総括	30	試験および総括

【使用教材】

◇教科書：とくに指定しない。随時必要な資料を配布する。また、授業内で参考文献を紹介する。

【履修条件等】

◇経営学を積極的に学ぶ意欲があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回、講義の最後に次回の内容を伝えるので、次週までにその内容についての基礎知識を得ておくこと。

【その他の注意事項】

◇経営学は自ら意欲を持って臨めば、とても刺激的なものである。しかし、それが感じられるまでにはそれなりの努力が必要である。わからないことを乗り越えて、楽しさを感じられるようになることを期待する。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経営学概論	ヤマグチ　ヨシアキ 山口　善昭
Introduction to Management	基礎科目／通年／４単位

【授業概要】

経営学といってもその内容はさまざまです。この授業は科目名が示すように、経営学が扱うさまざまな領域の中の主なものを概略的に見ていきます。扱う領域は、それぞれ２年次以降に、半期あるいは通年の授業として設定されています。したがって、この授業では細かい部分は扱わず中心的な部分だけを見ていくことになります。

授業は、講義と質問を交互に行います。経営学のさまざまな理論や学説を中心に講義をしますので、聞いているだけでは理解しにくいところがあるかもしれません。積極的に質問に応え、授業理解の助けにしてください。また、授業中わからないことがあったら、その場で積極的に質問してください。

大学に入って最初の専門科目の授業となりますので、大学における論述試験に慣れてもらうために春学期中間に「中間試験」を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営学の基礎的な内容を理解していること	設問に対する回答によって評価。基礎的な用語を理解していること。	20%
経営学の基本的なものの見方を理解していること	設問に対する回答によって評価。授業中の質問に対する回答によって評価。	20%
経営学の代表的な理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。代表的な理論を説明できること。	20%
経営学の理論を応用する力を備えていること	設問に対する回答によって評価。授業中の質問に対する回答によって評価。理論をもとに具体的な方法を提案できること。	30%
評価の方法　70%以上の出席を必要条件として、試験95%、授業参加度５％ 試験は、２回の定期試験と中間試験の結果とする。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	経営学とは：経営学はいつ始まった	16	企業倫理
2	テイラーの科学的管理法	17	組織形態(1)
3	ヴェーバーの官僚制	18	組織形態(2)
4	人間関係論	19	経営管理各論(1)
5	バーナードの組織論	20	経営管理各論(2)
6	サイモンの意思決定論	21	経営管理各論(3)
7	コンティンジェンシー理論	22	経営管理各論(4)
8	中間試験とその解説	23	日本的経営
9	企業論(1)	24	組織的意思決定
10	企業論(2)	25	経営戦略論(1)
11	所有と経営の分離	26	経営戦略論(2)
12	企業結合	27	経営戦略論(3)
13	国際経営論	28	経営戦略論(4)
14	企業目的	29	組織文化
15	総括・達成度の確認	30	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：大月、高橋、山口著『経営学－理論と体系－』同文館

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できる人。

◇経営学を学ぼうという意志の強い人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の対象範囲を前もって読んでくること。

【その他の注意事項】

◇出席日数が不足すると試験を受けられなくなるので注意してください。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経営学概論（留学生対象）	小川（オガワ）　達也（タツヤ）
Introduction to Management	基礎科目／通年／４単位

【授業概要】

留学生の初学者を対象に企業経営の基礎的理論と実践的知識の理解を深め、現代企業が直面している諸課題についての洞察力を養います。授業は教科書を中心にパワーポイントとプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、時事問題や事例研究を通して企業経営の実態を把握し、有用な経営理論をわかりやすく解説します。受講生一人ひとりの疑問や質問に向き合い、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営学の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営学の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた企業経営の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた企業経営の実践的知識の概念や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営学の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。企業経営の実践的知識を複数把握し、授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題をしっかりと論述できること。	20%

評価の方法　授業回数に対して出席回数が３分の２以上の受講生に限り評価します。
成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。
授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	【重要】ガイダンス（授業概要･評価方法）	16	株式会社の統治 ①規模別の諸形態
2	経営学への招待 ①経営学はおもしろい！	17	〃 ②監査役設置会社
3	〃 ②企業の経営を考えよう	18	〃 ③指名委員会等設置会社
4	〃 ③マネジャーの仕事とは	19	〃 ④監査等委員会設置会社
5	〃 ④テイラーの科学的管理	20	企業の社会的責任 ①社会的責任の本質
6	〃 ⑤ファヨールの管理思想	21	〃 ②その内容と優先順位
7	〃 ⑥バーナードの組織理論	22	〃 ③企業の社会貢献活動
8	企業･会社の概念 ①企業・会社とは何か	23	〃 ④企業の反倫理的行動
9	〃 ②企業の諸形態	24	〃 ⑤コンプライアンス経営
10	〃 ③会社法の概要	25	企業価値創造 ①ステークホルダーと企業
11	〃 ④所有と経営の分離	26	〃 ②２つの企業価値創造経営
12	〃 ⑤合名・合資・合同会社	27	〃 ③米国型経営の教訓
13	〃 ⑥株式会社の特徴と役割	28	〃 ④企業の４つの価値創造
14	〃 ⑦企業統治の概念と目的	29	〃 ⑤企業価値創造経営の実践
15	中間試験（総括・達成度の確認）	30	期末試験（総括・達成度の確認）

【使用教材】

◇教科書：未定。

◇参考書：二神恭一編著『新版ビジネス・経営学辞典』中央経済社、2006年
そのほかの参考書は、授業中に紹介します。

【履修条件等】

◇この授業は、これから学ぶ経営学関連の科目を理解するのに必要な基礎的知識を養う目的があります。多少難しいと感じても、常に向上心を持って授業に臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語への理解が大切です。しかし、授業時間内にその都度、用語そのものの解説は行いません。そのため、わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。

◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇第１回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項など重要な内容を説明をしますので、必ず出席してください。

◇授業中に携帯電話やタブレット、パソコン、カメラなどの電子デバイス類を許可なく使用することを禁止します。指示に従わない場合は減点の上、欠席扱いとします。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経済学概論	清水（シミズ）　良樹（ヨシキ）
Introduction to Economics	基礎科目／通年／４単位

【授業概要】

経済はわたしたちの生活に密着しています。経済現象は日常生活にあふれていますが、これに疑問をもったことはありませんか？　たとえば、商品には必ず価格がついていますが、そもそもこの価格というのは何でしょうか？　あなたならどう答えますか？　こうした疑問に答えるためには、経済学を学ばなければいけません。

本講義では経済学の基礎理論を学ぶことを通して、わたしたちが生きている社会の仕組み、そして現代の経済問題を分析していきます。経済問題を議論できるエコノミストの視点を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
・経済学の基礎理論の習得 ・現代の経済問題に対する経済学的視点を養う	定期試験の結果と課題等によって成績を評価する。	定期試験90%、課題およびリアクションペーパー等の平常点10%
評価の方法　定期試験90%、課題やリアクションペーパー等の平常点10%により総合的に判断して成績を評価します。ただし、全講義の３分の１以上（５回以上）欠席（考慮すべき理由のないもの）した場合、単位取得を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ、内容	回	テーマ、内容
1	ガイダンス	16	ガイダンス
2	経済主体と経済活動	17	需要と供給
3	消費	18	価格の決定
4	投資	19	弾力性
5	政府支出	20	費用と便益
6	政府の役割①	21	生産性
7	政府の役割②	22	雇用
8	決済	23	株式と債券
9	貿易と決済	24	金融政策①
10	ＧＤＰ	25	金融政策②
11	戦後日本経済史（前編）	26	決済システム
12	戦後日本経済史（後編）	27	経済危機①
13	景気指標	28	経済危機②
14	物価	29	バブルの歴史
15	総括・達成度の確認	30	総括・達成度の確認

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から経済に関する新聞記事やニュースをチェックすること。経済学の入門書に目を通しておくと良い。

【その他の注意事項】

◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経済学概論	松田（マツダ）　岳（タケシ）
Introduction to Economics	基礎科目／通年／４単位

【授業概要】

企業経営は経済環境から大きな影響を受けており、社会で生きる私たちにとって経済の知識を身につけることは必要不可欠である。しかし、日々起こっている経済現象は複雑な要因が絡み合っており、そのままでは理解することが難しい。そのため絡み合った「糸」を解きほぐし、できるだけ単純化して理解する必要がある。「経済学」は経済現象を究極まで単純化・抽象化した上で体系化された学問である。抽象的なキーワードは馴染みが薄く、それゆえ敬遠されがちでもある。しかし、その意味は意外にも身近で、シンプルな疑問から解き明かすことができる。本講義では学生諸君が抱きそうな「素朴な疑問」を手掛かりとして、現実の経済問題への関心を高めるとともに、マクロ経済学の基礎の習得を目指す。「今を知る」ことに意欲的な学生の姿勢を求む。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マクロ経済政策の目標を理解できる	マクロ経済政策の目標を説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	23%
経済と財政政策の関係を理解できる	マクロ経済と財政政策の関係を説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	13%
経済と金融政策の関係を理解できる	マクロ経済と金融政策の関係を説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	14%
グローバル経済の問題を理解できる	グローバル化の諸問題を説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	23%
日本経済の諸問題を理解できる	現代日本の経済問題について説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	13%
21世紀の政治経済を理解できる	21世紀の政治経済を説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	14%
評価の方法　試験点100%（質問等を通じて積極的に授業に参加した場合、加点あり）。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	春学期ガイダンス	16	秋学期ガイダンス
2	マクロ経済学	17	自由貿易
3	経済成長	18	保護貿易
4	失業率	19	為替相場
5	インフレ	20	バブル・リレー
6	国際収支	21	国際金融危機
7	総需要と総供給	22	世界経済の視座
8	インフレ率と失業率	23	所得格差
9	財政政策と財政赤字	24	貧困問題
10	景気対策	25	人口減少
11	財政赤字と貯蓄率	26	環境と経済
12	お金と銀行	27	いざなみ景気
13	日本銀行	28	失われた3年
14	中央銀行と金融政策	29	アベノミクス
15	総括・達成度の確認(1)	30	総括・達成度の確認(2)

【使用教材】

◇教科書：ガイダンス時に指示する。

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇10回以上欠席すると評価対象外になる。

◇事前に履修していなければならない科目はない。

◇授業を妨害する行為（私語、携帯電話の使用など）は一切許さない。

◇３回以上注意を要するような行為をした学生には退席を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回の講義、教科書などを通じて指示する。

◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

【その他の注意事項】

◇経済・社会の動向を勘案して授業計画は変更する場合がある。

◇発言や質問をするなど、積極的に学ぶ姿勢を持っていることが望ましい。

◇質問は口頭、書面、メールで受け付けている。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

会計学概論	石塚（イシヅカ） 一彌（カズヤ）
Introduction to Accounting	基礎科目／通年／４単位

【授業概要】

企業活動に直接関係していない学生にとっては、理論としての会計学が実感としてはなじみの薄い学問となっている。このような会計学が“本来は”受講生に身近な領域であることを本講義を通じて感じてもらうことを最大の目標としたい。春学期は、まず、会計へのイメージづくりを眼目とし、会計の考え方（理論）を中心に、講義を進める。

秋学期は、春学期に培った会計の思考が、企業会計の数値の把握と計算にどのようにつながっているのかを検討する。講義では、受講生自らが、実際に問題を解き、計算することで、会計に対する知識を確実なものとすることを目標に置く。

【学習の到達目標と評価基準】

春学期

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の修得の有無	会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
会計に関する基礎的な理解の程度の確認	会計に関する基礎的な知識の修得の確認の如何について、予行試験の実施により確認する。	30%
会計に関する理解の深度の程度の確認	会計の意義、必要性、現状における問題点の把握とその解決のため素養を修得しているか否かにつき、本試験の実施により確認する。	40%

秋学期

基礎的前提に関する知識の修得の有無	会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
税務会計に関する基礎的な知識の修得の確認	会計に関する基礎的な理解の程度について、予行試験の実施により確認する。	30%
税務会計に関する理解の深度の確認	会計の意義、必要性、現状における問題点の程度把握とその解決のため素養を修得しているか否かの確認につき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、授業参加度30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション１	16	計算問題１
2	帳簿の記録について	17	計算問題２
3	簿記と会計	18	計算問題３
4	企業活動の把握	19	計算問題４
5	会計の歴史と思考	20	計算問題５
6	企業会計の基準１	21	小括（理解度チェックテスト１）
7	企業会計の基準２	22	計算問題６
8	企業会計の基準３	23	計算問題７
9	企業会計の基準４	24	計算問題８
10	貸借対照表の検討１	25	計算問題９
11	貸借対照表の検討２	26	計算問題10
12	貸借対照表の検討３	27	計算問題11
13	貸借対照表の検討４	28	計算問題12
14	損益計算書の再検討	29	計算問題13
15	総括・達成度の確認	30	総括・達成度の確認

【使用教材】

◇毎回レジュメを配付し、それに従って講義を行う。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし（むしろ復習中心の勉強が望まれる)。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

会計学概論	土井（ドイ）　充（ミツル）
Introduction to Accounting	基礎科目／通年／４単位

【授業概要】

経営学科の諸科目を学習するための基礎となる、財務会計および管理会計などに関する入門的な領域を取り上げる。春学期は、会計情報の分析手法および財務諸表の作成方法の概要の学習を通じて、財務諸表の種類や現行の会計基準の特徴などを学ぶ。秋学期は、春学期にに引き続き財務会計の個別テーマならびに管理会計や税務会計などの会計学の諸領域を学ぶ。そのため本講義では、配賦プリントを用いながら各テーマを説明し、必要に応じて、適宜ケースを用いながら理解を深めて行く。

【学習の到達目標と評価基準】

春学期

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基本ルールを正しく理解し、簿記一巡の手続きができること	設問に対する回答によって評価。 取引の仕訳・転記から貸借対照表・損益計算書の作成までのプロセスを理解していること。	20%
財務会計に関する法制度や基準等を理解していること	設問に対する回答によって評価。 会社法や金融商品取引法に基づく会計のはたらきや、制度上開示が求められる書類に関する基本的な用語や様式を理解していること。	30%
損益計算・資産評価などわが国の会計基準の特徴を理解していること	設問に対する回答によって評価。 収益費用の認識・測定基準や資産評価基準など日本の現行会計の特徴を理解していること。	30%
財務諸表分析の手法を理解し、目的に応じた分析を行えること	設問に対する回答によって評価。 収益性や安全性など各指標の意味および計算方法、判断基準を理解し、数値の意味を適切に読み取ることができること。	20%

秋学期

財務会計の諸テーマに関する基本概念を理解していること	設問に対する回答によって評価。 キャッシュ・フロー計算書や連結財務諸表の作成・分析方法、ならびにその他諸領域（国際会計や中小企業会計、環境会計、監査、公会計など）の基礎概念を理解していること。	30%
管理会計の基本概念を理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上高、変動費、固定費、限界利益の相互関係に基づく損益分岐点分析、および計画、実行、比較検討、改善策というマネジメントサイクルを支える予算管理等を理解していること。	30%
税務会計の基本原理を理解していること	設問に対する回答によって評価。 税務会計の基本用語、ならびに課税所得の計算方法を理解していること。	20%
現行会計の概要を体系的に理解していること	設問に対する回答によって評価。 財務会計・管理会計・税務会計など会計の種類と当該分野における基本原理を理解するとともに、個々の会計の関係性を理解していること。	20%
評価の方法　３分の２以上の出席を前提として試験70%、レポートないし小テスト30%で評価する。 レポートないし小テストは、各テーマの理解の確認のため複数回課す。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	ガイダンス
2	会計の種類	17	キャッシュ・フロー計算書(1)
3	制度会計	18	キャッシュ・フロー計算書(2)
4	複式簿記の基本原理(1)	19	連結財務諸表(1)
5	複式簿記の基本原理(2)	20	連結財務諸表(2)
6	貸借対照表の読み方	21	国際会計基準(ＩＦＲＳ) (1)
7	棚卸資産の会計	22	国際会計基準(ＩＦＲＳ) (2)
8	金融資産の会計	23	中小企業の会計
9	有形固定資産の会計	24	監査
10	無形固定資産と繰延資産	25	税務会計(1)
11	損益計算書の読み方	26	税務会計(2)
12	期間損益計算の基本原則(1)	27	管理会計(1)
13	期間損益計算の基本原則(2)	28	管理会計(2)
14	財務会計の目的とルール	29	その他の諸領域
15	総括・達成度の確認	30	総括・達成度の確認

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：必要に応じて演習中に配付します。

【履修条件等】

◇本講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。
予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

会計学概論	光澤（ミツザワ）　美芽（ミメ）
Introduction to Accounting	基礎科目／通年／４単位

【授業概要】

日頃意識することは少ないが、私たちはさまざまな企業と関わりながら生活をしている。企業は種々の商品や製品およびサービスを私たちに提供してくれる。そして企業は、自身が営む経済活動を「会計」の手続きを通して記録・測定・報告する必要がある。

では、「会計」とはいったいどんなものだろうか。

本講義は、会計学の全般的な知識を習得するため、財務会計、管理会計、財務分析、財務諸表監査等の各分野に関する基礎概念について取り扱う。具体的には、まず会計学の基礎となる複式簿記の基本ルールを学習し、会計の意義や種類、機能、役割をはじめ、会計手続きのルール、財務情報の読み方などについて学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
簿記・会計に関する専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計の意義、会計の種類、会計に関する基礎的な用語や概念を理解し、会計の役割や機能を説明できること。	20%
複式簿記の基本ルールを正しく理解し、簿記一巡の手続きと財務諸表の関係を理解する	設問に対する回答によって評価。仕訳のルール、損益計算書や貸借対照表の意義および中身を理解し、説明ができること。	20%
会計上のルールである会計基準や、会計手続を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計公準や発生主義などの基礎概念、および棚卸資産の期末評価や、固定資産の減価償却、原価計算の方法など、それぞれの具体的な手続きについて、その意義および必要性を理解し説明できること。	30%
財務情報の読み方を理解し、利用できるようにする。また管理会計や監査の意義を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。財務情報を用いた分析ができるようにする。また、会計の諸分野（財務会計・管理会計・監査）について基本的な考え方を理解し、説明できること。	30%
評価の方法　中間試験40%、本試験40%、確認テスト（小テスト）20%を総合的に判断する。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の３分の２以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	春学期の復習
2	会計の意義と役割(1)	17	国際会計基準とは
3	会計の意義と役割(2)	18	金融資産の会計
4	複式簿記の基礎原理(1)	19	棚卸資産の会計
5	複式簿記の基礎原理(2)	20	有形固定資産の会計
6	貸借対照表と損益計算書	21	研究開発費および無形資産の会計
7	その他の財務諸表	22	繰延資産と引当金
8	確認テスト（小テスト）および解説	23	確認テスト（小テスト）および解説
9	日本の会計制度(1)	24	企業結合とのれんの会計
10	日本の会計制度(2)	25	税効果会計
11	期間損益計算の基本原則(1)	26	製造業における会計
12	期間損益計算の基本原則(2)	27	原価計算
13	資産評価の基本原則(1)	28	公認会計士と財務諸表監査
14	資産評価の基本原則(2)	29	監査報告書
15	総括・達成度の確認	30	総括・達成度の確認

※状況によっては多少前後する場合もある。

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇真摯な授業態度で授業に臨むことを履修条件とする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

マーケティング概論Ⅰ	花尾（ハナオ） 由香里（ユカリ）
Principles of Marketing Ⅰ	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、マーケティングの基本的な理論と戦略について学習する。企業の経営な活動の中で、マーケティングがどのような役割を担っているのかを学んだ後、戦略を立案する際に必要な分析方法や理論を中心に解説する。実在の企業や商品の例を取り上げ、マーケティングを現実的な問題として理解していくことも目的としている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの考え方と専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティングの基本的な考え方とアプローチ方法を理解し、マーケティングに関する用語を答えられること。	25%
マーケティング戦略立案のための環境分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な環境分析の手法について理解し、答えられること。	20%
マーケティング戦略立案のための市場分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な市場分析の手法について理解し、答えられること。	20%
マーケティング戦略立案のための競争分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な競争分析の手法について理解し、答えられること。	20%
評価の方法　70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	マーケティングとは	授業の内容とマーケティングの考え方
2	マーケティング･コンセプト	コンセプトの変遷、ニーズとウォンツ
3	マーケティングの範囲	事業領域の設定、マーケティング・マイオピア
4	マーケティングのプロセス	４Ｐ概念、マーケティングの実行プロセス
5	環境分析(1)	企業を取り囲む環境、機会と脅威
6	環境分析(2)	企業の強みと弱み、ＳＷＯＴ分析
7	市場細分化	市場細分化と細分化の切り口、ターゲットの選定
8	ポジショニング	ポジショニングマップによる分析、製品差別化
9	製品ライフサイクル	製品の寿命とライフサイクル、ライフサイクル別戦略
10	ポートフォリオ分析	ポートフォリオ・マトリックス、戦略的事業単位
11	製品・市場マトリックス	アンゾフの製品・市場マトリックスと成長ベクトル
12	競争分析	競争のファイブ・フォース、集中度の分析
13	競争優位戦略１	競争の激しさを決める要因、参入障壁と参入阻止戦略
14	競争優位戦略２	業界の競争戦略分析、競争の基本戦略
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇私語を慎み周囲に迷惑をかけないこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

マーケティング概論Ⅰ	日野（ヒノ）　隆生（タカオ）
Principles of Marketing Ⅰ	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

マーケティングという用語は、ビジネス社会において、しばしば見聞きするが、多様な意味に用いられ、また、時代とともに概念は進化してきている。

マーケティングは、企業の基本的機能の一つであるが、あらゆる経営体に適応可能であると考えられる。

本科目では、マーケティング論の歴史から現代社会におけるマーケティングとは何か、そしてどのように活用するか、具体的事例とともに学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的用語を理解する	授業内小レポートによって評価する。 講義内容の要約を記述した小レポートによって、マーケティング論の基本的用語の理解度を判定する。	40%
戦略としてのマーケティング論を理解する	レポート提出によって評価する。 テキスト内容の製品戦略、価格戦略、チャネル戦略、プロモーション戦略など、マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	20%
現代におけるマーケティングの意義を理解する	期末試験によって評価する。 マーケティング論の現代における意義について、記述内容によって評価する。	40%
評価の方法　授業内小レポート40%、レポート20%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方、マーケティングとは何か
2	マーケティング・コンセプト	マーケティング・コンセプトの変遷
3	基本的戦略	マーケティングの基本的戦略
4	製品戦略①	マーケティング論における製品の概念
5	製品戦略②	製品ミックス戦略、新製品開発
6	価格戦略①	価格決定方法
7	価格戦略②	価格戦略
8	プロモーション戦略①	プロモーションの概念
9	プロモーション戦略②	プロモーションの手段
10	流通チャネル戦略①	流通チャネルの概念と類型
11	流通チャネル戦略②	流通チャネル戦略
12	関係性マーケティング	リレーションシップ・マーケティングとは何か
13	グリーン・マーケティング	グリーン・マーケティングとは何か
14	マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチの意義と方法
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇教科書：『マーケティング戦略論』学文社

【履修条件等】

◇さまざまなメディアによってマーケティングに関するニュースを見つけてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当部分を読んでくる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

マーケティング概論Ⅰ	広瀬（ヒロセ）　盛一（モリカズ）
Principles of Marketing Ⅰ	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

マーケティングの基礎知識から、マーケティングにおけるマネジメントの考え方、マーケティングの実際までを理解する。マーケティングは、商品やサービスの販売を促進する手段として捉えられがちであるが、企業の戦略や非営利組織の活動とも深く関わっている。製品を開発する企業、製品を消費者に届ける流通業、製品を購入し利用する消費者など、様々な視点からマーケティングを学習する。テキストだけでなく、事例なども用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的な用語について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。マーケティングの定義、コンセプトの変遷、マーケティング・ミックス、マーケティングの範囲について答えられること。	25%
市場環境の分析について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。企業を取り巻く環境、環境を分析するための考え方などについて答えられること。	25%
消費者行動とマーケティング戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。消費者を購買に導く、動機づけやそのフレームワーク、個人的な要因について答えられること。	25%
製品戦略とブランドについて理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。製品のとらえ方、製品開発に関わる考え方、ブランドについて答えられること。	25%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	授業の進め方、マーケティングとは何か
2	マーケティングのコンセプトと基本用語	コンセプトの変遷について
3	マーケティング・ミックス	４Ｐの概念について
4	マーケティングの範囲	マーケティングの対象について
5	市場環境の分析（1）	企業のミクロ環境、ＳＷＯＴ分析について
6	市場環境の分析（2）	企業のマクロ環境、人口動態環境などについて
7	消費者行動（1）	消費者の意思決定プロセスについて
8	消費者行動（2）	意思決定に影響する要因について
9	マーケティング戦略の基礎	市場細分化、ターゲティング、ポジショニングについて
10	製品戦略（1）	製品のとらえ方について
11	製品戦略（2）	サービスや組織のマーケティングについて
12	事例研究	製品戦略の事例について
13	製品開発	製品開発と製品ライフサイクルについて
14	ブランドマネジメント	ブランド・エクイティとブランド・アイデンティティについて
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『現代マーケティング論』第２版　実教出版

【履修条件等】

◇「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」などの関連科目を受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本やニュースで関連した資料について目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業に集中すること。態度が悪い場合には、退出を命じる場合もある

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

マーケティング概論Ⅱ	花尾（ハナオ） 由香里（ユカリ）
Principles of Marketing II	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、マーケティングを実践するための基本的な戦略と理論について学習する。製品戦略、価格戦略、流通戦略、プロモーション戦略というパートに分け、それぞれの戦略を立案するための基本的な知識を習得するのが狙いである。実在の企業例を取り上げ、マーケティングを現実的な問題として理解していくとともに、新しいマーケティングの流れについても解説する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティング戦略に関わる専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略のアプローチ方法を理解し、マーケティング戦略に関する用語を答えられること。	20%
マーケティングにおける製品戦略と価格戦略について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略における製品戦略の手法やブランド理論、価格戦略等について理解し、答えられること。	25%
マーケティングにおけるプロモーション戦略と流通戦略について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略におけるプロモーションの種類やアプローチ方法、流通の仕組み、流通戦略の手法等について理解し、答えられること。	25%
マーケティングの最新の動向や理論について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略の最新の動向やソーシャルマーケティング、関係性マーケティングの理論について理解し、答えられること。	15%
評価の方法　70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	マーケティング戦略とは	授業の内容とマーケティング戦略について
2	製品の基礎知識	製品の中核便益と付随機能、新製品の種類
3	新製品開発戦略	新製品の開発プロセスと事例
4	製品ミックス戦略	製品のアイテムとライン、製品ライン戦略
5	ブランド・マネジメント１	ブランドの役割、ブランドロイヤルティ
6	ブランド・マネジメント２	ブランド名戦略、ブランド拡張戦略
7	価格戦略１	価格の決定方法、新製品の価格戦略
8	価格戦略２	製品ミックス、心理面を考慮した価格戦略
9	流通の仕組み	流通の仕組みと役割、日本の流通システムの特徴
10	流通チャネル管理	チャネルの選択と管理、パワーコンフリクト
11	プロモーション戦略の基礎	プロモーションの種類、プロモーション・ミックス
12	広告戦略	目的設定と媒体の選択、メディア・ミックス戦略
13	販売促進とＰＲ活動	販売促進の目的設定と手段、ＰＲ戦略
14	ソーシャルマーケティング 関係性マーケティング	非営利組織のマーケティングと社会志向のマーケティング、顧客との関係作りの戦略
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇私語を慎み周囲に迷惑をかけないこと。

◇「マーケティング概論Ｉ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

マーケティング概論Ⅱ	日野（ヒノ）　隆生（タカオ）
Principles of Marketing II	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

マーケティングという用語は、ビジネス社会において、しばしば見聞きするが、多様な意味に用いられ、また、時代とともに概念は進化してきている。

マーケティングは、企業の基本的機能の一つであるが、あらゆる経営体に適応可能であると考えられる。

本科目では、伝統的なマーケティング論をもとに、サービス業を中心としたマーケティングの理論と具体的なケースをとりあげる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的用語を理解する	授業内の小レポートによって評価する。 講義内容の要約を記述した小レポートによって、マーケティング論の基本的用語の理解度を判定する。	40%
サービス・マーケティングの特質を理解する	レポート提出によって評価する。 テキスト内容のケースから、マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	20%
現代におけるマーケティングの意義を理解する	期末試験によって評価する。 マーケティング論の現代における意義について、記述内容によって評価する。	40%
評価の方法　授業内小レポート40%、レポート20%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方、マーケティングとは何か
2	サービスの特性	サービスの概念・サービス業とは
3	サービス・マーケティング	サービス・マーケティング論の特徴
4	サービス・エンカウンター	サービス・エンカウンターとは何か
5	サービスの品質と満足	サービスの品質評価、満足と歓喜
6	従業員満足と顧客満足	サービス・プロフィット・チェーンの考え方
7	サービス・デリバリー	サービス・デリバリー・システム
8	マーケティング・コミュニケーション	サービス・マーケティング・コミュニケーション
9	キャパシティ・マネジメント	サービスの生産への効率的配分
10	サービス人的資源管理	サービス品質と従業員の関わり
11	サービス・ブランディング	サービスのブランド構築
12	宿泊施設	ホテル、ペンション、民宿のマーケティング
13	医療サービス	医療におけるサービスとマーケティング
14	アミューズメント施設	アミューズメント施設のマーケティング
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇『サービス・マネジメントの理論と実践』五絃舎

【履修条件等】

◇さまざまなメディアによってマーケティングに関するニュースを見つけてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当部分を読んでくる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

マーケティング概論Ⅱ	広瀬（ヒロセ）　盛一（モリカズ）
Principles of Marketing II	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

ケティングの実際までを理解する。マーケティングは、商品やサービスの販売を促進する手段として捉えられがちであるが、企業の戦略や非営利組織の活動とも深く関わっている。製品を開発する企業、製品を消費者に届ける流通業、製品を購入し利用する消費者など、さまざまな視点からマーケティングを学習する。テキストだけでなく、事例なども用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
価格戦略と流通戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。価格戦略、流通チャネルの構造、流通に関連する組織、チャネルの設計について答えられること。	25%
広告戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。広告の種類、広告目標、媒体戦略、表現戦略について答えられること。	25%
販売促進、ＰＲ、人的販売、リレーションシップ・マーケティングについて理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。販売促進の種類、ＰＲの仕組み、人的販売の役割、リレーションシップ・マーケティングに関連するコンセプトについて答えられること。	25%
グローバルマーケティングとインターネット・マーケティングについて、理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。グローバルマーケティングの課題、インターネット・マーケティングの可能性と問題点について答えられること。	25%

評価の方法　70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	授業の進め方、価格、流通、販売促進戦略について
2	価格戦略	価格の設定方法について
3	流通チャネル(1)	流通チャネルの構造と関連する組織について
4	流通チャネル(2)	チャネルの設計、小売業と卸売業について
5	事例研究(1)	流通の事例について
6	広告戦略(1)	目標や媒体の選択について
7	広告戦略(2)	広告の表現について
8	販売促進とＰＲ	プロモーションの種類とＰＲ活動について
9	事例研究(1)	広告の事例について
10	人的販売とリレーショマーケティングンシップ	人的販売、リレーションシップ、顧客満足について
11	グローバルマーケティング	グローバル環境とマーケティングミックスについて
12	事例研究(3)	リレーションシップマーケティングについて
13	インターネット・マーケティング(1)	インターネットを用いたマーケティングについて
14	インターネット・マーケティング(2)	インターネットを用いたマーケティングについて
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『現代マーケティング論』第２版　実教出版

【履修条件等】

◇「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」などの関連科目を受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本やニュースで関連した資料について目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業に集中すること。態度が悪い場合には、退出を命じる場合もある。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

企業論Ⅰ	エンジョウジ　タカヒロ 円城寺　敬浩
Modern Corporation Ⅰ	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義では「企業論Ⅱ」で扱う諸問題を考えるための基礎的知識等の修得を目的とする。現代企業の諸形態やその役割を、またとくに株式会社におけるその基本的な仕組みや特徴等を理解することに重点をおく。必要に応じて、ＶＴＲ等を利用することもある。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企業の意義および企業形態に関して理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で企業の果たす役割やさまざまな企業形態の基本的な仕組みを理解しているか。	10%
株式会社の意義とその基本的な仕組みを理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で株式会社の果たす役割や株式会社の基本的な仕組みを理解しているか（例えば会社機関など)。	30%
大企業の意義と日本企業の支配構造に関して理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で大企業が果たす役割や、日本企業の支配構造に関して理解できているか。	30%
大企業のコーポレート・ガバナンスに関する基本枠組みを理解していること	設問に関する回答によって評価する。大企業のコーポレート・ガバナンスに関する仕組み等を理解しているか。	30%
評価の方法　本試験70%、受講態度等30%、レポート等（＋α）で総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	「企業論Ⅰ」の意義と内容等に関する紹介
2	企業の役割	現代社会における企業の意義に関する理解
3	企業の諸形態①	企業形態に関する理解
4	企業の諸形態②	３回目のつづき
5	株式会社の誕生	株式会社の意義に関する理解
6	株式会社の仕組み①	株式会社に関する基本的な仕組みの理解
7	株式会社の仕組み②	株式に関する理解
8	株式会社の仕組み③	会社機関に関する理解
9	株式会社の仕組み④	８回目のつづき
10	大企業とは何か①	現代社会における大企業の意義に関する理解
11	大企業とは何か②	大企業の支配構造に関する理解
12	大企業とは何か③	日本企業の支配構造に関する理解
13	大企業とは何か④	大企業のコーポレート・ガバナンスに関する理解①
14	大企業とは何か⑤	大企業のコーポレート・ガバナンスに関する理解②
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸男編著『企業論』有斐閣アルマ、2006年

◇参考書：高橋俊夫編著『コーポレート・ガバナンスの国際比較―米、英、独、仏、日の企業と経営―』中央経済社、2006年

高橋俊夫著『企業論の史的展開』中央経済社、2007年

【履修条件等】

◇他の受講生に迷惑を掛ける行為（私語等）をした場合、受験停止にする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも復習を重視する。講義開始時に前回の復習を簡単にするが、各自その都度、理解するように復習しておくこと。予習は教科書や参考書等を利用して、事前に講義関連箇所を読んでおくことをすすめる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

企業論Ⅰ	ワタナベ　ヤスヒロ 渡辺　泰宏
Modern Corporation Ⅰ	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

わたしたちの生活は、企業なしには成り立たないほど、企業に依存している。多くの人が会社組織に所属し、所得を得るための手段としてだけではなく、働きがいや生きがいを得る場となっている。

本講義では、現代の企業社会への関心を深め、企業やそこで働く人に関わる諸問題に対する、個々の問題意識の醸成を最終到達目標とする。「企業とは何か」をテーマに、企業社会の中心的存在である「株式会社」に注目し、とくに大企業の機能と構造について学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験で評価する。企業社会や株式会社の実態について専門用語を用いて正確に説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験で評価する。企業社会や株式会社制度を読み解く諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験で評価する。企業とそれを取り巻く株式会社制度や企業制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験で評価する。企業や株式会社制度の知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるか。	40%
評価の方法　本試験およびレポート等を80%、受講態度を20%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法等について
2	経済発展と生活の変化、大企業の実態	戦後日本経済の発展と企業社会の成立
3	企業の戦略	企業の戦略とは何か
4	企業と消費者	企業と消費者との関係を考える
5	企業の国際化	多国籍化・グローバル化する企業
6	株式会社の歴史	株式会社制度成立の歴史を学ぶ
7	株式会社の機能と構造	会社の種類と仕組みを学ぶ
8	株式会社の現実	株式会社制度の実態を学ぶ
9	大企業とは何か	社会における大企業の役割を学ぶ
10	大企業の支配構造(1)	大企業を支配するものは誰か
11	大企業の支配構造(2)	大企業を支配するものは誰か
12	大企業の性格と機能	大企業の管理はいかになされているか
13	大企業の経営者	経営者支配の実態と責任
14	大企業のコーポレート・ガバナンス	企業の統治機構の仕組みについて学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸夫著『企業論（第３版)』有斐閣アルマ、2011年

【履修条件等】

◇「経営学概論」などの基礎科目を修得済みであること。「企業論Ⅱ」と合わせて履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書や関連書籍の内容を予習、復習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

企業論Ⅱ	エンジョウジ　タカヒロ 円城寺　敬浩
Modern Corporation II	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義では、主として日本の大企業に焦点を当て、それに関わる諸問題を取り上げていく。大企業に関わる諸問題の考察を通して、現代企業の実像に迫りたい。

必要に応じてＶＴＲ等を利用する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本型とは何か。またその議論の意義について理解できていること	設問に関する回答によって評価する。日本型を議論する意義について理解できているか。	10%
日本型の企業間関係について基本的な理解ができていること	設問に関する回答によって評価する。日本型の企業間関係と近年のその動向に関して理解できているか。	30%
日本型の雇用システムについて基本的な理解ができていること	設問に関する回答によって評価する。日本型の雇用システムと近年のその動向に関して理解できているか。	30%
企業と社会との関係および企業の社会的責任について基本的な理解ができていること	設問に関する回答によって評価する。企業と社会との関係および企業の社会的責任の内容および意義について理解できているか。	30%
評価の方法　本試験70%、受講態度等30%、レポート等（＋α）で総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	「企業論Ⅱ」の講義内容等の紹介
2	日本型企業システムの動向	「日本型」に関する考察
3	企業間関係①	企業集団に関する考察
4	企業間関係②	３回のつづき
5	企業間関係③	企業系列に関する考察
6	企業間関係④	５回のつづき
7	日本的雇用慣行①	終身雇用制や年功制等に関する考察
8	日本的雇用慣行②	７回のつづき
9	日本の文化と行動様式①	「日本型」を醸成する基盤に関する考察
10	日本の文化と行動様式②	９回のつづき
11	企業と社会	「企業と社会」に関する考察
12	企業の社会的責任①	企業の社会的責任の基礎概念の理解
13	企業の社会的責任②	企業の社会的責任の動向に関する考察
14	「企業論Ⅱ」の総括	「企業論Ⅱ」の総括と本試験に関して
15	本試験	「企業論Ⅱ」の内容の理解度を確認するために、ペーパー試験を実施

【使用教材】

◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸男編著『企業論』有斐閣アルマ、2006年

◇参考書：高橋俊夫編著『コーポレート・ガバナンスの国際比較―米、英、独、仏、日の企業と経営―』中央経済社、2006年

高橋俊夫著『企業論の史的展開』中央経済社、2007年

【履修条件等】

◇他の受講生に迷惑を掛ける行為（私語等）をした場合、受験停止にする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも復習を重視する。講義開始時に前回の復習を簡単にするが、各自その都度、理解するように復習しておくこと。予習は教科書や参考書等を利用して、事前に講義関連箇所を読んでおくことをすすめる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

企業論Ⅱ	ワタナベ　ヤスヒロ 渡辺　泰宏
Modern Corporation II	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

わたしたちの生活は、企業なしには成り立たないほど、企業に依存している。多くの人が会社組織に所属し、所得を得るための手段としてだけではなく、働きがいや生きがいを得る場となっている。

本講義では、現代の企業社会への関心を深め、企業やそこで働く人に関わる諸問題に対する、個々の問題意識の醸成を最終到達目標とする。「日本企業の特殊性は何か」をテーマに、日米の国際比較や日本的経営論を学ぶことによって、日本の大企業の機能と構造について学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験で評価する。日本企業の特殊性や大企業の実態について専門用語を用いて正確に説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験で評価する。日本企業の特殊性や大企業の実態を読み解く諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験で評価する。日本企業の特殊性とそれを取り巻く諸制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験で評価する。日本企業に関する知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるか。	40%
評価の方法　本試験およびレポート等を80%、受講態度を20%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法等について
2	企業と官僚制	官僚制組織の仕組みを学ぶ
3	企業組織の諸形態	組織の諸類型を学ぶ
4	企業組織と管理論の展開(1)	科学的管理と大企業の成立
5	企業組織と管理論の展開(2)	組織の管理とは何か
6	日本企業と従業員	日本企業における企業と従業員の関係を学ぶ
7	日本型株式会社制度の構造と実態	日本型株式会社制度の特徴とは何か
8	日本型企業結合様式の独自性	企業系列と企業集団
9	「家」としての日本企業	家の論理とは何か
10	日本的経営	日本的経営の理論と実態
11	企業の社会的貢献	企業の社会的貢献と社会的責任について学ぶ
12	企業と地域社会	企業と地域社会との関係について学ぶ
13	企業統治と企業倫理	企業倫理とは何か
14	社会的企業	社会的企業とは何か
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸夫著『企業論（第３版)』有斐閣アルマ、2011年

【履修条件等】

◇「経営学概論」などの基礎科目を修得済みであること。「企業論Ｉ」と合わせて履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書や関連書籍の内容を予習、復習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経営管理論	名取（ナトリ） 修一（シユウイチ）
Business Management	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

企業は、私たちの生活の中で切り離せない存在になっています。私たちが毎日生活を送っていく中で、企業活動によって生み出された商品（モノ）を使い、豊かさを享受してきています。また、商品を生産したり販売したりする過程では、「人」が「働く」ことで人や社会のつながりを形成し、自己の存在意義が発揮されたり確信したりもします。そうした、人々が生きていく上での「生活の糧」として存在している現代の企業は、激しい市場競争を乗り越えていかなければ存続することができません。

企業が存続していくためには、利潤生産を達成し、商品を生産し続けなければなりません。その目的達成のために、人・モノ・カネという資源を組織化し統合していく必要があります。本講義では、こうした諸資源を統合化するための経営管理技術を学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企業の概念を学ぶ	・企業とは何か、企業経営活動とは何かを理解する ・企業の存在意義としての生産活動の内容を理解する ・商品および商品生産過程の意味や内容を理解する	20%
企業の社会的役割を学ぶ	・企業が関わる４つの市場と、そのグローバル化にる変化を理解する ・ステークホルダーと、そのグローバル化による変化を理解する ・企業経営の社会的責任の遂行を理解する	20%
経営管理活動の二面性と組織効率性基準の設定を学ぶ	・利潤生産と商品生産の二つの生産活動の性質の違いを理解する ・経営管理の行動基準は変化することを理解する	20%
経営管理技術の変遷を学ぶ	・経営管理技術の歴史的変化を理解する ・近現代の経営管理の特徴を理解する ・コンティンジェンシー理論を理解する ・組織行動と環境とのシステムを理解する	20%
社会技術システム論を学ぶ	・企業行動の柔軟性創造を理解する ・組織成員に求められる柔軟性を理解する ・機械的管理システムと有機的管理システムの違いと現状を理解する	20%
評価の方針　本試験70%、出席状況（受講態度含む）30%、レポート等（＋α）で総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業概要、評価方法の説明
2	企業経営を概観する①	企業経営が関わる市場と競争原理を学ぶ
3	企業経営を概観する②	基本的な事業内容と利潤生産・商品生産の重層構造を考える
4	生産活動の社会的意義	ステークホルダーと社会的意義を理解する
5	マネジメントとは何か	経営管理活動の効率性基準とその二重性を考える
6	分業論を学ぶ	管理職能と作業職能の内容と構造を理解する
7	個人行動の組織化過程	個人行動の内容を理解し、組織化過程のメカニズムを学ぶ
8	動機づけ理論を学ぶ	個人の動機の内容や動機づけ理論を学ぶ
9	管理過程論を学ぶ	マネジメント・サイクルを理解し、自己管理について考える
10	マネジメントの変遷①	マネジメントの成立過程と今日までの展開の特質を学ぶ
11	マネジメントの変遷②	人間関係論の展開と意思決定論、自律的人間像を考える
12	企業の管理組織構造	トップ・ミドル・ロワー・マネジメントの構造と役割を学ぶ
13	企業組織の構造を学ぶ	小規模企業と大規模企業の組織機構の違いを考える
14	企業環境と組織柔軟性	機械的管理システムと有機的管理システムの重層性を考える
15	まとめ	まとめと試験について

【使用教材】

◇教科書：講義の中で指示します。

◇参考書：塩次喜代明、高橋伸夫、小林敏男著『経営管理』有斐閣アルマ

◇その他：講義の中で資料を配布します。

【履修条件等】

◇授業を受ける際には、静粛に受講してください。

◇新聞、雑誌等メディアを通じて時事情報を捉えておいてください。

◇授業ノートの作成では、板書のみならず積極的にメモを取るようにしてください。
自身独自のノート作成に心掛けてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇自身で作成したノートは、講義前に前回の内容を確認し復習し積極的に活用してください。

【その他の注意事項】

◇配布した資料は各自で管理してください。

◇各自出席管理を行ってください。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経営組織論Ⅰ	ヤマグチ　ヨシアキ 山口　善昭
Organization Theory I	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

経営学は、一般に企業を研究対象としますが、企業にもさまざまなものがあります。そこで組織という抽象概念を用いてどのような企業にでも適用できるようにしています。しかし、この組織というものがどのようなものかはまだはっきりとはわかっていません。この授業では、さまざまな角度からこの組織について考えていきます。

「経営組織論Ⅰ」では、社会学から見た組織論の位置づけ、組織論の歴史、組織とは何か、システムとしての組織、組織の具体的な形態について学びます。

授業は一方的に講義してもあまり効果がないと考えています。したがって、授業は講義と質問を織り交ぜて行います。質問には積極的に答えるようにしてください。その方が理解が早いと思います。

また授業は出席するのが基本です。怠けて授業を休みすぎたり教室を抜け出したりして単位をもらえることは絶対にありませんから、怠けたい人は受講しない方がよいでしょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
組織の概念を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな概念に説明できること。	25%
組織に関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな学説を説明できること。	25%
さまざまな組織モデルの違いを理解していること	設問に対する回答によって評価。パラダイムの違いを説明できること。	25%
組織理論を応用して、具体的な方法を提案できること	設問に対する回答によって評価。理論を理解し具他的な方法を提案できること。	25%
評価の方法　70%以上の出席を必要条件として試験95%、授業参加度５%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	経営組織論とは	マクロ、ミクロの違い、社会学における位置づけ
2	学説(1)	科学的管理法
3	学説(2)	官僚制
4	学説(1)、(2)の問題点	ビデオによる解説
5	学説(3)	人間関係論
6	学説(4)	バーナードの組織論
7	学説(5)	サイモンの意思決定論
8	学説(6)	コンティンジェンシー理論とネオコンティンジェンシー理論
9	学説(7)	情報処理モデルと資源依存モデル
10	メタファー	メタファーとしての組織モデル
11	学説(8)	Ｊ.Ｄ.トンプソンの組織理論
12	組織構造	ライン、ファンクショナル、ライン・アンド・スタッフ
13	組織形態	職能別組織、事業部制組織、その他
14	まとめ	非合理的組織論
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：高橋、山口、磯山、文著『経営組織論の基礎』中央経済社、1998年

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書を読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇欠席が多いと試験を受けられません。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経営組織論Ⅰ	ワタナベ　ヤスヒロ 渡辺　泰宏
Organization Theory I	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義では、経営学の学問領域の中でも「人と組織」の関係に注目し、組織における人間行動についての基礎的知識を学ぶことによって、現代企業社会に対する個々の問題意識の醸成を最終到達目標とする。とくにマネジメントと経営組織論の成立の歴史を振り返ることで、現代における「人と組織」の関係の在り方を模索する。講義は主に学説史を中心に取り上げるが、現代の企業組織の問題に照らし合わせ考えることで、理解を深められるように進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験で評価する。経営組織の専門用語を正確に理解し説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験で評価する。経営組織の諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験で評価する。経営組織と現代企業制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験で評価する。経営組織の知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるか。	40%
評価の方法　本試験およびレポート等を80%、受講態度および出席状況を20%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	経営組織の展開について
2	経営学のはじまり	産業革命とアメリカ経営学の発展について
3	経営管理論の展開	科学的管理について
4	全社的管理論の展開	大規模組織の管理について
5	ホーソン研究	初期の集団研究について
6	バーナード組織論①	人間とは何か、協働とは何か
7	バーナード組織論②	組織とは何か、管理とは何か
8	バーナード組織論③	ケーススタディ
9	モチベーション研究①	初期のモチベーション理論について
10	モチベーション研究②	近年のモチベーション理論について
11	リーダーシップ研究①	初期のリーダーシップ理論について
12	リーダーシップ研究②	近年のリーダーシップ理論について
13	モチベーションとリーダーシップ	ケーススタディ
14	まとめ	全体総括、ポイントの整理
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：指定なし。

◇参考書：岸田民樹・田中政光著『経営学説史』有斐閣、2009年

【履修条件等】

◇「経営組織論Ⅱ」も併せて履修することが望ましい。

◇経営学の関連基礎科目を修得済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇参考書や経営組織論の関連書籍によって、毎回予習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇ケーススタディにおいては積極的な発言を求める。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経営組織論Ⅱ	ヤマグチ　ヨシアキ 山口　善昭
Organization Theory II	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

経営学は、一般に企業を研究対象としますが、企業にもさまざまなものがあります。そこで組織という抽象概念を用いてどのような企業にでも適用できるようにしています。しかし、この組織というものがどのようなものかはまだはっきりとはわかっていません。この授業では、人間を中心に組織をとらえていきます。

「経営組織論Ⅱ」では、個人行動、モティベーション（動機づけ)、リーダーシップ、非合理的意思決定、暗黙知などについて学びます。

授業は一方的に講義してもあまり効果がないと考えています。したがって、授業は講義と質問を織り交ぜて行います。質問には積極的に答えるようにしてください。その方が、理解が早いと思います。

また授業は出席するのが基本です。怠けて授業を休みすぎたり教室を抜け出したりして単位をもらえることは絶対にありませんから、怠けたい人は受講しない方がよいでしょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
個人行動の傾向を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな概念に説明できること。	25%
動機づけに関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな学説を説明できること。	25%
リーダーシップに関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。パラダイムの違いを説明できること。	25%
各理論を応用した、具体的な施策を提案できること	設問に対する回答によって評価。理論を理解し具他的な方法を提案できること。	25%
評価の方法　70%以上の出席を必要条件として試験95%、授業参加度５%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	経営組織論とは	ミクロの組織論とは
2	個人行動(1)	個人行動とは、知覚
3	個人行動(2)	態度、パーソナリティー、
4	個人行動(3)	学習
5	モティベーション(1)	マレーの欲求リスト
6	モティベーション(2)	マクレランドらの達成欲求他
7	モティベーション(3)	マズローの欲求5段解説
8	モティベーション(4)	アージリスの不適合理論
9	モティベーション(5)	ハーズバーグの二要因理論
10	モティベーション(6)	ハルの動因理論と期待理論
11	モティベーション(7)	ポーター＝ローラーの期待理論とアダムスの公平理論
12	リーダーシップ(1)	特性理論と行動理論
13	リーダーシップ(2)	状況理論
14	認知的不協和	センスメーキング他
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：高橋、山口、磯山、文著『経営組織論の基礎』中央経済社、1998年

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書を読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇欠席が多いと試験を受けられません。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経営組織論Ⅱ	ワタナベ　ヤスヒロ 渡辺　泰宏
Organization Theory II	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義では、経営学の学問領域の中でも「システムとしての組織」に注目し、組織の構造についての基礎的知識を学ぶことによって、現代企業社会に対する個々の問題意識の醸成を最終到達目標とする。とくに、マネジメントと経営組織論の成立の歴史を振り返ることで、現代における「システムとしての組織」の在り方を模索する。講義は主に学説史を中心に取り上げるが、現代の企業組織の問題に照らし合わせ考えることで、理解を深められるように進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験で評価する。経営組織の専門用語を正確に理解し説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験で評価する。経営組織の諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験で評価する。経営組織と現代企業制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験で評価する。経営組織の知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるか。	40%
評価の方法　本試験およびレポート等を80%、受講態度および出席状況を20%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	経営組織の展開について
2	アメリカ経営学の潮流	経営組織論の基礎について
3	意思決定①	個人の意思決定について
4	意思決定②	組織の意思決定について
5	組織と環境①	環境適応の理論について
6	組織と環境②	取引コスト理論について
7	組織と環境③	組織間関係の資源依存モデルについて
8	組織と戦略	事業戦略と組織のライフサイクルについて
9	知の経営学	知識創造型経営について
10	組織と学習①	組織における学習過程について
11	組織と学習②	実践的学習について
12	組織と文化	組織文化論、日本的経営論
13	ポストモダンの組織論	近年の経営組織論の研究動向について
14	まとめ	全体総括、ポイントの整理
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：指定なし

◇参考書：岸田民樹・田中政光著『経営学説史』有斐閣、2009年

【履修条件等】

◇「経営組織論Ⅰ」も併せて履修することが望ましい。

◇経営学の関連基礎科目を修得済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書を読んでおくこと参考書や経営組織論の関連書籍によって、毎回予習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇ケーススタディにおいては積極的な発言を求める。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経営戦略論 I	小川（オガワ）　達也（タツヤ）
Strategic Management I	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

経営戦略に関する基礎的理論と実践的知識を修得し、現代企業が戦略を策定・実行する際に直面する諸課題についての洞察力を養います。授業は教科書を中心にパワーポイントとプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、時事問題や事例研究を適宜取り入れることで理論と実践のバランスを図り、経営戦略への理解を深められるように工夫します。受講生の質問には解説を加えて回答し、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の実践的知識の概念や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。経営戦略の実践的知識を複数把握し、授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題をしっかりと論述できること。	20%

評価の方法　授業回数に対して出席回数が３分の２以上の受講生に限り評価します。
成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。
授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	【重要】ガイダンス	授業の概要と評価方法、学び方について
2	経営戦略の意義	なぜ経営戦略が必要なのか
3	経営戦略の体系①	経営戦略と戦術の役割
4	〃　②	経営理念とビジョンの役割
5	〃　③	経営戦略の３つのタイプ
6	〃　④	経営戦略の構成要素
7	製品・市場戦略①	アンゾフの成長ベクトル
8	〃　②	多角化戦略と相乗効果（シナジー）
9	〃　③	市場細分化戦略
10	〃　④	新製品開発と新市場開拓
11	競争戦略の要点①	ポーターの競争戦略と５つの競争要因
12	〃　②	競争戦略の基本モデル(1) コストリーダーシップ
13	〃　③	競争戦略の基本モデル(2) 差別化と集中化
14	〃　④	価値連鎖（バリューチェーン）
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施します

【使用教材】

◇教科書：岸川善光著『経営戦略要論』同文舘出版、2006年

◇参考書：大滝精一、金井一頼、ほか著『新版・経営戦略―論理性・創造性・社会性の追求』有斐閣アルマ、2006年

【履修条件等】

◇この科目は、秋学期開講の「経営戦略論Ⅱ」の基礎となる科目です。「経営戦略論Ⅱ」の履修を希望する場合は、まず「経営戦略論Ⅰ」の単位を修得してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出しますが、授業中にその都度、用語を解説することはできません。そのため、わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。

◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇第１回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項など重要な内容を説明をしますので、必ず出席してください。

◇授業中に携帯電話やタブレット、パソコン、カメラなどの電子デバイス類を許可なく使用することを禁止します。指示に従わない場合は減点の上、欠席扱いとします。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経営戦略論Ⅱ	小川（オガワ）　達也（タツヤ）
Strategic Management II	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

経営戦略に関する基礎的理論と実践的知識を修得し、現代企業が戦略を策定・実行する際に直面する諸課題についての洞察力を養います。授業は教科書を中心にパワーポイントとプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、時事問題や事例研究を適宜取り入れることで理論と実践のバランスを図り、経営戦略への理解を深められるように工夫します。受講生の質問には解説を加えて回答し、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の実践的知識の概念や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。経営戦略の実践的知識を複数把握し、授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題方針をしっかりと論述できること。	20%

評価の方法　授業回数に対して出席回数が３分の２以上の受講生に限り評価します。
成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。
授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	【重要】ガイダンス	授業の概要と評価方法、学び方、本試験の結果について
2	競争優位の構築①	競争優位の源泉とコア・コンピタンス経営
3	〃　②	特許を活用した戦略展開
4	〃　③	知的財産権の役割と戦略的重要性
5	経営資源の展開①	経営戦略と経営資源の関係
6	〃　②	経営資源の蓄積と経験効果の戦略的活用
7	〃　③	ＰＰＭ（プロダクト･ポートフォリオ･マネジメント）の意義
8	〃　④	ＰＰＭの基本戦略とＧＥのビジネススクリーン
9	〃　⑤	ＰＰＭの応用展開：M&Ａ（企業の合併と買収）の意思決定
10	ドメインの意義①	ドメインの役割
11	〃　②	ドメインの物理的定義と機能的定義
12	〃　③	ドメイン・コンセンサス
13	〃　④	ドメインの再定義
14	〃　⑤	ドメインの選択と集中の重要性
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施します

【使用教材】

◇教科書：岸川善光著『経営戦略要論』同文舘出版、2006年

◇参考書：大滝精一、金井一頼、ほか著『新版・経営戦略―論理性・創造性・社会性の追求』有斐閣アルマ、2006年

【履修条件等】

◇この科目は、春学期開講の「経営戦略論Ⅰ」の単位修得者を対象に進めます。「経営戦略論Ⅱ」を履修する場合は、まず「経営戦略論Ⅰ」の単位を修得してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出しますが、授業中にその都度、用語を解説することはできません。そのため、わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。

◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇第１回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項の説明に加えて、春学期に実施した「経営戦略論Ⅰ」の本試験の結果を解説します。今後、学習する上で参考になる内容を取り上げますので、必ず出席してください。

◇授業中に携帯電話やタブレット、パソコン、カメラなどの電子デバイス類を許可なく使用することを禁止します。指示に従わない場合は減点の上、欠席扱いとします。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

近代経済学	清水（シミズ）　良樹（ヨシキ）
Modern Economics	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

経済はわたしたちの生活に密着しています。経済現象は日常生活にあふれていますが、これに疑問をもったことはありませんか？　たとえば、商品には必ず価格がついていますが、そもそもこの価格というのは何でしょうか？　あなたならどう答えますか？　こうした疑問に答えるためには、経済学を学ばなければいけません。

本講義では経済学の基礎理論を学ぶことを通して、わたしたちが生きている社会の仕組み、そして現代の経済問題を分析していきます。経済問題を議論できるエコノミストの視点を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経済学の基礎理論の理解を通じて、現代の経済問題に対する経済学的視点を養う	定期試験の結果と授業参加度状況等によって成績を評価する。	定期試験80％、授業参加度10%、リアクションペーパー等の平常点10％

評価の方法　定期試験80％、授業参加度10％、リアクションペーパー等の平常点10％により総合的に判断して成績を評価します。

ただし、全講義の３分の１以上（５回以上）欠席（考慮すべき理由のないもの）した場合、単位取得を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	経済学の対象	最適化する個人
3	最適化戦略	需要曲線・供給曲線・無差別曲線
4	リスク	大数の法則、逆選択
5	費用	機会費用・サンクコスト
6	雇用	労働市場の現状
7	労働法	労働者の権利
8	ブラック企業	働くということ
9	ゲーム理論	囚人のジレンマ
10	企業行動	企業の「ベストな判断」
11	市場	独占市場と寡占市場
12	GPIF	年金の管理と運用
13	政府の役割	外部性、公共財、情報の非対称性
14	国際貿易	外国との取引の分析
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ミクロ経済学の入門書に目を通しておくと良い。

【その他の注意事項】

◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経営史	清水（シミズ）　太陽（タイヨウ）
Business History	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

現代の経済活動の中枢を担う主体のなかで、企業に焦点をあてて学んでいきます。この講義では、企業の変貌と発展の歴史を見ていき、現代の企業の抱える課題とその行く末を展望します。また、それぞれの「時代」や「金融」についてもあわせて考えることで経営史を多面的に理解できる講義にしたいと考えています。映像資料や音楽動画などを活用することにより、経営史を学習することの楽しさと意義を理解できるような講義を行います。

堅苦しい講義を行うつもりはないので、講義では受講者の積極的な参加を期待します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎知識の理解	期末試験およびレポートによって評価する。 経営史の基礎知識を正確に理解し、説明することができる。	30%
内容の理解	期末試験およびレポートによって評価する。 経営史の内容を正確に理解し、説明することができる。	30%
時代の理解	期末試験およびレポートによって評価する。 時代の流れをとらえ、それぞれの時代と経営史の結びつきを理解し、説明することができる。	10%
知識の応用	期末試験およびレポートによって評価する。 経営史の知見を生かし、現代の企業が抱える諸問題に関して、自分の意見を論理的に説明することができる。	30%
評価の方法　期末試験70%、レポート20%、受講態度10%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	講義内容についての説明、経営史はなぜ必要か
2	戦略商品と経済覇権の変遷	市場と商品、第一次産業革命
3		第二次産業革命、第三次産業革命
4	会社の誕生	企業と企業家、工場と会社の誕生
5		重工業における技術革新と市場、エネルギー革命
6		パートナーシップから株式会社へ、取引コストの削減、イギリスにおける企業誕生の意義
7	ビッグ・ビジネスの成立	第二次産業革命、インフラストラクチャーの整備、企業家精神と戦略
8		垂直統合戦略と企業形態、アメリカ的組織と経営手法
9		競争戦略とマーケット・セグメンテーション、ビッグ・ビジネスの成立とその限界
10	大競争時代	先発国と後発国、財閥の形成と解体
11		日本的生産システムの確立、エレクトロニクス革命とグローバリゼーション
12		ＩＴ革命、国際競争の象徴としての自動車産業
13		Ｒ＆Ｄと大競争、サブプライム危機と金融革命
14	ものづくりとファイナンス	大企業、ベンチャーネットワーク、マネーの世界の現在
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：教科書：安部悦生『経営史＜第２版＞』日経文庫、2010年

◇参考文献：経営史学会(編)、山崎広明(編)『日本経営史の基礎知識』有斐閣ブックス、2004年

経営史学会(編)、湯沢威(編)『外国経営史の基礎知識』有斐閣ブックス、2005年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇あらかじめ、参考文献を読んでおくと、授業での理解が深まるであろう。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

会社法	櫻井（サクライ）　隆（タカシ）
Corporate Law	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義では、平成17年に成立した会社法について講義をする。従来、会社には合名会社、合資会社、株式会社、有限会社の４種類があったが、新会社法では有限会社が廃止され、新たに合同会社が認められた。ここでは有限会社を含めて、この５つの種類の会社を比較・対照しながら、それぞれの会社の特色を明らかにしたうえで、数値的に見て最も多く、しかも学生のほとんどが就職先と希望している株式会社を特に詳しく講義する予定である。現在の資本主義社会の発展に大きく寄与した法制度の一つが会社制度であり、就中、株式会社制度である。したがって、これからのビジネス社会で生きていくためには会社法の知識は必要不可欠であると考える。本講義履修者は、最終的には東京商工会議所主催の「ビジネス実務法務検定試験２級」の「会社法」の分野の合格レベルを持つことができる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
会社法に関する基本的な知識を習得することができる	定期試験を実施し、試験結果がある一定以上の水準にあること。	50%
新聞に掲載された会社法に関する記事の内容が的確に理解できる	定期試験を実施し、試験結果がある一定以上の水準にあること。	50%
評価の方法　定期試験70%、リアクションペーパー20%、授業参加度10%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	会社の概念と経済的機能	会社とは何か、会社制度の長所と短所について説明する。
2	会社の種類と特色	４つの会社の特色を明らかにする。
3	会社の権利能力	自然人の権利能力との違いを明らかにする。
4	会社の設立方法	会社の設立の手続きを明らかにする。
5	社員の権利と義務	会社の社員はどのような権利と義務を負うかについて述べる。
6	株式の意義と種類	株式とは何か、株式はどのような種類があるかについて述べる。
7	株式譲渡自由の原則とその例外	株式は何故譲渡が自由でなければならないか、またその例外について述べる。
8	会社の機関	会社を実際に運営する組織を明らかにする。
9	株主総会と取締役会	両機関の関係とそれぞれの問題点を明らかにする。
10	取締役と監査役	両機関の関係とそれぞれの問題点を明らかにする。
11	会社の資金調達	新株発行と社債の発行について説明する。
12	会社の計算	株式会社の計算書類について説明する。
13	会社の構造変更	持株会社・株式交換・株式移転・会社分割について説明する。
14	会社経営の破綻	私的整理と法的整理について説明する。
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：小室・櫻井・黒木・加賀『エッセンス商法（第２版)』
　成文堂、2007年

【履修条件等】

◇特になし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書を中心に講義を進めたいと考えており、そのため予め教科書の講義部分に該当する箇所を一読して講義に臨んでほしい。

【その他の注意事項】

◇私語は厳禁である。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

中小企業論	井原（イハラ） 久光（ヒサミツ）
Theory of Small Business	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

日本の中小企業は地域経済や技術革新の担い手として経済発展の中心的役割を果たしている。本講義では、中小企業が置かれている現状を把握し、大企業との相違、構造上の特性、事業承継の問題など中小企業固有の課題を明らかにしていく。また、経済のグローバル化やアジア諸国の台頭に伴う経営環境の変化に対応して競争優位の戦略をどのように推進していけばよいかについて考察する。より実践的に学ぶために、ビデオ教材を活用して事例に基づくワークを行い、さらに、チームスタディを通じて中小企業各社の経営について実践的に理解する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
中小企業のおかれている現状や構造上の特性や課題について理解する	設問に対する回答やリアクションペーパーの内容によって評価する。必要に応じて小テストも行う。中小企業に関する基礎的な知識を理解できているかを基準にする。	15%
グローバル化やアジア諸国の台頭に対する競争戦略について学ぶ	設問に対する回答やリアクションペーパーの内容によって評価する。必要に応じて小テストも行う。競争戦略に関する基礎的な知識を理解できているかを基準にする。	15%
ビデオ教材を使い、中小企業の経営に関する事例を学ぶ	設問に対する回答やリアクションペーパーの内容によって評価する。必要に応じて小テストも行う。教材にある経営に関する基礎的な知識を理解できているかを基準にする。	30%
チームスタディを通じて中小企業各社の経営について実践的に理解する	設問に対する回答やリアクションペーパーの内容に加えてチームへの参加度や貢献度も加味して評価する。経営の実際について実践的に理解でているかを基準にする。	40%

評価の方法　70%以上の出席を前提として試験の比率を60%、クラスパーティシペーションを20%、チームスタディにおける貢献度を20%のウェイトにする。
試験は知識を問う記号式と意見を問う記述式で構成し、演習では小テストにより基礎的な学習成果を評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	本科目の意義や目的、スケジュール、評価方法等を共有する
2	中小企業の定義	会社法や産業構造論から中小企業を定義し解説する
3	中小企業政策の変遷	中小企業をめぐる政策の変遷について解説する
4	ベンチャー企業	ベンチャー企業の特徴を整理し、事業承継の問題も議論する
5	グルーバル化	グルーバル化や海外進出とその戦略的対応について考える
6	地域活性化	地域経済の活性化に関して中小企業が果たす役割を論じる
7	事例研究(1)	ビデオ教材に基づいた事例研究
8	事例研究(2)	ビデオ教材に基づいた事例研究
9	事例研究(3)	ビデオ教材に基づいた事例研究
10	事例研究(4)	ビデオ教材に基づいた事例研究
11	チームスタディ(1)	個別の中小企業に関する研究を行い発表する
12	チームスタディ(2)	個別の中小企業に関する研究を行い発表する
13	チームスタディ(3)	個別の中小企業に関する研究を行い発表する
14	チームスタディ(4)	個別の中小企業に関する研究を行い発表する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇必要に応じて、その都度、プリントを配付する。

◇参考書：中小企業白書、新事業開業白書、通商白書等

【履修条件等】

◇日頃から中小企業にも絶えず関心や疑問をもつこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇レジメをあらかじめ読んでおくこと。

◇中小企業のテーマごとに基礎的な知識を理解しておくこと。

【その他の注意事項】

◇日本経済新聞、その他主要経営・経済関係誌などを読む習慣をつけること。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

中小企業論	名取（ナトリ） 修一（シュウイチ）
Theory of Small Business	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義は、「東京中小企業家同友会」との連携を基に、加盟している会社役員（主に経営者）を講師に招き、経営内容や経験談を中心にした講演を通じて中小企業経営の実際を学びます。

今年度は、製造業２社、建設業２社、サービス業４社、商社１社、ソフトウエアー会社３社の12社の講演を予定しています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
レポート提出と内容	・レポートが提出されている ・レポートＡ４用紙１枚に１業種または１業界をまとめ、３業種ないしは３業界分（３枚）を提出している ・それぞれ（業種、業界ごと１枚）に取上げた理由が述べられているか ・感銘を受けたことまたは印象に残ったことが明記されているか ・分かり易くまとめられているか ・自身にプラスになったことや参考になったことが明記されているか ・自身の感想が述べられている ・レポートの提出期日が遵守されている	50%
授業への参加	・積極的に質問したか ・ワークショップに積極的に参加しているか ・ワークショップでリーダーシップを発揮した	30%
協調性の発揮	・共同作業への参加 ・他者の意見の尊重	10%
静粛な授業参加	・他者に迷惑をかけない	10%
評価の方法　60%以上の出席率が必要です。 評価は出席点20%、レポート80%です。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業概要、評価方法等の説明
2	中小企業を学ぶ	中小企業の定義と意義および今後の展開について
3	製造業	電子磁気工業株式会社　取締役総務部長
4	製造業	株式会社　吉村　代表取締役社長
5	建設業	メトロ設計株式会社　代表取締役
6	建設業	株式会社　タキズミ　代表取締役会長
7	サービス業	大谷清運株式会社　代表取締役
8	サービス業	東京魚類容器株式会社　代表取締役
9	サービス業	株式会社ワイズ・インフィニティ　代表取締役社長
10	サービス業	株式会社　富士国際旅行社　代表取締役
11	商社	株式会社ディレクターズ　アイエスビー　代表取締役
12	ソフトウェア業	株式会社　エム・ソフト取締役会長
13	ソフトウェア業	株式会社　ソアーシステム　代表取締役
14	ソフトウェア業	株式会社 コンピュータネットワーク　代表取締役会長
15	まとめ	これまでのまとめとレポート課題の提示

【使用教材】

◇各回資料を配布します。

【履修条件等】

◇授業を受ける際には、静粛に受講してください。

◇新聞、雑誌、テレビニュース等の時事情報を捉えておくことが必要です。

◇自分自身のノートを作成してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇当日の業種に関して事前に業界研究をしておくことが必要です。

◇質問事項を準備しておいてください。

【その他の注意事項】

◇配布資料は、自身で整理、管理してください。

◇出席管理は自身で行い、自身の出席率を把握しておいてください。

◇積極的に質問をしてください。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

中小企業経営論	井原（イハラ） 久光（ヒサミツ）
A Medium and Small Sized Management Theory	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

中小企業が厳しい経営環境で生き残っていくためには、大企業にない「スピード経営」「多様なニーズへの適切な対応」「個別情報のネットワーク化」等、新しい企業価値を創造する革新的な事業の進め方にチャレンジしていく必要がある。本講義では、「中小企業論Ｉ」を踏まえて、ユニークなビジネスモデルや事業戦略をとっている中小企業や時代の変化を乗り越えて存続している老舗企業の戦略について焦点をあて、解説していく。また、政府や地方自治体等が実施する中小企業に対する各種支援策について解説し、その活用法についても検討する。より実践的に学ぶために、ビデオ教材を活用して事例に基づくワークを行い、さらに、チームスタディを通じて中小企業各社の経営について実践的に理解する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ユニークなビジネスモデルや事業戦略について理解する	設問に対する回答やリアクションペーパーの内容によって評価する。必要に応じて小テストも行う。ユニークな戦略をとる中小企業について理解できているかを基準にする。	15%
時代を超えて存続する老舗企業について学ぶ	設問に対する回答やリアクションペーパーの内容によって評価する。必要に応じて小テストも行う。老舗企業に関する基礎的な知識を理解できているかを基準にする。	15%
ビデオ教材を使い、中小企業の経営に関する事例を学ぶ	設問に対する回答やリアクションペーパーの内容によって評価する。必要に応じて小テストも行う。教材にある経営に関する基礎的な知識を理解できているかを基準にする。	30%
チームスタディを通じて中小企業各社の経営について実践的に理解する	設問に対する回答やリアクションペーパーの内容に加えてチームへの参加度や貢献度も加味して評価する。経営の実際について実践的に理解でているかを基準にする。	40%

評価の方法　70%以上の出席を前提として試験の比率を60%、クラスパーティシペーションを20%、チームスタディにおける貢献度を20%のウェイトにする。
試験は知識を問う記号式と意見を問う記述式で構成し、演習では小テストにより基礎的な学習成果を評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	本科目の意義や目的、スケジュール、評価方法等を共有する
2	外部経済の活用	規模、範囲、ネットワークの経済性について解説する
3	独自の競争戦略	特にニッチ戦略やスピード経営について解説する
4	ビジネスモデル	中小企業ならではのビジネスモデルについて解説する
5	老舗企業	時代を超えて存続する老舗企業について学ぶ
6	中小企業支援策	政府や地方自治体の中小企業支援策について論じる
7	事例研究(1)	ビデオ教材に基づいた事例研究
8	事例研究(2)	ビデオ教材に基づいた事例研究
9	事例研究(3)	ビデオ教材に基づいた事例研究
10	事例研究(4)	ビデオ教材に基づいた事例研究
11	チームスタディ(1)	個別の中小企業に関する研究を行い発表する
12	チームスタディ(2)	個別の中小企業に関する研究を行い発表する
13	チームスタディ(3)	個別の中小企業に関する研究を行い発表する
14	チームスタディ(4)	個別の中小企業に関する研究を行い発表する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇必要に応じて、その都度、プリントを配付する。

◇参考書：中小企業白書、新事業開業白書、通商白書等

【履修条件等】

◇日頃から中小企業にも絶えず関心や疑問をもつこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇レジメをあらかじめ読んでおくこと。

◇中小企業のテーマごとに基礎的な知識を理解しておくこと。

【その他の注意事項】

◇日本経済新聞、その他主要経営・経済関係誌などを読む習慣をつけること。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経営情報学	鬼木（オニキ） 一直（カズナオ）
Management Information	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

情報化社会と言われる今、情報の価値は益々高まってきており情報システムの果たす役割はきわめて大きいと言えます。本授業では経営情報システムの基本原理、しくみを理解し、ビジネスでの応用について具体的な事例に基づき学んでいきます。経営情報システムの活用方法、インターネットを用いたビジネス、データベースシステム等を理解することでビジネスにおいて役立つ知識の習得を目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンピュータ、ハードウェア、補助記憶装置について理解する	設問に対する解答によって評価する。 コンピュータの５大装置を説明することができる。さらにコンピュータ、ハードウェア、補助記憶装置の基本構造を理解する。	30%
データの取り扱い方法、データベースシステムについて理解する	設問に対する解答によって評価する。 データの圧縮、データ量について把握し、データの基本的な取り扱い方法を説明できる。さらにデータベースシステムについて学び、データの検索、抽出方法などを理解する。	20%
経営情報システム、通信ネットワークを理解する	設問に対する解答によって評価する。 経営情報システムの定義、役割、価値について説明できる。さらに通信ネットワーク、インターネットの特徴を理解する。	30%
セキュリティ管理方法、情報倫理、情報リテラシーを理解する	設問に対する解答によって評価する。 セキュリティの管理方法、情報倫理の重要性などについて説明できる。また、情報リテラシーについて理解し、その活用方法を説明できる。	20%
評価の方法　授業時間内の設問に対する解答30%、課題30%、定期試験40%。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	講義内容についての説明、経営情報学の概要
2	コンピュータの構造	コンピュータの基礎知識、種類、構成について学ぶ
3	パソコンの構造	パソコンの構造について学ぶ
4	５大装置	入力装置、出力装置、記憶装置、制御装置、演算装置について学ぶ
5	データの取り扱い	データの圧縮、データ量について学ぶ
6	データベースシステム	データベースシステムの役割、活用法について学ぶ
7	経営情報システム	経営情報システムの定義、役割について学ぶ
8	通信ネットワーク	通信ネットワーク、インターネットビジネス、クラウドコンピューティングについて学ぶ
9	情報とコミュニケーション	情報の分析とコミュニケーションの必要性について学ぶ
10	セキュリティ管理	セキュリティ管理、ファイルのバックアップについて学ぶ
11	企業の情報化と情報倫理	情報化社会における情報の扱い方と情報倫理について学ぶ
12	情報リテラシー	情報リテラシーとプレゼンテーション技術について学ぶ
13	次世代の経営情報学	経営情報学の今後について学ぶ
14	まとめ	全体像を総括し、ポイントを整理する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用しない。

経営情報学で取り扱う事例は最新のものが多いため、パワーポイントの資料にて講義を行う。

◇講義資料は電子データで配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の授業の資料を予めデータで配布しておくので事前に目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇毎回授業の最後に課題を出すのでしっかり行っておくこと。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

人的資源管理論Ⅰ	高橋（タカハシ）　哲也（テツヤ）
Human Resource Management Ⅰ	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

働く人間というのは生産のための手段であると同時に感情を持つ存在でもあります。人間を「資源」として捉えると、モノ扱いしてしまうように聞こえてしまいます。やはり感情を持つ存在という点を無視してはいけません。感情を持つ資源という認識のもとでいかに管理するのか、この点について講義していきます。講義はレジュメに沿って進めていきます。また、ＤＶＤなどの映像資料を活用し、視聴覚的に理解を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
人的資源管理の「目的・歴史・制度」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対しての回答により評価。「人的資源管理の目的・歴史・制度」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「終身雇用・年功序列・企業別労使」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対しての回答により評価。「終身雇用・年功序列・企業別労使」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「多様な働き方・ワークライフバランス」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対しての回答により評価。「多様な働き方・ワークライフバランス」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「バブル経済後の人的資源管理の状況」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対しての回答により評価。「バブル経済後の人的資源管理の状況」に関連する用語とその意味答えられること	25%

評価の方法　期末試験55点、レポート・小テストなど30点、受講態度15点
※レポート試験を１回行う予定。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法など
2	人的資源管理の目的	人的資源管理の役割と目的とは何か
3	人的資源管理の歴史①	人的資源管理はどのように生まれてきたか
4	人的資源管理の歴史②	人的資源管理はどのように発達してきたか
5	人的資源管理の制度	人的資源管理の制度
6	日本の人的資源管理①	日本の人的資源管理はどのように発展してきたか
7	日本の人的資源管理②	終身雇用慣行とは何か
8	日本の人的資源管理③	年功序列慣行とは何か
9	日本の人的資源管理④	企業別労使関係とは何か
10	多様な働き方	パート・アルバイト・契約社員
11	多様な職業人生	ワークライフバランス
12	現代日本の人的資源管理	【レポート課題】
13	現代の人的資源管理①	バブル経済後の人的資源管理
14	現代の人的資源管理②	経営戦略と人的資源管理
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：岩出博著『新・これからの人事労務（改訂版)』泉文堂

※レジュメを配布します。

レジュメには教科書にない情報も追加していきます。

【履修条件等】

◇必ず「人的資源管理論Ⅱ」と併せて履修するように。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の該当箇所を事前に目を通してくること。

◇配付資料の人事管理に関するキーワードを調べること。

【その他の注意事項】

◇基本的にレジュメの再配布はしませんので注意してください。

◇レポートの提出を求めます。詳細は初回授業時に連絡します。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

人的資源管理論Ⅱ	高橋（タカハシ）　哲也（テツヤ）
Human Resource Management II	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

働く人間というのは生産のための手段であると同時に感情を持つ存在でもあります。人間を「資源」として捉えると、モノ扱いしてしまうように聞こえてしまいます。やはり感情を持つ存在という点を無視してはいけません。感情を持つ資源という認識のもとでいかに管理するのか、この点について講義していきます。講義はレジュメに沿って進めていきます。また、ＤＶＤなどの映像資料を活用し、視聴覚的に理解を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「従業員の採用・雇用調整」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対しての回答により評価。「従業員の採用・雇用調整」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「従業員の配置と育成」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対しての回答により評価。「従業員の配置と育成」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「従業員能力の発揮と活用」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対しての回答により評価。「従業員能力の発揮と活用」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「従業員の評価と処遇」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対しての回答により評価。「従業員の評価と処遇」に関連する用語とその意味答えられること	25%

評価の方法　期末試験55点、レポート・小テストなど30点、受講態度15点
※レポート試験を１回行う予定。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法など
2	人的資源管理の機能	経営における人的資源管理の機能
3	従業員の採用①	新卒採用の手続き
4	従業員の採用②	新卒者の早期離職と雇用のミスマッチ
5	雇用調整	従業員の離職・退職と雇用調整
6	従業員の配置と育成①	人事異動制度の内容
7	従業員の配置と育成②	教育訓練・能力開発
8	従業員能力の発揮と活用①	従業員業績の向上の公式とメカニズム
9	従業員能力の発揮と活用②	職場管理者のリーダーシップ
10	従業員能力の発揮と活用③	労働環境の快適化と新たな勤務形態
11	現代日本の人的資源管理	【レポート課題】
12	従業員の働きぶりの評価と処遇①	人事評価制度の手続き
13	従業員の働きぶりの評価と処遇②	処遇評価の成果主義化
14	従業員の働きぶりの評価と処遇③	今日の福利厚生
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：岩出博著『新・これからの人事労務（改訂版)』泉文堂

※レジュメを配布します。

レジュメでは教科書にない情報も追加していきます。

【履修条件等】

◇必ず「人的資源管理論Ⅰ」と併せて履修するように。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の該当箇所を事前に目を通してくること。

◇配付資料の人事管理に関するキーワードを調べること。

【その他の注意事項】

◇基本的にはレジュメの再配布はしませんので注意してください。

◇レポートの提出を求めます。詳細は初回授業時に連絡します。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

マーケティングプランニングⅠ	ヤマカワ　サトル 山川　　悟
Marketing Planning I	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

創造性の高い人材を求める企業が増えてきています。ただしこの創造性は特定の才能から生まれるわけではなく、技術や経験、環境などを通じて養成されていくべきものです。

本講義では、プランニングやクリエイティブ業務のベースとなる「考え方」のトレーニングを実践します。広告会社などで応用されている創造性開発技法をとりいれることで、発想力や構想力、表現力の向上を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
発想法メソッドについて理解・実践できるようなる	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験(レポート)により評価。 「講義で採り上げた手法を個人で実践し、課題に対応した独自アイデアを創出できるか」を評価ポイントとする。	50%
グループワークを通じて、アイデアの創出ができるようになる	講義中のワークショップおよびアウトプットにより評価。 「講義中のグループワークに積極的に参加し、課題に対応した独自アイデアを提案できるか」を評価ポイントとする。	50%

評価の方法

評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に、授業中アウトプットおよび受講姿勢50%、試験50%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	創造性開発技法とその意義	創造性開発技法とその意義
2	刺激語法	意外な言葉の組み合わせによる発想法
3	属性列挙法	対象商品の属性を分解して考える発想法
4	焦点法	ヒット要因を分析し、他の分野に応用する発想法
5	逆設定法	「あべこべ」「反対視点」から考える発想法
6	一対連関法	異質な情報を強制的に組み合わせる発想法
7	中間試験	１～６回までの学習達成度確認のための試験
8	ブレーンストーミング	自由なディスカッションによるアイデア抽出法
9	ブレーンライティング法	書き込み型のブレーンストーミング発想法
10	スーパーヒーロー発想法	映画や漫画の主人公に向けたアイデア提案手法
11	遊笑美化法	企業活動を笑い・遊び・アートにする方法
12	アイデアボックス法	複数のパラメータの組み合わせによる発想法
13	入社試験対策	変化球ＥＳ対策に創造開発技法を生かす
14	プレゼンテーション力	プレゼンテーションに関する理論と実践
15	総括と達成度の確認	授業の総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

◇教科書：教科書は使用せず、適時資料をプリントして配布。

◇参考書：山川悟著『企画のつくり方入門』かんき出版

【履修条件等】

◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を受講していること、あるいはそれと同等の知識ベースを持っていることが望ましい。

◇新製品や広告、メディア、店舗、デザインなどに興味があり、将来、マーケティングに関わる仕事に就きたいという希望を持っていること。

◇ PowerPoint で、ある程度のドキュメント作成ができること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくに留学生は、日本の企業名や商品名についての知識を深めておくこと。

◇新聞を読むことや、テレビＣＭなどを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

◇リラックスした雰囲気で講義は進めるが、内容はマーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。

◇講義中にグループ討議や前回テーマの確認等を行う予定なので、能動的な態度、連続的な受講が条件となる。

◇遅刻者はグループワークへの参加が難しいため、出席を認めないことがある。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

マーケティングプランニングⅡ	ヤマカワ　サトル 山川　悟
Marketing Planning II	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

マーケティングの実務は、知識以上に技術やセンスが問われます。本講義では、現状分析から企画立案、プレゼンテーションまで含めたトレーニングによって、マーケティングの実務技能の養成を目的とします。グループワーク、課題提出など、講義の連続性を重視したプログラムとし、最終的には自ら発案したプランを企画書にまとめることを目標とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングプランニングのメソッドについて理解・実践できるようなる	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験（レポート）により評価。 「講義で採り上げた手法を個人で実践し、課題に対応した独自アイデアを創出できるか」を評価ポイントとする。	25%
グループワークを通じて、アイデアの創出ができるようになる	講義中のワークショップおよびアウトプットにより評価。 「講義中のグループワークに積極的に参加し、課題に対応した独自アイデアを提案できるか」を評価ポイントとする。	25%
初歩的なマーケティング企画書が書けるようになる	本試験（レポート）により評価。 「講義で採り上げたメソッドを活用し、課題に対応した魅力的なマーケティング企画書を作成できるか」を評価ポイントとする。	50%

評価の方法

評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に､授業中アウトプットおよび受講姿勢50%､
試験50%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	アウトライン説明	概要説明とマーケティングの総復習
2	現状分析と仮説形成	多角的な分析視点の持ち方
3	ターゲティング実践	ターゲットセグメンテーションの実践
4	ポジショニング実践	ポジショニングマップからの戦略立案法
5	商品コンセプトの策定	商品開発に向けた調査、仮説設定、分析
6	広告メディアプランニング	広告メディアへの理解と新媒体の考案
7	販促計画	プロモーションミックスの立案
8	中間試験	１～７回までの学習達成度確認のための試験
9	消費者インサイトの探索	消費者の無意識や本音を発見する手法
10	図解表現トレーニング	概念図・チャートの書き方
11	プランニング応用①	顧客間関係に着眼した商品企画プラン
12	プランニング応用②	経験価値を生み出す商品企画プラン
13	プランニング応用③	ゲームづくりを目指したマーケティングプラン
14	企画書のつくり方	企画書の構造理解、情報の整理と要約
15	総括と達成度の確認	授業の総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

◇教科書：教科書は使用せず、適時資料をプリントして配布。
◇参考書：山川悟著『企画のつくり方入門』かんき出版

【履修条件等】

◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を受講していること、あるいはそれと同等の知識ベースを持っていることが望ましい。また「マーケティングプランニングⅠ」との連続受講が望ましい。
◇新製品や広告、メディア、店舗、デザインなどに興味があり、将来、マーケティングに関わる仕事に就きたいという希望を持っていること。
◇ PowerPoint で、ある程度のドキュメント作成ができること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくに留学生は、日本の企業・商品名、日本文化についての知識を深めておくこと。
◇新聞を読むことや、テレビＣＭなどを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

◇リラックスした雰囲気で講義は進めるが、内容はマーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。
◇講義中にグループ討議や前回テーマの確認等を行う予定なので、能動的な態度、連続的な受講が条件となる。
◇遅刻者はグループワークへの参加が難しいため、出席を認めないことがある。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

広告論Ⅰ	中尾（ナカオ）　孝年（タカトシ）
Principle of Advertising I	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

第一線で活躍している現役の電通クリエーティブディレクターによる授業です。

クリエーティブなアイディアの発想方法から実際の広告の企画、表現、統合的なキャンペーン提案にいたるまでを実践形式で学んでいただきます。

もしかしたら、あのＣＭの裏話が聞けるかも?!

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企画：斬新で独創性のあるアイディアか？	課題、商品、サービスに対してのアプローチの仕方で評価	40%
表現：そのアイディアをどんな方法で実現したか？	課題、商品、サービスに対してのアウトプット方法で評価	30%
挑戦：どれだけ積極的に考えたか？	課題、商品、サービスに対しての解答、回答、提案、発言の数で評価	30%

評価の方法　毎回の授業で出題する課題への回答と解答、期末テストの結果を踏まえて総合的に評価します。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	アイディア発想法１	演習を通じでさまざまなアイディアの発想法を学習
2	アイディア発想法２	演習を通じでさまざまなアイディアの発想法を学習
3	アイディア発想法３	演習を通じでさまざまなアイディアの発想法を学習
4	アイディア発想法４	演習を通じでさまざまなアイディアの発想法を学習
5	コピーの時間１	実際のコピーライティングに挑戦
6	コピーの時間２	実際のコピーライティングに挑戦
7	プランニング１－１	課題解決に向けた広告キャンペーンの企画
8	プランニング１－２	考えたキャンペーン企画のプレゼンと各案の考察
9	プランニング２－１	課題解決に向けた広告キャンペーンの企画
10	プランニング２－２	考えたキャンペーン企画のプレゼンと各案の考察
11	プランニング３－１	課題解決に向けた広告キャンペーンの企画
12	プランニング３－２	考えたキャンペーン企画のプレゼンと各案の考察
13	高度なプランニング２	より高度なコミュニケーションデザインを企画
14	高度なプランニング３	考えたキャンペーン企画のプレゼンと各案の考察
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：３月発刊予定の自身の著書を使用予定です。

【履修条件等】

◇楽しみながら考えることができる人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日々の暮らしを自分らしく過ごしてください。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

広告論Ⅰ	広瀬（ヒロセ）　盛一（モリカズ）
Principle of Advertising I	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

広告の基礎知識から広告管理の考え方までを理解する。現代社会において、広告はなくてはならない存在となっている。広告を行う広告主の立場だけでなく、広告ビジネスに関わる媒体社や広告会社の存在、広告の受け手である消費者の立場など、幅広い視点から広告を学ぶ。テキストだけでなく、実際の広告物やケースも用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告関連の専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告の定義、広告の種類、広告に関わる組織に関する用語を答えられること。	25%
広告と社会がどのように結びついているかを理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告主、広告会社、メディア、消費者が、どのように広告に関わっているかを答えられること。	25%
マーケティング活動と広告活動の関係を広告主の立場から理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。マーケティングにおける広告の位置づけ、広告主の展開する広告活動がどのようなプロセスを経ているのかを答えられること。	25%
広告効果測定の考え方と方法を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告効果の捉え方と測定方法について答えられること。	25%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	授業目的、授業の進め方、評価基準についての説明を行う
2	最近の広告事情	広告に関連する最新のトピックを取り上げ説明する。
3	広告の定義と種類(1)	広告の定義と種類について説明する
4	広告の定義と種類(2)	同上
5	マーケティング活動と活動広告	マーケティングにおける広告の位置づけについて説明する
6	広告に関わる組織(1)	広告会社の機能と存在意義、種類について説明する
7	広告に関わる組織(2)	媒体社の機能と存在意義、種類について説明する
8	事例研究(1)	優れた広告活動の事例を取り上げて説明する
9	広告計画(1)	広告計画における概要と基礎を説明する
10	広告計画(2)	ターゲティング、予算計画、目標設定について説明する
11	広告計画(3)	媒体計画と表現計画について説明する
12	広告効果測定(1)	広告効果測定の枠組みを説明する
13	広告効果測定(2)	広告効果測定の具体的な方法について説明する
14	事例研究(2)	広告に関連するビジネスの具体例を説明する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『新しい広告』電通

※購入の必要はありません。

【履修条件等】

◇講義内容には、マーケティングの知識が含まれているので、マーケティングや消費者行動に関連した講義を受講していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の担当箇所に目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

広告論Ⅱ	広瀬（ヒロセ）　盛一（モリカズ）
Principle of Advertising II	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

広告活動の具体的な側面に焦点を当てて学ぶ。具体的には、メディアプランニング、アカウントプランニング、グローバルコミュニティにおける広告活動、広告と規制などを取り上げる。テキストだけでなく、実際の広告物やケースも用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
メディアプランニングの専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。メディアプランニングのプロセスとメディアごとの用語を答えられること。	25%
アカウントプランニングの背景と用語を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。アカウントプランニングの背景と意義、専門用語を答えられること。	25%
グローバル広告の背景を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。グローバルなマーケティングや広告活動の発達過程や専門用語を答えられること。	25%
広告の法規や規制の背景と専門用語を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告規制の背景と専門用語について答えられること。	25%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	授業目的、授業の進め方、評価基準についての説明を行う
2	メディアプランニング(1)	マスメディアを中心としたメディアプランニングについて説明する
3	メディアプランニング(2)	ＯＯＨやスポンサーシップについて説明する
4	事例研究(1)	インターネットと広告との関係について学習する
5	アカウントプランニング	アカウントプランニングの背景とプロセスを説明する
6	日本の広告表現	日本における広告表現について説明する
7	グローバルコミュニティと広告	グローバルな広告主の広告活動について説明する
8	海外の広告表現	海外における広告表現について説明する
9	広告規制(1)	広告規制の概要と意義について説明する
10	広告規制(2)	広告に関する法規制について説明する
11	広告規制(3)	広告に関する自主規制と景品表示について説明する
12	比較広告	比較広告について説明する
13	プロフェッショナルサとービスと広告	プロフェッショナルサービスにおける広告について説明する
14	医薬品と広告	医薬品における広告について説明する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『新しい広告』電通

※購入の必要はありません。

【履修条件等】

◇講義内容には、マーケティングの知識が含まれているので、マーケティングや消費者行動に関連した講義を受講していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の担当箇所に目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

ブランドマーケティング論	ヤマカワ　サトル 山川　悟
Brand Marketing	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

現代企業における大きなマーケティング課題のひとつである「ブランド戦略」の問題を扱います。ブランドとはロゴマーク等の表示体系に限らず、企業理念やビジョンとも深く関わりのあるテーマです。また、企業や商品だけでなく、地域や国家、学校、個人もブランドが求められる時代と言われています。前半はブランド戦略のフレームワークと諸要素（ブランドマネジメント）について、後半は具体的な事例からブランド構築（ブランディング）の方法論について検討していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
今日におけるブランドの役割や機能について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げた理論やケースを理解したうえで、自分なりの言葉で記述できるか」を評価ポイントとする。	30%
ブランド管理の考え方や手法について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたブランド管理の方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	30%
ブランディング戦略の考え方や手法について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたブランディングの方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	40%

評価の方法

評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に、試験80%・小テストおよび受講姿勢20%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ブランドとは何か？	授業内容の説明、ブランドの定義と歴史
2	ブランドマネジメントについて	ブランド管理の基本的な考え方とその手法
3	ブランディングについて	ブランド力を強化する戦略についての方法論
4	ネーミングと商標	ネーミングによる差別化戦略の実例研究
5	ロゴタイプとシンボルマーク	シンボルマークによる差別化戦略の実例研究
6	ブランドステートメント	スローガンによる差別化戦略の実例研究
7	ブランドとデザイン	ＣＩ、商品やパッケージデザインとブランド
8	中間試験	１～７回までの学習達成度確認のための試験
9	インターナルブランディング	社内活性化に向けたブランディング活動
10	地域ブランディング	地域活性化とブランディング
11	応援されるブランド①	崇拝型・愛着型・同志型・共歓型・賛助型
12	応援されるブランド②	ブランドコミュニティ、価値競争、ＣＳＶ
13	音楽活用のブランディング	店頭音楽、サウンドロゴ、ＭＰＶ、社歌など
14	五感ブランディング	聴覚、嗅覚、味覚、触覚で伝えるブランド戦略
15	まとめ	総括と本試験

【使用教材】

◇教科書：教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。

◇参考書：山川悟　他著『応援される経営』光文社刊

【履修条件等】

◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を受講していること、あるいはそれと同等の知識ベースを持っていることが望ましい。

◇新製品や広告、メディア、店舗、デザインなどに興味があること。

◇講義中に議論や質問、ミニ試験を行うことがあるため、能動的な出席態度が望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇特に留学生は、日本の企業・商品名、日本文化についての知識を深めておくこと。

◇新聞を読むことや、テレビＣＭなどを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

◇マーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

入門簿記Ⅰ	北井（キタイ）　不二男（フジオ）
Elementary Bookkeeping Ⅰ	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の８要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、６桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味、伝票の集計手続きを理解していること。	10%

評価の方法　小テストあるいは課題20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の３分の２以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素（資産・負債・純資産）
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素（収益・費用）、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の８要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
8	決算(2)	６桁精算表の作成
9	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
10	簿記一巡の確認	演習
11	現金(1)	現金の範囲、現金過不足
12	現金(2)	小口現金の処理、現金出納帳・小口現金出納帳の作成
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票、伝票の集計
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇連続性のある内容であるため復習をしっかりし、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、ＰＣ、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

入門簿記Ⅰ	土井（ドイ）　充（ミツル）
Elementary Bookkeeping Ⅰ	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の８要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、６桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味、伝票の集計手続きを理解していること。	10%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提として試験70%、レポートないし小テスト30%で評価する。

レポートないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、１～２回程度課す。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素（資産・負債・純資産）
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素（収益・費用）、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の８要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
8	決算(2)	６桁精算表の作成
9	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
10	簿記一巡の確認	演習
11	現金(1)	現金の範囲、現金過不足
12	現金(2)	小口現金の処理、現金出納帳・小口現金出納帳の作成
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票、伝票の集計
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇連続性のある内容であるため復習をしっかりし、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、ＰＣ、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

入門簿記Ⅰ	福山（フクヤマ） 倫基（トモキ）
Elementary Bookkeeping Ⅰ	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得することを目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の８要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、６桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味、伝票の集計手続きを理解していること。	10%

評価の方法　小テストあるいは課題20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の３分の２以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素（資産・負債・純資産）
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素（収益・費用）、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の８要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
8	決算(2)	６桁精算表の作成
9	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
10	簿記一巡の確認	演習
11	現金(1)	現金の範囲、現金過不足
12	現金(2)	小口現金の処理、現金出納帳・小口現金出納帳の作成
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票、伝票の集計
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示します。

◇参考書：開講時に指示します。

【履修条件等】

◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇連続性のある内容であるため復習をしっかりし、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、ＰＣ、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

入門簿記Ⅰ	光澤（ミツザワ）　美芽（ミメ）
Elementary Bookkeeping Ⅰ	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。取引の８要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。各種試算表の意味と作成方法、６桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票･出金伝票・振替伝票の意味を理解していること。	10%
評価の方法　中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の３分の２以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素（資産･負債･純資産）
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素（収益･費用）、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の８要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	中間試験および解説	
8	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
9	決算(2)	６桁精算表の作成
10	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
11	簿記一巡の確認	演習
12	現金	現金の範囲、現金過不足
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※状況によっては多少前後する可能性もある。

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇連続性のある内容であるため復習をしっかりし、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、ＰＣ、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

入門簿記Ⅰ	ムラカミ　ショウイチ 村上　翔一
Elementary Bookkeeping Ⅰ	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の８要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、６桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味、伝票の集計手続きを理解していること。	10%
評価の方法　小テストあるいは課題20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の３分の２以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素（資産・負債・純資産）
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素（収益・費用）、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の８要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
8	決算(2)	６桁精算表の作成
9	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
10	簿記一巡の確認	演習
11	現金(1)	現金の範囲、現金過不足
12	現金(2)	小口現金の処理、現金出納帳・小口現金出納帳の作成
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票、伝票の集計
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇連続性のある内容であるため復習をしっかりし、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、ＰＣ、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

入門簿記Ⅱ	北井（キタイ）　不二男（フジオ）
Elementary Bookkeeping II	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

簿記は、一般にビジネスの言語であるといわれています。本講義は、将来、経済社会で活躍する諸君たちにとって必要不可欠な基礎知識であるビジネス言語としての複式簿記の処理手続きの基礎を、体系的知識として習得することを目的とします。

本講義では、複式・商業簿記の基礎となる個人企業の会計処理を中心とした複式簿記一巡の処理を習得します。なお、講義は毎時間、１．教科書により複式簿記の処理手続を観察したうえで、２．その確認・理解のために記帳練習を行う、という順序で進めて行きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
８桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、８桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提として出席10%、試験70%、課題ないし小テスト20%で評価する。

課題ないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、授業中に１～２回程度課す。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳	約束手形の記帳
8	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
9	有価証券	有価証券の取得・売却の記帳
10	収益・費用の繰延	収益・費用の繰り延べ処理
11	収益・費用の見越	収益・費用の見越し処理
12	資本金・引出金・税金	引出金ならびに個人企業の税金の処理
13	８桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成されます。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要があります。また、この講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。

◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと

【その他の注意事項】

◇電卓が必要です（12桁。辞書・通信機能なし。音が出るモノも不可)。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

入門簿記Ⅱ	土井（ドイ）　充（ミツル）
Elementary Bookkeeping II	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

簿記は、一般にビジネスの言語であるといわれています。本講義は、将来、経済社会で活躍する諸君たちにとって必要不可欠な基礎知識であるビジネス言語としての複式簿記の処理手続きの基礎を、体系的知識として習得することを目的とします。

本講義では、複式・商業簿記の基礎となる個人企業の会計処理を中心とした複式簿記一巡の処理を習得します。なお、講義は毎時間、１．教科書により複式簿記の処理手続を観察したうえで、２．その確認・理解のために記帳練習を行う、という順序で進めて行きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
８桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、８桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提として試験70%、レポートないし小テスト30%で評価する。

課題ないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、１～２回程度課す。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳	約束手形の記帳
8	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
9	有価証券	有価証券の取得・売却の記帳
10	収益・費用の繰延	収益・費用の繰り延べ処理
11	収益・費用の見越	収益・費用の見越し処理
12	資本金・引出金・税金	引出金ならびに個人企業の税金の処理
13	８桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成されます。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要があります。また、この講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。

◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと

【その他の注意事項】

◇電卓が必要です（12桁。辞書・通信機能なし。音が出るモノも不可)。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

入門簿記Ⅱ	福山（フクヤマ） 倫基（トモキ）
Elementary Bookkeeping II	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

簿記は、一般にビジネスの言語であるといわれています。本講義は、将来、経済社会で活躍する諸君たちにとって必要不可欠な基礎知識であるビジネス言語としての複式簿記の処理手続きの基礎を、体系的知識として習得することを目的とします。

本講義では、複式・商業簿記の基礎となる個人企業の会計処理を中心とした複式簿記一巡の処理を習得します。なお、講義は毎時間、１．教科書により複式簿記の処理手続を観察したうえで、２．その確認・理解のために記帳練習を行う、という順序で進めて行きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
８桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、８桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提として出席10%、試験70%、課題ないし小テスト20%で評価する。

課題ないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、授業中に１～２回程度課す。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳	約束手形の記帳
8	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
9	有価証券	有価証券の取得・売却の記帳
10	収益・費用の繰延	収益・費用の繰り延べ処理
11	収益・費用の見越	収益・費用の見越し処理
12	資本金・引出金・税金	引出金ならびに個人企業の税金の処理
13	８桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示します。

◇参考書：開講時に指示します。

【履修条件等】

◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成されます。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要があります。また、この講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。

◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと

【その他の注意事項】

◇電卓が必要です（12桁。辞書・通信機能なし。音が出るモノも不可)。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

入門簿記Ⅱ	光澤（ミツザワ）　美芽（ミメ）
Elementary Bookkeeping II	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義は原則として、「入門簿記Ｉ」を履修済みの者、あるいは高等学校在学時にすでに簿記の学習を経験済みの者を対象としており、ほぼ日商簿記検定３級の範囲の商業簿記を取り扱う。具体的には商品売買、売掛金と買掛金、手形、有価証券、その他の債権・債務、固定資産、資本（純資産）などの個別論点と、収益・費用の見越・繰延を含む期末の決算整理手続、および８桁精算表の作成と財務諸表の作成である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。	20%
日々の取引を仕訳できるようにする	設問に対する回答によって評価。個別論点について取引の内容を仕訳で示すことができること。	50%
決算整理事項を理解し、財務諸表を作成できるようにする	設問に対する回答によって評価。決算整理事項の内容を理解し、費用および収益の見越しや繰延べを含んだ決算整理手続ができ、８桁精算表および財務諸表を作成できること。	30%
評価の方法　中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の３分の２以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価方法などの説明、「入門簿記Ｉ」の復習
2	商品売買取引(1)	仕入・売上、値引き・返品、仕入帳・売上帳など
3	商品売買取引(2)	内金の処理、商品券、売上原価と売上総利益の計算
4	手形	約束手形、為替手形、裏書譲渡、割引
5	貸倒れと貸倒引当金	貸倒れとは、貸倒損失、貸倒引当金の見積りなど
6	売買目的有価証券	有価証券の種類、有価証券と利息・配当、売買目的有価証券の購入・売却・期末評価
7	有形固定資産	固定資産の購入・売却、減価償却費の計上
8	中間試験および解説	
9	その他債権・債務	貸付金・借入金、仮払金・仮受金、立替金・預り金など
10	その他の取引	資本金と引出金、税金の処理、消耗品
11	決算(1)	試算表の作成、費用・収益の繰延べ
12	決算(2)	費用・収益の見越し、演習
13	決算(3)	決算整理事項と決算整理仕訳、精算表の作成
14	総復習	精算表作成演習、損益計算書と貸借対照表の作成など
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ｉ」をすでに履修済みか同程度の知識を有することを履修の条件とする。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習は特に要求しないが、復習をしっかりし、自習課題をこなすこと。自らが実際に手を動かさないことには始まらないので、とにかく習ったことはすぐに復習し、確実に身につけるよう努力してほしい。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、ＰＣ、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

入門簿記Ⅱ	村上（ムラカミ）　翔一（ショウイチ）
Elementary Bookkeeping II	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

簿記は、一般にビジネスの言語であるといわれています。本講義は、将来、経済社会で活躍する諸君たちにとって必要不可欠な基礎知識であるビジネス言語としての複式簿記の処理手続きの基礎を、体系的知識として習得することを目的とします。

本講義では、複式・商業簿記の基礎となる個人企業の会計処理を中心とした複式簿記一巡の処理を習得します。なお、講義は毎時間、１．教科書により複式簿記の処理手続を観察したうえで、２．その確認・理解のために記帳練習を行う、という順序で進めて行きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
８桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、８桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提として出席10%、試験70%、課題ないし小テスト20%で評価する。

課題ないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、授業中に１～２回程度課す。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳	約束手形の記帳
8	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
9	有価証券	有価証券の取得・売却の記帳
10	収益・費用の繰延	収益・費用の繰り延べ処理
11	収益・費用の見越	収益・費用の見越し処理
12	資本金・引出金・税金	引出金ならびに個人企業の税金の処理
13	８桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成されます。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要があります。また、この講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。

◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと

【その他の注意事項】

◇電卓が必要です（12桁。辞書・通信機能なし。音が出るモノも不可)。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

財務会計Ⅰ	小森（コモリ）　秀人（ヒデト）
Financial Accounting I	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

企業会計には、企業外部の株主、金融機関、取引相手、社会等の利害関係者に報告するための財務会計と、企業内部の経営者・管理者に報告するための管理会計がある。外部に報告する以上、企業によって異なる勝手な基準で作った数字を勝手な表示で報告されては、外部はこまる。業界内での他社との公正な比較や理解と評価ができないからである。故に財務会計には明確なルールがありそれにのっとって作成・情報開示・報告するわけである。

財務会計の報告数字は、企業の戦略と活動の結果である。故に、この数字を通して自社やG会社、顧客企業・潜在顧客企業、投資先企業等とその活動を把握し理解することも、分析することもできる。故に現代では、ビジネスマンの基礎インフラといわれる。学生の皆さんは、これを学ぶことによって、卒業後の社会人としての基礎的力を身につけることになる。講義は、世界の代表的金融機関と日本の事業会社財務部門での双方（企業内外からの視点）の実務経験をふまえ、わかりやすく楽しく、事例を交えながら実践的に理解を深めるべく務めたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営と財務会計の関係、財務諸表の意味・体系とルール・法制度の理解	設問に対する回答で評価	20%
企業活動と B/S の関係、B/S の構成と主たる科目、資産と負債の本質理解	設問に対する回答で評価	30%
企業活動と P/L の関係、段階利益の意味、収益費用の認識測定の基本の理解	設問に対する回答で評価	30%
P/L と B/S の関係、外貨換算・リースの基本、会計方針株主総会・定款の意味理解	設問に対する回答で評価	20%
評価の方法　確認テスト20%、平常点10%　試験70% 単位評価は３分の２以上の出席が前提（病気入院等の正式な欠席届―証明付きおよび４年生の就職面接での正式な届けがあれば配慮する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	概要、会計とは何か	講義の概要、会計の種類、企業活動（経営）と財務会計
2	財務諸表とは何か	財務諸表の体系、３種類の財務諸表、法制度、
3	会計原則と会計基準	企業活動と情報開示・報告のルール、(各国基準の例)
4	B/S とは何か　資産１	企業活動と B/S　B/S 全体構造、資産の本質、流動資産 事例
5	資産２	固定資産、繰り延べ資産、事例　貸倒引当金と減価償却
6	資産３、負債とは何か	資産の評価方法、負債の本質、流動負債と固定負債
7	純資産とは何か	出資と利益留保の各表示科目、評価換算差額等　包括利益
8	P/L とは何か	企業活動と P/L、段階利益と意味　費用の見方　事例
9	P/L Ⅱ	製造原価と売上原価、製造原価明細書、収益費用の認識測定
10	B/S と P/L の関係	収益費用の認識測定、企業活動と決算、B/S と P/L の関連
11	外貨換算会計	外貨の換算会計
12	リース取引の会計	ファイナンスリースとオペレーテイングリース
13	会計方針等	資産理論評価、会計方針の種類、注記事項、時価会計経過
14	株主総会と財務会計	計算書類の体系、総会の通知、定款の重要性、決算公告
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※（予定は以上であるが、受講生の状況によっては、取捨選択、基本知識導入、前後調整等あることを了解されたい）

【使用教材】

◇テキストや参考書は開講時に紹介予定。
クラスでは必要に応じて各種資料を配布する。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」を履修した学生、または「入門簿記Ⅰ」と「会計学概論」（または「経営学概論」）を履修した学生を対象とする。
◇本講義は、「財務会計Ⅰ」と「財務会計Ⅱ」を連続して履修することを条件。
将来社会人（就職、起業含め）として、グローバルな社会で生き延びる力の１つの基礎知識インフラを身につけたい学生、さらに将来資格（証券アナリスト、税理士、公認会計士）をとることに興味や関心がある学生―従って出席を重視する。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記」や「会計学概論」、「経営学概論」の復習。
経営や会計、さらにその事業環境としての日本とアジア、世界の経済・金融と産業の動向に興味を持って、新聞や専門誌等を読む癖を身につけてください。

【その他の注意事項】

◇私語、携帯電話の使用（メール、ウエッブ閲覧含む）は厳禁。
注意しても聞かない悪質な場合は退場の処置をとることを留意されたい（退場が重なると大変残念ではあるが単位は付与されないことになるので注意されたい）。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

財務会計Ⅰ	光澤（ミツザワ）　美芽（ミメ）
Financial Accounting Ⅰ	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

企業はその経済活動を、簿記の技術を用いて会計情報として記録する。記録された情報は企業内部で活用されたり、企業外部に提供されたりする。本講義は、株主や債権者といった企業の外部の利害関係者に対して報告するための財務会計の分野を対象としており、より専門的な内容となる。したがって、本講義の受講生については簿記および会計学の基礎的な知識があることが前提となる。

各テーマについて、テキストを中心に講義形式で解説を行う。必要に応じてレジュメを配布する予定である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
会計に関する専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計の意義、会計の種類、会計に関する基礎的な用語や概念を理解し、会計の役割や機能を説明できること。	20%
会計を行う上での前提条件や諸概念について理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計公準や発生主義といった内容を説明できること。	40%
会計上のルールである会計基準や、会計手続を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。棚卸資産の期末の評価や、固定資産の減価償却の方法など、それぞれの具体的な手続について、その必要性を理解し説明できること。	40%
評価の方法　確認テスト（小テスト）20%、本試験80%。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の３分の２以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価方法など
2	会計と制度	会計とは何か、会計の種類、会計の役割など
3	会計処理と財務諸表(1)	個別財務諸表の作成、財務諸表の構成要素と基礎概念
4	会計処理と財務諸表(2)	取引記録と勘定記入、仕訳と転記
5	会計処理と財務諸表(3)	決算手続きと個別財務諸表の作成、連結財務諸表の作成
6	会計公準と概念フレームワーク(1)	会計公準、財務会計の概念フレームワーク
7	会計公準と概念フレームワーク(2)	資産負債アプローチと収益費用アプローチ
8	確認テスト（小テスト）	学習達成度の確認テストおよび解説
9	会計基準	会計基準の発展、会計原則と会計基準
10	企業会計原則	企業会計原則、一般原則
11	資産会計(1)	資産会計の意義、資産の分類基準
12	資産会計(2)	資産の評価基準、資産の取得価額の決定方法
13	現金預金、有価証券	企業の経済活動とキャッシュ･フロー、有価証券
14	キャッシュ･フロー計算書	キャッシュ･フロー計算書の意義、作成
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※状況によっては多少前後する場合もある。

【使用教材】

◇教科書：広瀬義州著『会計学スタンダード』中央経済社

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」および「会計学概論」、をすでに履修した学生を対象とする。また、本講義は「財務会計Ⅰ」と「財務会計Ⅱ」を連続して履修することを条件とする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」および「会計学概論」で学習した内容を復習しておく。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

財務会計Ⅱ	小森（コモリ）　秀人（ヒデト）
Financial Accounting II	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

財務会計は、企業外部に報告するための会計である。外部に報告する以上、企業によって異なる勝手な基準で作った数字を勝手な表示で報告されては、外部はこまる。故に財務会計には明確なルールがありそれにのっとって作成・情報開示・報告するわけである。

財務会計の報告数字は、企業の戦略と活動の結果である。故に、この数字を通して自社やG会社、顧客企業・潜在顧客企業、投資先企業等とその活動を把握し理解することも、分析することもできる。故に現代では、ビジネスマンの基礎インフラといわれる。「財務会計Ⅱ」では、「財務会計Ⅰ」の内容を踏まえ、連結と資産負債等の各論の会計処理、ROE等財務分析に焦点が当たる。合わせて国際会計基準にも言及している。学生の皆さんは、これを学ぶことによって、卒業後に、グローバル化し行く現代と未来において、必要な社会人としての基礎的力を身につけることになる。講義は、世界の代表的金融機関と日本の事業会社財務部門での双方（企業内外からの視点）の実務経験をふまえ、わかりやすく楽しく、事例を交えながら実践的に理解を深めるべく務めたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
個別と連結の違い、連結財務諸表の体系、連結 CF 表の見方を理解する	設問に対する回答によって評価	30%
資産会計、負債会計、純資産会計のの基本の理解	設問に対する回答によって評価	30%
総合指標 ROE と ROA と各指標の理解 分解方法と関連の理解	設問に対する回答によって評価	30%
国際会計基準とは何か、それと日本基準の大きな違いの理解	設問に対する回答によって評価	10%
評価の方法　確認テスト20点、平常点10点、試験70% 単位評価は３分の２以上の出席が前提（病気入院等の正式な欠席届―証明付きおよび４年生の就職面接での正式な届けがあれば配慮する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	概要、連結とは何か	講義の概要、連結と個別の違い、子会社、関連会社等
2	連結財務諸表とは何か	被支配株主、連結 G 資本戦略、日米財務諸表の体系等
3	連結財務諸表Ⅱ	連結決算への流れ、連結 CF 計算書解説、見方と分析　事例
4	資産会計各論Ⅰ	金融商品、金融資産、金銭債権　有価証券
5	資産会計各論Ⅱ	棚卸資産、有形固定資産、減価償却
6	資産会計各論Ⅲ	無形固定資産、繰り延べ資産　償却
7	資産会計各論Ⅳ	固定資産の減損会計
8	負債会計各論	金銭債務、引当金、退職給付の会計
9	純資産会計	株主資本、配当、自己株式、新株予約権、包括利益
10	財務分析Ⅰ	定量分析と定性分析、傾向分析と比率分析、総合指標 ROEROA
11	財務分析Ⅱ	収益性と効率性、生産性、安全性と財務格付け
12	財務分析Ⅲ	セグメント分析、連単倍率と連結G等
13	国際会計基準１	世界の２大基準、その体制、財務諸表の体系、早期適用状況
14	国際会計基準Ⅱ	日本基準との違い、見方における大事な論点
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※（予定は以上であるが、受講生の状況によっては、取捨選択、基本知識導入、前後調整等あることを了解されたい）

【使用教材】

◇テキストや参考書は開講時に紹介予定。
クラスで必要に応じて各種資料を配布予定。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」を履修した学生、または「入門簿記Ⅰ」と「会計学概論」（または「経営学概論」）を履修した学生を対象とする。
◇本講義は、「財務会計Ⅰ」と「財務会計Ⅱ」を連続して履修することを条件。
将来社会人（就職、起業含め）として、グローバルな社会で生き延びる力の１つの基礎知識インフラを身につけたい学生、さらに将来資格（証券アナリスト、税理士、公認会計士）をとることに興味や関心がある学生―従って出席を重視する。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「財務会計Ⅰ」の復習（必要な場合、入門簿記・経営学概論も復習）。
経営や会計、更にその事業環境としての日本とアジア、世界の経済・金融と産業の動向に興味を持って、新聞や専門誌等を読む癖を身に着けてください。

【その他の注意事項】

◇私語、携帯電話の使用（メール、ウエッブ閲覧含む）は厳禁。
注意しても聞かない悪質な場合は退場の処置をとることを留意されたい（退場が重なると大変残念ではあるが単位は付与されないことになるので注意されたい）。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

財務会計Ⅱ	光澤（ミツザワ）　美芽（ミメ）
Financial Accounting II	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義は「財務会計論Ⅰ」に引き続き、企業の純資産の会計にはじまり、損益計算に不可欠な基礎概念、さらに発展的な会計の論点について解説を行う。必要に応じてレジュメを配布する予定である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
会計に関する専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計に関する基礎的な用語や概念を理解し、会計の役割や機能を説明できること。	20%
損益計算行う際に基礎となる考え方について理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。発生主義や費用収益対応の原則といった基礎概念を理解し、説明できること。また収益の認識基準と実際の会計処理との関係を整理し、説明できること。	40%
特殊論点について基本的な内容を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。それぞれの会計手続の意義や内容を理解し、仕訳などその手続を示せること。	20%
財務諸表を活用し、企業の経営分析ができるようにする	設問に対する回答によって評価。主要な経営分析指標について意味を理解し、実際に活用できること。	20%
評価の方法　確認テスト（小テスト）20%、本試験80%。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の３分の２以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	棚卸資産の会計	棚卸資産の意義、棚卸資産の取得原価の決定、棚卸資産の原価配分
2	有形固定資産の会計(1)	有形資産の意義、有形固定資産、減価償却、総合償却
3	有形固定資産の会計(2)	資産の除去債務、有形固定資産の除却と取替法、投資その他の資産、資産の減損処理
4	無形資産の会計	無形資産の意義、のれんの会計、ソフトウェアの会計、研究開発費の会計、繰延資産の意義
5	負債の会計(1)	負債の意義、負債の分類基準、金銭債務、
6	負債の会計(2)	引当金、社債
7	確認テスト（小テスト）	学習達成度の確認テストおよび解説
8	資本の会計(1)	資本会計の意義、株主資本その他の純資産、増資による資金調達
9	資本の会計(2)	自己株式、剰余金の配当、株主資本等変動計算書
10	収益と費用(1)	収益の意義とその計上基準、実現主義･現金主義･発生主義
11	収益と費用(2)	費用の意義とその計上基準、損益の見越しと繰延べ
12	連結財務諸表(1)	連結財務諸表作成の基礎概念、連結財務諸表の作成
13	連結財務諸表(2)	連結損益計算書の作成、関連会社に対する投資の会計処理
14	財務諸表分析	収益性、安全性、成長性、損益分岐点分析
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※状況によっては多少前後する場合もある。

【使用教材】

◇教科書：広瀬義州著『会計学スタンダード』中央経済社

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」および「会計学概論」、をすでに履修した学生を対象とする。また、本講義は「財務会計Ⅰ」と「財務会計Ⅱ」を連続して履修することを条件とする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

管理会計Ⅰ	福山（フクヤマ） 倫基（トモキ）
Management Accounting Ⅰ	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

管理会計とは、組織管理・経営企画等に不可欠な経営情報を提供する理論と技術であると言えます。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に数値情報を算出するだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるか、数値情報をどう経営管理に用いるかについて理解する必要があります。その中で春学期は、管理会計に用いる経営情報の作成方法および、計算手法が開発された背景に焦点を当て学習を行います。

講義は、解説→演習の流れで行い、講義ごとのテーマが講義中に理解できるよう進めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
総合原価計算と標準原価計算を理解する	設問に対する回答により評価します。 とくに、同じ計算手続きに用いるデータの違い・データの違いにより生じる差が、経営管理上でどのように活用されるか理解してください。	30%
直接原価計算と全部原価計算を理解する	設問に対する回答により評価します。 直接原価計算と全部原価計算の計算手続き上の特徴を理解することが重要です。	30%
ＣＶＰ分析とその利活用に関して	設問に対する回答により評価します。 ＣＶＰ分析が必要になる場面、得られた情報をどう解釈するかを理解することと、計算手続きの一連の流れを理解することが必要になります。	30%
経営シミュレーションゲームを通して管理会計上で使われる経営情報の有用性を確認する	講師が作成した経営シミュレーションゲームを受講者全員でプレイしてもらいます。そのゲームを通して生じるデータから管理会計上で生じる経営情報を作成し、その活用を実体験することで、管理会計が経営管理を行う上で必要であることを理解ください。	10%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提に、貢献点10%、課題および小テスト点30%、期末試験60%で評価します。※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。

課題および小テストは、テーマごとに行うので２～３回の実施を予定しております。

貢献点は、経営シミュレーションゲームを行った講義後および、講義のいずれかの段階で講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	本講義に関連する日商簿記検定試験に関しての説明、本講義の進め方、評価方法などに関しての説明
2	ＣＶＰ分析(1)	損益分岐点売上高に関する説明と計算演習
3	ＣＶＰ分析(2)	利益計画で行うＣＶＰ分析の実践
4	ＣＶＰ分析(3)	ＣＶＰ分析総まとめ
5	標準原価計算(1)	標準原価計算が開発された背景に関する説明と標準原価計算の基本的な計算手続きの実践
6	標準原価計算(2)	標準原価計算から得られる情報と実際原価計算から得られる情報を比べることにより算出される情報の活用
7	標準原価計算(3)	予算管理と業績管理に関する説明
8	標準原価計算(4)	標準原価計算総まとめ
9	直接原価計算(1)	直接原価計算が開発された背景に関する説明
10	直接原価計算(2)	直接原価計算による計算手続きの実践
11	意思決定会計(1)	短期的な経営意思決定を支援する情報作成
12	意思決定会計(2)	中・長期的な経営意思決定を支援する情報作成
13	講師が開発した講義の実践	経営シミュレーションゲームを用いた管理会計情報の必要性の認識
14	春学期講義内容まとめ	期末テスト前に春学期で学習した内容を総括して復習を行う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。

◇本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。

◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

◇「工業簿記Ⅰ」、「工業簿記Ⅱ」もしくは、日商簿記２級同等の知識を有することを前提とします。難易度の高い計算演習を行うため、その事を念頭に講義を受講してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義中だけでは問題演習をこなすことは出来ないため、必要に応じて講義終了後に課題を出します。必ず課題を行うようにしてください。

【その他の注意事項】

◇電卓は、ＰＣや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。

◇講義内容は講義の進捗や受講生の理解度に応じて変更がある場合があります。

◇講義の妨げになる行為を行った場合、講師から指導が入ります。指導の回数次第で履修停止となる旨、ご了承ください。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

管理会計Ⅱ	福山（フクヤマ） 倫基（トモキ）
Management Accounting II	基本科目／半期／２単位

【授業概要】

管理会計とは、組織管理・経営企画等に不可欠な経営情報を提供する理論と技術であると言えます。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に数値情報を算出するだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるか、数値情報をどう経営管理に用いるかについて理解する必要があります。秋学期は、管理会計に関する情報や手法をいかに使いマネジメントを行うか理論的に学習し、その後に興味のあるテーマを元にグループワークを行ってもらいます。このグループワークという作業を通して管理会計上のマネジメント手法の理解を深めるとともに、グループワークの難しさを理解し習得してくだされば幸いです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
管理会計がなぜ必要なのかを理解する	管理会計情報でなぜ経営管理を行うことや業績管理を行うことなどが可能になるのかを理解しましょう。	30%
会計情報と業績管理の関連性を理解する	業績管理をするときに、どのような会計情報が求められるのか、会計情報をどの様に使うのかを理解しましょう。	20%
管理会計を行う上での組織の在り方との関係を理解する	企業の組織構成というものはさまざまな形があることは言うまでもないでしょう。さまざまな組織がある中で、管理会計手法に違いはあるのか、それとも共通性があるのか設例を通して学びましょう。	20%
グループワークを通して、管理会計の事例を研究しよう	管理会計の理論を講義で学んだあとに、興味のある管理会計手法に関してグループワークを行うことで理解を深めましょう。その中で、プレゼンの仕方・資料の作り方など指導します。	30%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提に、貢献点10%、期末試験30%、グループワーク60%で評価します。※期末試験・グループワークに関しては講義中に補足説明します。
グループワークのグループ決めは講義第２回目に行います。必ず出席するようにしてください。
貢献点は、講義のいずれかの段階で講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	本講義の進め方、評価方法などに関して
2	管理会計総論	なぜ管理会計が必要なのか等を講義
3	管理会計の組織構造と管理者	管理会計上の組織構造やそれに伴う管理者の在り方に関して講義
4	予算管理	原価情報と予算管理に関して
5	原価計算の限界	原価計算を行って管理を行う上での限界に関して
6	事業管理会計	細分化された企業組織を管理する事に関して
7	プロフィットセンター	企業内の組織が利益計算を行う意義に関して
8	アメーバ経営	細分化された企業組織をマネジメントする手法の一つ
9	同じ経営戦略をとる企業の違い	低価格戦略をとる企業でも管理会計の視点から細かく分析すれば違いが見える。事例を通して講義
10	さまざまな管理会計情報作成	既存の管理会計情報の上に成り立つ情報作成手法を説明
11	ＪＩＴ(ジャストインタイム)	ＪＩＴに関して講義
12	Ｊコスト論	Ｊコストに関して講義
13	グループワーク発表(1)	グループで調べた内容のプレゼンおよび評価
14	グループワーク発表(2)	グループで調べた内容のプレゼンおよび評価
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。

◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

◇「工業簿記Ⅰ」、「工業簿記Ⅱ」もしくは、日商簿記２級同等の知識を有することを前提とします。また、グループワークを行いますので途中で履修を取りやめる方はご遠慮ください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇グループワークの内容が決まり次第、各グループで報告に向けてリサーチをすること。

【その他の注意事項】

◇電卓は、ＰＣや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。

◇講義内容は講義の進捗や受講生の理解度に応じて変更がある場合があります。

◇講義の妨げになる行為を行った場合、講師から指導が入ります。指導の回数次第で履修停止となる旨、ご了承ください。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅰ	石塚（イシヅカ） 一彌（カズヤ）
Specialized Seminar I	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：管理会計

「管理会計」は、経営管理に役立つデータ（＝企業内部における業績評価や意思決定に資する）を提供するための会計です。本演習においては、実際の経営活動に的を絞り、これら経営活動に惹起する諸問題に対し「管理会計」をどのように把握し、使いこなしていくかを、経営者の立場に立って主体的に考え、管理会計上必要な問題探求能力と問題解決能力を養うことまでを目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的前提に関する知識の修得の有無の確認する	管理会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認	30%
管理会計に関する基礎的な理解の確認	管理会計に関する基礎的な知識について、毎回の基礎的な理解の程 授業での質疑応答により、その修得の確認をする。	30%
管理会計に対する理解の深度の程度の確認	管理会計の意義、必要性、現状においての問題点の把握とその解決のための素養を修得しているか否かにつき、毎回のデスカッションと課題レポートにより確認する。	40%
評価の方法　授業への参加度60%、課題レポート30%、試験10%により総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	管理会計の基礎(1)オリエンテーション	16	管理会計の応用(4) ケーススタディ(3)
2	管理会計の基礎(2)会計の意義(1)財務会計＆管理会計	17	管理会計の応用(5) ケーススタディ(4)
3	管理会計の基礎(3)会計の意義(2)財務会計＆管理会計	18	管理会計の応用(6)ケーススタディ(5)
4	管理会計の基礎(4)会計の意義(3)財務会計＆管理会計	19	管理会計の応用(7)ケーススタディ(6)
5	管理会計の基礎(5)管理会計の役割＆機能(1)	20	管理会計の応用(8)ケーススタディ(7)
6	管理会計の基礎(6)管理会計の役割＆機能(2)	21	管理会計の応用(9)ケーススタディ(8)
7	管理会計の基礎(7)管理会計の役割＆機能(3)	22	管理会計の応用(10)テーマ別発表準備(1)
8	管理会計の基礎(8)管理会計の役割＆機能(4)	23	管理会計の応用(11)テーマ別発表準備(2)
9	管理会計の基礎(9)管理会計の役割＆機能(5)	24	管理会計の応用(12)テーマ別発表準備(3)
10	管理会計の基礎(10)管理会計の役割＆機能(6)	25	管理会計の応用(13)テーマ別発表(1)
11	管理会計の基礎(11)ケーススタディにむけての準備(1)	26	管理会計の応用(14)テーマ別発表(2)
12	管理会計の基礎(12)ケーススタディにむけての準備(2)	27	管理会計の応用(15)テーマ別発表(3)
13	管理会計の応用(1) 応用に向けてのオリエンテーション	28	管理会計の総まとめ(1)
14	管理会計の応用(2)ケーススタディ(1)	29	管理会計の総まとめ(2)
15	管理会計の応用(3)ケーススタディ(2)	30	管理会計の総まとめ(3)

【使用教材】

◇教科書：演習中に指示します。

◇参考書：とくになし。

【履修条件等】

◇会計の基本（授業としては、「会計学概論」）科目は、履修していることが望ましい。履修していない場合には、会計全般に関する基本的な知識を会得していることが望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇基礎１～12までは、管理会計の基礎について基本的論点、課題を提示する。
応用１～15では、ゼミ生各自（グループ別）研究テーマの決定、各テーマについての調査、中間発表、レポートの作成および秋学期のゼミ発表大会への準備を中心に作業する。
履修者は、あらかじめ、少なくとも、会計に関する基礎的知識を復習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇成績評価としては、出席状況とゼミデスカッションにおける「貢献度」を重視する。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅰ	小川（オガワ）　達也（タツヤ）
Specialized Seminar I	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：おもてなしのサービス戦略

現代企業が提供する「おもてなし」のサービスを中心に、事業の成長や成功を収めた要因を検討し、競争優位の戦略と事業の仕組み（ビジネスモデル）を考察します。

接客を伴うサービス業では、おもてなしの人材育成が重要になりますが、そこには企業特有のブランド・コンセプトに基づいた仕組みが存在します。小川ゼミではこうした企業ごとに異なるビジネスモデルを学ぶ目的で企業を訪問し、インタビュー調査を通じて机上の理論だけでは得られない知識の修得も目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
演習で取り上げた理論や用語を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げた理論や用語の定義・概念、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた企業組織の実践的知識を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げた企業組織の実践的知識や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた理論と知識を広く理解し、応用して説明・議論できる	企業組織の実践的知識を複数把握し、演習で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題に対する解決策をしっかりと議論できること。	20%
プレゼンテーション・スキルが身についている	演習の時間やゼミ発表大会で担当したプレゼンテーションで、しっかりと報告できること。	20%
レポートやレジュメを作成するスキルが身についている	演習の時間やゼミ発表大会で担当したセクションのレポート・レジュメをしっかりと作成し、期限内に提出できること。	20%

評価の方法　演習の実施回数に対して出席回数が３分の２以上に限り評価します。なお、２回連続して欠席したり、レジュメ発表時に欠席した場合には厳しく評価し、単位取得が困難となるので注意してください。演習への積極的な参加姿勢を前提として、総合的な学習・研究成果に基づいて評価します。

【授業計画】

小川ゼミは、おもてなし（ホスピタリティ）を提供するサービス産業の戦略について研究を進めています。とくに、日本企業のサービス戦略とビジネスモデルの在り方を議論し､経済のサービス化が進展する経営環境の中で企業が目指すべき戦略を検討します。今年度は、ホテル業界を中心に考察します。

演習への参加は事前準備が重要です。まず、文献・資料を各自で熟読し、記述内容を確認することから始まります。経営学やビジネスで必須の専門用語の把握も必要です。文献・資料にある重要な指摘や問題点、さらに考察が必要な論点を見出します。各人が上記のプロセスで得た知見と追究すべき論点を要約し、レジュメにまとめ、口頭で発表します。ゼミ生全員が質疑応答と議論に参加し、建設的かつ有意義な議論ができるよう十分に資料収集を行い、各人が深く検討できるような姿勢で臨む必要があります。

また、夏期休業中に企業訪問を実施し、12月に開催される「ゼミ発表大会」に向けてインタビュー調査を行います。秋学期は、春学期で学んだ知識と、企業訪問で得られた「生きた情報」をもとにゼミ生が一丸となって研究発表の準備を進め、当日のゼミ発表大会でその成果を披露します。

学年末には、各自で「ゼミ単位取得レポート」を作成し、提出します。各々が興味のある企業や産業を選択し、経営戦略を中心としたテーマでまとめます。

小川ゼミでは、３年間にわたり一貫して「おもてなしのサービス戦略」を探究しますが、同時にプレゼンテーション（発表）やディスカッション（議論）、レジュメ・レポートの作成といった、卒業後に必要なスキルを身につけることも目標としています。

【使用教材】

◇教科書：原田保編著『日本企業のサービス戦略－人にやさしいサービスサイエンスの確立』中央経済社、2008年

◇参考書：議論や考察に必要な文献・資料を適宜紹介します。

【履修条件等】

◇レジュメとレポートは Word で作成し、発表は PowerPoint のスキルが必要です。

◇単位を取ることが目的ではなく、大学生として充実した成果を残すために３年間継続して専門演習を履修できる方にお勧めします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出します。わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、演習内での議論に備える必要があります。また、日頃から経済新聞や経済雑誌等をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇専門演習は通常の講義形式の授業と異なり、履修者が自ら疑問を見出し、調査分析し、その疑問をどのように解決するのか、モノの考え方を学び、発表し議論を行う場です。専門演習の主体は履修者自身にあることを自覚してください。常に向上心と修学意欲を高め、積極的な参加姿勢が不可欠となります。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅰ	鬼木（オニキ） 一直（カズナオ）
Specialized Seminar I	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

「情報システム学」

情報化社会と言われる昨今、企業において情報をどのように収集、解析、活用していくかが大変重要となってきています。本専門演習では、情報システムを切り口として「会社では何をしているのか？」「何が求められているのか？」「どのように問題を解決していくのか？」などを議論し、企業社会についての理解を深めていきます。

また、グループ学習などを通じて情報の収集力、発想力、プレゼンテーション能力などを身につけていき、選定したテーマについて考察、発表することにより、問題探究能力と問題解決能力を養うことを目標とします。

基本的には、ゼミ生によるディスカッションとプレゼンテーションを中心に演習を進めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
情報システムに関する基本的知識の習得	演習で取り上げたテーマにおける用語の定義、概念を理解し、説明できること。	20%
チームで考える力の育成	グループワークにおけるチームへの貢献度、積極性、ディスカッション能力等を評価する。	30%
問題解決に向けた発想力の向上	課題を見つける力、解決策を考える力、解決への実行力を評価する。新しい発想力をつける力も養っていく。	20%
プレゼンテーション力の向上	発表や質疑応答の内容で評価を行う。ゼミ発表大会や演習の中での発表において、その進行、態度、発表資料の完成度などが評価のポイントとなる。	30%

評価の方法　演習態度（発言、積極性など）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	ゼミ発表大会に向けたテーマ選定
2	情報の集め方、扱い方について学ぶ	17	ＧＭＴ企業研究
3	プレゼン技術について学ぶ	18	ＧＭＴ企業訪問
4	関心のあるテーマについて発表	19	ゼミ発表大会テーマに関する研究
5	〃	20	〃
6	〃	21	〃
7	グループ発表のテーマ選定	22	ゼミ発表大会に向けた資料作成
8	グループワーク	23	〃
9	〃	24	ゼミ発表大会の予行演習
10	〃	25	ゼミ発表大会の振り返り
11	〃	26	ＧＭＴ企業研究まとめ
12	〃	27	次年度ゼミテーマ探索
13	〃	28	〃
14	グループごとに発表	29	〃
15	まとめ（気づき、反省、決意）	30	まとめ（気づき、反省、決意）

【使用教材】

◇教科書は使用しません。

◇ＰＣ（パワーポイント、エクセル、ワードなど）を使うことがあります。

【履修条件等】

◇出席を重視します。演習に積極的、継続的に参加してください。

◇多くのことに関心を持ち、発想力の向上に努めてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題が出た時には、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇学外でのゼミ行事（企業訪問、ゼミ合宿など）を行うことがあります。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅰ	隅田（スミダ）　浩司（コウジ）
Specialized Seminar I	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

【研究テーマ】経済法（競争政策）、国際経済法（貿易・通商法）、交渉学

「専門演習Ⅰ」で学習した「交渉学」および経済法について、より深く学習することを目指します。経済法では、法的論点を踏まえた議論を行えるように指導するとともに、交渉学については、米国の研究を参照しながら、実践的に学修します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
交渉学・経済法の基礎知識の習得	このゼミで取り上げる交渉学や経済法の基礎知識を適切に習得し、理解できているかどうか？	20%
図書館やフィールド調査の基本的なやり方の理解	図書館やインターネットで、疑問点や課題の調査のやり方を身につけることができているか、そして自分で調査ができるかどうか？	20%
プレゼンテーション能力	自分たちが調査した内容をわかりやすく、プレゼンテーションとしてまとめて発表できるか？	20%
コミュニケーション能力	ゼミのメンバー同士での良好なコミュニケーション、基礎的なマナーや社会人になるためにふさわしい振る舞い・態度ができるか	40%

評価の方法　ゼミへの積極的参加、そして、ゼミの仲間と協力して課題に取り組み姿勢を重視します。

評価は、出席と参加姿勢が80%、提出物、成果物が20%です。

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	秋学期の課題の確認
2	交渉学とは何か？	17	交渉学の事例研究１
3	交渉学の演習１	18	交渉学の事例研究２
4	交渉学の演習２	19	交渉学の事例研究３
5	交渉学の演習３	20	交渉学の事例研究４
6	交渉学の演習４	21	経済法の事例研究１
7	経済法とは何か？	22	経済法の事例研究２
8	経済法の基礎知識の演習１	23	経済法の事例研究３
9	経済法の基礎知識の演習２	24	経済法の事例研究４
10	経済法の基礎知識の演習３	25	経済法の事例研究５
11	プレゼンテーションの練習１	26	紛争解決学（交渉学）の基礎知識１
12	プレゼンテーションの練習２	27	紛争解決学（交渉学）の基礎知識２
13	プレゼンテーションの練習３	28	紛争解決学（交渉学）の基礎知識３
14	プレゼンテーションの練習４	29	紛争解決学（交渉学）の基礎知識４
15	春学期のまとめ	30	秋学期のまとめ、1年間の振り返り

【使用教材】

◇教科書はとくに指定しません。

【履修条件等】

◇専門演習でしっかり勉強したいという意欲がある人。

◇交渉学や経済法（企業不祥事の法的な研究），貿易・国際経済法に興味がある人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ゼミの場合、必ず、予習をして講義に出席する必要があります。

【その他の注意事項】

◇とくにありません。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅰ	土井（ドイ）　充（ミツル）
Specialized Seminar I	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

このゼミでは、株主など企業に利害関係を持っている外部の人たちに情報を提供するための会計、すなわち財務会計を中心テーマとします。企業は、この財務会計を一定のルールに従って行っています。ゼミでは、この会計ルール（複式簿記、会計基準など）や、ルールに従い作成された情報を読み解くための知識（経営分析など）を習得するとともに、こうした知識を用いて、現代経済社会において財務会計がどのようなはたらきを持っているのかを探究していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務会計に関する基本的な知識を有していること	ゼミ活動やゼミレポートの内容によって評価。 簿記（２級程度)、会計理論（財務会計 I/II 程度)、および個別研究テーマに関する知識を有している。	40%
アカデミックリテラシーを修得していること	ゼミ活動によって評価。 「専門演習Ⅰ」で取得したリテラシーをもちいて、(a)情報を整理・分析することができる。(b)効果的な報告手法を選択し、報告する（自分の意見を相手に伝える）ことができる。(c)グループの意見を纏めることができる。	20%
レポートを作成することができること	レポートによって評価。 「専門演習Ⅰ」で学修したレポートの形式要件を満たしながら、(a)問題を自ら発見し、(b)「(a)」に対する答えを考察することができる。	20%
ゼミ活動の方針を理解していること	ゼミ活動によって評価。 (a)自主的・積極的な姿勢でゼミに出席している。(b)サブゼミ、ゼミコンパ、合宿へ貢献する。(c)理論が仮説であること理解し、「なぜ」「どうして」という問題意識をもって課題に取り組むことができる。	20%

評価の方法　発表や討論などへの参加度合や出席状況など、演習への取り組む姿勢や貢献度などから総合的に評価します。

【授業計画】

＜春学期＞

春学期は、財務会計の基本原理に関することを全員で討議する形で進めていきます。具体的には、毎回、報告者が担当範囲についてレジュメを作成し、演習で発表します。この発表を基に、全員で討論を行い全体の理解を深めていきます。

＜秋学期＞

秋学期は、演習で協議し決定した幾つかのテーマについて、討論を行い演習の意見を形成し、報告を行います。春学期同様、演習では、レジュメを作成し全員で討論を行い、アドバイスや報告の問題点を指摘し、テーマの理解を深めていきます。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：必要に応じて演習中に配付します。

【履修条件等】

◇習に積極的・継続的に参加する学生の履修を望みます。

◇「商業簿記Ⅰ」、「商業簿記Ⅱ」、「工業簿記Ⅰ」、「工業簿記Ⅱ」、「税務会計Ⅰ」、「税務会計Ⅱ」、「管理会計Ⅰ」、「管理会計Ⅱ」、「経営分析」を履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇簿記（３級程度)、会計理論（「会計学概論」、「財務会計Ⅰ、」「財務会計Ⅱ」）の知識を確認すること。

◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇本ゼミの準備（予習・事前学習）のため、サブゼミを開くことがあります。

◇研究テーマによって「専門演習Ⅲ」と合同でゼミを行うことがあります。

◇ゼミ生全員で協議し、学外でのゼミ行事（ゼミ合宿など）を行うことがあります。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅰ	日野（ヒノ）　隆生（タカオ）
Specialized Seminar I	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

マーケティングという用語は、ビジネス社会において、しばしば見聞きするが、多様な意味に用いられ、また、時代とともに概念は進化してきている。

マーケティングは、企業の基本的機能の一つであるが、あらゆる経営体に適応可能であると考えられる。

「専門演習Ⅱ」では、まずテキストを輪読し、マーケティング論の歴史から現代社会におけるマーケティングとは何か、適宜、レポート作成と発表、質疑、ディスカッションにより理解を深めていく。そしてどのように活用するか、具体的事例とともに学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的用語を理解する	小レポートによって評価する。 テキストの要約を記述した小レポートによって、マーケティング論の基本的用語の理解度を判定する。	30%
戦略としてのマーケティング論を理解する	レポート提出によって評価する。 テキスト内容の製品戦略、価格戦略、チャネル戦略、プロモーション戦略など、マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	30%
現代におけるマーケティングの意義を理解する	レポートおよび発表によって評価する。 マーケティング論の現代における意義について、発表内容によって評価する。	40%
評価の方法　演習態度（出席・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポート・発表などで総合的に判断します。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	プレゼンテーション
2	輪読	17	プレゼンテーション
3	プレゼンテーション	18	ゼミ発表大会の準備
4	輪読	19	ゼミ発表大会の準備
5	プレゼンテーション	20	ゼミ発表大会の準備
6	輪読	21	ゼミ発表大会の準備
7	プレゼンテーション	22	ゼミ発表大会の準備
8	輪読	23	ゼミ発表大会の準備
9	プレゼンテーション	24	ゼミ発表大会の準備
10	輪読	25	ケーススタディ
11	プレゼンテーション	26	ケーススタディ
12	輪読	27	ケーススタディ
13	プレゼンテーション	28	プレゼンテーション
14	プレゼンテーション	29	プレゼンテーション
15	まとめ(気づいたことと反省・決意)	30	まとめ(気づいたことと反省・決意)

【使用教材】

◇『マーケティング戦略論』学文社

『サービス・マネジメントの理論と実践』五絃舎

【履修条件等】

◇遅刻・無断欠席などは厳禁です。

◇「演習の時間」以外の時間でのワーク（レポート作成等）が必要です。

◇ディスカッションや発表に積極的に取り組んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、レポート作成、発表の準備等。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅰ	広瀬（ヒロセ）　盛一（モリカズ）
Specialized Seminar I	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：広告と企業のコミュニケーション活動

広告やマーケティングの学習理論を学び、企業が展開する実際の活動を対象に学習をする。データの収集、分析、発表といったリテラシーについても学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告やマーケティング関連の用語を理解し、説明できる	授業時間における発表、議論によって評価。広告やマーケティングの基本的な用語が説明できること。	25%
目的に応じた資料を図書館やインターネットを活用して見つけられる	課題によって評価。与えられた課題に関連する資料を、適切な方法によってこなせること。	25%
目的に応じた適切な分析方法を用いて、資料の分析ができること	課題によって評価。エクセルやＳＰＳＳなどのソフトを用いて、適切な分析ができること。	25%
分析結果や考察をまとめて、説明できること	課題によって評価。まとめた資料を文章や図表を用いて、他の人にわかりやすく伝えられること。	25%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、授業参加度50%、課題50%		

【授業計画】

＜春学期＞

アカデミックリテラシーの獲得。資料収集、レポート作成を中心に行う。

＜秋学期＞

設定した課題について、文章やスライドにまとめ発表する。

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

◇広告やマーケティングに興味を持っていること。

◇他人との共同作業ができること。

◇コンピュータの基礎的な操作ができること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅰ	フジモリ　ダイスケ 藤森　大祐
Specialized Seminar I	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：環境・観光・地域活性化

主に以下のテーマについて研究し、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成を行う。

・企業の環境問題対策について

・地域活性化のための環境および観光の取り組みについて

・環境ビジネス、観光ビジネス、ソーシャルビジネスについて

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
環境問題に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
持続可能な観光に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ソーシャルビジネスに関する理解	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ディスカッションとプレゼンテーション力の向上	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	40%
評価の方法　問題設定、調査、ディスカッション、プレゼンテーション、および各種ゼミ活動への主体的な取り組みなどから総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	ゼミ発表大会のテーマ検討
2	研究テーマの検討	17	ゼミ発表大会への準備
3	研究テーマの設定	18	調査
4	調査およびディスカッション	19	
5	プレゼンテーション準備	20	ディスカッション
6	プレゼンテーション、振り返り	21	
7	研究テーマの検討	22	ゼミ発表大会の準備
8	研究テーマの設定	23	
9	調査およびディスカッション	24	
10	プレゼンテーション準備	25	
11		26	ゼミ発表大会の振り返り
12		27	研究テーマの設定
13		28	プレゼンテーション準備
14	プレゼンテーション	29	プレゼンテーション
15	振り返り	30	振り返り

【使用教材】

◇教科書：とくに指定しないが研究の過程で必要となったものを購入してもらうことがある。

その他、必要に応じて資料を提供したり、参考書を紹介する。

【履修条件等】

◇あらゆるゼミ活動に積極的に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇各自が自発的に調査研究をする。

【その他の注意事項】

◇個々人が力をつけるよう努力するとともに、ゼミのメンバーを尊重し、ゼミ全体のパフォーマンスを向上させるよう心がけてもらいたい。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅰ	松田（マツダ）　岳（タカシ）
Specialized Seminar I	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：「投資を通じて社会的課題を解決する」

本専門演習は「経済・金融」をテーマに研究を行います。「世を経（おさ）め、民を済（すく）う」のが「経済（学)」の役割です。2018年度は「投資によってニッポンを子育て先進国にするためには」というテーマで研究を行う予定にしていますが。学生諸君の意見を聞き、実際の研究テーマは選定する予定です。どのようなテーマであっても、投資（金融）の力を用いて社会的課題の解決を目指すのが本セミナーのミッションです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
真摯にかつ主体的に物事に取り組むことができる	研究・課題に真摯に取り組んでいるか否か、積極的に課題に取り組んでいるか否か、主体的に取り組めているか否かによって評価を行う。	60%
論理的思考力を身につけ、論理的な発言をしたり、文章を書けたりする	レポートやプレゼンテーション、ディスカッションでのパフォーマンスを見ることで、論理的に思考できるか否か、論理的な発言ができているか否か、論理的な文章が書けるか否かの評価を行う。	40%
評価の方法　平常点100%（演習における振る舞い、取り組む姿勢を評価する）。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	目論見書の作成(1)
2	社会的課題(1)	17	目論見書の作成(2)
3	社会的課題(2)	18	目論見書の作成(3)
4	社会的課題(3)	19	目論見書の作成(4)
5	社会的課題(4)	20	プレゼンの準備(1)
6	社会的課題(5)	21	プレゼンの準備(2)
7	投資テーマの決定(1)	22	プレゼンの準備(3)
8	投資テーマの決定(2)	23	プレゼンの準備(4)
9	レポート提出(1)	24	プレゼンの準備(5)
10	スクリーニング(1)	25	目論見書の総仕上げ(1)
11	スクリーニング(2)	26	目論見書の総仕上げ(2)
12	スクリーニング(3)	27	目論見書の総仕上げ(3)
13	レポート提出(2)	28	目論見書の総仕上げ(4)
14	バーチャル投資(1)	29	目論見書の総仕上げ(5)
15	バーチャル投資(2)	30	目論見書の総仕上げ(6)

【使用教材】

◇教科書：ガイダンス時に指示する。

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇10回以上欠席すると評価対象外になる。

◇事前修得が望ましい科目はない。

◇授業を妨害する行為（遅刻、欠席、私語、携帯電話の使用など）は一切許さない。

◇３回以上注意を要するような行為をした学生には退席を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回の講義、教科書などを通じて指示する。

◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

【その他の注意事項】

◇経済・社会の動向を勘案して授業計画は変更する場合がある。

◇発言や質問をするなど、積極的に学ぶ姿勢を持っていることが望ましい。

◇質問は口頭、書面、メールで受け付けている。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅰ	ヤマカワ　サトル 山川　　悟
Specialized Seminar I	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：文化の方法（笑い、遊び、アート、物語）を利用したマーケティング

ビジネスの場における情報の収集、分析、創出、表現、伝達の技術を磨くことを目標とします。春期においては、マーケッターとしての基本的なリテラシーの取得を目指したトレーニングプログラムを実践します。秋期にはマーケティングプランニング（商品開発、プロモーション開発、新事業開発など）を自ら行なえるようなスキル獲得を目指します。学生コンテストへの参加や、企業訪問、学外視察、外部講師の招聘も行う予定です。

本ゼミ学生が過去に取り組んだ研究テーマとしては、次のようなものがあります。

「手塚コンテンツを活用した地域活性化の可能性に関する研究」「ローカル線のマーケティング」「社歌の研究」「高田馬場観光地化計画案」、「Social Smile Business（ユーモアで社会を変える方法）に関する研究」、「ご当地ヒーローの研究」、「ＩＴで変わるアパレル業界の現状と課題」、「1980年代ブームの深層に関する分析」。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケッターとしての基本的なリテラシーを取得していること	講義中の質疑応答、ワークショップ、提出物等により評価。 「情報の収集、分析、創出、表現、伝達についての技術力」を評価ポイントとする。	50%
マーケティングプランニング（商品開発、プロモーション開発、新事業開発など）を自ら行なえるようなスキルを獲得していること	講義中の質疑応答、ワークショップ、提出物、企画書等のアウトプット等により評価。 「発想力、企画書作成能力、グループワーク推進能力、他者や社会に働きかける力」を評価ポイントとする。	50%

評価の方法

評価の配分：70%以上の出席を条件に、授業中アウトプット50%、ゼミ運営に対する貢献度50%

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	秋期オリエンテーション
2	相互理解プログラム	17	企業訪問準備①
3	ビジネスリテラシートレーニング①	18	企業訪問準備②
4	ビジネスリテラシートレーニング②	19	企業訪問準備③
5	ビジネスリテラシートレーニング③	20	企業訪問
6	ビジネスリテラシートレーニング④	21	グループワーク①
7	創造的思考法トレーニング①	22	グループワーク②
8	創造的思考法トレーニング②	23	グループワーク③
9	創造的思考法トレーニング③	24	グループワーク④
10	創造的思考法トレーニング④	25	グループ研究発表①
11	消費者理解トレーニング①	26	グループ研究発表②
12	消費者理解トレーニング②	27	グループ研究発表③
13	消費者理解トレーニング③	28	グループ研究発表④
14	消費者理解トレーニング④	29	流通視察・ショウルーム見学
15	総括と達成度の確認	30	総括と達成度の確認

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：山川悟、他著『応援される経営』光文社

【履修条件等】

◇マーケティング、商品開発、広告宣伝などの分野に興味があること。

◇ＰＣである程度のドキュメント作成ができること。

◇好きでこだわりを持っている分野があり、それをビジネスやマーケティングと結びつけてみたいと思っている人が望ましい。

◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を受講していること。

◇担当教員の専門科目を前向きに受講しようとする意思のある人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇大学時代の日常的な読書やメディア接触（新聞購読等）、商品の使用体験などは、基礎トレーニングと一緒です。10年20年後に、そうした基礎体力がモノをいいます。本ゼミでは、そうしたことを重視したいと思います。

【その他の注意事項】

◇ゼミにおける研究活動について詳細を知りたい人は、下記を参照してください。

http://yamakawaseminar. jimdo. com/

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅰ	ワタナベ　ヤスヒロ 渡辺　泰宏
Specialized Seminar I	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：経営学

この専門演習では、「経営学」をテーマとして、それぞれの問題意識を深めることを目的とします。「専門演習Ⅰ」での学習内容をふまえ、「組織とは何か」、「管理とは何か」、という経営学の基本課題について学び、現代の企業社会についての理解を深めます。

座学によるテキストの講読、レジュメの作成や討論に平行して、特定の共通テーマを設定し、自分たちで資料調査やフィールドリサーチなどを行い、グループ学習を実施します。最終的に、ひとつのプレゼン資料にまとめ、学内のゼミ報告大会にて研究報告します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
１．経営学の基礎的知識の習得	毎回の授業での討論、レジュメの作成、レポート作成によって評価をします。	20%
２．個々の問題意識の醸成	同上。	20%
３．チームで働く力の養成	特定のテーマに基づいたグループ学習での、チームへの貢献度、ディスカッション能力等によって評価します。	30%
４．創造的な思考力の養成	同上。	30%

評価の方法　ゼミナール活動全般を通じて、上記の４項目において、自己成長できたか、設定した目標に到達できたかを、評価の主な方針とします。

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	オリエンテーション
2	課題の設定(1)	17	資料調査(1)
3	課題の設定(2)	18	資料調査(2)
4	資料調査(1)	19	資料調査(3)
5	資料調査(2)	20	報告資料の作成(1)
6	資料調査(3)	21	報告資料の作成(2)
7	レジュメ報告(1)	22	報告資料の作成(3)
8	レジュメ報告(2)	23	プレゼンテーション演習(1)
9	レジュメ報告(3)	24	プレゼンテーション演習(2)
10	レジュメ報告(4)	25	レポート作成(1)
11	レジュメ報告(5)	26	レポート作成(2)
12	レジュメ報告(6)	27	レポート作成(3)
13	フィールドリサーチ事前学習(1)	28	レポート作成(4)
14	フィールドリサーチ事前学習(2)	29	レポート作成(5)
15	春学期ふりかえりおよびまとめ	30	秋学期ふりかえりおよびまとめ

【使用教材】

◇テキストは初回オリエンテーションにて指示します。

【履修条件等】

◇「経営組織論Ⅰ」、「経営組織論Ⅱ」、「経営管理論」等、経営学の専門科目を必ず履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指定されたテキストの予習を必須とします。主体的な参加が求められますので、予習を心がけてください。

【その他の注意事項】

◇自分の考えや興味関心を大事にしてください。楽しんで学べるように努力してください。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅱ	石塚（イシヅカ）　一彌（カズヤ）
Specialized Seminar II	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：管理会計

「管理会計」は、経営管理に役立つデータ（＝企業内部における業績評価や意思決定に資する）を提供するための会計です。本演習においては、実際の経営活動に的を絞り、これら経営活動に惹起する諸問題に対し「管理会計」をどのように把握し、使いこなしていくかを、経営者の立場に立って主体的に考え、管理会計上必要な問題探求能力と問題解決能力を養うことまでを目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的前提に関する知識の修得の有無の確認する	管理会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認	30%
管理会計に関する基礎的な理解の確認	管理会計に関する基礎的な知識について、毎回の基礎的な理解の程 授業での質疑応答により、その修得の確認をする。	30%
管理会計に対する理解の深度の程度の確認	管理会計の意義、必要性、現状においての問題点の把握とその解決のための素養を修得しているか否かにつき、毎回のデスカッションと課題レポートにより確認する。	40%
評価の方法　授業への参加度60%、課題レポート30%、試験10%により総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	管理会計の基礎(1)オリエンテーション	16	管理会計の応用(4) ケーススタディ(3)
2	管理会計の基礎(2)会計の意義(1)財務会計＆管理会計	17	管理会計の応用(5) ケーススタディ(4)
3	管理会計の基礎(3)会計の意義(2)財務会計＆管理会計	18	管理会計の応用(6)ケーススタディ(5)
4	管理会計の基礎(4)会計の意義(3)財務会計＆管理会計	19	管理会計の応用(7)ケーススタディ(6)
5	管理会計の基礎(5)管理会計の役割＆機能(1)	20	管理会計の応用(8)ケーススタディ(7)
6	管理会計の基礎(6)管理会計の役割＆機能(2)	21	管理会計の応用(9)ケーススタディ(8)
7	管理会計の基礎(7)管理会計の役割＆機能(3)	22	管理会計の応用(10)テーマ別発表準備(1)
8	管理会計の基礎(8)管理会計の役割＆機能(4)	23	管理会計の応用(11)テーマ別発表準備(2)
9	管理会計の基礎(9)管理会計の役割＆機能(5)	24	管理会計の応用(12)テーマ別発表準備(3)
10	管理会計の基礎(10)管理会計の役割＆機能(6)	25	管理会計の応用(13)テーマ別発表(1)
11	管理会計の基礎(11)ケーススタディにむけての準備(1)	26	管理会計の応用(14)テーマ別発表(2)
12	管理会計の基礎(12)ケーススタディにむけての準備(2)	27	管理会計の応用(15)テーマ別発表(3)
13	管理会計の応用(1) 応用に向けてのオリエンテーション	28	管理会計の総まとめ(1)
14	管理会計の応用(2)ケーススタディ(1)	29	管理会計の総まとめ(2)
15	管理会計の応用(3)ケーススタディ(2)	30	管理会計の総まとめ(3)

【使用教材】

◇教科書：演習中に指示します。

◇参考書：とくになし。

【履修条件等】

◇会計の基本（授業としては、「会計学概論」）科目は、履修していることが望ましい。履修していない場合には、会計全般に関する基本的な知識を会得していることが望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇基礎１～12までは、管理会計の基礎について基本的論点、課題を提示する。
応用１～15では、ゼミ生各自（グループ別）研究テーマの決定、各テーマについての調査、中間発表、レポートの作成および秋学期のゼミ発表大会への準備を中心に作業する。
履修者は、あらかじめ、少なくとも、会計に関する基礎的知識を復習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇成績評価としては、出席状況とゼミデスカッションにおける「貢献度」を重視する。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅱ	小川（オガワ）　達也（タツヤ）
Specialized Seminar II	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：おもてなしのサービス戦略

現代企業が提供する「おもてなし」のサービスを中心に、事業の成長や成功を収めた要因を検討し、競争優位の戦略と事業の仕組み（ビジネスモデル）を考察します。

接客を伴うサービス業では、おもてなしの人材育成が重要になりますが、そこには企業特有のブランド・コンセプトに基づいた仕組みが存在します。小川ゼミではこうした企業ごとに異なるビジネスモデルを学ぶ目的で企業を訪問し、インタビュー調査を通じて机上の理論だけでは得られない知識の修得も目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
演習で取り上げた理論や用語を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げた理論や用語の定義・概念、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた企業組織の実践的知識を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げた企業組織の実践的知識や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた理論と知識を広く理解し、応用して説明・議論できる	企業組織の実践的知識を複数把握し、演習で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題に対する解決策をしっかりと議論できること。	20%
プレゼンテーション・スキルが身についている	演習の時間やゼミ発表大会で担当したプレゼンテーションで、しっかりと報告できること。	20%
レポートやレジュメを作成するスキルが身についている	演習の時間やゼミ発表大会で担当したセクションのレポート・レジュメをしっかりと作成し、期限内に提出できること。	20%

評価の方法　演習の実施回数に対して出席回数が３分の２以上に限り評価します。なお、２回連続して欠席したり、レジュメ発表時に欠席した場合には厳しく評価し、単位取得が困難となるので注意してください。演習への積極的な参加姿勢を前提として、総合的な学習・研究成果に基づいて評価します。

【授業計画】

小川ゼミは、おもてなし（ホスピタリティ）を提供するサービス産業の戦略について研究を進めています。とくに、日本企業のサービス戦略とビジネスモデルの在り方を議論し､経済のサービス化が進展する経営環境の中で企業が目指すべき戦略を検討します。今年度は、ホテル業界を中心に考察します。

演習への参加は事前準備が重要です。まず、文献・資料を各自で熟読し、記述内容を確認することから始まります。経営学やビジネスで必須の専門用語の把握も必要です。文献・資料にある重要な指摘や問題点、さらに考察が必要な論点を見出します。各人が上記のプロセスで得た知見と追究すべき論点を要約し、レジュメにまとめ、口頭で発表します。ゼミ生全員が質疑応答と議論に参加し、建設的かつ有意義な議論ができるよう十分に資料収集を行い、各人が深く検討できるような姿勢で臨む必要があります。

また、夏期休業中に企業訪問を実施し、12月に開催される「ゼミ発表大会」に向けてインタビュー調査を行います。秋学期は、春学期で学んだ知識と、企業訪問で得られた「生きた情報」をもとにゼミ生が一丸となって研究発表の準備を進め、当日のゼミ発表大会でその成果を披露します。

学年末には、各自で「ゼミ単位取得レポート」を作成し、提出します。各々が興味のある企業や産業を選択し、経営戦略を中心としたテーマでまとめます。

小川ゼミでは、３年間にわたり一貫して「おもてなしのサービス戦略」を探究しますが、同時にプレゼンテーション（発表）やディスカッション（議論)、レジュメ・レポートの作成といった、卒業後に必要なスキルを身につけることも目標としています。

【使用教材】

◇教科書：原田保編著『日本企業のサービス戦略－人にやさしいサービスサイエンスの確立』中央経済社、2008年

◇参考書：議論や考察に必要な文献・資料を適宜紹介します。

【履修条件等】

◇レジュメとレポートは Word で作成し、発表は PowerPoint のスキルが必要です。

◇単位を取ることが目的ではなく、大学生として充実した成果を残すために３年間継続して専門演習を履修できる方にお勧めします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出します。わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、演習内での議論に備える必要があります。また、日頃から経済新聞や経済雑誌等をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇専門演習は通常の講義形式の授業と異なり、履修者が自ら疑問を見出し、調査分析し、その疑問をどのように解決するのか、モノの考え方を学び、発表し議論を行う場です。専門演習の主体は履修者自身にあることを自覚してください。常に向上心と修学意欲を高め、積極的な参加姿勢が不可欠となります。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅱ	鬼木（オニキ） 一直（カズナオ）
Specialized Seminar II	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

「情報システム学」

情報化社会と言われる昨今、企業において情報をどのように収集、解析、活用していくかが大変重要となってきています。本専門演習では、情報システムを切り口として「会社では何をしているのか？」「何が求められているのか？」「どのように問題を解決していくのか？」などを議論し、企業社会についての理解を深めていきます。

また、グループ学習などを通じて情報の収集力、発想力、プレゼンテーション能力などを身につけていき、選定したテーマについて考察、発表することにより、問題探究能力と問題解決能力を養うことを目標とします。

基本的には、ゼミ生によるディスカッションとプレゼンテーションを中心に演習を進めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
情報システムに関する基本的知識の習得	演習で取り上げたテーマにおける用語の定義、概念を理解し、説明できること。	20%
チームで考える力の育成	グループワークにおけるチームへの貢献度、積極性、ディスカッション能力等を評価する。	30%
問題解決に向けた発想力の向上	課題を見つける力、解決策を考える力、解決への実行力を評価する。新しい発想力をつける力も養っていく。	20%
プレゼンテーション力の向上	発表や質疑応答の内容で評価を行う。ゼミ発表大会や演習の中での発表において、その進行、態度、発表資料の完成度などが評価のポイントとなる。	30%

評価の方法　演習態度（発言、積極性など）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	ゼミ発表大会に向けたテーマ選定
2	情報の集め方、扱い方について学ぶ	17	ＧＭＴ企業研究
3	プレゼン技術について学ぶ	18	ＧＭＴ企業訪問
4	関心のあるテーマについて発表	19	ゼミ発表大会テーマに関する研究
5	〃	20	〃
6	〃	21	〃
7	グループ発表のテーマ選定	22	ゼミ発表大会に向けた資料作成
8	グループワーク	23	〃
9	〃	24	ゼミ発表大会の予行演習
10	〃	25	ゼミ発表大会の振り返り
11	〃	26	ＧＭＴ企業研究まとめ
12	〃	27	次年度ゼミテーマ探索
13	〃	28	〃
14	グループごとに発表	29	〃
15	まとめ（気づき、反省、決意）	30	まとめ（気づき、反省、決意）

【使用教材】

◇教科書は使用しません。

◇ＰＣ（パワーポイント、エクセル、ワードなど）を使うことがあります。

【履修条件等】

◇出席を重視します。演習に積極的、継続的に参加してください。

◇多くのことに関心を持ち、発想力の向上に努めてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題が出た時には、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇学外でのゼミ行事（企業訪問、ゼミ合宿など）を行うことがあります。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅱ	隅田（スミダ）　浩司（コウジ）
Specialized Seminar II	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

【研究テーマ】経済法（競争政策）、国際経済法（貿易・通商法）、交渉学

「専門演習Ⅰ」で学習した「交渉学」および経済法について、より深く学習することを目指します。経済法では、法的論点を踏まえた議論を行えるように指導するとともに、交渉学については、米国の研究を参照しながら、実践的に学修します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
交渉学・経済法の基礎知識の習得	このゼミで取り上げる交渉学や経済法の基礎知識を適切に習得し、理解できているかどうか？	20%
図書館やフィールド調査の基本的なやり方の理解	図書館やインターネットで、疑問点や課題の調査のやり方を身につけることができているか、そして自分で調査ができるかどうか？	20%
プレゼンテーション能力	自分たちが調査した内容をわかりやすく、プレゼンテーションとしてまとめて発表できるか？	20%
コミュニケーション能力	ゼミのメンバー同士での良好なコミュニケーション、基礎的なマナーや社会人になるためにふさわしい振る舞い・態度ができるか	40%

評価の方法　ゼミへの積極的参加、そして、ゼミの仲間と協力して課題に取り組み姿勢を重視します。

評価は、出席と参加姿勢が80%、提出物、成果物が20%です。

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	秋学期の課題の確認
2	交渉学とは何か？	17	交渉学の事例研究１
3	交渉学の演習１	18	交渉学の事例研究２
4	交渉学の演習２	19	交渉学の事例研究３
5	交渉学の演習３	20	交渉学の事例研究４
6	交渉学の演習４	21	経済法の事例研究１
7	経済法とは何か？	22	経済法の事例研究２
8	経済法の基礎知識の演習１	23	経済法の事例研究３
9	経済法の基礎知識の演習２	24	経済法の事例研究４
10	経済法の基礎知識の演習３	25	経済法の事例研究５
11	プレゼンテーションの練習１	26	紛争解決学（交渉学）の基礎知識１
12	プレゼンテーションの練習２	27	紛争解決学（交渉学）の基礎知識２
13	プレゼンテーションの練習３	28	紛争解決学（交渉学）の基礎知識３
14	プレゼンテーションの練習４	29	紛争解決学（交渉学）の基礎知識４
15	春学期のまとめ	30	秋学期のまとめ、1年間の振り返り

【使用教材】

◇教科書はとくに指定しません。

【履修条件等】

◇専門演習でしっかり勉強したいという意欲がある人。

◇交渉学や経済法（企業不祥事の法的な研究），貿易・国際経済法に興味がある人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ゼミの場合、必ず、予習をして講義に出席する必要があります。

【その他の注意事項】

◇とくにありません。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅱ	土井（ドイ）　充（ミツル）
Specialized Seminar II	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

このゼミでは、株主など企業に利害関係を持っている外部の人たちに情報を提供するための会計、すなわち財務会計を中心テーマとします。企業は、この財務会計を一定のルールに従って行っています。ゼミでは、この会計ルール（複式簿記、会計基準など）や、ルールに従い作成された情報を読み解くための知識（経営分析など）を習得するとともに、こうした知識を用いて、現代経済社会において財務会計がどのようなはたらきを持っているのかを探究していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務会計に関する基本的な知識を有していること	ゼミ活動やゼミレポートの内容によって評価。 簿記（２級程度)、会計理論（財務会計 I/II 程度)、および個別研究テーマに関する知識を有している。	40%
アカデミックリテラシーを修得していること	ゼミ活動によって評価。 「専門演習Ｉ」で取得したリテラシーをもちいて、(a)情報を整理・分析することができる。(b)効果的な報告手法を選択し、報告する（自分の意見を相手に伝える）ことができる。(c)グループの意見を纏めることができる。	20%
レポートを作成することができること	レポートによって評価。 「専門演習Ｉ」で学修したレポートの形式要件を満たしながら、(a)問題を自ら発見し、(b)「(a)」に対する答えを考察することができる。	20%
ゼミ活動の方針を理解していること	ゼミ活動によって評価。 (a)自主的・積極的な姿勢でゼミに出席している。(b)サブゼミ、ゼミコンパ、合宿へ貢献する。(c)理論が仮説であること理解し、「なぜ」「どうして」という問題意識をもって課題に取り組むことができる。	20%

評価の方法　発表や討論などへの参加度合や出席状況など、演習への取り組む姿勢や貢献度などから総合的に評価します。

【授業計画】

＜春学期＞

春学期は、財務会計の基本原理に関することを全員で討議する形で進めていきます。具体的には、毎回、報告者が担当範囲についてレジュメを作成し、演習で発表します。この発表を基に、全員で討論を行い全体の理解を深めていきます。

＜秋学期＞

秋学期は、演習で協議し決定した幾つかのテーマについて、討論を行い演習の意見を形成し、報告を行います。春学期同様、演習では、レジュメを作成し全員で討論を行い、アドバイスや報告の問題点を指摘し、テーマの理解を深めていきます。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：必要に応じて演習中に配付します。

【履修条件等】

◇習に積極的・継続的に参加する学生の履修を望みます。

◇「商業簿記Ⅰ」、「商業簿記Ⅱ」、「工業簿記Ⅰ」、「工業簿記Ⅱ」、「税務会計Ⅰ」、「税務会計Ⅱ」、「管理会計Ⅰ」、「管理会計Ⅱ」、「経営分析」を履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇簿記（３級程度)、会計理論（「会計学概論」、「財務会計Ⅰ、」「財務会計Ⅱ」）の知識を確認すること。

◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇本ゼミの準備（予習・事前学習）のため、サブゼミを開くことがあります。

◇研究テーマによって「専門演習Ⅲ」と合同でゼミを行うことがあります。

◇ゼミ生全員で協議し、学外でのゼミ行事（ゼミ合宿など）を行うことがあります。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅱ	日野（ヒノ）　隆生（タカオ）
Specialized Seminar II	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

マーケティングという用語は、ビジネス社会において、しばしば見聞きするが、多様な意味に用いられ、また、時代とともに概念は進化してきている。

マーケティングは、企業の基本的機能の一つであるが、あらゆる経営体に適応可能であると考えられる。

「専門演習Ⅱ」では、まずテキストを輪読し、マーケティング論の歴史から現代社会におけるマーケティングとは何か、適宜、レポート作成と発表、質疑、ディスカッションにより理解を深めていく。そしてどのように活用するか、具体的事例とともに学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的用語を理解する	小レポートによって評価する。 テキストの要約を記述した小レポートによって、マーケティング論の基本的用語の理解度を判定する。	30%
戦略としてのマーケティング論を理解する	レポート提出によって評価する。 テキスト内容の製品戦略、価格戦略、チャネル戦略、プロモーション戦略など、マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	30%
現代におけるマーケティングの意義を理解する	レポートおよび発表によって評価する。 マーケティング論の現代における意義について、発表内容によって評価する。	40%
評価の方法　演習態度（出席・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポート・発表などで総合的に判断します。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	プレゼンテーション
2	輪読	17	プレゼンテーション
3	プレゼンテーション	18	ゼミ発表大会の準備
4	輪読	19	ゼミ発表大会の準備
5	プレゼンテーション	20	ゼミ発表大会の準備
6	輪読	21	ゼミ発表大会の準備
7	プレゼンテーション	22	ゼミ発表大会の準備
8	輪読	23	ゼミ発表大会の準備
9	プレゼンテーション	24	ゼミ発表大会の準備
10	輪読	25	ケーススタディ
11	プレゼンテーション	26	ケーススタディ
12	輪読	27	ケーススタディ
13	プレゼンテーション	28	プレゼンテーション
14	プレゼンテーション	29	プレゼンテーション
15	まとめ(気づいたことと反省・決意)	30	まとめ(気づいたことと反省・決意)

【使用教材】

◇『マーケティング戦略論』学文社

『サービス・マネジメントの理論と実践』五絃舎

【履修条件等】

◇遅刻・無断欠席などは厳禁です。

◇「演習の時間」以外の時間でのワーク（レポート作成等）が必要です。

◇ディスカッションや発表に積極的に取り組んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、レポート作成、発表の準備等。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅱ	広瀬（ヒロセ）　盛一（モリカズ）
Specialized Seminar II	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：広告と企業のコミュニケーション活動

広告やマーケティングの学習理論を学び、企業が展開する実際の活動を対象に学習をする。データの収集、分析、発表といったリテラシーについても学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告やマーケティング関連の用語を理解し、説明できる	授業時間における発表、議論によって評価。広告やマーケティングの基本的な用語が説明できること。	25%
目的に応じた資料を図書館やインターネットを活用して見つけられる	課題によって評価。与えられた課題に関連する資料を、適切な方法によってこなせること。	25%
目的に応じた適切な分析方法を用いて、資料の分析ができること	課題によって評価。エクセルやＳＰＳＳなどのソフトを用いて、適切な分析ができること。	25%
分析結果や考察をまとめて、説明できること	課題によって評価。まとめた資料を文章や図表を用いて、他の人にわかりやすく伝えられること。	25%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、授業参加度50%、課題50%		

【授業計画】

＜春学期＞

アカデミックリテラシーの獲得。資料収集、レポート作成を中心に行う。

＜秋学期＞

設定した課題について、文章やスライドにまとめ発表する。

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

◇広告やマーケティングに興味を持っていること。

◇他人との共同作業ができること。

◇コンピュータの基礎的な操作ができること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅱ	フジモリ　ダイスケ 藤森　大祐
Specialized Seminar II	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：環境・観光・地域活性化

主に以下のテーマについて研究し、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成を行う。

・企業の環境問題対策について

・地域活性化のための環境および観光の取り組みについて

・環境ビジネス、観光ビジネス、ソーシャルビジネスについて

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
環境問題に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
持続可能な観光に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ソーシャルビジネスに関する理解	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ディスカッションとプレゼンテーション力の向上	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	40%
評価の方法　問題設定、調査、ディスカッション、プレゼンテーション、および各種ゼミ活動への主体的な取り組みなどから総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	ゼミ発表大会のテーマ検討
2	研究テーマの検討	17	ゼミ発表大会への準備
3	研究テーマの設定	18	調査
4	調査およびディスカッション	19	
5	プレゼンテーション準備	20	ディスカッション
6	プレゼンテーション、振り返り	21	
7	研究テーマの検討	22	ゼミ発表大会の準備
8	研究テーマの設定	23	
9	調査およびディスカッション	24	
10	プレゼンテーション準備	25	
11		26	ゼミ発表大会の振り返り
12		27	研究テーマの設定
13		28	プレゼンテーション準備
14	プレゼンテーション	29	プレゼンテーション
15	振り返り	30	振り返り

【使用教材】

◇教科書：とくに指定しないが研究の過程で必要となったものを購入してもらうことがある。

その他、必要に応じて資料を提供したり、参考書を紹介する。

【履修条件等】

◇あらゆるゼミ活動に積極的に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇各自が自発的に調査研究をする。

【その他の注意事項】

◇個々人が力をつけるよう努力するとともに、ゼミのメンバーを尊重し、ゼミ全体のパフォーマンスを向上させるよう心がけてもらいたい。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅱ	松田（マツダ）　岳（タカシ）
Specialized Seminar II	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：「投資を通じて社会的課題を解決する」

本専門演習は「経済・金融」をテーマに研究を行います。「世を経（おさ）め、民を済（すく）う」のが「経済（学)」の役割です。2018年度は「投資によってニッポンを子育て先進国にするためには」というテーマで研究を行う予定にしていますが。学生諸君の意見を聞き、実際の研究テーマは選定する予定です。どのようなテーマであっても、投資（金融）の力を用いて社会的課題の解決を目指すのが本セミナーのミッションです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
真摯にかつ主体的に物事に取り組むことができる	研究・課題に真摯に取り組んでいるか否か、積極的に課題に取り組んでいるか否か、主体的に取り組めているか否かによって評価を行う。	60%
論理的思考力を身につけ、論理的な発言をしたり、文章を書けたりする	レポートやプレゼンテーション、ディスカッションでのパフォーマンスを見ることで、論理的に思考できるか否か、論理的な発言ができているか否か、論理的な文章が書けるか否かの評価を行う。	40%
評価の方法　平常点100%（演習における振る舞い、取り組む姿勢を評価する)。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	目論見書の作成(1)
2	社会的課題(1)	17	目論見書の作成(2)
3	社会的課題(2)	18	目論見書の作成(3)
4	社会的課題(3)	19	目論見書の作成(4)
5	社会的課題(4)	20	プレゼンの準備(1)
6	社会的課題(5)	21	プレゼンの準備(2)
7	投資テーマの決定(1)	22	プレゼンの準備(3)
8	投資テーマの決定(2)	23	プレゼンの準備(4)
9	レポート提出(1)	24	プレゼンの準備(5)
10	スクリーニング(1)	25	目論見書の総仕上げ(1)
11	スクリーニング(2)	26	目論見書の総仕上げ(2)
12	スクリーニング(3)	27	目論見書の総仕上げ(3)
13	レポート提出(2)	28	目論見書の総仕上げ(4)
14	バーチャル投資(1)	29	目論見書の総仕上げ(5)
15	バーチャル投資(2)	30	目論見書の総仕上げ(6)

【使用教材】

◇教科書：ガイダンス時に指示する。

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇10回以上欠席すると評価対象外になる。

◇事前修得が望ましい科目はない。

◇授業を妨害する行為（遅刻、欠席、私語、携帯電話の使用など）は一切許さない。

◇３回以上注意を要するような行為をした学生には退席を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回の講義、教科書などを通じて指示する。

◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

【その他の注意事項】

◇経済・社会の動向を勘案して授業計画は変更する場合がある。

◇発言や質問をするなど、積極的に学ぶ姿勢を持っていることが望ましい。

◇質問は口頭、書面、メールで受け付けている。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅱ	ヤマカワ　サトル 山川　　悟
Specialized Seminar II	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：文化の方法（笑い、遊び、アート、物語）を利用したマーケティング

ビジネスの場における情報の収集、分析、創出、表現、伝達の技術を磨くことを目標とします。春期においては、マーケッターとしての基本的なリテラシーの取得を目指したトレーニングプログラムを実践します。秋期にはマーケティングプランニング（商品開発、プロモーション開発、新事業開発など）を自ら行なえるようなスキル獲得を目指します。学生コンテストへの参加や、企業訪問、学外視察、外部講師の招聘も行う予定です。

本ゼミ学生が過去に取り組んだ研究テーマとしては、次のようなものがあります。

「手塚コンテンツを活用した地域活性化の可能性に関する研究」「ローカル線のマーケティング」「社歌の研究」「高田馬場観光地化計画案」、「Social Smile Business（ユーモアで社会を変える方法）に関する研究」、「ご当地ヒーローの研究」、「ＩＴで変わるアパレル業界の現状と課題」、「1980年代ブームの深層に関する分析」。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケッターとしての基本的なリテラシーを取得していること	講義中の質疑応答、ワークショップ、提出物等により評価。 「情報の収集、分析、創出、表現、伝達についての技術力」を評価ポイントとする。	50%
マーケティングプランニング（商品開発、プロモーション開発、新事業開発など）を自ら行なえるようなスキルを獲得していること	講義中の質疑応答、ワークショップ、提出物、企画書等のアウトプット等により評価。 「発想力、企画書作成能力、グループワーク推進能力、他者や社会に働きかける力」を評価ポイントとする。	50%

評価の方法

評価の配分：70%以上の出席を条件に、授業中アウトプット50%、ゼミ運営に対する貢献度50%

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	秋期オリエンテーション
2	相互理解プログラム	17	企業訪問準備①
3	ビジネスリテラシートレーニング①	18	企業訪問準備②
4	ビジネスリテラシートレーニング②	19	企業訪問準備③
5	ビジネスリテラシートレーニング③	20	企業訪問
6	ビジネスリテラシートレーニング④	21	グループワーク①
7	創造的思考法トレーニング①	22	グループワーク②
8	創造的思考法トレーニング②	23	グループワーク③
9	創造的思考法トレーニング③	24	グループワーク④
10	創造的思考法トレーニング④	25	グループ研究発表①
11	消費者理解トレーニング①	26	グループ研究発表②
12	消費者理解トレーニング②	27	グループ研究発表③
13	消費者理解トレーニング③	28	グループ研究発表④
14	消費者理解トレーニング④	29	流通視察・ショウルーム見学
15	総括と達成度の確認	30	総括と達成度の確認

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：山川悟、他著『応援される経営』光文社

【履修条件等】

◇マーケティング、商品開発、広告宣伝などの分野に興味があること。

◇ＰＣである程度のドキュメント作成ができること。

◇好きでこだわりを持っている分野があり、それをビジネスやマーケティングと結びつけてみたいと思っている人が望ましい。

◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を受講していること。

◇担当教員の専門科目を前向きに受講しようとする意思のある人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇大学時代の日常的な読書やメディア接触（新聞購読等）、商品の使用体験などは、基礎トレーニングと一緒です。10年20年後に、そうした基礎体力がモノをいいます。本ゼミでは、そうしたことを重視したいと思います。

【その他の注意事項】

◇ゼミにおける研究活動について詳細を知りたい人は、下記を参照してください。

http://yamakawaseminar. jimdo. com/

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

専門演習Ⅱ	ワタナベ　ヤスヒロ 渡辺　泰宏
Specialized Seminar II	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：経営学

この専門演習では、「経営学」をテーマとして、それぞれの問題意識を深めることを目的とします。「専門演習Ⅰ」での学習内容をふまえ、「組織とは何か」、「管理とは何か」、という経営学の基本課題について学び、現代の企業社会についての理解を深めます。

座学によるテキストの講読、レジュメの作成や討論に平行して、特定の共通テーマを設定し、自分たちで資料調査やフィールドリサーチなどを行い、グループ学習を実施します。最終的に、ひとつのプレゼン資料にまとめ、学内のゼミ報告大会にて研究報告します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
１．経営学の基礎的知識の習得	毎回の授業での討論、レジュメの作成、レポート作成によって評価をします。	20%
２．個々の問題意識の醸成	同上。	20%
３．チームで働く力の養成	特定のテーマに基づいたグループ学習での、チームへの貢献度、ディスカッション能力等によって評価します。	30%
４．創造的な思考力の養成	同上。	30%
評価の方法　ゼミナール活動全般を通じて、上記の４項目において、自己成長できたか、設定した目標に到達できたかを、評価の主な方針とします。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	オリエンテーション
2	課題の設定(1)	17	資料調査(1)
3	課題の設定(2)	18	資料調査(2)
4	資料調査(1)	19	資料調査(3)
5	資料調査(2)	20	報告資料の作成(1)
6	資料調査(3)	21	報告資料の作成(2)
7	レジュメ報告(1)	22	報告資料の作成(3)
8	レジュメ報告(2)	23	プレゼンテーション演習(1)
9	レジュメ報告(3)	24	プレゼンテーション演習(2)
10	レジュメ報告(4)	25	レポート作成(1)
11	レジュメ報告(5)	26	レポート作成(2)
12	レジュメ報告(6)	27	レポート作成(3)
13	フィールドリサーチ事前学習(1)	28	レポート作成(4)
14	フィールドリサーチ事前学習(2)	29	レポート作成(5)
15	春学期ふりかえりおよびまとめ	30	秋学期ふりかえりおよびまとめ

【使用教材】

◇テキストは初回オリエンテーションにて指示します。

【履修条件等】

◇「経営組織論Ⅰ」、「経営組織論Ⅱ」、「経営管理論」等、経営学の専門科目を必ず履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指定されたテキストの予習を必須とします。主体的な参加が求められますので、予習を心がけてください。

【その他の注意事項】

◇自分の考えや興味関心を大事にしてください。楽しんで学べるように努力してください。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅲ	石塚（イシヅカ） 一彌（カズヤ）
Specialized Seminar III	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：管理会計

「管理会計」は、経営管理に役立つデータ（＝企業内部における業績評価や意思決定に資する）を提供するための会計です。本演習においては、実際の経営活動に的を絞り、これら経営活動に惹起する諸問題に対し「管理会計」をどのように把握し、使いこなしていくかを、経営者の立場に立って主体的に考え、管理会計上必要な問題探求能力と問題解決能力を養うことまでを目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的前提に関する知識の修得の有無の確認する。	管理会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認	30%
管理会計に関する基礎的な理解の確認	管理会計に関する基礎的な知識について、毎回の基礎的な理解の程 授業での質疑応答により、その修得の確認をする。	30%
管理会計に対する理解の深度の程度の確認	管理会計の意義、必要性、現状においての問題点の把握とその解決のための素養を修得しているか否かにつき、毎回のデスカッションと課題レポートにより確認する。	40%
評価の方法　授業への参加度60%、課題レポート30%、試験10%により総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	管理会計の基礎(1)オリエンテーション	16	管理会計の応用(4) ケーススタディ(3)
2	管理会計の基礎(2)会計の意義(1)財務会計＆管理会計	17	管理会計の応用(5) ケーススタディ(4)
3	管理会計の基礎(3)会計の意義(2)財務会計＆管理会計	18	管理会計の応用(6)ケーススタディ(5)
4	管理会計の基礎(4)会計の意義(3)財務会計＆管理会計	19	管理会計の応用(7)ケーススタディ(6)
5	管理会計の基礎(5)管理会計の役割＆機能(1)	20	管理会計の応用(8)ケーススタディ(7)
6	管理会計の基礎(6)管理会計の役割＆機能(2)	21	管理会計の応用(9)ケーススタディ(8)
7	管理会計の基礎(7)管理会計の役割＆機能(3)	22	管理会計の応用(10)テーマ別発表準備(1)
8	管理会計の基礎(8)管理会計の役割＆機能(4)	23	管理会計の応用(11)テーマ別発表準備(2)
9	管理会計の基礎(9)管理会計の役割＆機能(5)	24	管理会計の応用(12)テーマ別発表準備(3)
10	管理会計の基礎(10)管理会計の役割＆機能(6)	25	管理会計の応用(13)テーマ別発表(1)
11	管理会計の基礎(11)ケーススタディにむけての準備(1)	26	管理会計の応用(14)テーマ別発表(2)
12	管理会計の基礎(12)ケーススタディにむけての準備(2)	27	管理会計の応用(15)テーマ別発表(3)
13	管理会計の応用(1) 応用に向けてのオリエンテーション	28	管理会計の総まとめ(1)
14	管理会計の応用(2)ケーススタディ(1)	29	管理会計の総まとめ(2)
15	管理会計の応用(3)ケーススタディ(2)	30	管理会計の総まとめ(3)

【使用教材】

◇教科書：演習中に指示します。

◇参考書：とくになし。

【履修条件等】

◇会計の基本（授業としては、「会計学概論」）科目は、履修していることが望ましい。履修していない場合には、会計全般に関する基本的な知識を会得していることが望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習をすべき事前学習の内容】

◇基礎１～12までは、管理会計の基礎について基本的論点、課題を提示する。
応用１～15では、ゼミ生各自（グループ別）研究テーマの決定、各テーマについての調査、中間発表、レポートの作成および秋学期のゼミ発表大会への準備を中心に作業する。
履修者は、あらかじめ、少なくとも、会計に関する基礎的知識を復習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇成績評価としては、出席状況とゼミデスカッションにおける「貢献度」を重視する。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅲ	小川（オガワ）　達也（タツヤ）
Specialized Seminar III	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：おもてなしのサービス戦略

現代企業が提供する「おもてなし」のサービスを中心に、事業の成長や成功を収めた要因を検討し、競争優位の戦略と事業の仕組み（ビジネスモデル）を考察します。

接客を伴うサービス業では、おもてなしの人材育成が重要になりますが、そこには企業特有のブランド・コンセプトに基づいた仕組みが存在します。小川ゼミではこうした企業ごとに異なるビジネスモデルを学ぶ目的で企業を訪問し、インタビュー調査を通じて机上の理論だけでは得られない知識の修得も目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
演習で取り上げた理論や用語を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げた理論や用語の定義・概念、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた企業組織の実践的知識を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げた企業組織の実践的知識や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた理論と知識を広く理解し、応用して説明・議論できる	企業組織の実践的知識を複数把握し、演習で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題に対する解決策をしっかりと議論できること。	20%
プレゼンテーション・スキルが身についている	演習の時間やゼミ発表大会で担当したプレゼンテーションで、しっかりと報告できること。	20%
レポートやレジュメを作成するスキルが身についている	演習の時間やゼミ発表大会で担当したセクションのレポート・レジュメをしっかりと作成し、期限内に提出できること。	20%

評価の方法　演習の実施回数に対して出席回数が３分の２以上に限り評価します。なお、２回連続して欠席したり、レジュメ発表時に欠席した場合には厳しく評価し、単位取得が困難となるので注意してください。演習への積極的な参加姿勢を前提として、総合的な学習・研究成果に基づいて評価します。

【授業計画】

小川ゼミは、おもてなし（ホスピタリティ）を提供するサービス産業の戦略について研究を進めています。とくに、日本企業のサービス戦略とビジネスモデルの在り方を議論し､経済のサービス化が進展する経営環境の中で企業が目指すべき戦略を検討します。今年度は、昨年度に引き続きホテル業界を中心に考察します。

演習への参加は事前準備が重要です。まず、文献・資料を各自で熟読し、記述内容を確認することから始まります。経営学やビジネスで必須の専門用語の把握も必要です。文献・資料にある重要な指摘や問題点、さらに考察が必要な論点を見出します。各人が上記のプロセスで得た知見と追究すべき論点を要約し、レジュメにまとめ、口頭で発表します。ゼミ生全員が質疑応答と議論に参加し、建設的かつ有意義な議論ができるよう十分に資料収集を行い、各人が深く検討できるような姿勢で臨む必要があります。

また、夏期休業中に企業訪問を実施し、12月に開催される「ゼミ発表大会」に向けてインタビュー調査を行います。秋学期は、春学期で学んだ知識と、企業訪問で得られた「生きた情報」をもとにゼミ生が一丸となって研究発表の準備を進め、当日のゼミ発表大会でその成果を披露します。

学年末には、各自で「ゼミ単位取得レポート」を作成し、提出します。各々が興味のある企業や産業を選択し、経営戦略を中心としたテーマでまとめます。

小川ゼミでは、３年間にわたり一貫して「おもてなしのサービス戦略」を探究しますが、同時にプレゼンテーション（発表）やディスカッション（議論)、レジュメ・レポートの作成といった、卒業後に必要なスキルを身につけることも目標としています。

【使用教材】

◇教科書：原田保編著『日本企業のサービス戦略－人にやさしいサービスサイエンスの確立』中央経済社、2008年

◇参考書：議論や考察に必要な文献・資料を適宜紹介します。

【履修条件等】

◇レジュメとレポートは Word で作成し、発表は PowerPoint のスキルが必要です。

◇単位を取ることが目的ではなく、大学生として充実した成果を残すために３年間継続して専門演習を履修できる方にお勧めします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出します。わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、演習内での議論に備える必要があります。また、日頃から経済新聞や経済雑誌等をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇専門演習は通常の講義形式の授業と異なり、履修者が自ら疑問を見出し、調査分析し、その疑問をどのように解決するのか、モノの考え方を学び、発表し議論を行う場です。専門演習の主体は履修者自身にあることを自覚してください。常に向上心と修学意欲を高め、積極的な参加姿勢が不可欠となります。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅲ	鬼木（オニキ） 一直（カズナオ）
Specialized Seminar III	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

「情報システム学」

情報化社会と言われる昨今、企業において情報をどのように収集、解析、活用していくかが大変重要となってきています。本専門演習では、情報システムを切り口として「会社では何をしているのか？」「何が求められているのか？」「どのように問題を解決していくのか？」などを議論し、企業社会についての理解を深めていきます。

また、各自テーマを選定し、論文を作成していきます。その中で、資料作成の方法、論文の書き方、参考文献の検索の仕方、アジェンダの作り方、論文のまとめ方などを学んでいきます。本専門演習においては、卒業論文の作成を基本とし、論文提出後にはプレゼンテーションの方法を学び、専門演習内で論文の発表会を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
情報システムに関する基本的知識の習得	演習で取り上げたテーマにおける用語の定義、概念を理解し、説明できること。	20%
チームで考える力の育成	グループワークにおけるチームへの貢献度、積極性、ディスカッション能力等を評価する。	30%
問題解決に向けた発想力の向上	課題を見つける力、解決策を考える力、解決への実行力を評価する。新しい発想力をつける力も養っていく。	20%
プレゼンテーション力の向上	発表や質疑応答の内容で評価を行う。ゼミ発表大会や演習の中での発表において、その進行、態度、発表資料の完成度などが評価のポイントとなる。	30%

評価の方法　演習態度（発言、積極性など）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	論文概略作成
2	情報の集め方、扱い方について学ぶ	17	ＧＭＴ企業研究
3	プレゼン技術について学ぶ	18	ＧＭＴ企業訪問
4	関心のあるテーマについて研究	19	参考文献調査
5	〃	20	〃
6	〃	21	論文作成作業
7	論文テーマ選定	22	〃
8	論文テーマに関する情報検索	23	論文仮提出
9	〃	24	論文修正作業
10	〃	25	〃
11	〃	26	〃
12	〃	27	論文まとめ
13	〃	28	論文発表資料作成
14	論文アジェンダ作成	29	論文発表会
15	まとめ（気づき、反省、決意）	30	まとめ（気づき、反省、決意）

【使用教材】

◇教科書は使用しません。

◇ＰＣ（パワーポイント、エクセル、ワードなど）を使うことがあります。

【履修条件等】

◇出席を重視します。演習に積極的、継続的に参加してください。

◇多くのことに関心を持ち、発想力の向上に努めてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題が出た時には、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇学外でのゼミ行事（企業訪問、ゼミ合宿など）を行うことがあります。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅲ	土井（ドイ）　充（ミツル）
Specialized Seminar III	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

このゼミでは、株主など企業に利害関係を持っている外部の人たちに情報を提供するための会計、すなわち財務会計を中心テーマとします。企業は、この財務会計を一定のルールに従って行っています。ゼミでは、この会計ルール（複式簿記、会計基準など）や、ルールに従い作成された情報を読み解くための知識（経営分析など）を習得するとともに、こうした知識を用いて、現代経済社会において財務会計がどのようなはたらきを持っているのかを探究していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務会計に関する専門知識を有していること	ゼミ活動やゼミレポートの内容によって評価。 簿記（２級程度)、会計理論（「財務会計Ⅰ」、「財務会計Ⅱ」、「管理会計Ⅰ」、「管理会計Ⅱ」、「税務会Ⅰ」、「税務会計Ⅱ」、「経営分析」程度)、および個別研究テーマに関する知識を有している。	40%
アカデミックリテラシーを修得していること	ゼミ活動によって評価。 「専門演習Ⅱ」で取得したリテラシーをもちいて、(a)問題を発見し、解決法を模索し、グループを目標達成に導くことができる。	20%
レポートを作成することができること	レポートによって評価。 (a)問題を自ら発見し、(b)適切な科学的手法を用いて、(c)レポートの形式要件を満たしつつ、(d)「(a)」に対する答えを論証することができる。	20%
ゼミ活動の方針を理解していること	ゼミ活動によって評価。 (a)自主的・積極的な姿勢でゼミに出席している。(b)サブゼミ、ゼミコンパ、合宿へ貢献する。(c)理論が仮説であること理解し、「なぜ」「どうして」という問題意識をもって課題に取り組むことができる。	20%

評価の方法　発表や討論などへの参加度合や出席状況など、演習への取り組む姿勢や貢献度などから総合的に評価します。

【授業計画】

＜春学期＞

春学期は、財務会計の基本原理に関することを全員で討議する形で進めていきます。具体的には、毎回、報告者が担当範囲についてレジュメを作成し、演習で発表します。この発表を基に、全員で討論を行い全体の理解を深めていきます。

＜秋学期＞

秋学期は、演習で協議し決定したいくつかのテーマについて、討論を行い演習の意見を形成し、報告を行います。春学期同様、演習では、レジュメを作成し全員で討論を行い、アドバイスや報告の問題点を指摘し、テーマの理解を深めていきます。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：必要に応じて演習中に配付します。

【履修条件等】

◇演習に積極的・継続的に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇簿記（３級程度)、会計理論（「会計学概論」、「財務会計Ⅰ」、「財務会計Ⅱ」）の知識を確認すること。

◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇本ゼミの準備（予習・事前学習）のため、サブゼミを開くことがあります。

◇研究テーマによって、「専門演習Ⅱ」と合同でゼミを行うことがあります。

◇ゼミ生全員で協議し、学外でのゼミ行事（ゼミ合宿など）を行うことがあります。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅲ	名取（ナトリ） 修一（シユウイチ）
Specialized Seminar III	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

企業経営は、多様な業務・現場作業を統合化（管理活動）し、企業目標の実現を目指す。そこでの諸資源（人・モノ・カネ等）は、組織構成員の活動を通じて統合化され、広く社会との書関係をもって複雑化しています。それは、グローバル化にともなって増幅化しています。本ゼミナールは、マネジメント研究を進める中で、組織理論の立場から分析視点を提示し、リーダーの役割を考えるとともに各ゼミナリステンの問題意識の喚起に助力したいと考えています。

「専門演習Ⅲ」では、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」を通して得た各自の関心事や問題意識を基にして、ゼミ論文や卒業論文の作成指導を行います。

前期の段階で各自がテーマを決めて、後期には論文作成を進めます。論文作成過程では、各自が設定した作成計画に従い、その都度報告内容を提出し、内容の検討を加えながら添削指導を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
レポートの作成と提出	・レポートの作成方法を修得する ・自己の論点を明確にすることができる ・自己の考え方を身につけ、主張できるようにする ・期日を守れる	30%
発表力（プレゼン力）を修得する	・与えられた事象の中で問題点を見出す発見力 ・自身の考えや意見を整理できる ・自身の考えや意見を述べることができる ・自身の考えや意見を他者に伝えることができる	25%
ゼミ活動の中での協調性と実行力を養う	・自身が持っている意見ははっきり全体に伝え、自己主張しながらも、全体で決定された内容には協調して参加していく態度 ・他者の意見を聞き、尊重できる能力 ・ゼミ活動への積極的な参加意識を持っていることとそれを実行していく行動力を身につける	25%
リーダーシップの発揮と全体調整能力を養う	・ゼミ活動を通じてリーダーシップを発揮していく能力 ・ディベート力をもっている ・全体行動を調整して統制力をもっている ・少数意見の尊重ができる ・積極的に行動する	20%

評価の方針　授業参加度20%、レポート50%、発表30%で評価します。

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	後期の活動計画の設定とグループ分け
2	活動の年間計画の設定と役員選出	17	グループ研究テーマの決定と展開方法
3	人的資源管理論を学ぶ	18	学園祭への取り組み①
4	人的資源管理の研究①	19	学園祭への取り組み②
5	人的資源管理の研究②	20	グループ研究①
6	人的資源管理の研究③	21	グループ研究②
7	人的資源管理の研究④	22	グループ研究③
8	人的資源管理の研究⑤	23	ゼミ発表大会への取り組み①
9	これまでのまとめ	24	ゼミ発表大会への取り組み②
10	各自の発表①	25	ゼミ発表大会への取り組み③
11	各自の発表②	26	ゼミ発表大会への取り組み④
12	各自の発表③	27	ゼミ発表大会への取り組み⑤
13	各自の発表④	28	ゼミ発表大会の反省
14	レポート課題の提示とまとめ	29	今期のレポート課題の提示とまとめ
15	ゼミ発表大会に向けたテーマの設定	30	来期のレポート課題の提示と解説

【使用教材】

◇教科書：授業の中で指示します。

◇参考書：百田義治編著『経営学を学ぼう』中央経済社

『現代用語の基礎知識』自由国民社

講義の中で適宜指示します。

◇その他：資料を配布します。

【履修条件等】

◇出席を重視します。原則的に全出席が条件です。何らかの事情で欠席する場合は、必ず欠席届を提出するか連絡をしてください。無断欠席は厳禁です。

◇レポートの提出、発表が義務付けられます。

◇ゼミ活動での協調性を取りながら、自身の考えを主張する意識が必要です。

◇本演習を履修する際には、必修科目をしっかり勉強しておくことが必要です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇自分自身のノートを作成してください。メモを取る習慣をつけてください。

◇新聞記事に目を通してください。記事でわからないことや疑問や問題点を発見した時など、どしどしゼミ活動に持ち込んでください。

【その他の注意事項】

◇配布資料は自身で管理してください。

◇ゼミ活動の際には、自己管理を徹底してください。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅲ	広瀬（ヒロセ）　盛一（モリカズ）
Specialized Seminar III	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：広告と企業のコミュニケーション活動

広告やマーケティングの学習理論を学び、企業が展開する実際の活動を対象に学習をする。データの収集、分析、発表といったリテラシーについても学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告やマーケティング関連の用語を理解し、説明できる	授業時間における発表、議論によって評価。広告やマーケティングの基本的な用語が説明できること。	25%
目的に応じた資料を図書館やインターネットを活用して見つけられる	課題によって評価。与えられた課題に関連する資料を、適切な方法によってこなせること。	25%
目的に応じた適切な分析方法を用いて、資料の分析ができること	課題によって評価。エクセルやＳＰＳＳなどのソフトを用いて、適切な分析ができること。	25%
分析結果や考察をまとめて、説明できること	課題によって評価。まとめた資料を文章や図表を用いて、他の人にわかりやすく伝えられること。	25%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、授業参加度50%、課題50%		

【授業計画】

＜春学期＞

アカデミックリテラシーの獲得。資料収集、レポート作成を中心に行う。

＜秋学期＞

設定した課題について、文章やスライドにまとめ発表する。

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

◇広告やマーケティングに興味を持っていること。

◇他人との共同作業ができること。

◇コンピュータの基礎的な操作ができること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅲ	フジモリ　ダイスケ 藤森　大祐
Specialized Seminar III	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：環境・観光・地域活性化

主に以下のテーマについて研究し、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成を行う。

・企業の環境問題対策について

・地域活性化のための環境および観光の取り組みについて

・環境ビジネス、観光ビジネス、ソーシャルビジネスについて

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
環境問題に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
持続可能な観光に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ソーシャルビジネスに関する理解	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ディスカッションとプレゼンテーション力の向上	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	40%
評価の方法　問題設定、調査、ディスカッション、プレゼンテーション、および各種ゼミ活動への主体的な取り組みなどから総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	ゼミ発表大会のテーマ検討
2	研究テーマの検討	17	ゼミ発表大会への準備
3	研究テーマの設定	18	調査
4	調査およびディスカッション	19	
5	プレゼンテーション準備	20	ディスカッション
6	プレゼンテーション、振り返り	21	
7	研究テーマの検討	22	ゼミ発表大会の準備
8	研究テーマの設定	23	
9	調査およびディスカッション	24	
10	プレゼンテーション準備	25	
11		26	ゼミ発表大会の振り返り
12		27	研究テーマの設定
13		28	プレゼンテーション準備
14	プレゼンテーション	29	プレゼンテーション
15	振り返り	30	振り返り

【使用教材】

◇教科書：とくに指定しないが研究の過程で必要となったものを購入してもらうことがある。

その他、必要に応じて資料を提供したり、参考書を紹介する。

【履修条件等】

◇あらゆるゼミ活動に積極的に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇各自が自発的に調査研究をする。

【その他の注意事項】

◇個々人が力をつけるよう努力するとともに、ゼミのメンバーを尊重し、ゼミ全体のパフォーマンスを向上させるよう心がけてもらいたい。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅲ	松田（マツダ）　岳（タカシ）
Specialized Seminar III	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：「投資を通じて社会的課題を解決する」

本専門演習は「経済・金融」をテーマに研究を行います。「世を経(おさ)め、民を済(すく)う」のが「経済(学)」の役割です。2018年度は「投資によってニッポンを子育て先進国にするためには」というテーマで研究を行う予定にしていますが。学生諸君の意見を聞き、実際の研究テーマは選定する予定です。どのようなテーマであっても、投資(金融)の力を用いて社会的課題の解決を目指すのが本セミナーのミッションです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
真摯にかつ主体的に物事に取り組むことができる	研究・課題に真摯に取り組んでいるか否か、積極的に課題に取り組んでいるか否か、主体的に取り組めているか否かによって評価を行う。	60%
論理的思考力を身につけ、論理的な発言をしたり、文章を書けたりする	レポートやプレゼンテーション、ディスカッションでのパフォーマンスを見ることで、論理的に思考できるか否か、論理的な発言ができているか否か、論理的な文章が書けるか否かの評価を行う。	40%
評価の方法　平常点100%（演習における振る舞い、取り組む姿勢を評価する）。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	就職活動報告(1)	16	目論見書の作成(1)
2	就職活動報告(2)	17	目論見書の作成(2)
3	就職活動報告(3)	18	目論見書の作成(3)
4	就職活動報告(4)	19	目論見書の作成(4)
5	就職活動報告(5)	20	プレゼンの準備(1)
6	就職活動報告(6)	21	プレゼンの準備(2)
7	就職活動報告(7)	22	プレゼンの準備(3)
8	就職活動報告(8)	23	プレゼンの準備(4)
9	就職活動報告(9)	24	プレゼンの準備(5)
10	就職活動報告(10)	25	目論見書の総仕上げ(1)
11	就職活動報告(11)	26	目論見書の総仕上げ(2)
12	就職活動報告(12)	27	目論見書の総仕上げ(3)
13	就職活動報告(13)	28	目論見書の総仕上げ(4)
14	就職活動報告(14)	29	目論見書の総仕上げ(5)
15	就職活動報告(15)	30	目論見書の総仕上げ(6)

【使用教材】

◇教科書：ガイダンス時に指示する。

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇0回以上欠席すると評価対象外になる。

◇事前修得が望ましい科目はない。

◇授業を妨害する行為（遅刻、欠席、私語、携帯電話の使用など）は一切許さない。

◇３回以上注意を要するような行為をした学生には退席を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回の講義、教科書などを通じて指示する。

◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

【その他の注意事項】

◇経済・社会の動向を勘案して授業計画は変更する場合がある。

◇発言や質問をするなど、積極的に学ぶ姿勢を持っていることが望ましい。

◇質問は口頭、書面、メールで受け付けている。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅲ	ヤマカワ　サトル 山川　　悟
Specialized Seminar III	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：文化の方法（笑い、遊び、アート、物語）を利用したマーケティング

ビジネスの場における情報の収集、分析、創出、表現、伝達の技術を磨くことを目標とします。春期においては、マーケッターとしての基本的なリテラシーの取得を目指したトレーニングプログラムを実践します。秋期にはマーケティングプランニング（商品開発、プロモーション開発、新事業開発など）を自ら行なえるようなスキル獲得を目指します。学生コンテストへの参加や、企業訪問、学外視察、外部講師の招聘も行う予定です。
本ゼミ学生が過去に取り組んだ研究テーマとしては、次のようなものがあります。

「手塚コンテンツを活用した地域活性化の可能性に関する研究」「ローカル線のマーケティング」「社歌の研究」「高田馬場観光地化計画案」、「Social Smile Business（ユーモアで社会を変える方法）に関する研究」、「ご当地ヒーローの研究」、「ＩＴで変わるアパレル業界の現状と課題」、「1980年代ブームの深層に関する分析」。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケッターとしての基本的なリテラシーを取得していること	講義中の質疑応答、ワークショップ、提出物等により評価。 「情報の収集、分析、創出、表現、伝達についての技術力」を評価ポイントとする。	50%
マーケティングプランニング（商品開発、プロモーション開発、新事業開発など）を自ら行なえるようなスキルを獲得していること	講義中の質疑応答、ワークショップ、提出物、企画書等のアウトプット等により評価。 「発想力、企画書作成能力、グループワーク推進能力、他者や社会に働きかける力」を評価ポイントとする。	50%

評価の方法

評価の配分：70%以上の出席を条件に、授業中アウトプット50%、ゼミ運営に対する貢献度50%

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	秋期オリエンテーション
2	相互理解プログラム	17	企業訪問準備①
3	ビジネスリテラシートレーニング①	18	企業訪問準備②
4	ビジネスリテラシートレーニング②	19	企業訪問準備③
5	ビジネスリテラシートレーニング③	20	企業訪問
6	ビジネスリテラシートレーニング④	21	グループワーク①
7	創造的思考法トレーニング①	22	グループワーク②
8	創造的思考法トレーニング②	23	グループワーク③
9	創造的思考法トレーニング③	24	グループワーク④
10	創造的思考法トレーニング④	25	グループ研究発表①
11	消費者理解トレーニング①	26	グループ研究発表②
12	消費者理解トレーニング②	27	グループ研究発表③
13	消費者理解トレーニング③	28	グループ研究発表④
14	消費者理解トレーニング④	29	流通視察・ショウルーム見学
15	総括と達成度の確認	30	総括と達成度の確認

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：山川悟、他著『応援される経営』光文社

【履修条件等】

◇マーケティング、商品開発、広告宣伝などの分野に興味があること。

◇ＰＣである程度のドキュメント作成ができること。

◇好きでこだわりを持っている分野があり、それをビジネスやマーケティングと結びつけてみたいと思っている人が望ましい。

◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を受講していること。

◇担当教員の専門科目を前向きに受講しようとする意思のある人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇大学時代の日常的な読書やメディア接触（新聞購読等）、商品の使用体験などは、基礎トレーニングと一緒です。10年20年後に、そうした基礎体力がモノをいいます。本ゼミでは、そうしたことを重視したいと思います。

【その他の注意事項】

◇ゼミにおける研究活動について詳細を知りたい人は、下記を参照してください。

http://yamakawaseminar. jimdo. com/

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

専門演習Ⅲ	ワタナベ　ヤスヒロ 渡辺　泰宏
Specialized Seminar III	基本科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：経営学

この専門演習では、卒業後の具体的な進路に向けた問題設定をふまえ、それぞれの問題意識や関心にしたがった産業や企業の研究を深めることを目的とします。「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」での学習内容をふまえ、大学での４年間の学びの集大成として、経営学の基本課題について学び、現代の企業社会についての理解を深めます。

座学によるテキストの講読、レジュメの作成や討論に平行して、就職活動で得た知見や経験をふまえながら、各自の調査研究の報告等を実施します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
１．経営学の基礎的知識の習得	毎回の授業での討論、レジュメの作成、レポート作成によって評価をします。	20%
２．個々の問題意識の醸成	同上。	20%
３．チームで働く力の養成	特定のテーマに基づいたグループ学習での、チームへの貢献度、ディスカッション能力等によって評価します。	30%
４．創造的な思考力の養成	同上。	30%
評価の方法　ゼミナール活動全般を通じて、上記の４項目において、自己成長できたか、設定した目標に到達できたかを、評価の主な方針とします。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	オリエンテーション
2	課題の設定(1)	17	課題の設定(1)
3	課題の設定(2)	18	課題の設定(2)
4	資料調査(1)	19	資料調査(1)
5	資料調査(2)	20	資料調査(2)
6	資料調査(3)	21	資料調査(3)
7	報告資料の作成(1)	22	報告資料の作成(1)
8	報告資料の作成(2)	23	報告資料の作成(2)
9	報告資料の作成(3)	24	報告資料の作成(3)
10	報告資料の作成(4)	25	報告資料の作成(4)
11	報告資料の作成(5)	26	報告資料の作成(5)
12	報告資料の作成(6)	27	報告資料の作成(6)
13	プレゼンテーション演習(1)	28	プレゼンテーション演習(1)
14	プレゼンテーション演習(2)	29	プレゼンテーション演習(2)
15	春学期ふりかえりおよびまとめ	30	秋学期ふりかえりおよびまとめ

【使用教材】

◇テキストは初回オリエンテーションにて指示します。

【履修条件等】

◇「経営組織論Ⅰ」、「経営組織論Ⅱ」、「経営管理論」等、経営学の専門科目を必ず履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指定されたテキストの予習を必須とします。主体的な参加が求められますので、予習を心がけてください。

【その他の注意事項】

◇自分の考えや興味関心を大事にしてください。楽しんで学べるように努力してください。

専門科目　　経営学科 履修対象：４年生

卒業論文	
Graduation Thesis	基本科目／通年／２単位

【授業概要（内容、到達、教授法）】

連続演習の研究の総まとめとしての卒業論文作成の指導を行う。

演習の学習過程で得られたテーマを卒業論文として完成させるため、資料・文献の検索から仮説構築や論理構成、論文形式での執筆などを個別に指導する。

１、２週間に１回程度、オフィス・アワーの時間帯に指導する。

【使用教材】

◇教科書：必要に応じて指示する。

◇参考書：必要に応じて指示する。

【評価方法】

◇論文執筆過程の努力および完成した卒業論文により評価する。

論文は20,000字（400字詰原稿用紙50枚）以上。

【履修条件・提出締切日】

◇連続演習の担当者が履修を認め、２・３年次（３年次編入生は３年次のみ）に「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」の単位を修得したもの。

提出締切日：平成31年１月11日（金）　15:00まで

提　出　先：学務部

【授業計画】

＜春学期＞

１．卒業論文の作成概要指導
２．各自のテーマ決定の確認・助言
３．論文の形式、構成の指導
４．テーマに関する資料・情報の収集法指導
５．論文作成（中間）の指導
６．中間発表

＜秋学期＞

１．夏期休暇中の研究成果の確認
２．論文完成に向けての指導
３．最新のデータとの照合
４．論文要旨に対するディスカッション
５．論文の完成・最終稿のチェック
６．卒業論文発表会

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

環境経営学	藤森（フジモリ）　大祐（ダイスケ）
Environmental Management	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

環境問題は現代の企業において積極的に対応すべき必須の課題となっている。近年話題となっている環境問題としては、地球温暖化やエネルギー問題が挙げられるが、本講義ではそれらの現代的な環境問題よりも以前から起きていた問題にも焦点を当てて講義を展開していく。 具体的には、初期の公害問題として知られている足尾銅山問題や四大公害問題などから考察していくことで、環境問題と企業の関係の本質的問題を捉えていく。それらをベースにして、地球環境問題の代表的な問題を考察しながら、現代の企業の課題を考えていきたい。また、後半では廃棄物問題への対応、リサイクルの推進、エネルギー問題などに関する企業の取り組みを見ていく。最後に、環境マネジメントシステムなど、環境経営の代表的なツールについて論じる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
さまざまな環境問題の基礎知識を習得する	試験やレポートよって知識を問う。	30%
環境問題と企業との関係を理解する	試験やレポートによって企業と環境問題がどのような関係にあるかを問う。	30%
環境問題への企業のあり方を理解する	試験やレポートによって、企業が環境問題に対してどのような取り組みをしているか、またどのような取り組みをしていく必要があるかについての理解を問う	40%
評価の方法　70%以上の出席を前提とし、試験60%、レポート30%、平常点10%で評価する。 試験は定期試験によって評価し、平常点は講義内での態度やコメントなどで評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	講義ガイダンス	講義の概要、進め方、評価方法など
2	足尾銅山問題	銅山による鉱毒と煙害、問題の構造
3	水俣病問題	水銀汚染と企業の対応、問題の構造
4	四大公害	四大公害の概略と企業の対応
5	公害対策の進展と後退	四大公害の反省としての対策とその後退
6	公害輸出問題	公害輸出の事例とその概要
7	地球環境問題の概要	地球環境問題の特質、現状の把握、企業の役割
8	オゾンホール問題	オゾンホールの原因と防止策
9	地球温暖化問題	温暖化のメカニズム、温暖化対策
10	エネルギー問題	自然エネルギーと化石燃料、原発
11	廃棄物問題	廃棄物の現状と問題点、適正処理の取り組み
12	リサイクル	リサイクル社会に向けてのさまざまな取り組み
13	環境マネジメントシステム	環境マネジメントシステムの概要、効果と問題点
14	環境コミュニケーション	環境コミュニケーションの概要、実践事例
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：とくに指定しない。随時必要な資料を配布する。

【履修条件等】

◇少なくとも「経営学概論」を取得していること。できれば他の経営学の主要科目を取得していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇シラバスに従い、次回の内容について簡単に調べ、予備知識を得ておいてもらいたい。

【その他の注意事項】

◇講義内容を参考にさまざまな問題に関心を持って自発的に学んでもらいたい。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経営倫理	ヤマグチ　ヨシアキ 山口　善昭
Management & Ethics	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

企業は、ゴーイング・コンサーンとよく言われますが、永遠に存続し続けるには社会から存在意義を認めてもらわなければなりません。それにもかかわらず、近年、企業不祥事が後を絶ちません。この授業では、さまざまな視点から企業の倫理的側面・反倫理的側面を議論し、誠実な企業行動を確保するためにはどうしたらよいのかを考えていきます。

具体的には、企業倫理とは何か、その歴史的変遷は、なぜ企業は反倫理的行動をとってしまうのか、反倫理的行動を予防するにはどうしたらよいのかとうを議論します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
道徳と倫理の違いを理解していること	設問に対する回答により評価。道徳と倫理の違いを明確に答えられること。	25%
企業の倫理的行動・反倫理的行動を認識することができる	設問に対する回答により評価。レポートに対する回答により評価。企業行動のどの部分が反倫理的かを明確に指摘することができること。	25%
組織の倫理水準確保のための制度を理解していること	設問に対する回答により評価。授業中の質問に対する回答により評価。倫理制度の名称およびその内容、注意点を明確に指摘できること。	25%
正義とは何かを多面的に考えることができること	設問に対する回答により評価。正義をさまざまな角度から考える能力がついていること。	25%
評価の方法　70%以上の出席を必要条件として試験95%、授業参加度５%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	企業倫理とは何か？	イントロダクション
2	道徳と倫理	道徳と倫理、社会の倫理水準
3	歴史的変遷	独占、公害、スキャンダル
4	事例	ビデオによる説明
5	対処法	企業理念の重要性
6	倫理的リーダーシップ	倫理的リーダーシップの必要条件
7	経営倫理の必要性	なぜ今、経営倫理の授業が必要なのか
8	企業理念	さまざまな企業の理念比較
9	理念の伝達	コミュニケーション、暗黙知
10	事例	理念の伝達方法、評価
11	センスメーキング	反倫理的行動の原因
12	動機づけ理論	動機づけ理論から見た反倫理的行動
13	倫理的制度	反倫理的行動を予防する制度
14	倫理的判断	倫理的判断基準：功利性、権利、正義
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：とくにありません。

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇新聞、テレビのニュースをよく読み聞いておくこと。

【その他の注意事項】

◇欠席が多いと試験を受けられません。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

コンピュータ概論	萩野（ハギノ） 弘道（ヒロミチ）
Introduction to Computer	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

今では生活の一部となった携帯電話やパソコンはインターネットを通して、世界中のさまざまな情報に瞬時に接することが可能になりました。このような社会の中では、必要な「情報」を収集し、その信憑性や信頼性を見極め、分析・処理をして、日常生活や仕事のシーンで問題を解決していく力、つまり「情報活用力」が必要不可欠となります。

この授業の目的はコンピュータの基本的な用語や知識を理解することです。さらに昨今、問題になっている情報リテラシーに代表される情報モラルと情報セキュリティについては、ビデオ教材も利用しながら具体的な例を示して説明します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンピュータのハードウェアについて必要な基礎知識を理解していること	コンピュータ関連の一般用語を理解し、各パーツの役割と構造をふまえた上でのトラブルの対処方法を実践できること。 データの入出力装置および記憶装置の種類と特徴を説明できること。	20%
コンピュータのソフトウェアについて必要な基礎知識を理解していること	ＯＳやアプリケーション等のソフトウェアに関する説明や操作およびトラブルの対処方法を理解していること。 ファイルやフォルダ等の操作と管理方法について理解し、実践できること。	20%
インターネットのしくみと正しい活用方法を理解していること	インターネットの関連用語を説明できること。 ブラウザや電子メールの機能を理解し利用できること。 ネットワーク資源の活用方法と注意点を説明できること。	20%
情報リテラシーについて理解していること	情報セキュリティに関連する用語を説明することができること。 情報端末利用時のマナーと注事事項を理解し、コンピュータウィルスやマルウェアに対しても予防措置がとれること。	20%
評価の方法　３分の２以上の出席を前提として、試験80%、授業参加度20% （授業参加度は授業中におこなう提出課題の評価も含む）。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方
2	ハードウェア(1)	コンピュータを構成するパーツの解説
3	ハードウェア(2)	入力装置の種類と特徴
4	ハードウェア(3)	出力装置の種類と特徴
5	ソフトウェア(1)	ＯＳの種類と特徴
6	ソフトウェア(2)	アプリケーションの種類と操作方法
7	ソフトウェア(3)	ファイルやフォルダの操作と管理方法
8	インターネット(1)	インターネット関連用語の解説
9	インターネット(2)	ブラウザと電子メールの機能と操作
10	インターネット(3)	ネットワークの仕組みと管理方法
11	情報リテラシー(1)	情報セキュリティ関連用語の解説
12	情報リテラシー(2)	インターネットにおけるマナーと注事事項
13	情報リテラシー(3)	コンピュータウィルスやマルウェアの解説
14	総合練習	練習問題を使った習熟度の確認
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教材は毎回、授業時にファイルを配布するので購入不要。

【履修条件等】

◇コンピュータの初心者を対象としているので、履修条件はとくにない。

◇最近のＩＣＴ動向に関心を持ち、積極的に取り入れようとする探究心を持っていることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の最後に次回の予告をするので、新聞やインターネット等のメディアによって、その概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇この授業ではワープロ、表計算、プレゼンテーション等のソフトウェアの使い方は教えない。希望者はコンピュータリテラシーを履修すること。

◇出席および遅刻に対しては厳格に扱う。遅刻は２回で欠席１回とし、全授業の３分の１欠席した場合は、本試験を受験停止にする。

◇授業内容が連続せず、毎回テーマが異なるので、欠席した場合は授業で配布したファイルを手に入れて自習すること。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

情報システム	萩野（ハギノ） 弘道（ヒロミチ）
Information Systems	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

いまやＩＴは、私たちの日々の暮らしを支える重要な社会基盤となりました。しかし、一方でＩＴに依存すればするほど、ＩＴに潜むリスクはただちに、私たちの経済活動や社会生活そのものへの脅威に転化します。そこで高度情報化社会の恩恵を享受するために、情報セキュリティへの取り組みが強く求められるようになってきました。

本講義では、情報セキュリティについての基本を分かりやすく解説し、授業内容に関連したビデオ教材も利用しながら具体的に理解を深めていきます。

また、情報化社会には欠かせなくなった電子メールですが、ビジネスメールにおける間違いやすい基本マナーについて、毎回、ワンポイントで紹介していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
情報セキュリティと、その対応策について理解していること	情報セキュリティに関連する仕組みを説明することができること。 ネット社会に欠かせないセキュリティ技術について理解していること。	30%
実生活における情報化の流れや変化に対応し、問題点も理解していること	インターネットの普及によるさまざまな変化を、社会生活および日常生活について対応できていること。また、それにより発生するトラブルなども理解していること。	20%
組織のセキュリティ対策について必要な基礎知識を理解していること	ＰＤＣＡサイクルを理解し、その必要性について説明することができること。 組織の一員としてセキュリティポリシーを遵守し、ヒューマンエラーの可能性を最小限に抑えることの意義についての説明ができること。	20%
メールのマナーやルールについて理解していること	電子メールの仕組みを理解し、メールに関するマナーを身につけていること。なかでもビジネスメールを使用する上で気をつけなければならない点を理解していること。	10%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提として、試験80%、授業参加度20%
（授業参加度は授業中におこなう提出課題の評価も含む）。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方
2	今日のセキュリティリスク	セキュリティリスクの実例
3	情報セキュリティの基礎	基本概念、外部のリスク要因
4	情報セキュリティの基礎	内部のリスク要因と情報リテラシー
5	個人のセキュリティ対策	マルウェアとは
6	個人のセキュリティ対策	マルウェア対策
7	個人のセキュリティ対策	フィッシング詐欺とワンクリック請求
8	個人のセキュリティ対策	スマートフォンや無線 LAN に潜む脅威とその対策
9	組織の一員としての対策	組織のセキュリティ対策（ＰＤＣＡ）
10	組織の一員としての対策	従業員としての心得
11	情報セキュリティの技術	アカウント、ＩＤ、パスワードの重要性
12	情報セキュリティの技術	脆弱性とファイアウォール
13	情報セキュリティの技術	暗号技術とディジタル署名
14	理解度の確認	Web サイトを利用した理解度セルフチェック
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇『情報セキュリティ読本－ＩＴ時代の危機管理入門（四訂版)』実教出版

【履修条件等】

◇「コンピュータリテラシー」および「コンピュータ概論」を履修済であることが望ましい。

◇最近のＩＣＴ技術の動向やそれに伴うモラルやセキュリティリスクに関心を持ち、積極的に対応しようとする探究心を持っていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の最後に次回の予告をするので、新聞やインターネット等のメディアによって、その概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇この授業ではワープロ、表計算、プレゼンテーション等のソフトウェアの使い方等は教えない。希望者はコンピュータリテラシーを履修すること。

◇出席および遅刻に対しては厳格に扱う。遅刻は２回で欠席１回とし、全授業の３分の１欠席した場合は、本試験を受験停止にする。

◇授業内容が連続せず、毎回テーマが異なるので注意すること。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

情報処理Ⅰ	鬼木（オニキ） 一直（カズナオ）
Information Processing II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

企業で業務を遂行するにあたり、Microsoft 社の『Excel』、『Word』、『PowerPoint』は必須アイテムともいえるソフトとなっています。本授業では『Excel』を用いてデータの整理、データ解析などを行いながら基本的な統計解析の手法を学び、パソコン操作を含む演習を通して実際のデータを処理する手順を習得します。授業内で Excel の業務での活用法などを交え、最終的にビジネスデータから意思決定に役立つ図表を作成することを目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
統計に関する基本事項を理解し、グラフや代表値を得る	設問に対する解答と実技によって評価する。実際のデータから各種のグラフを作成することができる。実際のデータから各種の代表値を求めることができる。	30%
過去に蓄積されたデータからトレンドを読み取り、将来の予測を行う	設問に対する解答と実技によって評価する。相関係数と回帰直線を求めることができる。さらに予測値の求め方を理解する。	30%
サンプル調査によって得られた情報から母集団の特徴を求める	設問に対する解答と実技によって評価する。全数調査と標本調査の特徴を理解する。標本調査により母集団の特徴を知る方法を理解する。	20%
確率分布、推定の基本的な考え方を理解する	設問に対する解答と実技によって評価する。確率分布、二項分布の考え方を学ぶ。 推定の概念と母集団の平均、分散について理解する。	20%
評価の方法　授業時間内の演習30%、課題30%、定期試験40%。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	講義内容についての説明
2	Excel と統計学の基本	Excel と統計学の基本的な考え方について学ぶ
3	統計の基本(1)	平均値、最大値、最小値、中央値、最頻値について学ぶ
4	統計の基本(2)	統計の代表値とデータの散らばり、標準化について学ぶ
5	統計の基本(3)	度数分布とヒストグラムについて学ぶ
6	回帰分析(1)	相関係数・回帰直線と予測値を求める方法を学ぶ
7	回帰分析(2)	重回帰分析と回帰分析の精度について学ぶ
8	母集団と標本(1)	全数調査と標本調査について学ぶ
9	母集団と標本(2)	標本平均のデータ分布と母集団・標本分散について学ぶ
10	確率分布(1)	確率の基本について学ぶ
11	確率分布(2)	試行と確率変数、期待値について学ぶ
12	確率分布(3)	二項分布、正規分布、標準正規分布について学ぶ
13	推定	推定の概念と母集団の平均、分散について学ぶ
14	学期のまとめ	学期の全体像を総括し、ポイントを整理する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：羽山博&できるシリーズ編集部『できるやさしく学ぶ Excel 統計入門』
インプレス

【履修条件等】

◇経営数学」を履修済み程度の基本的な統計学の知識を有していることが望ましい。さらに「コンピュータリテラシー」を履修済み程度のパソコンの基本操作を習得していることが必要です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書の該当箇所に目を通しておくこと、課題によっては演習に必要なデータを事前に入力しておく等の準備が必要です。

【その他の注意事項】

◇ＵＳＢメモリを毎授業時に持参すること。課題等の送受信のためにＰＣによるメール送受信が可能であること。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

情報処理Ⅱ	鬼木（オニキ）　一直（カズナオ）
Information Processing II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

企業で業務を遂行するにあたり、Microsoft 社の『Excel』、『Word』、『PowerPoint』は必須アイテムともいえるソフトとなっています。さらに近年ではデータベース管理ソフトである『Access』の使用頻度が高まってきております。本授業では『Access』の基本的な操作方法からデータの加工、分析までを学び、実際に業務で用いている例を交えながら日常の企業活動で発生するさまざまな情報を収集・蓄積・処理・活用するために利用されるデータベースの構造や仕組みを理解することを目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
データベースの役割と構成、仕組みを理解する	設問に対する解答によって評価する。 データベースのもつ基本的な機能について説明できる。「リレーションシップ」、「クエリ」等のデータベースに関する基本的な用語について説明できる。	20%
情報を蓄積するためにテーブルの役割を理解し操作ができる	設問に対する解答と実技によって評価する。 新たなテーブルの作成、フィールドの定義、テーブルへのデータ入力の一連の作業を行うことができる。	30%
情報を加工するためのテーブルの操作を理解する	設問に対する解答と実技によって評価する。 クエリの基本的な考え方を理解し、クエリウィザード、クエリデザインを用いてさまざまなクエリを作成することができる。	30%
データベースの設計方法、リレーションシップを理解する	設問に対する解答と実技によって評価する。 データベースの設計方法を理解し、リレーションシップを用いて複数のテーブルを関連つけることができる。	20%
評価の方法　授業時間内の演習30%、課題30%、定期試験40%。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	講義内容についての説明
2	データベースとは	データベースとはどういうものか、何ができるのかを学ぶ
3	Access の基本操作(1)	Microsoft Access の基本操作を学ぶ
4	Access の基本操作(2)	検索と抽出の基本操作を学ぶ
5	Access の基本操作(3)	フォームフィルターの活用、データの並べ替えについて学ぶ
6	データの編集(1)	データを収集し蓄積する方法を学ぶ
7	データの編集(2)	画像データの入力とフォームの活用について学ぶ
8	テーブルの操作(1)	クエリの基本について学ぶ
9	テーブルの操作(2)	クエリの作成方法と様々なクエリについて学ぶ
10	テーブルの操作(3)	クエリを利用した単純計算とクロス集計を学ぶ
11	データベースの設計(1)	データベースの設計方法を学ぶ
12	データベースの設計(2)	リレーションシップされたクエリの作成方法を学ぶ
13	総合演習(1)	データの検索、並べ替えなどの基本操作方法を確認する
14	総合演習(2)	クエリの活用、データベースの設計の応用について学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：実教出版編集部『30時間でマスター Access2013』実教出版

【履修条件等】

◇「コンピュータリテラシー」を履修済み程度のパソコンの基本操作を習得していることが必要です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書の該当箇所に目を通しておくこと、課題によっては演習に必要なデータを事前に入力しておく等の準備が必要です。

【その他の注意事項】

◇ＵＳＢメモリを毎授業時に持参すること。課題等の送受信のためにＰＣによるメール送受信が可能であること。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

ベンチャービジネス	青山（アオヤマ）　和正（カズマサ）
Venture Business	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

ベンチャー企業の概念、歴史的変遷を理解した上で、ベンチャー企業の起業家の特性と行動、アイデア発想や事業機会の認識、ビジネスモデルのパターンと構築、マーケティング、組織づくり、ベンチャーファインス、新興株式市場への上場ステップ、ベンチャー支援策の活用などを学ぶ。

講義に加えて、ベンチャー企業に関わる演習を行う。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ベンチャー企業、起業家の基礎的な知識や進め方の考えを理解していること	ベンチャー企業の社会経済における重要性、特性、起業家の条件・行動などの基礎的な知識を理解しているかを評価する。	10%
ベンチャー企業のビジネスモデル形成のための基本的な要件やフレームワークを理解していること	ベンチャー企業の事業展開をする上でのビジネスモデルの形成とその要件やフレームワークが理解されているかどうかを演習による評価する。	10%
ベンチャー企業の成長段階での経営のあり方を理解していること	ベンチャー企業の成長段階（アーリー、ミドル、レーター）での、経営戦略、マーケティング、組織、ファイナンスの専門的知識を習得しているかを評価する。	20%
ベンチャー企業の基礎から応用までの成長ステップと各成長段階のベンチャー経営の専門知識を理解していること	起業家精神の涵養とベンチャービジネスの仕組みを十分に習得しているかを試験により評価する。	70%

評価の方法　70%以上の出席を前提として試験70%、演習20%、受講態度10%
試験は論述により、演習は小テストにより基礎的な学習成果を評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の進め方
2	起業家の特性と行動	起業家の資質、条件、起業行動 （演習１）起業家の条件
3	ビジネスモデルの基本（1）	アイデア発想からビジネスモデルの構築
4	ビジネスモデルの基本（2）	優れたビジネスモデルのパターン （演習２）ビジネスモデルの検討
5	ビジネスモデルの基本（3）	ブルーオーシャン戦略とベンチャー企業
6	マーケティング①	ベンチャー企業のマーケティング活動
7	マーケティング②	サービスマーケティング活動 （演習３）事例分析
8	組織マネジメント①	ベンチャー企業の組織行動とマネジメント
9	組織マネジメント②	ベンチャー企業の人材育成とスタッフのモチベーション （演習４）急成長する組織づくり
10	ファイナンス①	ベンチャー企業の多様な資金調達 （演習５）ベンチャーファンナンス
11	ファイナンス②	ベンチャーキャピタルの仕組みと目利き
12	ファイナンス③	企業価値と株価の決め方 （演習６）企業価値の算定
13	ファイナンス④	株式公開と資本構成
14	ベンチャー支援策	ベンチャー支援政策、制度の活用
15	まとめ	総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：随時、講義時間中に資料等を配布する。

◇参考書：金井一頼他著『ベンチャー企業経営論』有斐閣

【履修条件等】

◇「新事業創造論」を履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に演習問題を配布するので、事前に学習しておくこと

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

新事業創造論	青山（アオヤマ）　和正（カズマサ）
New Business Creation Theory	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

経済のグローバル化やＩＴ化の進展、少子高齢化社会の到来により、我々の価値観や生活スタイルも大きく変容してきている。そのため、既成の価値観や領域を超えた新たな発想での新ビジネスや新市場形成が強く求められている。本講義では、新事業のアイデア発想から事業化までの基本的なステップを理解し、各自のアイデアをもとにビジネスプラン作成を行い、新事業フレームワークからマネジメント、ファインスなどを学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
新事業創出の重要性と基礎的な知識や進め方の考えを理解していること	新事業創出の必要性を認識し、新事業を生み出すための基礎的な知識や最近の市場のトレンドなどを理解しているかを評価する。	10%
新事業発想と事業化のための基本的な条件や事業化の進め方を理解していること	新事業創出の源泉となるアイデア発想の基礎的な知識や考え方、事業化のための経営資源の調達、マーケティングなどの基礎的な知識を習得しているかを、演習を通じて評価する。	10%
新事業創出の集大成としてビジネスプラン作成の基本から応用まで理解していること	各自のアイデアを事業化するために、経営資源の調達、市場開拓、組織体制などをベースに、ビジネスプランを作成し、それを評価する。	40%
新事業創出の基本からプラン作成までの各段階の専門知識と進め方を理解していること	新事業の創出のためのアイデアと、それを事業化するための条件、ビジネスプラン作成などを十分に習得しているかを試験により評価する。	40%

評価の方法　70%以上の出席を前提として試験75%、演習15%、受講態度10%
試験は論述により、演習は小テストにより基礎的な学習成果を評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の進め方
2	アイデアの発想	多角的な視点で事業アイデア発想
3	アイデアを磨く	身近なものからアイデアを構想
4	基本コンセプトづくり	演習によるアイデア発想とコンセプトづくり
5	外部環境の分析	新事業の市場環境・分析など、マーケティング視点の基本を理解
6	新事業の事業展開（1）	マーケティング戦略にもとづいた新事業の進め方
7	新事業の事業展開（2）	ビジネスモデル構築の進め方
8	新事業の売上計画立案	新事業の売上予測、売上計画づくり
9	新事業の資金計画	新事業の資金計画の作成
10	会社の設立	新事業で会社の設立の進め方と留意点
11	ビジネスプラン作成・演習（Ⅰ）	各自でアイデア発想し、それをビジネスプランに落とし込み、プラン作成
12	ビジネスプラン作成・演習（Ⅱ）	ビジネスプラン作成の指導
13	ビジネスプラン作成・演習（Ⅲ）	ビジネスプランの作成と発表
14	新事業の経営	ビジネスプランに基づく新事業経営の留意点
15	総括・試験	総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：随時、講義時間中に資料等を配布する。

◇参考書：「ビジネスプラン」に関する図書（講義中で指示）

【履修条件等】

◇アイデア発想を豊かなにしておくこと。

◇将来、自分でお店や会社を立ち上げたい人は、自分のビジネスプラン作成。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に演習を配布するので、その演習を自分なりに回答し、授業に臨むこと。

◇ビジネスプラン作成をするため、自分なりの新事業（アイデア）構想を持つ。

【その他の注意事項】

◇創業・起業に興味のあること。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

銀行論	清水（シミズ）　良樹（ヨシキ）
Bank Theory	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義は、わが国の金融システムについて銀行の機能・役割を中心にして解説するものである。具体的には、銀行業務（預金と貸出)、支払決済システム、金融に伴うリスクとそれの回避手段であるデリバティブの仕組み、金融機関の種類、銀行規制と監督、金融市場の種類、わたしたちの預金を守る預金保険制度、そして金融機関にとっての救済措置である公的資金注入の仕組み等である。そして金融の問題としてバブル経済の負の遺産である不良債権問題を取り上げる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
・銀行業務の理解を通じて金融システムの全体像を把握する ・金融に関する基礎理論と各種テクニカルタームの習得 ・金融現象に関する分析能力を身につける	定期試験の結果と課題等を基準に成績を評価する。	定期試験90%、課題やリアクションペーパー等の平常点10%
評価の方法　定期試験の結果と課題等を基準に成績を評価する。 ただし、全講義の３分の１以上（５回以上）欠席（考慮すべき理由のないもの）した場合、単位取得を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	通貨	現金通貨と預金通貨
3	銀行の業務①	預金
4	銀行の業務②	手形割引と貸付
5	フィンテック	金融と ICT
6	決済サービス業務①	内国為替と外国為替
7	決済サービス業務②	支払決済システム
8	為替リスク	為替リスクとはなにか
9	デリバティブ	先物、オプション、スワップ
10	金融機関の種類	民間金融機関、公的金融機関、中央銀行
11	銀行規制と監督	銀行法、自己資本比率規制
12	金融市場	短期金融市場、長期金融市場、外国為替市場
13	セーフティネットと金融機関の破綻処理	預金保険制度、公的資金注入
14	不良債権問題	不良債権処理がもつ意味
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から金融に関する新聞記事やニュースをチェックすること。

【その他の注意事項】

◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

証券論	清水（シミズ）　良樹（ヨシキ）
Securities Theory	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

サブプライム・ローンを組み込んだ「証券化商品」の破綻を引き金としたリーマン・ショックが世界の金融市場を混乱させたのは記憶に新しい。この事実は、証券投資がグローバルに広がっていることを示している。このようなグローバルな規模だけではなく、わたしたち個人の家計レベルにおいても投資は身近なものになってきている。個人向け国債や投資信託、外貨建て金融商品などが伸びているのである。さらに NISA（少額投資非課税制度）がスタートしたことによって預金から投資へのシフトは加速するだろう。

本講義では、証券の種類・仕組み、証券市場の構造に関する基礎的な説明だけではなく、証券投資に関する基礎理論の解説も行う。学生たちが社会に出た時に賢明な投資家となれることを目標としている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
・証券に関する基礎知識の習得 ・証券および企業に対する分析力の育成 ・証券投資に関する基礎理論の習得	定期試験の結果と改題等を基準に成績を評価する。	定期試験90%、課題やリアクションペーパー等の平常点10%
評価の方法　定期試験の結果と課題等を基準に成績を評価する。 ただし、全講義の３分の１以上（５回以上）欠席（考慮すべき理由のないもの）した場合、単位取得を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	証券の種類	金融市場における資金の流れ
3	市場の種類	マネー・マーケットと資本市場
4	投資	リスクとリターン
5	証券投資理論	証券分析とポートフォリオ・マネージメント
6	金利	将来価値と現在価値
7	企業分析	財務諸表と財務分析
8	債券と市場	債券の発行と流通、債券市場の発展、格付
9	債券の分析方法	債券価格と債券利回り
10	株式市場	発行市場と流通市場
11	株式の分析方法と投資尺度	ファンダメンタル・アナリシス、テクニカル・アナリシス、インカム・ゲインとキャピタル・ゲイン
12	投資信託	投資信託の仕組み
13	さまざまな投資対象	ETF
14	模擬試験	復習と応用問題への挑戦
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から株価に関する新聞記事やニュースをチェックすること。

【その他の注意事項】

◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

生活金融論	清水（シミズ）　良樹（ヨシキ）
Financial Economics	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義は、社会において必要とされる金融に関する基礎的な知識を中心に修得する。急速なテクノロジーの発展は銀行業に強い影響を及ぼしている。仮想通貨の誕生や金利のマイナス化といった金融環境の激変は、従来の銀行業を窮地に追い込んでいる。もはや、私たちのお金を銀行に預けておくことは、運用の主要な手段ではなくなった。

社会において、お金と無関係ではいられない。したがって、金融知識は修得が必至である。”金融リテラシー”を身につけ、変化する金融環境において適切な自己判断ができるようになりましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
・金融に関する基礎理論と各種テクニカルタームの習得 ・金融現象に関する分析能力を身につける	定期試験の結果、平常点（リアクションペーパーの提出など)､授業参加度を基準に成績を評価する。	定期試験80%、 平常点10%、 授業参加度10%
評価の方法　本試験の結果および課題等の平常点で成績を評価する。 課題例）新聞記事を読んで小レポートを提出。翌週の講義にフィードバック。授業参加度は成績評価に加えないが、全講義の３分の１、５回以上欠席（正当な理由のない欠席）した場合、単位取得は認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	お金の話	貨幣の歴史
3	銀行組織	バランスシートの仕組み
4	金利	単利と複利
5	ローン	住宅ローンや自動車ローンといった各種ローン
6	フィンテック①	ビットコイン
7	フィンテック②	ブロックチェーン
8	フィンテック③	銀行業の現状と展望
9	お金の増やし方	資産運用
10	税金の話	各種控除
11	保険の話①	年金の仕組み
12	保険の話②	社会保険
13	中央銀行	金融政策の変更と投資環境の変化
14	バブル現象	バブルの歴史
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇５回以上の欠席は評価の対象外とする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から国際経済に関する新聞記事やニュースをチェックして現状を把握しておくこと。

【その他の注意事項】

◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

流通論Ⅰ	フカザワ　タクヤ 深澤　琢也
Channel Management I	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

現代の小売・流通企業は、国際的運輸・交通手段の発展、情報通信技術の飛躍的発展、消費者ライフスタイルの多様化といった時代的な環境変化、そして市場変化の加速化、競争の多次元化（コスト、品質、スピード）といった競争環境の変化への戦略的対応が要請されている。本講義では、流通に関する基礎的な知識の習得を目指すとともに、上記環境下における小売・流通企業の戦略について最新のケースを用いながら理論的に検討する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会における流通と商業に関する基本用語を正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。流通と商業の社会における役割に関する設問に答えられること。	25%
日本において発展してきたさまざまな小売業態について説明できること	設問に対する回答によって評価。百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンス・ストア、ディスカウント・ストアなどの業態の特徴に関する設問に答えられること。	25%
日本において発展してきたさまざまな小売業態が起こしたイノベーションについて説明できること	設問に対する回答によって評価。百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンス・ストア、ディスカウント・ストアなどの業態がこれまで起こしてきたイノベーションに関する設問に答えられること。	25%
流通理論に関して正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。流通や商業者の行動原理としての流通理論（売買集中の原理、延期と投機の理論など）に関する設問に答えられること。	25%

評価の方法　全15回の授業のうち３分の２にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義内容説明、成績評価説明
2	流通とは	現代社会における流通の様相
3	各種小売業態の特徴(1)	食品スーパーとＣＶＳについて
4	各種小売業態の特徴(2)	ディスカウント・ストアとＳＰＡについて
5	各種小売業態の特徴(3)	商店街とショッピングセンターについて
6	変化する流通構造	流通構造の分析
7	小売業態とは何か	業態理論について
8	日本型取引慣行	日本型取引の特徴（流通系列化、建値、リベート）
9	ロジスティクス	現代流通を支える３ＰＬ
10	売買集中の原理と品揃え形成	商業の存在意義について
11	商業の外部性と商業集積	商業集積における競争と協調メカニズム
12	投機的流通から延期的流通へ	延期投機理論について
13	生産と流通の分業関係の変化	流通系列化から製販連携へ
14	学習ポイントと質疑応答	春学期の学習ポイントについての理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：石原武政・竹村正明編『１からの流通論』碩学舎、2008年

【履修条件等】

◇小売・流通企業に興味・関心を持っていること。

◇遅刻および講義中の私語は厳禁。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し、小売流通企業の動向について問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

流通論Ⅱ	フカザワ　タクヤ 深澤　琢也
Channel Management II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

現代の小売・流通企業は、国際的運輸・交通手段の発展、情報通信技術の飛躍的発展、消費者ライフスタイルの多様化といった時代的な環境変化、そして市場変化の加速化、競争の多次元化（コスト、品質、スピード）といった競争環境の変化への戦略的対応が要請されている。本講義では、「流通論Ⅰ」で学習した内容をベースに、より専門度の高い流通理論のみならず、制度・実態・政策について最新のケースを用いながら理論的に検討する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
流通と商業の社会的役割および流通機能の分類と機能について正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。流通機能の分類と機能に関する設問に答えられること。	25%
現代流通業の実態について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。オペレーションコスト、取引コスト、パワー関係、延期と投機ＳＣＭなどの理論に関する設問に答えられること。	25%
ＩＣＴ化、国際化などの流通業を取り巻く今日的課題について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。流通におけるＩＣＴ機能の役割、インターネット販売、流通業が国境を越える際に生じる課題に関する設問に答えられること。	25%
流通と公共政策との関連性について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。今日までになされてきた具体的な公共政策内容、およびそれが流通にいかなる影響を及ぼしてきたのかについての設問に答えられること。	25%
評価の方法　全15回の授業のうち３分の２にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義内容説明、成績評価説明
2	流通を読み解く視点(1)	流通と商業
3	流通を読み解く視点(2)	流通機能の分類と機能
4	流通における機能分担(1)	垂直的分化と統合
5	流通における機能分担(2)	オペレーションコスト、取引コスト
6	流通における組織間関係(1)	チャネルの組織化とパワー関係
7	流通における組織間関係(2)	製販提携と延期型流通、ＳＣＭの進展
8	小売業の行動とダイナミクス(1)	小売業態の開発と競争
9	小売業の行動とダイナミクス(2)	小売業の製品開発とブランド・マネジメント
10	卸売業の現状と課題	卸売業界の再編成と“機能強化”競争
11	流通におけるＩＣＴ活用の展開	ＩＣＴの導入、流通ＩＣＴ化の進展と意義
12	インターネット販売の可能性	インターネット販売の特徴
13	流通と公共政策	まちづくり・公正競争
14	学習ポイントと質疑応答	春学期の学習ポイントについての理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：渡辺達朗・原頼利・遠藤明子・田村晃二著『流通論をつかむ』有斐閣、2008年

【履修条件等】

◇小売・流通企業に興味・関心を持っていること。

◇遅刻および講義中の私語は厳禁。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し、小売流通企業の動向について問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

商品論	タグチ　フユキ 田口　冬樹
Product Management	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

市場には多くの新しい商品が提供されているが、ヒット商品として支持され、ロングセラーにまで発展できる商品は限られている。この講義では、新商品の開発と提供のプロセスを中心に理解を深めることをねらいとしている。一般の消費財だけでなく、企業で必要なビジネス財、飲食やエンターテインメントのようなサービス、アニメや小説などのようなコンテンツ、さらには観光地や水族館のような場所や施設といった商品も対象とし、また商品の安全性確保・資源保全・環境保護の視点からも広く検討を加え、現代に求められる商品論を提案したい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
商品とサービスの役割を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。商品とサービスの関係、商品の構成要件と分類、商品化の仕組み、サービスの商品特性について答えられること。	20%
新製品開発と製品ライフサイクルの両プロセスを関連づけて説明できること	設問に対する解答によって評価。消費者サイドのニーズと企業サイドのシーズの役割、新製品の市場導入による普及のプロセス（キャズムの意味)、コモディティ化について理解し、説明ができること。	20%
現代の商品に求められる社会的条件として、環境・資源・安全性について課題を考察し、理解を深める	設問に対する解答によって評価。現代の商品に求められる品質、エコや安全性、下取りといった問題について、その背景になっている課題を整理し、製品開発や提供の問題点を指摘できること。	30%
商品に対する調査と課題発見および改善提案を行う	設問に対する解答によって評価。身近な商品を取り上げて、企業サイドからはＳＷＯＴ分析、消費者サイドからは購入・利用・処分の問題点の発見を通してその商品の改善提案書が作成できること。	30%
評価の方法　定期試験70%、授業内実施の小テスト20%、授業への貢献10%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義のねらいと進め方
2	商品とは何か	商品の意味と商品化の仕組み、便益の束とは
3	現代の商品概念	商品とイノベーション：顧客が片づけたい仕事とは
4	消費財とビジネス財	使用目的・顧客対象の違いとは：ミシュランガイドのねらい
5	サービス商品	サービスの商品特性とサービス・ドミナント・ロジック
6	製品計画	ニーズとシーズ、マーチャンダイジングとＳＰＡ
7	新製品開発の戦略	ケーススタディ：先発優位と後発優位
8	製品ライフサイクル	新製品の普及とコモディティ化
9	市場細分化	ＳＴＰとは何か
10	フリーのねらい	商品と価格の関係
11	ブランドと商品	ブランドの役割と戦略のタイプ、ブランドロイヤルティの意味
12	ブランド戦略	ケーススタディ：ＮＢとＰＢ、ＯＥＭ、地域ブランドの展開
13	日本市場とブランド	日本人のブランド観、新興国のケース
14	商品企画＆改善提案	各自が考える商品企画および改善の提案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：田口冬樹著『マーケティング・マインドとイノベーション』白桃書房

◇参考書：田口冬樹著『流通イノベーションへの挑戦』白桃書房
授業開始時ならびに必要に応じて紹介、とくに「リテールマーケティング（販売士)」資格の受験講座の解説書なども授業時に紹介。

【履修条件等】

◇マーケティング関連科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「ブランドマーケティング論」、「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」、「販売管理論Ⅰ」、「販売管理論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「コンテンツビジネス論Ⅰ」、「コンテンツビジネス論Ⅱ」など）を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時に予告した問題に関し、教科書をよく読んで関連する事例を調べ関心を高めておくこと。

【その他の注意事項】

◇身近な問題を取り上げるとはいっても、自分で課題を発見し、よく調べて授業に出席すること。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経済法	隅田（スミダ）　浩司（コウジ）
Economic Law	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

この講義は、市場経済を支える経済法（競争法）の法理論と政策を取り扱います。授業では、談合やカルテルを規制する不当な取引制限、独占規制、そして合併や買収が競争に与える影響を分析する企業結合規制、そして不公正な取引方法を取り上げます。この講義を受講することによって、経営に必要な法的知識や法的思考力を習得することができます。またこの講義では、さまざまな業界を取り扱いますので、業界研究に役立つだけでなく、企業の経営戦略やマーケティング戦略についても理解を深めることができます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)経済や経営と法の関係の基礎を理解できる	講義中に登場する法概念の意義および要件・効果の理解度を講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
2)法的論点を正確に理解し、議論することができる	法的論点を理解し、判例・学説の議論状況を把握しているか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
3)法的論点を含む実例に対して、法知識を応用し、問題解決を導くことができる	学習・到達目標(1)、(2)を前提として、当該知識を利用し、法的問題を含む事例式問題に対して解決策を導くことができるか、講義中の小テストおよび期末試験によって、客観的に評価する。	評価の25%
4)実践的な応用事例に対して、講義内容を活用し解決策を導出することができる	学習・到達目標(1)、(2)および(3)を前提として、当該知識を利用し、法的問題を含む難易度の高い事例式問題に対して解決策を導くことができるか、講義中の小テストおよび期末試験によって、客観的に評価する。	評価の15%
評価の方法　評価配分は、期末試験を70%、授業参加姿勢、授業態度を30%として評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	経済法概論	経済法の基礎概念の解説
2	共同行為(1)	不当な取引制限における意思の連絡について解説
3	共同行為(2)	不当な取引制限の諸要件について解説
4	共同行為(3)	不当な取引制限の事例研究
5	事業者団体	事業者団体規制について解説
6	企業結合規制の概要	企業結合規制の概要について解説
7	単独行動規制	単独行動規制について解説
8	協調行動規制	協調行動規制について解説
9	私的独占(1)	排除行為について解説
10	私的独占(2)	排除に関する最新事例について解説
11	私的独占(3)	排除と支配行為について解説
12	不公正な取引(1)	不公正な取引方法の概要の説明
13	不公正な取引(2)	ボイコット、差別対価、不当廉売など
14	不公正な取引(3)	再販売価格維持行為、優越的地位の濫用など
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しません。

◇授業の教材はすべて学内学習支援システム CoursePower を通じて配布します。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業中に予習課題を指示します。

【その他の注意事項】

◇私語は厳禁です、違反者は履修停止となります。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

労働法	黒岩（クロイワ）　容子（ヨウコ）
Labor Law	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

この講義では、労働法の基本的枠組みや考え方、基礎知識を学びます。現代社会では、人々の多くが雇用されて働き賃金を得て生活し、また、企業は人を雇うことによって営業活動をしています。人を雇うとき、雇われるときの基本的なワーキングルールやその考え方を知っておくことは、自らが尊厳をもって生きていくためにも、公正な社会を築くうえでも必要不可欠なことです。この授業で、是非、生きた労働法の知識を身につけてください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
労働法の理念・基本的枠組み・考え方を理解する	基本的な理解ができているかを、テストおよび授業中の質疑の中で判定します。	40%
労働法の基礎的知識を習得する	基礎的知識を取得できているかを、テストおよび授業中の質疑の中で判定します。	40%
事実に基づいて論理的に思考する姿勢の習得	テストおよび授業中の質疑のなかで判定します。	20%
評価の方法　期末テスト50%の他、授業中に中間小テスト40%を行います。 また授業中の質疑等への貢献度10%も評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	労働法の特徴。労働法の学び方。
2	労働法の歴史と機能	雇用システムと労働法
3	労働法上の当事者。 労働条件の決定	労働者、使用者、労働組合。 労働法・労働契約・就業規則・労働協約
4	労働契約の成立	就職・採用に関する法的ルール
5	賃金	賃金に関する法的ルール
6	労働時間・休日・休暇	労働時間・休日・休暇に関する法的ルール
7	人事異動	配転、出向、移籍に関する法的ルール
8	労働契約の終了	退職、解雇、雇止めに関する法的ルール
9	差別・ハラスメント	職場の差別やハラスメントの撤廃と法
10	ワーク・ライフ・バランス	ワーク・ライフ・バランスに関する法的ルール
11	非正規雇用問題	パート・アルバイト・契約社員・派遣社員と法的ルール
12	集団的労使関係	労働組合、団体交渉と労働協約
13	職場の安全衛生	労働災害、過労死問題
14	労働をめぐる紛争	職場のトラブルとその解決手段
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用しません。授業の際にレジュメおよび資料を配付します。

◇参考書として、浅倉むつ子・島田陽一・盛誠吾『労働法　第５版』
有斐閣アルマ、2015年。
また、授業のなかで参考文献を紹介します。

【履修条件等】

◇とくに条件はありませんが、「法学Ⅰ」、「法学Ⅱ」等の法律科目をすでに履修ずみ、ないし同時に履修していることが望ましいです。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇現実の社会で、労働に関してどのよう問題が生じているのか、新聞報道などに注意を払い、問題関心を持って授業に臨んでください。また、しっかり復習して、基本的知識を確実に習得してください。

【その他の注意事項】

◇進行状況および受講生の問題関心等によって、スケジュールを変更することがあります。

◇また、授業中は私語厳禁です。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

消費者法	隅田（スミダ） 浩司（コウジ）
Consumers Law	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、消費者法を学びます。消費者法は、自分自身が、悪徳商法の被害に遭わないために知っておくべき重要な法律です。そして、同時に、ビジネスでは、消費者法が非常に重要な役割を果たしています。消費者法に違反した企業は、消費者庁または関係省庁から行政命令や、課徴金という制裁を受けるだけでなく、消費者団体から訴えられる場合もあります。消費者法に違反したことがマスコミに取り上げられ、悪い評判が広がり、最悪の場合、倒産に追い込まれることもあります。ビジネスにおいて重要な消費者法を学ぶことによって、1)自分自身が、悪徳商法にだまされなくなり、2)消費者に配慮したビジネスを行うことができるようになります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)経済や経営と法の関係の基礎を理解できる	講義中に登場する法概念の意義および要件・効果の理解度を講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
2)法的論点を正確に理解し、議論することができる	法的論点を理解し、判例・学説の議論状況を把握しているか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
3)法的論点を含む実例に対して、法知識を応用し、問題解決を導くことができる	学習・到達目標(1)、(2)を前提として、当該知識を利用し、法的問題を含む事例式問題に対して解決策を導くことができるか、講義中の小テストおよび期末試験によって、客観的に評価する。	評価の25%
4)実践的な応用事例に対して、講義内容を活用し解決策を導出することができる	学習・到達目標(1)、(2)および(3)を前提として、当該知識を利用し、法的問題を含む難易度の高い事例式問題に対して解決策を導くことができるか、講義中の小テストおよび期末試験によって、客観的に評価する。	評価の15%
評価の方法　評価配分は、期末試験を70%、授業参加姿勢、授業態度を30%として評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	消費者問題とは	消費者問題と消費者法の全体構造
2	消費者契約法１	消費者契約法における消費者保護の仕組みについて解説
3	消費者契約法２	消費者被害の救済の仕組みについて解説
4	消費者契約法３	消費者契約法規制の検討１
5	消費者契約法４	消費者契約法規制の検討２
6	消費者契約法５	消費者契約法規制の検討３
7	景品表示法１	優良誤認表示の解説
8	景品表示法２	有利誤認表示の解説
9	景品表示法３	原産地表示について解説
10	景品表示法４	食材偽装問題と景品規制の概要の解説
11	景品表示法５	景品規制とソーシャル・ゲーム問題について解説
12	景品表示法６	景品表示法規制における制裁（課徴金）
13	クーリングオフ	特定商取引法とクーリングオフ制度について解説
14	クレジット被害	クレジット被害の救済（割賦販売法）について解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用しません。

◇講義資料は、学内学習支援システム CoursePower を通じて配布します。

◇消費者庁のホームページの情報を活用します。（http://www. caa. go. jp/）

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義中に予習の指示をします。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁です。これが守れない学生は、他の学生に迷惑となりますので、履修停止にします。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経済政策	清水（シミズ）　良樹（ヨシキ）
Economic Policy	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

経済政策とは、直面する経済問題に対処する方法であり、経済政策論は経済問題に関する「どうやって？　どうすれば？　どのように？」という疑問に答えることのできるツールです。しかし、経済学の基礎理論があってこその実践（政策）であり、そもそもの経済問題の把握が間違っていると処方箋である経済政策も大きく違ってしまいます。

本講義では経済政策の仕組みを理解するだけではなく、経済学の基礎理論と問題の本質を把握するセンスを習得してもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
・経済政策と経済学の基礎理論を理解する ・現代の経済問題を認識するとともに問題解決能力を向上させる	定期試験の結果と課題等によって成績を評価する。	定期試験90%、課題やリアクションペーパー等の平常点10%
評価の方法　定期試験90%、課題やリアクションペーパー等の平常点10%により総合的に判断して成績を評価します。ただし、全講義の３分の１以上（５回以上）欠席（考慮すべき理由のないもの）した場合、単位取得を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	金融政策①	中央銀行の役割・金融調節手段
3	金融政策②	金利と景気との関係
4	為替政策①	為替相場はどのように決まるのか？
5	為替政策②	為替相場制度（固定相場制と変動相場制）・為替介入の仕組み
6	財政政策①	ケインズが主張した公共事業
7	財政政策②	財源・税制・所得の再分配・格差社会・ジニ係数
8	社会政策①	年金の仕組み
9	社会政策②	生活保護と貧困
10	通商政策①	WTO 設立の歴史
11	通商政策②	FTA（米・韓 FTA の弊害）・EPA
12	通商政策③	アメリカ経済と TPP
13	エネルギー政策	原発と新エネルギー
14	エネルギー政策②	領土問題と海底資源
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「経済学概論」も併せて履修することが望ましい。

【その他の注意事項】

◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

消費者行動論Ⅰ	中嶋（ナカジマ） 励子（レイコ）
Consumer Behavior I	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

消費者は、どのようなことを考え、どのように購買行動を行っているのでしょうか。消費者行動は、経営学をはじめとして、心理学、社会学、行動経済学等、広い分野と関わっています。この授業では、消費者行動の基本的な理論を学びながら、事例をもとに理解を深めていきます。

また、企業が国内外でマーケティング活動を行うためには、その国・地域の文化や消費者行動を理解する必要があります。最近の事例を通して、マーケティングについても学んでいきます。

事例や課題への取り組み等の参加型の授業を通して、自分達で考えながら理解する力を養います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動の考え方と、主な研究方法について、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者行動に対する基本的な考え方、消費者行動研究の主要なアプローチ方法を理解し、答えられること。	30%
消費者行動に影響を与える内的・外的要因について理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者の知覚、記憶、態度形成等について理解し、答えられること。 消費者行動が周囲の人々や社会から受ける影響要因について理解し、答えられること。	30%
企業の経営企画・マーケティング活動と消費者行動の関連を理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者の行動を理解することが、企業のマーケティング活動にどのように関わるのか、具体例を通じて理解し、答えられること。	40%

評価の方法　70%以上の出席を前提として、平常点20%（授業時に提出を求めるペーパーの内容で評価)、課題20%、試験60%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	授業の進め方、内容について、消費者行動とは何か
2	研究の主要アプローチ方法	消費者行動研究の主な理論とモデル
3	消費者の知覚	消費者の知覚のプロセス等
4	消費者の記憶	消費者の記憶のプロセス
5	消費者の知識と記憶	消費者の知識・記憶
6	消費者の個人特性	消費者の個人特性
7	意思決定プロセス	消費者の意思決定プロセス
8	問題認識・情報探索	問題認識段階と情報探索段階
9	選択評価	選択・代替品の評価
10	購買意思決定	購買意思決定と状況要因
11	購買後の評価	購買後の評価とその影響
12	消費者行動と文化(1)	文化による影響
13	消費者行動と文化(2)	文化に適合させた製品開発事例について
14	消費者調査	マーケティング・リサーチの主な手法と事例
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず（授業時に配布する授業資料を使用）

◇参考図書：青木幸弘著『消費者行動の知識』日経新書
平久保仲人著『消費者行動論』ダイヤモンド社
他（授業内で順次紹介）。

【履修条件等】

◇マーケティング関連の科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「アパレル経営」（他学科科目）、「ショップ経営」（他学科科目）など）を受講していることが望ましい。

◇授業内課題および授業外課題は、必ず提出すること（提出期限厳守）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業内容に関して指定する資料（配布資料、新聞記事など）に目を通しておくこと。

◇自らも消費者であることを認識し、自分の購買行動に関心を持ち、考察すること。

【その他の注意事項】

◇授業中の私語や遅刻については、厳重に注意する。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

消費者行動論Ⅰ	花尾（ハナオ）　由香里（ユカリ）
Consumer Behavior I	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、消費者行動の基本的な考え方について学んだあと、購買行動に影響を及ぼす心理的要因ついて解説を行う。具体的には、商品を購入する際の意思決定プロセスや欲求との関わり、商品への関与度や態度形成が購買行動に与える影響などについて説明をする。自身の購買行動について理論的に理解できるようになるとともに、消費者行動と企業のマーケティング戦略との関わりについても理解できるようになることが目標である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動の考え方と専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者行動の基本的な考え方とアプローチ方法を理解し、消費者行動に関する用語を答えられること。	20%
消費者の認知を理解し、購買行動に与える影響について説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者の知覚が商品選択や情報理解に与える影響、商品知識の構造と購買行動へ与える影響などについての理論を理解し、答えられること。	25%
消費者の心理的要因について理解し、購買行動との関わりについて説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者の欲求と動機づけが購買行動に与える影響、商品に対する関与や態度の概念を正確に理解し、情報探索行動や購買行動に与える影響について答えられること。	25%
消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて理解し、説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。自身の消費者行動を科学的に理解し、企業のマーケティング活動との関わりについて答えられること。	15%
評価の方法　70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	消費者行動の定義と基本的な考え方について
2	問題解決としての購買行動	購買行動の考え方と消費者行動のアプローチ方法
3	購買意思決定プロセス	消費者の購買意思決定プロセスについての解説
4	消費者の欲求と動機づけ	欲求が購買行動に与える影響と動機づけの形成
5	知覚のプロセスと特徴	知覚のメカニズムと知覚が消費者行動に与える影響
6	記憶の種類と役割	消費者の記憶の種類と記憶が消費者行動に与える影響
7	知識の種類と役割	消費者の知識の種類と知識が消費者行動に与える影響
8	知識の高低による違い	消費者の商品知識の高低が購買行動に与える影響
9	製品関与と購買への影響	製品関与が商品購入に与える影響
10	購買関与と広告関与	購買関与と広告関与が消費者に与える影響
11	消費者の態度形成	態度概念と購買行動との関わり
12	態度変容と説得	多属性態度モデル、態度変容とコミュニケーション
13	価格の心理	心理的財布、価格判断の状況依存性
14	購買後の心理	購買後の心理と次購買へ与える影響
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて、資料等を配布する。

【履修条件等】

◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常生活における自身や他者の購買行動を理論的、科学的に考察すること。

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

消費者行動論Ⅱ	ナカジマ　レイコ 中嶋　励子
Consumer Behavior II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、消費者行動の基本的な理論の理解を踏まえ、消費者行動に関する社会的、文化的、個人内要因の理解を深めていきます。

また、データ分析をもとにした消費者行動分析について学び、データ分析や観察を通して、理解を深めていきます。さらに、消費者行動の分析が企業のマーケティングに活用されている事例から、マーケティング活動との関連についての理解も深めていきます。

最近の動向や事例を通して、考えながら、消費者行動を理解する力を養います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動のプロセスを説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者行動のプロセスについて、研究事例および自分自身の行動と関連させて理解し、説明できること。	20%
消費者行動の影響要因を理解し、自分の行動に関連して説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者を取り巻く外的および個人内要因が消費行動に与える影響について、自分の行動と関連させて理解し、説明できること。	40%
企業のマーケティング活動との関連を説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者の行動と企業のマーケティング活動の関連を、具体例を通じて理解し、答えられること。	40%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、平常点20%（授業時に提出を求めるペーパーの内容で評価)、課題20%、試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、授業内容について
2	消費者行動の影響要因	意思決定の主要モデルとさまざまな要因について
3	外的要因	消費者を取り巻く外的要因と影響
4	内的要因	消費者の個人属性、ライフスタイルと消費行動
5	消費者行動とリサーチ(1)	質的調査の主な手法について
6	購買前行動・状況要因	計画購買と非計画購買
7	非計画購買	非計画購買の行動観察
8	購買後評価とその影響	購買後の評価、購買後の評価の影響
9	無店舗販売と消費者行動	無店舗販売における影響要因と購買後評価
10	消費者行動とリサーチ(2)	量的調査の主な手法について
11	マーケティング活動の影響	マーケティング活動が消費者行動に与える影響
12	マーケティング事例（1)	広告の役割・効果、ブランド・イメージ等
13	マーケティング事例（2)	消費者行動を考慮したマーケティング戦略の事例
14	最新の消費者行動研究の動向	観察法、ビッグデータ分析などの最近の事例を学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず（授業時に配布する授業資料を使用）

◇参考図書：青木幸弘著『消費者行動の知識』日経新書
平久保仲人著『消費者行動論』ダイヤモンド社
他（授業内で順次紹介)。

【履修条件等】

◇マーケティング関連の科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「アパレル経営」（他学科科目)、「ショップ経営」（他学科科目）など）を受講していることが望ましい。

◇授業内課題および授業外課題は、必ず提出すること（提出期限厳守)。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業内容に関して指定する資料（配布資料、新聞記事など）に目を通しておくこと。

◇自らも消費者であることを認識し、自分の購買行動に関心を持ち、考察すること。

【その他の注意事項】

◇授業中の私語や遅刻については、厳重に注意する。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

消費者行動論Ⅱ	花尾（ハナオ） 由香里（ユカリ）
Consumer Behavior II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、購買行動に影響を及ぼす心理的な要因を学ぶとともに、消費者を取り囲む環境要因や状況要因など、消費者行動に影響を与える要因について多面的な視点から解説を行う。また、消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて考察できるようになるとともに、自身の購買行動について理論的に理解できるようになることが目標である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動の考え方と専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者行動の基本的な考え方とアプローチ方法を理解し、消費者行動に関する用語を答えられること。	20%
消費者行動に影響を与える環境要因について理解し、説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者を取り囲む環境要因である他者や社会が購買行動に与える影響、店舗内環境要因などの影響について理解し、答えられること	25%
消費者行動にみられる近年の変化や消費者問題について説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。インターネットの普及による消費者行動の変化、消費者問題の現状等を消費者心理とともに理解し、答えられること。	25%
消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて理解し、説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。自身の消費者行動を科学的に理解し、企業のマーケティング活動との関わりについて答えられること。	15%
評価の方法　70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	授業の進め方と授業内容について
2	消費者の個人特性	個人特性による類型論と購買行動への影響
3	消費者のライフスタイル	新製品の普及過程理論とライフスタイルの変化
4	環境要因の影響	環境要因の考え方と環境が消費者行動に与える影響
5	店舗内消費者行動	計画購買と非計画購買、店舗内要因の影響
6	対人的影響(1)	口コミによる購買行動への影響
7	対人的影響(2)	オピニオンリーダー、口コミを利用した企業戦略
8	集団と社会の影響	社会的規範と準拠集団の影響
9	ネット上の購買行動(1)	インターネットの普及による購買行動の変化
10	ネット上の購買行動(2)	インターネットを利用したアプローチと広告戦略
11	カラーの心理と影響(1)	色やデザインが消費者行動に与える影響
12	カラーの心理と影響(2)	色やデザインの戦略的応用について
13	消費者問題(1)	近年の傾向と消費者が巻き込まれやすいトラブル
14	消費者問題(2)	近年の消費者問題対策とトラブル対応
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇「消費者行動論Ⅰ」および「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常生活における自身や他者の購買行動を理論的、科学的に考察すること。

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

販売管理論Ⅰ	フカザワ　タクヤ 深澤　琢也
Sales Management Ⅰ	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義では、企業経営におけるマーケティング管理の役割と内容について取り上げる。具体的には、市場調査、製品計画、価格設定、広告、販売員活動、販売促進、販売経路設定、物的流通などがマーケティング管理の対象となる。「販売管理論Ⅰ」では、マーケティング管理の全体的枠組みおよび組織デザインについて最近の企業事例を交えながら学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの役割とマーケティングに関する基本用語を正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。マーケティングの内容、マーケティングの役割、マーケティング・マネジメントの機能とプロセスに関する設問に答えられること。	25%
企業が価値を創造し実現するためにはどうアクションを起こすべきか説明できること	設問に対する回答によって評価。新製品・新サービスの開発プロセス、価格の役割、流通チャネル、の機能と類型、プロモーション方法の選択という４Ｐ戦略に関する設問に答えられること。	25%
企業の組織体制および資源配分について正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。分業、部門化、リーダーの役割といった組織行動、そして職能志向組織と市場志向組織の特徴に関する設問に答えられること。	25%
企業による事業定義および事業目的の多様性について正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。事業の定義が多様なことを理解し、マーケティングの近視眼およびマーケティングの遠視眼という事業目的の射程に関する問題についての設問に答えられること。	25%

評価の方法　全15回の授業のうち３分の２にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義内容説明、成績評価説明
2	市場をつくり出す企業活動(1)	マーケティングの役割と基本枠組み
3	市場をつくり出す企業活動(2)	マーケティング・マネジメントの機能とプロセス
4	価値形成のマネジメント(1)	製品・サービスの開発プロセス
5	価値形成のマネジメント(2)	価格の役割と戦略的価格デザイン
6	価値実現のマネジメント(1)	流通チャネルの機能と類型
7	価値実現のマネジメント(2)	メッセージとメディアの選択
8	マーケティング組織(1)	分業、部門化、リーダーの役割
9	マーケティング組織(2)	職能志向組織と市場志向組織
10	マーケティング資源の配分(1)	市場シェア、規模の経済性、経験効果
11	マーケティング資源の配分(2)	製品ポートフォリオ管理
12	事業の定義(1)	事業の定義による戦略の違い
13	事業の定義(2)	マーケティングの近視眼と遠視眼
14	学習ポイントと質疑応答	春学期の学習ポイントについての理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎『ゼミナールマーケティング入門』日本経済新聞社、2004年

【履修条件等】

◇マーケティング関連の科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」など）のいずれかを並行して履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し、企業のマーケティング活動について問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

販売管理論Ⅱ	フカザワ　タクヤ 深澤　琢也
Sales Management II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

「販売管理論Ⅱ」では、「販売管理論Ⅰ」で習得したことをベースに、消費者行動や競争構造といった市場の論理、産業別の競争要因、そして市場資源構築のマネジメントについて最近の企業事例を交えながら講義をすすめる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティング活動における消費者行動分析の意義について正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。マーケティング活動における消費者行動分析の意義、消費者行動を分析するフレームワークについて理解し、さらにはマーケティング・リサーチの分類や手順に関する設問に答えられること。	25%
企業間の競争を規定している要因、およびその動態性について正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。産業や戦略グループという枠組みについてバリューチェーン・バリューネットワークの観点から動態的に理解し、それが企業の収益性にどのように結びついているのかについての設問に答えられること。	25%
企業外部に蓄積される資源として、チャネル資産について正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。企業のマーケティング活動におけるチャネル資産の構築の役割と意義について理解し、製版連携や系列店システムのメリットとデメリットについての設問に答えられること。	25%
企業外部に蓄積される資源として、顧客との関係性、ブランドについて正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。企業のマーケティング活動における顧客との信頼関係の構築やブランド構築の役割と意義について理解し、それらに関する設問に答えられること。	25%
評価の方法　全15回の授業のうち３分の２にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義内容説明、成績評価説明
2	消費者行動の理解(1)	企業と消費者との関係、購買意思決定メカニズム
3	消費者行動の理解(2)	市場細分化とマーケティング・リサーチ
4	競争構造の理解(1)	産業の枠組みと収益性の決定要因
5	競争構造の理解(2)	戦略グループの枠組み
6	取引関係の理解(1)	バリューチェーンとバリューネットワーク
7	取引関係の理解(2)	取引コスト
8	プロセスとしての競争	競争環境の変移性と企業戦略
9	産業のライフサイクル(1)	ライフサイクル初期の競争行動
10	産業のライフサイクル(2)	ライフサイクル後期の競争行動
11	チャネル資産のマネジメント	系列店システムおよび製版連携
12	顧客関係のマネジメント	顧客関係のマネジメントと組織体制
13	ブランドのマネジメント	ブランドの効果とマネジメント
14	学習ポイントと質疑応答	春学期の学習ポイントについての理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎『ゼミナールマーケティング入門』日本経済新聞社、2004年

【履修条件等】

◇マーケティング関連の科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」など）のいずれかを並行して履修していることが望ましい。

あわせて、「販売管理論Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し、企業のマーケティング活動について問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

コンテンツビジネス論Ⅰ	ヤマカワ　サトル 山川　　悟
Content Business Theory I	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

映画・ドラマ・アニメ・マンガ・小説・音楽・ゲーム…といったエンタテインメントコンテンツが経済的価値を生み出すという認識が高まっており、「クールジャパン」の名の下に、日本政府も戦略的産業領域と位置づけています。しかしこうした分野のマーケティングに関する理論的な先行実績は乏しく、これからの研究分野とされています。ここでは、作品および事例を見ながら、実践的な取り組み方を一緒に考えてみたいと思います。また、「コンテンツ体験」をキーワードとした新たな戦略についても考察します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンテンツビジネスの概要や影響力について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げた理論やケースを理解し、自分なりの言葉で記述できるか」を評価ポイントとする。	20%
コンテンツのマーケティング独自の考え方について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたコンテンツマーケティングの方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	40%
コンテンツ体験の持つ意義とその効果について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げた方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	40%

評価の方法

評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に、試験80%・小テストおよび受講姿勢20%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	コンテンツとは何か	作品型、知識型、ライブ型、データ型、海外動向
2	コンテンツビジネスの現状と展望	映画、音楽、放送、出版、ゲーム業界の状況
3	コンテンツ消費の実態と特性	ソーシャル視聴、つながり消費、波及関連消費
4	無形性からのアプローチ	ブランド化、エントリー商品、有形化
5	可変性からのアプローチ	マルチユース、バンドリング、クロスメディア
6	芸術性からのアプローチ	スポンサード、アーティスト活用、希少価値化
7	権利性からのアプローチ	ライセンシング、権利保護、二次利用
8	中間試験	１～７回までの学習達成度確認のための試験
9	偶有性への対応戦略	関心拡張、既知情報の活用、未知の創出
10	嗜好選択性への対応戦略	ターゲット戦略、選択肢多様化、異文化対応
11	コンテンツ体験の創造①	「見る・聴く・読む」消費観からの解放
12	コンテンツ体験の創造②	近代以前のコンテンツ接触スタイルの見直し
13	コンテンツ体験の創造③	模倣・追体験、応援的関与、制作参加
14	コンテンツ体験の創造④	ファンダム、二次創作促進、まとめ
15	総括と達成度の確認	授業の総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

◇教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。

◇参考書：山川悟他著『コンテンツマーケティング』同文舘出版

山川悟他著『コンテンツがブランドを創る』同文舘出版

【履修条件等】

◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を受講していること、あるいはそれと同等の知識ベースを持っていることが望ましい。

◇映画・ドラマ・アニメ・マンガ・小説・音楽などに興味があること。

◇講義中に議論や質問、ミニ試験を行うことがあるため、能動的な出席態度が望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇留学生は、日本の企業名や商品名、主要映画やドラマ、アニメなど日本文化についての知識を深めておくこと。

◇テレビ番組や映画などを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

◇マーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

コンテンツビジネス論Ⅱ	ヤマカワ　サトル 山川　悟
Content Business Theory II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義は「コンテンツビジネス論Ⅰ」の発展的応用として「コンテンツを活用したビジネス」について学びます。前半はコンテンツを活用した商品開発・広告宣伝・地域開発の事例を通じ、コンテンツの持つコミュニケーション効果について確認します。後半は、日本文化の特性を今日のビジネスに活かす方法論について考察し、真の「クールジャパン」とは何かについて議論します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンテンツを活用したマーケティング手法とその効果について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたコンテンツ活用マーケティングの方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	50%
日本文化と今日のビジネス発想について、その意義と方法論について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げた文化アプローチマーケティングの方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	50%

評価の方法

評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に、試験80%・小テストおよび受講姿勢20%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	コンテンツ活用への考え方	概論、ケーススタディ
2	コンテンツと商品開発	タイアップ、世界観商品、独自ストーリー
3	コンテンツと広告宣伝	ブランデッドエンタテインメントの方法論
4	コンテンツと地域ブランディング	聖地巡礼、地域アニメ、伝説・民話・偉人活用
5	キャラクターマーケティング	キャラクターとは何か、活用事例研究
6	ゲーム活用マーケティング	ゲーム内広告、ＡＲＧ、ソーシャルゲーム活用
7	スポーツコンテンツ論	スポーツ産業、スポーツコンテンツ活用戦略
8	中間試験	１～７回までの学習達成度確認のための試験
9	日本文化と今日のビジネス①	江戸の商いの近代性、文化アプローチについて
10	日本文化と今日のビジネス②	「あはひ(間)」の概念と今日のビジネス
11	日本文化と今日のビジネス③	「かぶく(傾く)」の概念と今日のビジネス
12	日本文化と今日のビジネス④	「むすび」の概念と今日のビジネス
13	日本文化と今日のビジネス⑤	「見立て」の概念と今日のビジネス
14	日本文化と今日のビジネス⑥	「らうたし」の概念と今日のビジネス
15	総括と達成度の確認	授業の総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

◇教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。

◇参考書：山川悟他著『コンテンツがブランドを創る』同文舘出版

【履修条件等】

◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「コンテンツビジネス論Ⅰ」を受講していること、あるいはそれと同等の知識ベースを持っていることが望ましい。

◇コンテンツおよび日本文化に興味があること。

◇講義中に議論や質問、ミニ試験を行うことがあるため、能動的な出席態度が望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇留学生は、日本の企業名や商品名、主要映画やドラマ、アニメなど日本文化についての知識を深めておくこと。

◇テレビ番組や映画などを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

◇マーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経営心理学	佐藤（サトウ）　恵美（エミ）
Business Psychology	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

経営心理学は、産業場面における人間の心理や行動を科学的視点から研究する学問である。経営や産業に関連する人間行動は、産業と消費という２つの側面から捉えることが可能である。これは具体的に、”労働”、“職業”、”集団・組織”、”販売・広告”、”購買・消費”の５領域に集約される。「経営心理学」では、職業適性と採用、労働を考えるワークモチベーション、集団と組織、組織でのコミュニケーション、仕事の能率と安全の観点からから詳しく解説し、経営や産業場面における人間行動を科学的に理解することを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
職業適性と採用	「自分はどのような職業に向いているのか」という職業適性の概念を理解し、自分の能力・パーソナリティから職業適性を考え、企業に必要とされる人材像を理解する。	20%
労働の心理学	働くための動機づけに関する歴史的経緯から、科学的管理法、ホーソン研究、職務満足、プロセス理論を理解し、経営者の人間観と働く人のワークモチベーションを理解する。	30%
組織心理学	集団を形成し、組織に参加していく過程から、形成された組織・集団その内部に作り出す人間関係とコミュニケーション、コンフリクト、意思決定システム、職場ストレスを理解する。	30%
仕事の能率と安全	産業場面における時間研究と動作研究から、心理的な時間感覚を理解し、人間の疲労や認知的エラーによって引き起こされるヒューマンエラーをなくし、作業現場での事故防止を考える。	20%
評価の方法　本試験70%、レポート30%、平常点（授業態度など）10%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習の取り組み方、評価方法
2	職業適性と採用(1)	人間の能力とは、知能と職業との関係
3	職業適性と採用(2)	パーソナリティとは、パーソナリティと面接
4	ワークモチベーション	仕事への外発的動機づけと科学的管理法
5	ワークモチベーション	仕事への内発的動機づけと職務満足
6	ワークモチベーション	仕事への達成動機、組織コミットメント
7	組織・集団(1)	職場集団の特性
8	組織・集団(2)	職場の人間関係と対人認知
9	組織・集団(3)	組織におけるコミュニケーション
10	組織・集団(4)	組織におけるコンフリクトと意思決定
11	職場の快適性と疲労(1)	職場ストレスとその対処
12	職場の快適性と疲労(2)	職場環境とハラスメント
13	仕事の能率と安全(1)	時間研究と動作研究
14	仕事の能率と安全(2)	ヒューマンエラーと事故防止対策
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：山口裕幸・芳賀繁・高橋潔・竹村和久著『－経営とワークライフに生かそう－産業・組織心理学』有斐閣アルマ、2012年。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

【その他の注意事項】

◇教科書は必ず持参すること。レポート等、提出物は必ず提出すること。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

イベント学	奥（オク）　正孝（マサタカ）
Eventology	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

イベントの時代と言われて久しい現代において、イベントの入門である、定義、形態、意義、機能、役割等について理解する。その上で、イベントが持つ社会や地域や産業における存在について検証する。続いて、イベントの持つ非日常性、感性価値、体験価値等にスポットライトを当て、新たなイベントを創造するためにどうすればよいか、イベント・イノベーションへと講義を進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントに関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 イベントとは何か、イベントに必要な要素について答えられる。	20%
幅広いイベントカテゴリーを説明できる	カテゴリーごとに成立する機能と役割について、基本的な構造を答えられる。	20%
イベントの役割が理解できる	実際のイベント事例を通して、イベントが起こせる波及効果と果たさねばならない義務について理解できる。	30%
実際のイベントで発見したことを表現できる	イベントアイデア、企画のレポートにより評価。 イベント発想で課題に対し、ユニークで斬新なイディアが提供できる。	30%
評価の方法　毎回の授業ごとにレポートを提出70%、期末の確認テスト30%。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イベント学概論Ⅰ	イベントの正体（基礎と基本）
2	〃　　Ⅱ	イベントの正体（歴史と業界）
3	イベントと地域ブランドⅠ	イベントで変わる地域のイメージ
4	〃　　Ⅱ	地域が創るコンテンツイベント
5	イベントと企業プロモーションⅠ	ヒットさせるイベントプロモーション
6	〃　　Ⅱ	イベント戦略で日本を売り込む
7	イベントと社会トレンドⅠ	ソーシャルメディアがイベントを変える
8	〃　　Ⅱ	サステナビリティでイベントが変わる
9	イベントと祭りⅠ	イベントと祭りの違いと共通点
10	〃	フェスティバルイベントと体験価値
11	イベントと美学Ⅰ	驚きと感動のイベントの公式
12	〃　　Ⅱ	心を動かすイベントの方程式
13	新時代のイベントⅠ	時代が求める新しいイベント
14	〃　　Ⅱ	イベントが変わるイノベーション
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず。オリジナルテキスト・資料を配布する。

【履修条件等】

◇小テストやレポート等によって確実に出席をとる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

サービス産業論	日野（ヒノ）　隆生（タカオ）
Service Industry Theory	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

これまでの長い間、わが国の経済社会システムは、製造業を念頭において動いてきていた。このことが起因して「サービス産業」がわが国の経済発展を担う重要な産業であるとの位置づけが曖昧になりがちであった。「サービス産業」はわが国にとって製造業と両輪となって経済を牽引している。製造業と比較すると、サービス業は多種多様な縦割りの個別産業毎に活動している。なかなか把握しにくい点がここに存在するのであるが、よく究明してみると、実はこのような拠に価値を生産する機会がいっぱいある。新たなサービス機能へのニーズの高まりを捉えて欲しい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「経済のサービス化」に関して理解する	レポート提出により評価する。 「サービス産業化」は、経済全般に及んでおり、農業も工業も例外なく進んでいることを説明できる。	20%
経済記事を読む能力	レポート提出により評価する。 経済記事を読み、その内容を要約できる。	30%
経済記事を論評する能力	レポート提出により評価する。 経済記事を読んだのちに、自らの論評を文章化し論評できる。	30%
「付加価値提案」の重要性を理解する	レポート提出により評価する。 メーカーもサービス業も「従来にないサービスや機能」を実現するために、常に付加価値提案が求められていることを説明できる。	20%
評価の方法　レポート50%、試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	オリエンテーション・授業の進め方
2	サービスの概念	サービスの意味
3	サービス産業	サービス産業とは
4	サービス産業の現状（1）	伝統的なサービス業
5	サービス産業の現状（2）	新たなサービス業
6	サービス産業の分類（1）	日本標準産業分類におけるサービス業（1）
7	サービス産業の分類（2）	日本標準産業分類におけるサービス業（2）
8	サービス産業の分類（3）	日本標準産業分類におけるサービス業（3）
9	サービスの構造	サービス商品と付随サービス
10	サービスに対する評価	サービスの品質と満足
11	サービスの生産	サービスの生産と品質
12	サービス・エンカウンター	顧客と従業員の相互作用
13	サービス・プロフィット・チェーン	従業員満足による顧客満足
14	ケーススタディ	新たなサービス業
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇プリントの配布。

◇参考書：『サービス・マネジメントの理論と実践』五絃舎

【履修条件等】

◇日常的にサービス業について関心を持っていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇サービス業界についてニュースなどで知ること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

商業簿記Ⅰ	ムラカミ　ショウイチ 村上　翔一
Commercial Bookkeeping Ⅰ	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

本授業は、複式簿記の基本的知識を理解している学生を対象に、商業簿記の個別の論点についてより理解を深めることを目的としている。また、本授業は日商簿記検定２級程度に相当する内容を中心としている。

各授業は、各テーマの説明の後、当該テーマに関連する問題を解く時間を設けたうえで解答・解説を持って進められる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
商業簿記の意義を理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価する。商業簿記の意義や目的を理解し、商業簿記に関する専門用語を答えられること。	10%
商業簿記の体系を理解する	設問に対する解答によって評価する。財務諸表の構成要素や簿記一巡の手続を理解し、作成できるようになること。	10%
日々の取引記録ができるようにする	設問に対する解答によって評価する。各種債権やリース会計などの個別論点について仕訳ができること。	80%
評価の方法　中間テスト30%、確認テスト（期末試験）70%。「出席点」は設定しない。 全講義回数の３分の２以上の出席が成績評価の対象となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法の説明など
2	棚卸資産(1)	取得原価、原価配分
3	棚卸資産(2)	期末評価（棚卸減耗、評価替）
4	収益認識	収益計上基準、役務収益・原価
5	金融商品(1)	銀行勘定調整表
6	金融商品(2)	手形、債務保証、クレジット売掛金、電子記録債権
7	有価証券	分類、取得原価、期末評価、利息
8	中間テスト	学習達成度の中間テストおよび解説
9	固定資産(1)	割賦購入、圧縮記帳、減価償却、除却・廃棄
10	固定資産(2)	建設仮勘定、ソフトウェア
11	固定資産(3)	リース取引
12	引当金(1)	貸倒引当金（個別評価・一括評価)、
13	引当金(2)	製品保証引当金、退職給付引当金など
14	外貨建取引	為替差損益、為替予約
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※状況によっては多少前後する場合もある。

【使用教材】

◇教科書：桑原知之著『サクッとうかる日商２級　商業簿記　テキスト＋問題集』
　　ネットスクール株式会社

◇適宜資料等を配布する。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」を履修して単位習得済みであるか、日商簿記検定３級を取得済み、もしくは同程度の簿記の知識を有することを履修の条件とする。

◇また、「商業簿記Ⅰ」と「商業簿記Ⅱ」を連続して履修することを条件とする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇状況により多少前後することもあるが、概ね先に示した授業計画に従って進めていくので、講義を受ける前までにテキストの該当箇所に目を通しておくこと。

◇簿記は知識の積み重ねが大切であるため、授業で取り上げた項目に対する復習を行い、確実に身につけてほしい。

【その他の注意事項】

◇簿記の学習は積み重ねが必要であるため、講義には毎回出席し、積極的に参加することを望む。また、他者に迷惑となる行為（私語等）は禁止する。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備すること。算盤でもかまわない。確認テストの際には、携帯電話、電子辞書、ＰＣ、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

商業簿記Ⅱ	ムラカミ　ショウイチ 村上　翔一
Commercial Bookkeeping II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

本授業は、複式簿記の基本的知識を理解している学生を対象に、商業簿記の個別の論点についてより理解を深めることを目的としている。また、本授業は日商簿記検定２級程度に相当する内容を中心としている。

各授業は、各テーマの説明の後、当該テーマに関連する問題を解く時間を設けたうえで解答・解説を持って進められる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
商業簿記の意義を理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価する。商業簿記の意義や目的を理解し、商業簿記に関する専門用語を答えられること。	10%
商業簿記の体系を理解する	設問に対する解答によって評価する。財務諸表の構成要素や簿記一巡の手続を理解し、作成できるようになること。	10%
日々の取引記録ができるようにする	設問に対する解答によって評価する。税効果会計、本支店会計や連結会計などの個別論点について仕訳ができること。	80%
評価の方法　中間テスト30%、確認テスト（期末試験）70%。「出席点」は設定しない。 全講義回数の３分の２以上の出席が成績評価の対象となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法の説明など
2	純資産	株式発行、剰余金、株主資本等変動計算書
3	税金(1)	租税公課、法人税等、消費税
4	税金(2)	課税所得の算定、税効果会計
5	企業結合	合併、のれん
6	伝票会計	３伝票制と仕訳日計表の作成
7	決算手続(1)	試算表、決算整理、帳簿の締切
8	決算手続(2)	精算表、勘定式と報告式、区分表示、月次決算
9	中間テスト	学習達成度の中間テストおよび解説
10	本支店会計(1)	本支店会計の処理、未達事項
11	本支店会計(2)	合併財務諸表の作成
12	連結会計(1)	資本連結、のれん、子会社の配当など
13	連結会計(2)	連結会社間取引、未実現利益の消去（ダウンストリーム）
14	連結会計(3)	まとめ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：桑原知之著『サクッとうかる日商２級　商業簿記　テキスト＋問題集』
　　ネットスクール株式会社

◇適宜資料等を配布する。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」を履修して単位習得済みであるか、日商簿記検定３級を取得済み、もしくは同程度の簿記の知識を有することを履修の条件とする。

◇また、「商業簿記Ⅰ」と「商業簿記Ⅱ」を連続して履修することを条件とする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇状況により多少前後することもあるが、概ね先に示した授業計画に従って進めていくので、講義を受ける前までにテキストの該当箇所に目を通しておくこと。

◇簿記は知識の積み重ねが大切であるため、授業で取り上げた項目に対する復習を行い、確実に身につけてほしい。

【その他の注意事項】

◇簿記の学習は積み重ねが必要であるため、講義には毎回出席し、積極的に参加することを望む。また、他者に迷惑となる行為（私語等）は禁止する。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備すること。算盤でもかまわない。確認テストの際には、携帯電話、電子辞書、ＰＣ、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

工業簿記Ⅰ	福山（フクヤマ） 倫基（トモキ）
Industrial Bookkeeping I	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義では、日商簿記３級等で勉強する商業簿記を、商品を自社で製造して販売する活動、つまり工業に当てはめた簿記の形態である、「工業簿記」を重点的に取り扱います。

工業簿記と名は打っていますが、工業簿記は突き詰めて言いますと、製品１個の原価を計算するということになりますので、原価計算と考えて頂いて結構です。

講義は、解説→演習の流れで行い、講義ごとのテーマが講義中に理解できるよう進めていきます。最終的に、日商簿記２級の工業簿記レベルの知識の習得が目標となります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
工業簿記に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 商業簿記と工業簿記の違いを理解してください。とくに工業簿記の計算一巡に関する手続きの理解に努めてください。	20%
費目計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 費目別計算を行う意義と製造間接費の配賦処理を理解してください。	20%
部門別計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 部門別計算を行う意義と補助部門費などの配賦処理を理解してください。	20%
製品別計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 製品別計算の意義と財務諸表との連動を理解してください。また、原価集計の視点を変えるとさまざまな原価情報を作成できるということに関する理解が必要です。	40%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提に、貢献点10%、課題および小テスト点30%、期末試験60%で評価します。※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。

課題および小テストは、テーマごとに行うので３回の実施を予定しております。

貢献点は、講師が開発した講義を受講し、講義のいずれかの段階でに講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	本講義の進め方、評価方法などに関して
2	原価と原価計算(1)	原価計算の意義に関して説明
3	原価と原価計算(2)	原価計算の目的に関して説明
4	費目別計算(1)	原価要素の分類測定に関しての説明
5	費目別計算(2)	製造間接費の配賦に関しての説明
6	部門別計算(1)	個別費・共通費の集計に関しての説明
7	部門別計算(2)	補助部門費の配賦に関しての説明
8	部門別計算(3)	部門別計算の総まとめ
9	製品別計算(1)	個別原価計算に関しての説明
10	製品別計算(2)	総合原価計算に関しての説明①
11	製品別計算(3)	総合原価計算に関しての説明②
12	製品別計算(4)	個別と総合の違いに関しての説明
13	製品別計算(5)	製品別計算の総まとめ
14	春学期試験の説明	当期の総まとめと春学期試験に関する説明
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。

◇本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。

◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

◇上述した授業概要は、「工業簿記Ⅰ」および「工業簿記Ⅱ」と併せて受講することで達成されます。そのため、「工業簿記Ⅰ」と「工業簿記Ⅱ」を連続して受講して頂きたく思います。「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」の講義、または日商簿記３級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強していることを前提とします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義中だけでは問題演習をこなすことはできないため、必要に応じて講義終了後に課題を出します。必ず課題を行うようにしてください。

【その他の注意事項】

◇電卓は、ＰＣや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。

◇講義内容は講義の進捗や受講生の理解度に応じて変更がある場合があります。

◇講義の妨げになる行為を行った場合、講師から指導が入ります。指導の回数次第で履修停止となる旨、ご了承ください。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

工業簿記Ⅱ	福山（フクヤマ） 倫基（トモキ）
Industrial Bookkeeping II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義は、「工業簿記」を重点的に取り扱っており、「工業簿記Ｉ」の発展的講義となります。「工業簿記Ｉ」と併せて受講することで日商簿記２級レベルの工業簿記の知識の習得を最終目標としております。また、講義初回に検定重視の講義にするか、会計学の知識とＰＣスキルがどのように連動するかに焦点を置いた講義にするか選択を行います。多数決で決まりますが、どちらにしても日商簿記２級レベルの知識の習得は実現されますのでご安心ください。会計学をＰＣで実装する楽しさを体験していただければ幸いです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
標準原価計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 標準原価計算を元にどの様に管理活動が行われるかを理解してください。	20%
直接原価計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 直接原価計算の計算手続きに関する基本的な理解をしてください。	20%
ＣＶＰ分析に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 直接原価計算を応用することで可能になる経営分析があることを理解ください。	20%
工業簿記をＰＣ上で行うために必要なスキルを身につける	講義や検定試験では、会計学は電卓を用いて手書きでやることが主流となっておりますが、実際に社会に出ると経理などの会計のお仕事はＰＣ上で行うことになります。企業によっては専門ソフトではなく、自身で会計手続きをＰＣ上に実装することが求められます。その際に有用な知識を身につけてください。	40%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提に、貢献点10%、課題30%、期末試験60%で評価します。※課題・期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。
課題は、Excel 上に工業簿記を実装する課題を出します。講義を聞いていれば簡単な問題となると思います。
貢献点は、講師が開発した講義を受講し、講義のいずれかの段階で講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	本講義の進め方、評価方法などに関して
2	工業簿記をＰＣ上で行うための確認事項	受講者のＰＣスキルの確認と、基本的なＰＣスキルの講習を行います。
3	前期の内容をＰＣ上でやってみる(1)	前期に学習した、費目別・部門別・製品別計算を第２回で学んだ内容を元に実装していきます。
4	前期の内容をＰＣ上でやってみる(2)	簡便的なＤＢを用いることで第３回の内容をブラッシュアップします。
5	前期の内容をＰＣ上でやってみる(3)	前期の内容をＰＣ上で行うことの総まとめを行います。
6	標準原価計算(1)	基本思考に関する説明とスキーマの構築
7	標準原価計算(2)	原価差異分析を行うために必要なプロシージャ①
8	標準原価計算(3)	原価差異分析を行うために必要なプロシージャ②
9	標準原価計算(4)	Excel で原価計算関連の報告書を作ってみよう
10	標準原価計算(5)	標準原価計算総まとめ
11	直接原価計算(1)	直接原価計算の概要とスキーマ構築
12	直接原価計算(2)	直接原価計算を実装してみる
13	直接原価計算()	報告書関連を作ってみる
14	秋学期試験の説明	当期の総まとめと秋学期試験
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。

◇本講義ではＰＣを使用します。学務にＩＴルーム活用の申請を出しておきます。

◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

◇上述した授業概要は、「工業簿記Ⅰ」および「工業簿記Ⅱ」と併せて受講することで達成されます。そのため、「工業簿記Ⅰ」と「工業簿記Ⅱ」を連続して受講して頂きたく思います。「入門簿記Ⅰ」・「入門簿記Ⅱ」の講義、または日商簿記３級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強していることを前提とします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「工業簿記Ⅰ」の講義内容を復習しつつ講義に望んで頂けたら幸いです。復習に重点を置いてください。

【その他の注意事項】

◇電卓は、ＰＣや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。

◇講義内容は講義の進捗や受講生の理解度に応じて変更がある場合があります。

◇講義の妨げになる行為を行った場合、講師から指導が入ります。指導の回数次第で履修停止となる旨、ご了承ください。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経営分析	佐藤（サトウ）　正隆（マサタカ）
Financial Analysis	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義は、各種の財務諸表などを分析し、企業の経営成果の良否を判断する能力を身につけることを目標とする。そのためには、財務諸表の構造と意味、売上総利益・営業利益などの利益概念、流動資産・固定資産・純資産などの用語を理解する必要がある。貸借対照表は財政状態を、また損益計算書は経営成績を示すことを理解する。企業成果の財務諸表分析としては、収益性、安全性、生産性、成長性などの方法を習得することを目指す。経営分析を学ぶことにより、業界研究にも役立つように解説する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
①経営分析の役割を理解できる	講義で使われた専門用語の意義や内容の理解度を、講義中の質疑と期末試験によって客観的に評価する。	評価の20%
②財務諸表の構造・意味を説明できる	財務諸表の仕組みと内容の理解度を、講義中の質疑と期末試験によって客観的に評価する。	評価の20%
③各種の経営分析手法を習得することができる	学習の到達目標①、②を前提として、財務諸表を基に各種の経営分析手法を活用できるかを、講義中の小テストと期末試験によって客観的に評価する。	評価の40%
④企業の財務状況を判断できる	学習の到達目標①、②、③を前提として、経営分析の知識と各種の手法を用いて、企業事例に対して的確な財務状況の判断を導くことができるかを、講義中の小テストと期末試験によって客観的に評価する。	評価の20%
評価の方法　評価の配分は、期末試験を70%、授業時小テストおよび授業態度30%として評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	経営分析の概要	経営分析の学び方について説明する
2	経営分析の財務資料	貸借対照表・損益計算書等の内容と仕組みについて理解する
3	損益計算書の構造と意味	売上総利益、営業利益、経常利益、税引前当期順利益の意味と企業の経営成績を理解する
4	貸借対照表の構造と意味	流動資産、固定資産、流動負債、固定負債、純資産の意味と企業の財政状態を理解する
5	収益性分析(1)	比率分析と実数分析による収益性の意味を理解する
6	収益性分析(2)	総資本利益率、売上高利益率、資本回転率の計算方法を習得する
7	安全性分析(1)	流動性比率分析、堅実性比率分析の計算を習得する
8	安全性分析(2)	キャッシュフロー計算書について理解する
9	安全性分析(3)	実数分析による安全性を理解する
10	損益分岐点分析(1)	コストを変動費と固定費に分解する方法を習得する
11	損益分岐点分析(2)	貢献利益を学び損益分岐図表を作成する
12	生産性分析	付加価値の本質を理解し、その計算方法を習得する
13	成長性分析	利益増減分析と株価収益率の計算方法を習得する
14	企業の総合分析	収益性分析、安全性分析等による事例分析を行う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しません。

◇講義では、レジュメを配布します。

◇必要に応じて参考教材は指示します。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義の終わりに予習の課題を指示します。

【その他の注意事項】

◇教室での秩序を守ること。

◇他人に迷惑を掛けることをしないこと。

◇これらを遵守できない場合は、履修停止の措置を取ります。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

財務諸表論	光澤（ミツザワ）　美芽（ミメ）
Financial-Statements Theory	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義は会計学の基礎を理解している学生を対象とし、企業が作成・公表する財務諸表の分析を通じて、企業を評価するための実践的手法について学習する。具体的には、財務３表（貸借対照表、損益計算書およびキャッシュ・フロー計算書）に記載されている情報を読み解き、これらの情報を利用して企業の収益性、生産性、安全性、不確実性、成長性などを分析する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務３表の意義と内容を理解している	設問に対する回答によって評価。財務諸表の役割および構成要素を理解していること。また、各財務諸表に記載される会計情報について、それらが示す意味を理解していること。	50%
企業の評価指標の意味を理解し、利用できる	設問に対する回答によって評価。各種評価指標の意味を理解していること。また、実際に財務諸表を用いてこれらの評価指標を求め、企業分析を行うことができること。	50%
評価の方法　本試験70%、授業への貢献度30%を総合的に判断。 ただし、全講義回数の３分の２以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価方法の説明など
2	財務諸表の役割と仕組み	財務諸表の役割、企業活動と財務諸表
3	財務諸表の入手方法	財務報告に対する法的規制、会社法の計算書類、金融商品取引法の財務諸表、証券取引所での決算発表
4	貸借対照表の見方(1)	企業集団、貸借対照表の構造、資産の主要項目と評価
5	貸借対照表の見方(2)	負債の主要項目、純資産の部の記載項目、連結貸借対照表
6	損益計算書の見方(1)	損益計算書の構造、利益の種類と意味
7	損益計算書の見方(2)	連結損益計算書、包括利益、利益の分配
8	キャッシュ・フロー計算書の見方	資金情報、キャッシュ・フロー計算書の位置づけ、営業活動・投資活動・財務活動とキャッシュ・フロー
9	会計方針の注記	注記事項の種類、有価証券の評価、棚卸資産の評価、固定資産の会計、引当金の計上、デリバティブとヘッジ会計など
10	財務諸表分析の基礎	分析の視点と方法
11	財務諸表分析(1)	収益性分析、生産性分析、安全性分析
12	財務諸表分析(2)	不確実性によるリスクの分析、成長性の分析
13	証券投資への応用	業績変化と株価動向、割引配当モデル・DCF モデル・残余利益モデル
14	総復習	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：桜井久勝著『財務諸表分析』中央経済社、ほか。

【履修条件等】

◇「会計学概論」、「財務会計Ⅰ」および「財務会計Ⅱ」をすでに履修済みであることを条件とする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

租税概論Ⅰ	三関（ミセキ）　公雄（キミオ）
Tax Introduction I	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

生活の中に身近に存在するけれども、普段見過ごされている税金について興味を持っており、この機会に学んでみたいという方やこれから税の専門家を目指したいけれどもほとんど税について知識を持っていない方達を対象にして、租税法を体系的に学んでいける内容にしていきたいと考えています。特に租税概論Ⅰでは、所得税と法人税の基本的な事項に関して理解を得ることを目標とします。

講義の中では、適宜プリントを配布して理解度のアップに努めたいと考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
租税法の基本原則の理解	租税法の根底にある基本的な原則や法体系について理解する。 設問により評価する。	30%
所得税の基礎的知識の習得	所得税の基本的な考え方について理解する。 簡単な計算問題又は設問により評価する。	35%
法人税の基礎的知識の習得	法人税の基本的な考え方について理解する。 簡単な計算問題又は設問により評価する。	35%
評価の方法　受講状況と試験結果により総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	財政の仕組みと役割
2	租税の意義	わが国における租税の発達、租税法の基本原則
3	租税法の体系	租税の分類、租税に関する述語、税法の法体系
4	所得税(1)	所得税の基礎、所得の概念
5	所得税(2)	所得の分類
6	所得税(3)	所得の分類、所得控除
7	所得税(4)	所得控除
8	所得税(5)	課税所得の計算
9	法人税(1)	法人税の基礎、法人の概念
10	法人税(2)	法人税の益金概念、法人税と企業会計の相違点
11	法人税(3)	法人税の損金概念、法人税と企業会計の相違点
12	法人税(4)	法人税の損金概念、法人税と企業会計の相違点
13	法人税(5)	申告調整、課税所得の計算
14	講義のまとめ	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。必要に応じてプリントを配布します。

◇参考書：イントロダクションの時に紹介します。

【履修条件等】

◇とくにありませんが、財務会計の知識があれば、理解し易いと考えます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に配布プリントを読み、理解できない点をチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇忘れずに配布プリントを持参してください。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

租税概論Ⅱ	三関（ミセキ）　公雄（キミオ）
Tax Introduction II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

生活の中に身近に存在するけれども、普段見過ごされている税金について興味を持っており、この機会に学んでみたいという方やこれから税の専門家を目指したいけれどもほとんど税について知識を持っていない方達を対象にして租税法を体系的に学んでいける内容にしていきたいと考えています。とくに「租税概論Ⅱ」では、「租税概論Ⅰ」で学んだ所得税と法人税以外の税金の分野やシステムについて学んでいくことを目標とします。

講義の中では、適宜プリントを配布して理解度のアップに努めたいと考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
相続税・贈与税の基礎的知識の習得	相続税・贈与税の概要を理解する。 設問により評価する。	45%
消費税の基礎的知識の習得	消費税の計算構造や概要について理解する。 設問により評価する。	45%
納税者の権利救済制度の理解	制度の概要の理解。 設問により評価する。	10%
評価の方法　受講状況と試験結果により総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
2	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
3	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
4	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
5	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
6	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
7	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
8	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
9	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
10	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
11	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
12	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
13	納税者の権利救済	加算税、延滞税、争訟制度の概要
14	講義のまとめ	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。必要に応じてプリントを配布します。

◇参考書：イントロダクションの時に紹介します。

【履修条件等】

◇「租税概論Ⅰ」を受講していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配布プリントを読み、理解できない点をチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇忘れずに配布プリントを持参してください。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

税務会計Ⅰ	石塚（イシヅカ）　一彌（カズヤ）
Tax Accounting I	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

税務会計は、租税法、会計学および財政学にまたがる、きわめて広範囲な領域を占める学問である。また、税務会計は、税を徴収する政府の視点ではなく、納税者である国民・企業の視点に立脚した「あるべき租税体系」を会計的アプローチに沿って探求する学問である。

講義では、当該会計的アプローチに従いながら「租税のあるべき姿」を探求する上で、問題となる論点を発見し、当該論点を解決していく素養を会得することを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の修得の有無	税務会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
税務会計に関する基礎的な知識の修得の確認	税務会計に関する基礎的な理解の程度について、予行試験の実施により確認する。	30%
税務会計に関する理解の深度の確認	税務会計の意義、必要性、現状における問題点の程度把握とその解決のため素養を修得しているか否かの確認につき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、出席点30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション１	税務会計の概要等についての講義
2	税務会計の概要	税務会計の意義
3	租税と会計	税法と会計の関係性について
4	税務会計の種類	所得税務会計、財産税務会計、消費税務会計
5	税務会計の機能と実態	税務会計の機能・役割・実態
6	税務会計学	税務会計学の研究領域・学問的使命
7	税務会計の基礎理論(1)	税務会計の課題と役割
8	税務会計の基礎理論(2)	課税所得概念
9	税務会計の基礎理論(3)	税務会計に関する基準
10	課税所得の計算(1)	課税所得計算の通則
11	課税所得の計算(2)	課税所得計算の個別計算
12	課税所得の計算(3)	課税所得計算の基本構造
13	課税所得の計算(4)	申告書について
14	税務会計	その他の論点まとめ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇レジュメを配付し、それに従って講義を行う。

【履修条件等】

◇１年次に「会計学概論」を履修していることが望ましい。また、会計全般に対する基本的な知識をひと通り会得していることが望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「履修の心構え」として、復習中心の勉強が望まれる。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

税務会計Ⅱ	石塚（イシヅカ）　一彌（カズヤ）
Tax Accounting II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

税務会計は、租税法、会計学および財政学にまたがる、きわめて広範囲な領域を占める学問である。また、税務会計は、税を徴収する政府の視点ではなく、納税者である国民・企業の視点に立脚した「あるべき租税体系」を会計的アプローチに沿って探求する学問である。

講義では、「税務会計Ⅰ」で修得した税務会計総論の知識をもとに、典型的な各論の問題を取り上げる。各テーマでは、各人が実際に手を動かして、税法の趣旨に沿った計算に取り組み、税額算定のプロセスを理解することを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の修得の有無	税務会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
税務会計に関する基礎的な知識の修得の確認	税務会計に関する基礎的な理解の程度について、予行試験の実施により確認する。	30%
税務会計に関する理解の深度の確認	税務会計の意義、必要性、現状における問題点の程度把握とその解決のため素養を修得しているか否かの確認につき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、出席点30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	税務収益会計(1)	販売収益
2	税務収益会計(2)	役務収益
3	税務収益会計(3)	請負収益
4	税務収益会計(4)	譲渡収益
5	税務収益会計(5)	受取配当等
6	税務収益会計(6)	受贈益・債務免除益
7	税務収益会計(7)	受取利息他
8	税務収益会計(8)	給与
9	税務収益会計(9)	交際費等
10	税務収益会計(10)	販促費
11	税務収益会計(11)	寄付金
12	税務収益会計(12)	租税公課他
13	税務資産会計(1)	有価証券・棚卸資産・固定資産
14	税務資産会計(2)	その他資産
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇毎回レジュメを配付し、それに従って講義を行う。

【履修条件等】

◇「税務会計Ⅰ」を履修していることが望ましい。また、会計全般に対して応用的判断ができることが望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「履修の心構え」として、復習中心の勉強が望まれる。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

法人税	三関（ミセキ）　公雄（キミオ）
Corporation Tax Law	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

法人の稼得所得に課税される法人税は企業にとっては、コストでありこれをしっかり管理することは、良き経営者の条件となっています。

本講義では、法人税の基礎的事項から海外展開を図る場合に必須となる国際課税の概要までを網羅した内容の理解を目指しています。

講義においては、プリントなどを適宜配布して、できるだけ理解し易い講義になるように努めたいと考えています

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
法人税の基本構造の理解	企業会計と法人税の違いを理解する。 設問により評価する。	40%
法人税の計算	損金の額の計算を中心に理解を深める。 設問により評価する。	50%
国際課税の理解	国際課税の概要と国家間の利害調整システムの理解。 設問により評価する。	10%
評価の方法　受講状況と試験結果により総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	法人税法の概要	法人税の沿革、法人の概念
2	法人税の計算構造	財務会計との相違、益金・損金概念
3	益金の額の計算(1)	資産の販売等
4	益金の額の計算(2)	資産の無償譲渡等
5	益金の額の計算(3)	受取配当等
6	損金の額の計算(1)	売上原価
7	損金の額の計算(2)	減価償却等
8	損金の額の計算(3)	減価償却等
9	損金の額の計算(4)	役員等の給与
10	損金の額の計算(5)	役員等の給与
11	損金の額の計算(6)	交際費
12	損金の額の計算(7)	寄附金、使途秘匿金
13	国際課税	日本の国際課税の概要・租税条約の役割
14	講義のまとめ	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。必要に応じてプリントを配布します。

◇参考書：イントロダクションの時に紹介します。

【履修条件等】

◇とくにありませんが、財務会計の知識があれば、理解し易いと考えます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に配布プリントを読み、理解できない点をチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇忘れずに配布プリントを持参してください。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

法人税	湯谷（ユタニ）　成人（シゲト）
Corporation Tax Law	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

租税は、国民の経済生活のあらゆる局面に関係を持っているが、とくに企業にとっては法人税法を十分に理解した上で経済的意思決定をする必要がある。そこで本講義では最近の税制改革や判例などにも言及しながら新しい法人税を説明していきたい。

プリントを毎回配付して、難解な税法をできるだけわかりやすく教えるように努力したい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
法人税の基本的な考え方	企業会計と税務会計の違いを理解する。	25%
判例を調べる	法人税法の重要な判例を調べ、その射程範囲を理解する。	20%
法人税の計算問題	交際費および寄附金の損益不参入の計算、法人税額の計算、減価償却費の計算	30%
評価の方法　70%以上出席し、授業30%、小テスト30%、レポート40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	法人税法の概要	沿革、税収、機能
2	法人税制度の各論(1)	法人税の計算の仕組み、益金、無償取引
3	法人税制度の各論(2)	受取配当等の益金不算入収益の計上時期
4	法人税制度の各論(3)	損金、減価償却費
5	法人税制度の各論(4)	役員給与
6	法人税制度の各論(5)	交際費、寄付金
7	法人税制度の各論(6)	損金不算入
8	法人税制度の各論(7)	有価証券
9	法人税制度の各論(8)	配当金・準備金
10	法人税制度の各論(9)	繰越欠損金
11	法人税制度の各論(10)	申告と納付
12	法人税制度の各論(11)	組織再編税制
13	法人税制度の各論(12)	連結納税制度
14	法人税制度の各論(13)	租税条約、タックス・ヘイブン対策税制
15	法人税制度の各論(14)	移転価格制度、過少資本税制

【使用教材】

◇プリントを配付する。

【履修条件等】

◇テキストを予習する。「所得税」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストを事前に読み、理解できない箇所を確認しておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業中配布したプリントおよびテキストを忘れないこと。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

所得税	三関（ミセキ）　公雄（キミオ）
Income Tax Law	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

所得税は、個人の稼得した所得を課税客体とするため、源泉徴収制度の適用を受けるサラリーマンは別として、一般の納税者にとっては、その負担感は直接的かつ大きな痛みを伴う税金です。

これから、社会で活躍される皆さんにとっては、避けることのできない税金であり、是非学んでおくことが必要な税金です。

プリントなどを講義で適宜配布して、できるだけ理解し易い講義になるように努めたいと考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
所得税の基本構造の理解	所得概念と所得の種類について理解すること。 設問により評価する。	50%
必要経費の範囲	所得税の必要経費の考え方について理解する。 設問により評価する。	25%
所得税の計算	所得控除の計算等。 設問により評価する。	25%
評価の方法　受講状況と試験結果により総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	所得税法の概要	所得税の沿革、所得の概念、所得税の性格
2	納税義務者と課税単位	
3	総収入金額	所得流入概念、担税力の理解
4	所得の種類(1)	利子、配当、不動産所得
5	所得の種類(2)	事業、給与、退職所得
6	所得の種類(3)	譲渡、一時、雑所得
7	必要経費(1)	必要経費の範囲
8	必要経費(2)	判例解説
9	所得税の課税標準	損益通算、損失の繰越控除
10	所得控除(1)	
11	所得控除(2)	
12	税額計算	
13	源泉徴収制度	還付申告書の作成
14	講義のまとめ	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。必要に応じてプリントを配布します。

◇参考書：イントロダクションの時に紹介します。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に配布プリントを読み、理解できない点をチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇忘れずに配布プリントを持参してください。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

所得税	湯谷（ユタニ）　成人（シゲト）
Income Tax Law	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

租税は、国民の経済生活のあらゆる局面に関係を持っているが、とくに個人にとっては所得税法を十分に理解した上で経済的意思決定をする必要がある。そこで本講義では最近の税制改革や判例などにも言及しながら最近の所得税の概要を説明していきたい。

プリントを毎回配付して、難解な税法をできるだけわかりやすく教えるように努力したい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
所得税法の基本的考え方	所得とは何か、所得区分、課税単位、収入金額、必要経費、所得控除を理解する。	50%
所得税の計算	還付申告、土地を売却した場合の申告、事業所得者の申告	30%
判例を調べる	所得税の重要な判例を調べ、その射程範囲を理解する。	20%
評価の方法　70%以上出席し、授業30%、小テスト30%、レポート40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	所得税法の概要	沿革、税収、機能
2	所得税制度各論(1)	所得税の計算の仕組み
3	所得税制度各論(2)	利子所得・配当所得・不動産所得
4	所得税制度各論(3)	事業所得・給与所得・退職所得
5	所得税制度各論(4)	譲渡所得
6	所得税制度各論(5)	一時所得・雑所得
7	所得税制度各論(6)	総収入金額
8	所得税制度各論(7)	必要経費
9	所得税制度各論(8)	損益通算
10	所得税制度各論(9)	所得控除
11	所得税制度各論(10)	所得控除
12	所得税制度各論(11)	税額控除
13	所得税制度各論(12)	申告・納付・還付
14	所得税制度各論(13)	源泉徴収制度
15	所得税制度各論(14)	源泉徴収制度

【使用教材】

◇プリントを配付する。

【履修条件等】

◇テキストを予習する。「法人税」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストを事前に読み、理解できない箇所を確認しておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業中配布したプリントおよびテキストを忘れないこと。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

ビジネス英語Ⅰ	シシド　カール 宍戸　カール
Business English Basics I	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

グローバル化が進んでいるなか、ビジネスの世界では英語は不可欠です。日本の企業であっても、社内会議および他者とコミュニケーシを英語で行うことが多くあります。学生が今からこのような環境になれるように基本的なビジネス英語を学んでいただきます。テキストまたは教師が作成したロールプレイなどを中心に授業を進めていきます。クラスは、楽しい雰囲気の中で学ぶことが基本です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介の表現を理解し、使えるようにすること	設問に対する回答によって評価。英語での挨拶に臨機応変に対応し、自分のバックグラウンドだけでなく、趣味や夢を英語で説明できること。	30%
相手の仕事内容を尋ねたり、自分の職務の説明ができるようになること	設問に対する回答によって評価。仕事に関連する語彙の習得と表現の練習によって、仕事内容の説明ができること。	30%
約束・請求・謝罪の表現を習得し、使えるようになること	設問に対する回答によって評価。ビジネスにおいて重要な「アポイントのとり方」・「リクエストの仕方」・「謝罪の仕方」などの典型的な表現を習得し、使いこなせるようになること。	40%
評価の方法　70%以上の出席を前提として下記のように評価。 授業参加度：60%、筆記試験：40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	Introduction, Class Policy	General Introduction of class
2	Unit 1 “You and You Job”	Countries, nationalities, jobs
3	Unit 1 “You and You Job”	Saying hello
4	Unit 1 “You and You Job”	Jobs and computers
5	Unit 2 “Products and Services”	Company types and activities
6	Unit 2 “Products and Services”	Ordering products
7	Unit 2 “Products and Services”	Telemarketing
8	Unit 3 “Location”	Company building and region
9	Unit 3 “Location”	Meeting people
10	Unit 3 “Location”	Office location
11	Unit 4 “Help and Advice”	Equipment
12	Unit 4 “Help and Advice”	Suggestions
13	Unit 4 “Help and Advice”	Buying help
14	Review	Review for Final Examination
15	Final Examination	

【使用教材】

◇ Business Result

Elementary

Oxford University Press

ISBN：978-0-19-473937-5

【履修条件等】

◇やる気があり、教科書と辞書があり、積極的に会話に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料を熟読し、単語など意味がわからない個所を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

ビジネス英語Ⅱ	宍戸（シシド） カール（カール）
Business English Basics II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

グローバル化が進んでいる中、ビジネスの世界では英語は不可欠です。日本の企業であっても、社内会議および他者とコミュニケーシを英語で行うことが多くあります。学生が今からこのような環境になれるように基本的なビジネス英語を学んでいただきます。テキストまたは教師が作成したロールプレイなどを中心に授業を進めていきます。クラスは、楽しい雰囲気の中で学ぶことが基本です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介の表現を理解し、使えるようにすること	設問に対する回答によって評価。英語での挨拶に臨機応変に対応し、自分のバックグラウンドだけでなく、趣味や夢を英語で説明できること。	30%
相手の仕事内容を尋ねたり、自分の職務の説明ができるようになること	設問に対する回答によって評価。仕事に関連する語彙の習得と表現の練習によって、仕事内容の説明ができること。	30%
約束・請求・謝罪の表現を習得し、使えるようになること	設問に対する回答によって評価。ビジネスにおいて重要な「アポイントのとり方」・「リクエストの仕方」・「謝罪の仕方」などの典型的な表現を習得し、使いこなせるようになること。	40%
評価の方法　70%以上の出席を前提として下記のように評価。 授業参加度：60%、筆記試験：40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	Summer Vacation	General Introduction of class
2	Unit 5 “Decision”	E-mail ordering
3	Unit 5 “Decision”	Quick decision
4	Unit 5 “Decision”	Difficult decision
5	Unit 6 “Socializing”	Eat in or take out
6	Unit 6 “Socializing”	Café conversation
7	Unit 6 “Socializing”	Business lunch
8	Unit 7 “Workplace”	Department and responsibilities
9	Unit 7 “Workplace”	Company visits
10	Unit 7 “Workplace”	Perfect workplace
11	Unit 8 “Colleague”	Describing people
12	Unit 8 “Colleague”	Voicemail
13	Unit 8 “Colleague”	Family business
14	Review	Review for Final Examination
15	Final Examination	

【使用教材】

◇ Business Result

Elementary

Oxford University Press

ISBN：978-0-19-473937-5

【履修条件等】

◇やる気があり、教科書と辞書があり、積極的に会話に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料を熟読し、単語など意味がわからない個所を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経営学特講Ⅰ 地域マネージメント	イシワタ　マサト 石渡　正人
Special Lecture on Management I	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

地方創生、観光立国などの政策に見られるよう、これから地域マネージメントが重要視されます。地域マネージメントは行政だけが行うものではありません。企業にとっても地域ブランド商品やサービスの開発、観光やイベントなど沢山のビジネスチャンスに溢れています。またＣＳＲが重要視される今日、企業市民として地域にどうかかわるかは大事な課題であり、地域ブランドの創出では企業のもつノウハウも含め大いに期待されています。

本講義では、事例検証を交え、地域ブランドビジネスの特性やビジネスモデルなどを学びます。さらに、後半の講義は実務 IQ の観点から、高田馬場を題材に地域デザイン（ここでいうデザインは目的をもって具体的に立案・設計することの意）についてフィールドワークを交え学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
地域社会の問題点や解決のための施策について理解できる	講義中に解説する地域社会の問題点や必要とされる施策について理解しようと努め、積極的に興味を持てるか。講義中の質疑や討論で客観的に評価。	20%
地域社会での問題点からビジネスを構築するための手法を理解する	地域ブランドビジネスの特性や、商品（サービス）の開発方法、問題点などを理解しているかを、授業中の質疑応答やテストで評価。	40%
地域社会での問題点を解決するために自分なりのビジネスプランをまとめる	地域を対象にしたビジネスプランを指定フォーマットの企画書にまとめる。地域の問題点への考察と課題解決に向けたプランを戦略的に組み立てられているかを評価ポイントとする。 実現性は問わない。	40%
評価の方法　70%以上の出席を条件に、出席評価（受講態度も含む）20%、 中間テスト40%、本試験（指定フォーマット企画書）40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	地方を取り巻く状況	人口減少社会、高齢化、産業空洞化、地域コミュニティの分断など現状の問題点を解説
2	地域活性化について 社会学的アプローチ	地域コミュニティとソーシャルキャピタル、地域の個性、差別化など
3	地域活性化について 経済学的アプローチ	地域ブランドの考え方、手法などの解説 地域商業（商店街）活性化など
4	地域ブランド開発①	地域ブランド商品、食文化、B級グランプリなど
5	地域ブランド開発②	文化・環境ブランド＝テーマ型集客施設、道の駅など
6	地域ブランド開発③	観光ブランド＝コンテンツツーリズム、インバウンド
7	地域ブランド開発④	キャラクター住民、ゆるきゃら、ご当地ヒーローなど
8	中間試験	１～７回までの学習達成度確認のための試験
9	高田馬場の地域デザインを考える①	地域デザイン（目的をもって具体的に立案・設計すること）のためのフィールドワークの手法を学ぶ
10	高田馬場の地域デザインを考える②	地域の問題点の洗い出しと文献調査
11	高田馬場の地域デザインを考える③	フィールドワーク～調査対象：高田馬場周辺の商店街や企業施設、自治体など
12	高田馬場の地域デザインを考える④	手塚キャラクター発想支援カードを使い、フィールドワークで学んだことを活かしたブレーンストーミング
13	高田馬場の地域デザインを考える⑤事例紹介	高田馬場発祥、日本で一番発行額の多い地域通貨「アトム通貨」に見るソーシャルキャピタルの醸成
14	高田馬場の地域デザインを考える⑥事例紹介	江戸伝統野菜「内藤とうがらし」再興プロジェクトとまちバルイベント「バル辛フェスタ」に見る地域ネットワーク
15	学習達成度の確認	学習達成度確認のための地域デザインをテーマにした、指定フォーマットによる企画書の作成

【使用教材】

◇教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。

【履修条件等】

◇みなさんの身の回りにあることが題材になります。
そのため講義中に質問や議論を行うことがあり、能動的な出席態度で望んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業終了時に次回の授業内容を予告します。その観点から自分の住んでいる街や、大学のある高田馬場の街を眺めておくと授業の理解度が増すでしょう。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経営学特講Ⅰ	ヤマオカ　ジュンイチロウ 山岡　淳一郎
Special Lecture on Management I	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

この講義は「日本語で伝える」を共通テーマとし、メディア報道などを手がかりに時代の方向性を読み解きます。日本語の文章を読み、書き、そして話す。国内外の社会環境変化が激しい現在、コミュニケーションの原点を大切にしながら、社会のしくみや人びとの心理をつかむ基礎力を養います。ものごとを伝えるには、まず理解が必要です。議題ごとにディスカッションやワークシートの作成を行って考えを整理し、伝えるトレーニングをします。経営を多様な分野でのマネジメントととらえ、私が取材でかかわった経営者や政治家、各界のキーパーソンの「生き方」も紹介し、学びの機会を提供します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会の変化を、論理的に把握して理解できる	講義中に解説する時事問題や人物のエピソードなどを通して社会の変化を論理的に整理し、理解できているか。講義中の質疑や討論、期末試験で客観的に評価。	20%
日本語で読み、書き、話すための基礎的な力を身につける	講義に使うテキスト、レジュメなどにそって、読み、書き、話すことに積極的にチャレンジし、自らの能力を高めようとしているか。ワークシート、試験等で客観的に評価。	35%
情報の読解力を高め、ものごとを多角的にとらえられる力をつける	世のなかに氾濫する情報をうのみにせず、正確に理解しようと努め、さまざまな視点からの分析ができているか。講義中の質疑や期末試験で客観的に評価。	25%
経営に欠かせない先見性やリーダーシップが理解できる	講義でとりあげる経営者らの決断、選択にふれ、その根底にある先見性やリーダーシップの基本概念が理解できるか。講義中の質疑や期末試験で客観的に評価。	20%
評価の方法　評価配分は授業参加の姿勢、態度を50%、期末試験50%として評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	導入講義	「日本語で伝える」ことの大切さ
2	トランプ大統領の演説	「アメリカ第一」の考え方が日本、アジア諸国に及ぼす影響
3	少子高齢化と経営①	病院の経営はどのようにして成り立っているか―徳洲会
4	少子高齢化と経営②	医療と介護の垣根が消える―地域包括ケアシステム
5	少子高齢化と経営③	認知症とビジネス
6	航空機と中小企業①	国産ジェット機ＭＲＪの開発は「ものづくり」を変える
7	航空機と中小企業②	町工場が「世界の空」を目ざす理由―飯田市、新潟市など
8	脱炭素ビジネス革命①	世界市場で、石油、石炭から自然エネルギーへの転換が進む
9	脱炭素ビジネス革命②	凋落する原子力産業
10	特別講義	課外授業、もしくは外部から講師を招いての講義
11	経営者の生き方①	「宅急便の父」―小倉昌男（元ヤマト運輸社長・会長）
12	経営者の生き方②	「自分を他社と比較するな。自分自身とやれ」 ―土光敏夫（元経団連会長）
13	経営者の生き方③	「生命だけは平等だ」 ―徳田虎雄（巨大病院グループ「徳洲会」創設者）
14	模擬：企画コンペ	これまでの講義を参考に、 「つくりたい本」の企画コンペを行う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：授業ごとにレジュメ、ワークシートなどを準備し、それを教材にします。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業中に次回の内容を予告し、予習すべき内容を指示します。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語、無断で教室外に出ることは慎んでください。授業では、グループごとのディスカッションやワークシートの記入などを実施します。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経営学特講Ⅱ	安田（ヤスダ） 泰敏（ヤストシ）
Special Lecture on Management II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

《夢実現のためのコミュニケーション能力向上と人間力アップ講座》

「何のために産れてきたのか？　幸せに生きるために何が大切か？　夢を実現させるためには？」参加者同士の「ふれ合い・語り合い・学び合い」を基本にした楽しい体験型授業です。「ふれあい囲碁」を通した対人関係の構築、「夢大会」やさまざまなテーマのディスカッション等を通して、生きていくために大切なことを根本的に掘り下げて、皆で考え、学んでいきます。夢実現に向けての人間力アップを目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「ふれあい囲碁」を通した対人関係の構築。参加者全員と対戦する	受講者全員との対戦を基に評価。 さらに、外部の人に教えて対戦した場合は加点する。	30%
夢ノートを活用し「気づき」「感動」などのレポートを書く	レポート内容によって評価。	20%
ディスカッションや発表を通して、自己アピールや人の意見を聞く姿勢を学ぶ	学生自身が自己評価を提出、これに対して最終的に講師が評価。	20%

評価の方法　グループでの活動が基本なので他人に迷惑を掛けないためにも、よほどな理由がなければ100%の出席を前提として、授業参加度30%、上記の学習内容70%で評価します。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ふれあい囲碁	人と向き合い、ふれ合うことの心地好さを体験
2	語り場	語ること、聞くことの大切さを体感
3	第１回夢大会	夢を語り合う
4	安田自分史	講師の人生体験談
5	幸せについて	グループディスカッション
6	幸せについて	発表
7	ゲスト自分史	ゲストの人生体験談
8	第２回夢大会	夢を語り合う
9	夢つながりゲーム	人のつながりを学ぶ
10	夢つながりゲーム	グループディスカッション
11	ゲスト自分史	ゲストの人生体験談
12	良いとこ探しゲーム	グループディスカッション
13	第３回夢大会	夢を語り合う
14	発表	一人ずつ発表
15	発表	一人ずつ発表

【使用教材】

◇教科書：『ふれあい囲碁セットと夢ノート』1,000円

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇必要な場合はその都度に伝えます。

【その他の注意事項】

◇グループでの活動が基本なので、仲間に迷惑を掛けないためにも遅刻や欠席には気をつけてください。止むを得ず欠席の場合は事前連絡を必ずしてください。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経営学特講Ⅲ	キン　ヒロムネ 金　弘宗
Special Lecture on Management III	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

企業は日々直面する課題に対して解決策を見出し社会に「価値」を提供する存在です。その企業において情報の価値の重要性は周知の事実です。本セミナーでは企業が情報という資源を活用し「さまざまなモノ」を構想・計画・設計している現状について最新の事例を用いて解説します。同時に本セミナー内での対話や活動を通じて、企業と情報技術との関係を「情報通信」「意思決定」「製造」「建設」の分野別に分析していきます。本セミナーを履修することで、情報経済に関する最先端の動向を把握することができるようになります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)本セミナーの基礎知識の理解	本セミナーの講義・演習中に登場する概念の意義および研究手法の理解度をセミナー中の質疑、レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
2)本セミナーの論点の正確な理解	本セミナーで紹介する論点を理解し、課題などを正確に理解しているか、講義・演習中の質疑、レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
3)本セミナーの知識に基づく分析	学習・到達目標(1)、(2)を前提として、本セミナーで習得した知識を活用し、企業の経営課題を発見できるか、講義・演習中の質疑、レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
4)本セミナーのビジネスへの応用	学習・到達目標(1)、(2)および(3)を前提として、ビジネスの応用可能性を考えることができるか、講義・演習中の質疑、レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%

評価の方法　評価配分は、演習での発表内容、期末試験・レポートを60%、演習参加姿勢、演習参加態度を40%として評価します。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	「経営学特講Ⅲ」への招待	オリエンテーション
2	企業の経営課題発見演習と解説(1)	ケース(1)食品会社
3	企業の経営課題発見演習と解説(2)	ケース(2)物品販売会社
4	企業の経営課題発見演習と解説(3)	ケース(3)運送会社
5	企業の経営課題発見演習と解説(4)	ケース(4)電機メーカー
6	企業の経営課題発見演習と解説(5)	ケース(5)住宅メーカー
7	シミュレーションの解説	概要、基礎技術、実例について解説
8	見学会	３次元免震住宅「知粋館」を見学
9	「知粋館」見学会のまとめ	見学会に関するレポート課題と発表
10	情報技術の応用可能性演習(1)	ケース(1)「人の動きの可視化」
11	情報技術の応用可能性演習(2)	ケース(2)「屋内の３Ｄマッピング」
12	情報技術の応用可能性演習(3)	ケース(3)「スマートロック」
13	外部ゲスト講師による特別講義	ゲスト講師の会社へ訪問して受講予定
14	外部講師による特別講義のまとめ	ゲスト講義に関するレポート課題と発表
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇演習で取り扱う情報技術、事例は最新のものが多いので、テキストの内容がすぐに陳腐化するため、教科書を指定しない。その代わり、関係資料、講義資料などを配付する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇演習において指示された資料やウェブサイトを必ず、事前に調べ、その内容について、簡単にまとめておくこと。なお、予習課題を提示する場合もあるので、授業中の指示に従うこと。

【その他の注意事項】

◇授業中の私語、無断退席、私用でのスマートフォンなどの携帯端末の使用、内職は厳禁、これを守れない社会常識のない学生は履修停止とする。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経営学特講Ⅲ 将棋	ホリグチ　コウジ 堀口　弘治
Special Lecture on Management III	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

将棋のゲームとしての面白さ・奥深さはもちろん、伝統文化としての位置付けとして、世界における日本、日本文化自体を興味深く紹介していきます。

また将棋は次の一手を誰にも頼らず盤面の情報処理をして、自分なりに結論を出していくプロセスの連続です。対局の実技のみならず、授業全般にわたっても「自分の頭で考える」をテーマに展開していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
実技（主に対局）に集中することによりじっくり考える楽しみを知る	受講者同士の対戦を基に評価。 受講当初より、どれくらい将棋に対する理解度が高まったか。	30%
課題やレポートに取り組み、自分が納得するまで考える力を養う	将棋関連のテーマに対する受講者のレポートの内容や詰将棋・将棋パズル等の課題への理解がどれだけ行われたか。	20%
各カリキュラムの理解度を問う	最終のテストで確認する。	20%
評価の方法　出席100%を前提として授業参加度30%、上記の学習内容70%で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	駒遊び	五角形の駒で様々な遊び方が創造できることを知る
2	ゴロゴロ将棋	５×６の小さな将棋盤で将棋の基本ルールを説明する
3	将棋とは？	将棋界の基礎知識を習得する
4	駒・盤作り DVD 鑑賞	職人技を鑑賞し、実際に駒に触れ、伝統文化の理解を深める
5	将棋の歴史(1)日本	平安～江戸時代にかけての将棋の歴史を知る
6	将棋の歴史(2)世界	世界のキングハンティングゲームの歴史を知る
7	青空将棋	歩のない激しい将棋でルール習得を促進する
8	スミワケ将棋	彼我の駒の利きを即時認識する能力を養成する
9	寄せ将棋	ゲームの最終目的である、王様を追い詰める技を習得する
10	プロ棋士の礼儀作法	プロ棋士の礼儀作法を学び、正しい駒の扱い方を習得する
11	プロ棋士の考え方	羽生善治の DVD を鑑賞し、プロ棋士の勝負哲学を知る
12	棋譜を取る	将棋を指しながら、自分で棋譜を書く
13	将棋トーナメント	真剣勝負の雰囲気を味わい、集中力を高める
14	対局の大盤解説	生徒の代表同士の対局を講師が大盤解説する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇将棋の教科書ならびに各種プリント

【履修条件等】

◇特にありませんが、敢えて言えば、初心者ほど本講座に適しています。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇受講期間中、対面やネット、対局ソフトで対戦をしたり、情報を取得したりするように心がけるようにしてください。

【その他の注意事項】

◇遅刻や欠席には気をつけてください。止むを得ず欠席の場合は事前連絡を必ずしてください。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経営学特講Ⅳ	キン　ヒロムネ 金　弘宗
Special Lecture on Management IV	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

本セミナーでは企業の問題解決のなかで情報技術がどのように活用され、とくに情報がそのなかでどのように用いられているのかについて最新の事例を中心に分析し、理論と実践の橋渡しを行います（外部講師による特別講義、工場見学会も開催)。とくに経営情報活用の４場面である「情報通信」「意思決定」「建設」「製造」の最新事例、たとえばユニークな解析手法の活用や意思決定シミュレーションについて先端的な取り組みを紹介します。本セミナーを履修することによって、経営情報活用の最新の方法論を理解することができます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)本セミナーの方法論	本セミナーの講義・演習中に登場する概念の意義および研究手法の理解度を講義中の質疑、レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
2)本セミナーの最新論点の理解	本セミナーで紹介する最新論点を理解し、課題などを正確に理解しているか、講義・演習中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
3)経営情報分析力	学習・到達目標(1)、(2)を前提として、本セミナーで習得した知識を活用し、企業の経営課題を発見できるか、講義・演習中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
4)本セミナーを生かした事業創造の方法論の理解	学習・到達目標(1)、(2)および(3)を前提として、経営情報を生かした事業の方法論を理解しているかについて、講義・演習中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%

評価の方法　評価配分は、演習での発表内容、期末試験・レポートを60%、演習参加姿勢、演習参加態度を40%として評価します。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	「経営学特講Ⅳ」への招待	オリエンテーション
2	意思決定支援(1)	演習ケース(1)ビッグデータ
3	意思決定支援(2)	演習ケース(2)避難シミュレーション
4	情報通信と経営情報活用(1)	演習ケース(1)位置情報分析
5	情報通信と経営情報活用(2)	演習ケース(2)センサーデータの活用
6	特別演習	デザインコンテストへチャレンジ
7	外部ゲスト講師による特別講義	ゲスト講師の会社へ訪問して受講予定
8	外部講師による特別講義のまとめ	ゲスト講義に関するレポート課題と発表
9	建設と経営情報活用(1)	演習ケース(1)安心・安全な建物の建設
10	建設と経営情報活用(2)	演習ケース(2)自然・環境の解析
11	製造と経営情報活用(1)	演習ケース(1)設計・製造支援システム
12	製造と経営情報活用(2)	演習ケース(2)スケジュール管理その他
13	見学会	Ｂ社製造工場の見学および技術交流会
14	見学会のまとめ	見学会に関するレポート課題と発表
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇演習で取り扱う情報技術、事例は最新のものが多いので、テキストの内容がすぐに陳腐化するため、教科書を指定しない。その代わり、関係資料、講義資料などを配付する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇演習において指示された資料やウェブサイトを必ず、事前に調べ、その内容について、簡単にまとめておくこと。なお、予習課題を提示する場合もあるので、授業中の指示に従うこと。

【その他の注意事項】

◇授業中の私語、無断退席、私用でのスマートフォンなどの携帯端末の使用、内職は厳禁、これを守れない社会常識のない学生は履修停止とする。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

経営学特講Ⅳ 現代の産業と企業戦略	林（ハヤシ）　倬史（タクジ）
Special Lecture on Management IV	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

大手企業の経営に実際に携わってきたリーダーによる「業界における競争環境の変化」「企業組織」「職務内容」「必要な職務上の能力」などについて具体的に解説し、受講する学生との質疑応答を通してビジネスマンとして要求される専門知識を習得していく。

講義に加えて、受講する学生からの事前の質疑に対する議論も行う。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
業界特性や競争環境について基礎的な知識を理解していること	業界特徴や競争環境、企業組織などの基礎的な知識を理解しているかを評価する。	10%
ビジネスマンとしての基本的な要件や職務のフレームワークを理解していること	ビジネスマンとして企業で働くための基本的な要件や職務内容などが理解されているかどうかを評価する。	10%
企業の戦略と競争環境、業界の特性などを理解していること	企業戦略と業界の特性や構図など、ビジネスマンとしての企業経営の基本的なところを理解しているかどうかを評価する。	20%
産業界の動向と企業戦略についての知識やビジネスマンとしての姿勢や考え方を理解していること	産業界のおける業界の特性と企業経営の戦略を全体的に理解し、ビジネスマンと要求される知識とあるべき行動について習得しているかを試験により評価する。	70%

評価の方法　70%以上の出席を前提として試験70%、質問30%
試験は論述により、質疑は事前に質疑表を提出、これらをもとに評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	本講義のねらい	本講義の目的と進め方、講師全体の紹介と講義内容、評価方法などについて概説する。（客員教授・林倬史）
2	韓国企業の特徴と戦略	・前サムソンジャパン顧問・ハイアールアジア顧問、石田賢 ・サムソンなど、韓国企業の経営特性と戦略および課題について解説する。
3	中国企業の特徴と戦略	・前サムソンジャパン顧問・ハイアールアジア顧問、石田賢 ・ハイアールなど、中国企業の特性と戦略、今後の方向について解説する。
4	物流業界の国際的動向	・UPS Japan マーケティング supervisor、石川聡美 ・アマゾンはじめ物流業界は激動の時代に入っている。その物流業界のグローバル化の流れと各企業の戦略を探る。
5	世界最大の物流企業・UPS の成長戦略	・UPS Japan マーケティング supervisor、石川聡美 ・世界最大の物流企業である UPS の経営戦略と今後の方向について解説する。
6	エレクトロニクス業界の現況とパナソニックの戦略	・元パナソニック顧問、五味紀男 ・エレクトロニクス業界の実態とパナソニックの経営戦略などについて解説する。
7	化粧品業界全体の構図	・前資生堂製品開発担当執行役員、東久保和雄 ・グローバル化する化粧品業界の構図と動向を解説
8	資生堂の競争環境とグローバルな戦略	・前資生堂製品開発担当執行役員、東久保和雄 ・化粧品業界大手の資生堂のグローバルな戦略と今後の方向について解説する。
9	スマートフォンの覇者は誰か：Qualcom 社の戦略	・Qualcom ジャパン元社長・会長、山田純 ・スマートフォン業界の生き残りと Qualcom 社の戦略について解説する。
10	化学業界の国際的競争構造と特質	・帝人前顧問、前同社ヨーロッパ代表、大槻紀夫 ・化学業界の国際的競争構想の実態と各社の戦略の特質などについて解説する。
11	帝人の事業構造と特質	・帝人前顧問、前同社ヨーロッパ代表、大槻紀夫 ・化学業界大手企業である帝人の事業構造と戦略について解説する。
12	コンビニ業界の概要について	・ファミリーマート（前フィリッピン副社長）、恒松秀紀 ・躍進するコンビニ業界の動向と抱える課題について解説する。
13	ファミリーマートの組織と戦略について	・ファミリーマート（前フィリッピン副社長）、恒松秀紀 ・ファミリーマートの戦略と組織体制などについて解説
14	飲料業界の特質とマーケティング戦略	・立命館アジア太平洋大学教授・元 Dupont 社ブランドマネジャー、簗瀬充紀 ・飲料業界の構図と特徴、各社のマーケティング戦略を解説する。
15	期末試験	・業界構造と特徴、企業戦略について基本的な知識やポイントについての試験を行うとともに解説する。

（注）上記において諸事情により講師および講師日程変更などがある。

【使用教材】

◇教科書：とくになし。

◇参考書：講義内で参考となる図書などを紹介する。

【履修条件等】

◇業界大手の経営陣をお招きしていますので、積極的に講義に参画でき、業界特性やトップ企業の戦略に強い関心のある方。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に「質問票」を配布しますので、質問に関しては講義前に提出すること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

簿記技能Ⅰ（日商３級）	福山（フクヤマ） 倫基（トモキ）
Bookkeeping Ⅰ	応用科目／集中／２単位

【授業概要】

本講義は、2018年度日商簿記３級、６月試験合格を目指す方のための講義です。そのため、「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」の履修が終わっている、もしくはご自身で日商簿記３級の自学を行っている方を対象とします。

本講義では、検定試験特有の問題の解き方、および素早く回答を行うためのテクニック、受講者の苦手とする設問に対する個別指導などを行いますが、次の点にご注意ください。それは、本講義を受けるだけで検定試験合格ができるわけではないという点です。試験に合格するためには、自分で問題演習をこなす自学の時間が必須です。あくまで、本講義は検定試験全般の補助的な役割として活用してください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
検定試験の各問の傾向を理解する	検定試験の問１から問５までの傾向を理解し、自分の得意分野・不得意分野を明確にする。	10%
仕訳問題に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験を解く上で、範囲内の仕訳が解けないことにはどうにもなりません。しっかりと理解しましょう。	30%
試算表に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験上で配点が高い項目となります。また、検定試験特有の問の出し方があるため、その特徴も理解しましょう。	30%
精算表に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験上で配点が高い項目となります。また、検定試験特有の問の出し方があるため、その特徴も理解しましょう。	30%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提に、貢献点10%、期末試験90%で評価します。
※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。
貢献点は、講師が開発した講義を受講し、講義のいずれかの段階で、講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	問１対策講座	仕訳問題全般で、特に注意が必要な仕訳に関して
2	問２対策講座	補助簿全般の解き方、Ｔ字勘定を使った解答法
3	問３対策講座	試算表全般の解き方
4	問４対策講座	伝票などの解き方
5	問５対策講座	精算表および財務諸表問題の解き方
6	問１問題演習	問１問題の演習徹底的にやります
7	問２問題演習	問２問題の演習徹底的にやります
8	問３問題演習	問３問題の演習徹底的にやります
9	問４問題演習	問４問題の演習徹底的にやります
10	問５問題演習	問５問題の演習徹底的にやります
11	過去問演習(1)	過去問は最低３年分はする必要があるので内１回を
12	過去問演習(2)	過去問は最低３年分はする必要があるので内１回を
13	予想問題演習	今回の６月試験に出そうな予想問題を演習
14	検定試験前講座	試験前に各受講者の苦手項目を個別に対応
15	検定試験後解説	今回の検定試験の解説

＊授業時間等については、資料配布時にお知らせします。

【使用教材】

◇授業ごとにレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、問題演習用の教材は、開講時に指示をします。

◇本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ｉ」、「入門簿記Ⅱ」の講義、または日商簿記３級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強していることを前提とします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇会計の講義全般に言えることですが、復習に重点を置いてください。

【その他の注意事項】

◇電卓は、ＰＣや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。また、日商簿記３級６月検定試験に合格された方に関しては、成績評価に反映させます。詳しくは、開講時にお知らせします。また、講義はオフィスアワー時間帯（16：30～）に行います。時間帯にご注意ください。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

簿記技能Ⅱ（日商２級）	光澤（ミツザワ）　美芽（ミメ）
Bookkeeping II	応用科目／集中／２単位

【授業概要】

本講義は、2018・2019年度の日商簿記２級（11月・2月）試験合格を目指す者を対象とし、複式簿記のより発展的な内容を整理・確認することを目的とした集中講義である。そのため、「商業簿記Ⅰ」、「商業簿記Ⅱ」、「工業簿記Ⅰ」および「工業簿記Ⅱ」の履修が終了している、もしくは自身で日商簿記２級受験に向けた学習を行っている必要がある。

簿記検定に合格するためには検定特有の問題の解き方が必要となるため、本講義では検定の解答のテクニックも含め、検定試験の各問の傾向を理解し、検定試験の問題に慣れることを目的としている。受講者の苦手な設問に対し個別指導などを行うが、本講義を受けるだけで検定試験に合格できるわけではないという点には注意が必要である。あくまで、本講義は検定試験全般の補助的な役割として活用されるものである。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
検定試験の各問の傾向を理解する	検定試験の問１から問５までの傾向を理解し、自分の得意分野・不得意分野を明確にする。	10%
仕訳問題に関して理解すること	設問に対する回答によって評価。 試験範囲の仕訳は確実に解けるように、しっかり理解することが必要。	30%
原価計算に関して理解すること	設問に対する回答によって評価。 原価計算の仕組みを理解し、計算に慣れる。	30%
精算表等に関して理解すること	設問に対する回答によって評価。	30%

評価の方法　全講義回数の３分の２以上の出席を前提として、出席（貢献度）10%、期末試験90%。

※期末試験に関しては授業中に説明をする。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	問１対策講座	仕訳全般
2	問２対策講座	特殊仕訳帳、伝票会計
3	問３対策講座	精算表・本支店会計
4	問４対策講座	費目別・部門別計算
5	問５対策講座	総合原価計算・標準原価計算
6	問１問題演習	演習
7	問２問題演習	演習
8	問３問題演習	演習
9	問４問題演習	演習
10	問５問題演習	演習
11	過去問演習(1)	過去に出題された問題から演習および解説
12	過去問演習(2)	過去に出題された問題から演習および解説
13	予想問題演習	2018年11月に行われる試験の予想問題演習
14	検定試験直前特訓	11月の試験に向けて、個別指導
15	検定試験解説	検定試験の解説

※状況によっては多少前後する場合もある。なお、授業日程等については開講時に指示する。

【使用教材】

◇開講時に指示する。

【履修条件等】

◇「商業簿記Ⅰ」「商業簿記Ⅱ」、「工業簿記Ⅰ」および「工業簿記Ⅱ」をすでに履修済み、もしくは日商簿記２級レベルの商業簿記・工業簿記の知識を事前に得ていることを前提とする。まったく知識のないままの受講は不可であるので留意のこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。毎回の復習に力点を置くことが望ましい。

【その他の注意事項】

◇受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、ＰＣ、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

◇本講義は集中講義につき、週に３～４回、オフィスアワーの時間帯（16：30～）に開講予定である。時間帯に注意のこと。

◇授業時間等については、資料配布時にお知らせします。

専門科目　　経営学科 履修対象：３～４年生

販売技術	日野（ヒノ）　隆生（タカオ）
Sales Techniques	応用科目／集中／２単位

【授業概要】

当科目は日本商工会議所が実施する資格「販売士（リテールマーケティング）３級 」の全員資格取得を目標とし、併せて教養人として社会に通じる人格形成にも資していく授業です。販売業務は究極の“人”を必要とする職種であり、販売スキルは社会人には欠くことのできない資質です。講義は、テキストプラス適宜資料を配付して、理論と実務のスキルが身につき、資格取得を確実にするために、演習問題も繰り返すなど試験対策も実施。社会・企業で尊重される人材育成を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費動向と関連づけ 流通を理解し、その因果関係を説明できる	現在の流通の仕組みや経営とは何かを理解し、消費動向やその背景対応する流通業の存在価値や意義、施策、システムなどを関連づけて説明できるようになる。	40%
“販売”の基礎を体系的に理解し、業務を理論的に実践できるスキルを得る	テキストは５科目あり、それらを通じ、その意味するところを十分理解して、資格試験の免除条件となる１科目「販売・経営管理」の予備試験に合格し、他４科目の大要の理解と実践に役立てるまでのスキルを涵養する。	40%
販売士資格を理解し、その有用性を語ることができる	公的資格「販売士」の趣旨と意義を理解し、３級の位置づけを説明でき、社会での有用性を第三者に説得できる。	20%
販売士３級資格を取得する	単位取得は勿論、講義の反復復習により、２月の日本商工会議所の資格試験に自信を持って望み、資格を取得する。	
評価の方法　80%以上の出席を前提として、出席態度で20%、試験80%の評価。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	「小売業の類型」小売業の基本的役割	10	仕入計画・在庫管理・販売管理の基本的役割
2	形態別小売業の基本的役割	11	価格設定・利益追求の基本知識
3	チェーンストアの基本的役割	12	「ストアオペレーション」の基本的役割
4	商業集積の基本的役割と仕組み	13	ディスプレイの基本的役割
5	「販売・経営管理」販売員の基本業務	14	作業割当・人的販売の基本的考え方
6	販売員の法令知識	15	「マーケティング」の基本的考え方
7	販売事務と計数管理の基本的知識	16	顧客管理・販売促進の基本的役割
8	売場の人間関係・店舗管理の基本的役割	17	商圏の設定と出店の基本的考え方
9	「マーチャンダイジング」商品の基本知識	18	売場づくりの基本的考え方

【使用教材】

◇テキスト:『販売士養成講習会3級テキスト』（２分冊）日本商工会議所編

【履修条件等】

◇販売士検定３級合格のために授業の予習・復習（サブノートを作成）が必須。

◇出席率（授業参加度）80%以上

◇各自「問題集」により、検定合格対策する。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストを通読し、キーワードをチェック（理解）する。

【その他の注意事項】

◇５月16日（水）開講～11月28日（水）　全18回

◇期間内に「予備試験（販売・経営管理)」を実施する。

東京富士大学

〒169-0075　東京都新宿区高田馬場３－８－１

入　試　広　報　部　TEL ０３－３３６８－０３５１

キ　ャ　リ　ア　支　援　部　TEL ０３－３３６２－８４７９

学　生　支　援　部

学生支援担当　TEL ０３－３３６２－２２５２

留学生担当　TEL ０３－３３６８－１７６１

学　務　部

学務課　TEL ０３－３３６８－２１５４

図書館　TEL ０３－３３６８－８８２６